

別紙1－2 歯科診療報酬点数表

(傍線部分は改正部分)

改 正 後	改 正 前
<p>別表第二 歯科診療報酬点数表 [目次]</p> <p>第1章 基本診療料</p> <p>    第1部 初・再診料</p> <p>        第1節 初診料</p> <p>        第2節 再診料</p> <p>    第2部 入院料等</p> <p>        第1節 入院基本料</p> <p>        第2節 入院基本料等加算</p> <p>        第3節 特定入院料</p> <p>        第4節 短期滞在手術等基本料</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>    第1部 医学管理等</p> <p>    第2部 在宅医療</p> <p>    第3部 検査</p> <p>        第1節 検査料</p> <p>        第2節 薬剤料</p> <p>    第4部 画像診断</p> <p>        第1節 診断料</p> <p>        第2節 撮影料</p> <p>        第3節 基本的エックス線診断料</p> <p>        第4節 フィルム及び造影剤料</p> <p>第5部 投薬</p> <p>    第1節 調剤料</p> <p>    第2節 処方料</p> <p>    第3節 薬剤料</p>	<p>別表第二 歯科診療報酬点数表 [目次]</p> <p>第1章 基本診療料</p> <p>    第1部 初・再診料</p> <p>        第1節 初診料</p> <p>        第2節 再診料</p> <p>    第2部 入院料等</p> <p>        第1節 入院基本料</p> <p>        第2節 入院基本料等加算</p> <p>        第3節 特定入院料</p> <p>        第4節 短期滞在手術等基本料</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>    第1部 医学管理等</p> <p>    第2部 在宅医療</p> <p>    第3部 検査</p> <p>        第1節 検査料</p> <p>        第2節 薬剤料</p> <p>    第4部 画像診断</p> <p>        第1節 診断料</p> <p>        第2節 撮影料</p> <p>        第3節 基本的エックス線診断料</p> <p>        第4節 フィルム及び造影剤料</p> <p>第5部 投薬</p> <p>    第1節 調剤料</p> <p>    第2節 処方料</p> <p>    第3節 薬剤料</p>

第4節 特定保険医療材料料  
第5節 処方箋料  
第6節 調剤技術基本料  
第6部 注射  
  第1節 注射料  
    第1款 注射実施料  
    第2款 無菌製剤処理料  
  第2節 薬剤料  
  第3節 特定保険医療材料料  
第7部 リハビリテーション  
  第1節 リハビリテーション料  
  第2節 薬剤料  
第8部 処置  
  第1節 処置料  
  第2節 処置医療機器等加算  
  第3節 薬剤料  
  第4節 特定薬剤料  
  第5節 特定保険医療材料料  
第9部 手術  
  第1節 手術料  
  第2節 輸血料  
  第3節 手術医療機器等加算  
  第4節 薬剤料  
  第5節 特定薬剤料  
  第6節 特定保険医療材料料  
第10部 麻酔  
  第1節 麻酔料  
  第2節 薬剤料  
  第3節 特定保険医療材料料  
第11部 放射線治療  
  第1節 放射線治療管理・実施料

第4節 特定保険医療材料料  
第5節 処方箋料  
第6節 調剤技術基本料  
第6部 注射  
  第1節 注射料  
    第1款 注射実施料  
    第2款 無菌製剤処理料  
  第2節 薬剤料  
  第3節 特定保険医療材料料  
第7部 リハビリテーション  
  第1節 リハビリテーション料  
  第2節 薬剤料  
第8部 処置  
  第1節 処置料  
  第2節 処置医療機器等加算  
  第3節 薬剤料  
  第4節 特定薬剤料  
  第5節 特定保険医療材料料  
第9部 手術  
  第1節 手術料  
  第2節 輸血料  
  第3節 手術医療機器等加算  
  第4節 薬剤料  
  第5節 特定薬剤料  
  第6節 特定保険医療材料料  
第10部 麻酔  
  第1節 麻酔料  
  第2節 薬剤料  
  第3節 特定保険医療材料料  
第11部 放射線治療  
  第1節 放射線治療管理・実施料

第2節 特定保険医療材料料
第12部 歯冠修復及び欠損補綴
第1節 歯冠修復及び欠損補綴料
第2節 削除
第3節 特定保険医療材料料
第13部 歯科矯正
第1節 歯科矯正料
第2節 特定保険医療材料料
第14部 病理診断
第15部 その他
第1節 <u>ベースアップ評価料等</u>
第2節 <u>物価対応料</u>
第3節 <u>支援料</u>

#### 通則

- 1 健康保険法第63条第1項第1号及び高齢者医療確保法第64条第1項第1号の規定による初診及び再診の費用は、第1節又は第2節の各区分の所定点数により算定する。ただし、同時に2以上の傷病について初診を行った場合又は再診を行った場合は、初診料又は再診料は1回として算定する。
- 2 歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関にあっては、歯科診療及び歯科診療以外の診療につき、それぞれ別に初診料又は再診料を算定する。
- 3 入院中の患者（区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料を算定する患者を含む。）に対する再診の費用（区分番号A 0 0 2に掲げる再診料の注5及び注6に規定する加算を除く。）は、第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。

#### 第1節 初診料

#### 区分

A 0 0 0 初診料

1 歯科初診料

272点

第2節 特定保険医療材料料
第12部 歯冠修復及び欠損補綴
第1節 歯冠修復及び欠損補綴料
第2節 削除
第3節 特定保険医療材料料
第13部 歯科矯正
第1節 歯科矯正料
第2節 特定保険医療材料料
第14部 病理診断
第15部 その他
(新設)
(新設)
(新設)

#### 通則

- 1 健康保険法第63条第1項第1号及び高齢者医療確保法第64条第1項第1号の規定による初診及び再診の費用は、第1節又は第2節の各区分の所定点数により算定する。ただし、同時に2以上の傷病について初診を行った場合又は再診を行った場合は、初診料又は再診料は1回として算定する。
- 2 歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関にあっては、歯科診療及び歯科診療以外の診療につき、それぞれ別に初診料又は再診料を算定する。
- 3 入院中の患者（区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料を算定する患者を含む。）に対する再診の費用（区分番号A 0 0 2に掲げる再診料の注5及び注6に規定する加算を除く。）は、第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。

#### 第1節 初診料

#### 区分

A 0 0 0 初診料

1 歯科初診料

267点

2 地域歯科診療支援病院歯科初診料 296点

注1 1については、歯科外来診療における院内感染防止対策につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、初診を行った場合に算定する。この場合において、当該届出を行っていない保険医療機関については、245点を算定する。

2 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た病院である保険医療機関において初診を行った場合に算定する。この場合において、1の歯科初診料は算定できない。

3 1傷病の診療継続中に他の傷病が発生して初診を行った場合は、それらの傷病に係る初診料は併せて1回とし、第1回の初診時に算定する。

4 同一の患者について1月以内に初診料を算定すべき初診を2回以上行った場合は、初診料は1回とし、第1回の初診時に算定する。

5 6歳未満の乳幼児に対して保険医療機関が初診を行った場合は、乳幼児加算として、40点を所定点数に加算する。ただし、注8に規定する加算を算定する場合は算定できない。

6 著しく歯科診療が困難な者に対して初診を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算1として、175点を所定点数に加算し、著しく歯科診療が困難な者に対して当該患者が歯科治療環境に円滑に適応できるような技法を用いて初診を行った場合又は個室若しくは陰圧室において

2 地域歯科診療支援病院歯科初診料 291点

注1 1については、歯科外来診療における院内感染防止対策につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、初診を行った場合に算定する。この場合において、当該届出を行っていない保険医療機関については、240点を算定する。

2 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た病院である保険医療機関において初診を行った場合に算定する。この場合において、1の歯科初診料は算定できない。

3 1傷病の診療継続中に他の傷病が発生して初診を行った場合は、それらの傷病に係る初診料は併せて1回とし、第1回の初診時に算定する。

4 同一の患者について1月以内に初診料を算定すべき初診を2回以上行った場合は、初診料は1回とし、第1回の初診時に算定する。

5 6歳未満の乳幼児に対して保険医療機関が初診を行った場合は、乳幼児加算として、40点を所定点数に加算する。ただし、注8に規定する加算を算定する場合は算定できない。

6 著しく歯科診療が困難な者に対して初診を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算1として、175点を所定点数に加算し、著しく歯科診療が困難な者に対して当該患者が歯科治療環境に円滑に適応できるような技法を用いて初診を行った場合又は個室若しくは陰圧室において

診療を行う必要性が特に高い患者に対して個室若しくは陰圧室において初診を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算2として、250点を所定点数に加算し、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症の患者に対して初診を行った場合は、歯科診療特別対応加算3として、500点を所定点数に加算する。ただし、歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者について、当該患者に対する診療時間が1時間を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、100点を更に所定点数に加算する。

7 6歳以上の患者に対して保険医療機関が表示する診療時間以外の時間（深夜（午後10時から午前6時までの間をいう。以下この表において同じ。）及び休日を除く。以下この表において同じ。）、休日（深夜を除く。以下この表において同じ。）又は深夜において初診を行った場合は、時間外加算、休日加算又は深夜加算として、85点、250点又は480点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、専ら夜間における救急医療の確保のために設けられている保険医療機関において、夜間であって別に厚生労働大臣が定める時間に初診を行った場合は、230点を所定点数に加算する。

8 6歳未満の乳幼児に対して保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜において初診を行った場合は、乳幼児時間外加算、

診療を行う必要性が特に高い患者に対して個室若しくは陰圧室において初診を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算2として、250点を所定点数に加算し、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症の患者に対して初診を行った場合は、歯科診療特別対応加算3として、500点を所定点数に加算する。ただし、歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者について、当該患者に対する診療時間が1時間を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、100点を更に所定点数に加算する。

7 6歳以上の患者に対して保険医療機関が表示する診療時間以外の時間（深夜（午後10時から午前6時までの間をいう。以下この表において同じ。）及び休日を除く。以下この表において同じ。）、休日（深夜を除く。以下この表において同じ。）又は深夜において初診を行った場合は、時間外加算、休日加算又は深夜加算として、85点、250点又は480点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、専ら夜間における救急医療の確保のために設けられている保険医療機関において、夜間であって別に厚生労働大臣が定める時間に初診を行った場合は、230点を所定点数に加算する。

8 6歳未満の乳幼児に対して保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜において初診を行った場合は、乳幼児時間外加算、

乳幼児休日加算又は乳幼児深夜加算として、12点、290点又は620点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、注7のただし書に規定する保険医療機関において、同注のただし書に規定する時間に初診を行った場合は、270点を所定点数に加算する。

9 歯科医療提供が困難である地域等において、都道府県等と連携し、歯科巡回診療車を用いて歯科診療を行った場合は、地域歯科医療加算として、100点を所定点数に加算する。

10 1及び2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における医療安全対策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療医療安全対策加算1又は歯科外来診療医療安全対策加算2として、初診時1回に限り12点又は13点を所定点数に加算する。

11 1及び2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における院内感染防止対策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療感染対策加算1若しくは歯科外来診療感染対策加算2又は歯科外来診療感染対策加算3若しくは歯科外来診療感染対策加算4として、初診時1回に限り12点若しくは14点又は13点若しくは15点を所定点数に加算する。

12 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科診療を実施している

乳幼児休日加算又は乳幼児深夜加算として、12点、290点又は620点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、注7のただし書に規定する保険医療機関において、同注のただし書に規定する時間に初診を行った場合は、270点を所定点数に加算する。

(新設)

9 1及び2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における医療安全対策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療医療安全対策加算1又は歯科外来診療医療安全対策加算2として、初診時1回に限り12点又は13点を所定点数に加算する。

10 1及び2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における院内感染防止対策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療感染対策加算1若しくは歯科外来診療感染対策加算2又は歯科外来診療感染対策加算3若しくは歯科外来診療感染対策加算4として、初診時1回に限り12点若しくは14点又は13点若しくは15点を所定点数に加算する。

11 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科診療を実施している

他の保険医療機関（診療所に限る。）において注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1を算定した患者又は著しく歯科診療が困難な者であって注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定した患者に対して、当該保険医療機関から文書による診療情報提供を受けた上で、外来において初診を行った場合は、歯科診療特別対応連携加算として、月1回に限り150点を所定点数に加算する。

13 歯科診療を実施している保険医療機関（診療所（注12に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関を除く。）に限る。）において、他の保険医療機関（注12に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に限る。）において注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1を算定した患者又は著しく歯科診療が困難な者であって注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定した患者に対して、当該保険医療機関から文書による診療情報提供を受けた上で、外来において初診を行った場合は、歯科診療特別対応地域支援加算として、月1回に限り100点を所定点数に加算する。

14 削除

15 医療DX推進に係る体制として別に厚生労働

他の保険医療機関（診療所に限る。）において注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1を算定した患者又は著しく歯科診療が困難な者であって注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定した患者に対して、当該保険医療機関から文書による診療情報提供を受けた上で、外来において初診を行った場合は、歯科診療特別対応連携加算として、月1回に限り150点を所定点数に加算する。

12 歯科診療を実施している保険医療機関（診療所（注11に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関を除く。）に限る。）において、他の保険医療機関（注11に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に限る。）において注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1を算定した患者又は著しく歯科診療が困難な者であって注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定した患者に対して、当該保険医療機関から文書による診療情報提供を受けた上で、外来において初診を行った場合は、歯科診療特別対応地域支援加算として、月1回に限り100点を所定点数に加算する。

13 削除

14 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす

大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科診療を実施する保険医療機関を受診した患者に対して初診を行った場合は、電子的歯科診療情報連携体制整備加算として、月1回に限り、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。この場合において、区分番号A002に掲げる再診料の注11に規定する明細書発行体制等加算は別に算定できない。

- イ 電子的歯科診療情報連携体制整備加算 1  
9点
- ロ 電子的歯科診療情報連携体制整備加算 2  
4点

(削る)

16 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用い

歯科診療を実施している保険医療機関を受診した患者に対して十分な情報を取得した上で初診を行った場合は、医療情報取得加算として、月1回に限り1点を所定点数に加算する。

(新設)

(新設)

15 医療DX推進に係る体制として別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科診療を実施している保険医療機関を受診した患者に対して初診を行った場合は、医療DX推進体制整備加算として、月1回に限り、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。

- |                  |     |
|------------------|-----|
| イ 医療DX推進体制整備加算 1 | 11点 |
| ロ 医療DX推進体制整備加算 2 | 10点 |
| ハ 医療DX推進体制整備加算 3 | 8点  |
| ニ 医療DX推進体制整備加算 4 | 9点  |
| ホ 医療DX推進体制整備加算 5 | 8点  |
| ヘ 医療DX推進体制整備加算 6 | 6点  |

16 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用い

た歯科診療を行うことが必要と認められるものに対して、情報通信機器を用いた初診を行った場合には、注1に規定する届出の有無にかかわらず、1の歯科初診料又は2の地域歯科診療支援病院歯科初診料について、所定点数に代えて、237点を算定する。

A 0 0 1 削除

第2節 再診料

区分

A 0 0 2 再診料

1 歯科再診料 59点

2 地域歯科診療支援病院歯科再診料 76点

注1 1については、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注1に規定する歯科外来診療における院内感染防止対策につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、再診を行った場合に算定する。この場合において、当該届出を行っていない保険医療機関については、45点を算定する。

2 2については、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注2に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た病院である保険医療機関において、再診を行った場合に算定する。この場合において、1の歯科再診料は算定できない。

3 6歳未満の乳幼児に対して再診を行った場合は、乳幼児加算として、10点を所定点数に加算する。ただし、注6に規定する加算を算定する場合を除く。

4 著しく歯科診療が困難な者に対して再診を行

た歯科診療を行うことが必要と認められるものに対して、情報通信機器を用いた初診を行った場合には、注1に規定する届出の有無にかかわらず、1の歯科初診料又は2の地域歯科診療支援病院歯科初診料について、所定点数に代えて、233点を算定する。

A 0 0 1 削除

第2節 再診料

区分

A 0 0 2 再診料

1 歯科再診料 58点

2 地域歯科診療支援病院歯科再診料 75点

注1 1については、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注1に規定する歯科外来診療における院内感染防止対策につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、再診を行った場合に算定する。この場合において、当該届出を行っていない保険医療機関については、44点を算定する。

2 2については、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注2に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た病院である保険医療機関において、再診を行った場合に算定する。この場合において、1の歯科再診料は算定できない。

3 6歳未満の乳幼児に対して再診を行った場合は、乳幼児加算として、10点を所定点数に加算する。ただし、注6に規定する加算を算定する場合を除く。

4 著しく歯科診療が困難な者に対して再診を行

った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算1として、175点を所定点数に加算し、著しく歯科診療が困難な者に対して当該患者が歯科治療環境に円滑に適応できるような技法を用いて再診を行った場合又は個室若しくは陰圧室において診療を行う必要性が特に高い患者に対して個室若しくは陰圧室において再診を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算2として、250点を所定点数に加算し、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症の患者に対して再診を行った場合は、歯科診療特別対応加算3として、500点を所定点数に加算する。ただし、歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者について、当該患者に対する診療時間が1時間を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、100点を更に所定点数に加算する。

5 6歳以上の患者に対して保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜において再診を行った場合は、時間外加算、休日加算又は深夜加算として、65点、190点又は420点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、同注のただし書に規定する時間に再診を行った場合は、180点を所定点数に加算する。

6 6歳未満の乳幼児に対して保険医療機関が表

った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算1として、175点を所定点数に加算し、著しく歯科診療が困難な者に対して当該患者が歯科治療環境に円滑に適応できるような技法を用いて再診を行った場合又は個室若しくは陰圧室において診療を行う必要性が特に高い患者に対して個室若しくは陰圧室において再診を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算2として、250点を所定点数に加算し、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症の患者に対して再診を行った場合は、歯科診療特別対応加算3として、500点を所定点数に加算する。ただし、歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者について、当該患者に対する診療時間が1時間を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、100点を更に所定点数に加算する。

5 6歳以上の患者に対して保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜において再診を行った場合は、時間外加算、休日加算又は深夜加算として、65点、190点又は420点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、同注のただし書に規定する時間に再診を行った場合は、180点を所定点数に加算する。

6 6歳未満の乳幼児に対して保険医療機関が表

示する診療時間以外の時間、休日又は深夜に再診を行った場合は、乳幼児時間外加算、乳幼児休日加算又は乳幼児深夜加算として、75点、200点又は530点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、同注のただし書に規定する時間に再診を行った場合は、190点を所定点数に加算する。

7 歯科医療提供が困難である地域等において、都道府県等と連携し、歯科巡回診療車を用いて歯科診療を行った場合は、地域歯科医療加算として、100点を所定点数に加算する。

8 患者又はその看護に当たっている者から電話等によって治療上の意見を求められて指示をした場合は、再診料を算定する。ただし、この場合において、注12に規定する加算は算定しない。

9 1及び2については、区分番号A000に掲げる初診料の注10に規定する歯科外来診療医療安全対策加算に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における医療安全対策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療医療安全対策加算1又は歯科外来診療医療安全対策加算2として、2点又は3点を所定点数に加算する。

10 1及び2については、区分番号A000に掲げる初診料の注11に規定する歯科外来診療感染対策加算に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における院内感染防止対

示する診療時間以外の時間、休日又は深夜に再診を行った場合は、乳幼児時間外加算、乳幼児休日加算又は乳幼児深夜加算として、75点、200点又は530点をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、同注のただし書に規定する時間に再診を行った場合は、190点を所定点数に加算する。

(新設)

7 患者又はその看護に当たっている者から電話等によって治療上の意見を求められて指示をした場合は、再診料を算定する。ただし、この場合において、注11に規定する加算は算定しない。

8 1及び2については、区分番号A000に掲げる初診料の注9に規定する歯科外来診療医療安全対策加算に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における医療安全対策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療医療安全対策加算1又は歯科外来診療医療安全対策加算2として、2点又は3点を所定点数に加算する。

9 1及び2については、区分番号A000に掲げる初診料の注10に規定する歯科外来診療感染対策加算に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科外来診療における院内感染防止対

策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療感染対策加算 1 若しくは歯科外来診療感染対策加算 2 又は歯科外来診療感染対策加算 3 若しくは歯科外来診療感染対策加算 4 として、2 点若しくは 4 点又は 3 点若しくは 5 点を所定点数に加算する。

- 11 個別の費用の計算の基礎となった項目ごとに記載した明細書の発行等につき別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関（診療所に限る。）を受診した患者については、明細書発行体制等加算として、1 点を所定点数に加算する。この場合において、区分番号 A 0 0 0 に掲げる初診料の注15及び区分番号 A 0 0 2 に掲げる再診料の注12に規定する電子的歯科診療情報連携体制整備加算は別に算定できない。

- 12 医療DX推進に係る体制として別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科診療を実施する保険医療機関を受診した患者に対して再診を行った場合は、電子的歯科診療情報連携体制整備加算として、月に1回に限り2点を所定点数に加算する。この場合において、注11に規定する明細書発行体制等加算は別に算定できない。

- 13 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるものに対して、情報通信機器を用いた再診を行った場合には、注 1 に規定する届出の有無にかかわらず、1 の歯科再診料又は 2 の地域歯科診療支援病院歯科再診料について、所定点数に代えて

策に係る取組を行った場合は、それぞれ歯科外来診療感染対策加算 1 若しくは歯科外来診療感染対策加算 2 又は歯科外来診療感染対策加算 3 若しくは歯科外来診療感染対策加算 4 として、2 点若しくは 4 点又は 3 点若しくは 5 点を所定点数に加算する。

- 10 個別の費用の計算の基礎となった項目ごとに記載した明細書の発行等につき別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関（診療所に限る。）を受診した患者については、明細書発行体制等加算として、1 点を所定点数に加算する。

- 11 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす歯科診療を実施している保険医療機関を受診した患者に対して十分な情報を取得した上で再診を行った場合は、医療情報取得加算として、3 月に1回に限り1点を所定点数に加算する。

- 12 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるものに対して、情報通信機器を用いた再診を行った場合には、注 1 に規定する届出の有無にかかわらず、1 の歯科再診料又は 2 の地域歯科診療支援病院歯科再診料について、所定点数に代えて

、51点を算定する。

## 第2部 入院料等

### 通則

- 1 健康保険法第63条第1項第5号及び高齢者医療確保法第64条第1項第5号による入院及び看護の費用は、第1節から第5節までの各区分の所定点数により算定する。この場合において、特に規定する場合を除き、通常必要とされる療養環境の提供、看護及び歯科医学的管理に要する費用は、第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。
- 2 同一の保険医療機関において、同一の患者につき、第1節の各区分に掲げる入院基本料（特別入院基本料、月平均夜勤時間超過減算及び夜勤時間特別入院基本料（以下「特別入院基本料等」という。）を含む。）、第3節の各区分に掲げる特定入院料及び第4節の各区分に掲げる短期滞在手術等基本料を同一の日に算定することはできない。
- 3 歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関にあっては、当該患者の主傷病に係る入院基本料（特別入院基本料等を含む。）、特定入院料又は短期滞在手術等基本料を算定する。
- 4 第1節から第4節までに規定する期間の計算は、特に規定する場合を除き、保険医療機関に入院した日から起算して計算する。ただし、保険医療機関を退院した後、同一の疾病又は負傷により、当該保険医療機関又は当該保険医療機関と特別の関係にある保険医療機関に入院した場合は、急性増悪その他やむを得ない場合を除き、最初の保険医療機関に入院した日から起算して計算する。
- 5 別に厚生労働大臣が定める入院患者数の基準又は歯科医師等の員数の基準に該当する保険医療機関の入院基本料については、別に厚生労働大臣が定めるところにより算定する。
- 6 入院診療計画、院内感染防止対策、医療安全管理体制、  
じよくそう  
褥瘡対策、栄養管理体制、意思決定支援及び身体的拘束最

、51点を算定する。

## 第2部 入院料等

### 通則

- 1 健康保険法第63条第1項第5号及び高齢者医療確保法第64条第1項第5号による入院及び看護の費用は、第1節から第5節までの各区分の所定点数により算定する。この場合において、特に規定する場合を除き、通常必要とされる療養環境の提供、看護及び歯科医学的管理に要する費用は、第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。
- 2 同一の保険医療機関において、同一の患者につき、第1節の各区分に掲げる入院基本料（特別入院基本料、月平均夜勤時間超過減算及び夜勤時間特別入院基本料（以下「特別入院基本料等」という。）を含む。）、第3節の各区分に掲げる特定入院料及び第4節の各区分に掲げる短期滞在手術等基本料を同一の日に算定することはできない。
- 3 歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関にあっては、当該患者の主傷病に係る入院基本料（特別入院基本料等を含む。）、特定入院料又は短期滞在手術等基本料を算定する。
- 4 第1節から第4節までに規定する期間の計算は、特に規定する場合を除き、保険医療機関に入院した日から起算して計算する。ただし、保険医療機関を退院した後、同一の疾病又は負傷により、当該保険医療機関又は当該保険医療機関と特別の関係にある保険医療機関に入院した場合は、急性増悪その他やむを得ない場合を除き、最初の保険医療機関に入院した日から起算して計算する。
- 5 別に厚生労働大臣が定める入院患者数の基準又は歯科医師等の員数の基準に該当する保険医療機関の入院基本料については、別に厚生労働大臣が定めるところにより算定する。
- 6 入院診療計画、院内感染防止対策、医療安全管理体制、  
じよくそう  
褥瘡対策、栄養管理体制、意思決定支援及び身体的拘束最

小化について、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす場合に限り、第1節（特別入院基本料等を含む。）、第3節及び第4節（短期滞在手術等基本料1を除く。）の各区分に掲げるそれぞれの入院基本料、特定入院料又は短期滞在手術等基本料の所定点数を算定する。ただし、歯科診療のみを行う保険医療機関にあっては、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす場合に限り、当該入院料の所定点数を算定する。

- 7 前号本文に規定する別に厚生労働大臣が定める基準（歯科診療のみを行う保険医療機関にあっては、前号ただし書に規定する別に厚生労働大臣が定める基準）のうち、栄養管理体制に関する基準を満たすことができない保険医療機関（診療所を除き、別に厚生労働大臣が定める基準を満たすものに限る。）については、第1節（特別入院基本料等を除く。）、第3節及び第4節（短期滞在手術等基本料1を除く。）の各区分に掲げるそれぞれの入院基本料、特定入院料又は短期滞在手術等基本料の所定点数から1日につき40点を減算する。
- 8 第6号本文に規定する別に厚生労働大臣が定める基準（歯科診療のみを行う保険医療機関にあっては、第6号ただし書に規定する別に厚生労働大臣が定める基準）のうち、身体的拘束最小化に関する基準を満たすことができない保険医療機関については、第1節（特別入院基本料等を除く。）、第3節及び第4節（短期滞在手術等基本料1を除く。）の各区分に掲げるそれぞれの入院基本料、特定入院料又は短期滞在手術等基本料の所定点数から1日につき40点を減算する。ただし、第6号に規定する別に厚生労働大臣が定める基準のうち、身体的拘束最小化に関する基準において、身体的拘束最小化の体制に係る基準を満たす保険医療機関については、当該減算の点数に代えて、所定点数から1日につき20点を減算する。
- 9 継続的に賃上げに係る取組を実施している保険医療機関であって、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合している

小化について、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす場合に限り、第1節（特別入院基本料等を含む。）、第3節及び第4節（短期滞在手術等基本料1を除く。）の各区分に掲げるそれぞれの入院基本料、特定入院料又は短期滞在手術等基本料の所定点数を算定する。ただし、歯科診療のみを行う保険医療機関にあっては、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす場合に限り、当該入院料の所定点数を算定する。

- 7 前号本文に規定する別に厚生労働大臣が定める基準（歯科診療のみを行う保険医療機関にあっては、前号ただし書に規定する別に厚生労働大臣が定める基準）のうち、栄養管理体制に関する基準を満たすことができない保険医療機関（診療所を除き、別に厚生労働大臣が定める基準を満たすものに限る。）については、第1節（特別入院基本料等を除く。）、第3節及び第4節（短期滞在手術等基本料1を除く。）の各区分に掲げるそれぞれの入院基本料、特定入院料又は短期滞在手術等基本料の所定点数から1日につき40点を減算する。
- 8 第6号本文に規定する別に厚生労働大臣が定める基準（歯科診療のみを行う保険医療機関にあっては、第6号ただし書に規定する別に厚生労働大臣が定める基準）のうち、身体的拘束最小化に関する基準を満たすことができない保険医療機関については、第1節（特別入院基本料等を除く。）、第3節及び第4節（短期滞在手術等基本料1を除く。）の各区分に掲げるそれぞれの入院基本料、特定入院料又は短期滞在手術等基本料の所定点数から1日につき40点を減算する。

（新設）

ものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関以外の保険医療機関については、第1節（特別入院基本料等を含む。）、第3節及び第4節（短期滞在手術等基本料1を除く。）の各区分に掲げるそれぞれの入院基本料、特定入院料又は短期滞在手術等基本料の所定点数から1日につき次に掲げる点数を減算する。

イ 急性期病院A一般入院料、急性期一般入院料1、急性期病院B一般入院料、急性期一般入院料4（看護・多職種協働加算を算定する場合） 121点

ロ 急性期病院B一般入院料、急性期一般入院料2から6まで（看護・多職種協働加算を算定する場合を除く。）

85点

ハ 地域一般入院基本料、一般病棟入院基本料の特別入院基本料、特定一般病棟入院料（注7に規定する場合を除く。）

65点

三 療養病棟入院基本料 42点

ホ 結核病棟入院基本料 64点

ヘ 急性期病院精神病棟入院基本料、精神病棟入院料（10対

1入院基本料、13対1入院基本料及び精神病棟看護・多職種協働加算を算定する15対1入院基本料の場合） 106点

ト 急性期病院精神病棟入院基本料（精神病棟看護・多職種協働加算を算定する場合を除く15対1入院基本料の場合）

、精神病棟入院料（精神病棟看護・多職種協働加算を算定する場合を除く15対1入院基本料、18対1入院基本料、20対1入院基本料及び特別入院基本料の場合） 39点

チ 特定機能病院入院基本料、特定機能病院リハビリテーション病棟入院料 141点

リ 専門病院入院基本料 88点

ヌ 障害者施設等入院基本料 58点

ル 有床診療所入院基本料 95点

ヲ 有床診療所療養病床入院基本料 58点

<u>ワ 救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料、総合周産期特定集中治療室管理料、新生児治療回復室入院医療管理料、一類感染症患者入院医療管理料</u>	<u>171点</u>
<u>カ 地域包括医療病棟入院料</u>	<u>113点</u>
<u>ヨ 特殊疾患入院医療管理料、特殊疾患入院料</u>	<u>53点</u>
<u>タ 小児入院医療管理料、児童・思春期精神科入院医療管理料</u>	<u>97点</u>
<u>レ 回復期リハビリテーション病棟入院料</u>	<u>76点</u>
<u>ゾ 地域包括ケア病棟入院料、特定一般病棟入院料（注7に規定する場合）</u>	<u>69点</u>
<u>ツ 緩和ケア病棟入院料</u>	<u>99点</u>
<u>ネ 精神科救急急性期医療入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神科救急・合併症入院料</u>	<u>42点</u>
<u>ナ 精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料</u>	<u>35点</u>
<u>ラ 短期滞在手術等基本料3</u>	<u>189点</u>

#### 第1節 入院基本料

##### 通則

- 1 本節各区分に掲げる入院基本料は、それぞれの算定要件を満たす患者について、別表第一医科診療報酬点数表（以下「医科点数表」という。）の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）の例により算定する。
- 2 本節各区分に掲げる入院基本料に係る算定要件は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）に係る算定要件の例による。
- 3 本節各区分に掲げる入院基本料について、加算要件を満たす場合は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）に係る加算の例により、

#### 第1節 入院基本料

##### 通則

- 1 本節各区分に掲げる入院基本料は、それぞれの算定要件を満たす患者について、別表第一医科診療報酬点数表（以下「医科点数表」という。）の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）の例により算定する。
- 2 本節各区分に掲げる入院基本料に係る算定要件は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）に係る算定要件の例による。
- 3 本節各区分に掲げる入院基本料について、加算要件を満たす場合は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）に係る加算の例により、

本節各区分に掲げる入院基本料の所定点数に加算する。

- 4 本節各区分に掲げる入院基本料に係る加算要件は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）に係る加算要件の例による。
- 5 本節各区分に掲げる入院基本料に含まれる費用の範囲は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）の例による。
- 6 本節各区分に掲げる入院基本料を算定する保険医療機関において、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算について、それぞれの算定要件を満たす場合に算定できる。
- 7 前号の規定により算定できる入院基本料等加算の範囲は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）につき算定できる医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基本料等加算の例による。ただし、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算に限られる。

#### 区分

- A 1 0 0 一般病棟入院基本料
  - A 1 0 1 療養病棟入院基本料
  - A 1 0 2 特定機能病院入院基本料
  - A 1 0 3 専門病院入院基本料
  - A 1 0 3-2 障害者施設等入院基本料
  - A 1 0 4 削除
  - A 1 0 5 有床診療所入院基本料
  - A 1 0 6 有床診療所療養病床入院基本料
- 第2節 入院基本料等加算

#### 通則

- 1 本節各区分に掲げる入院基本料等加算（区分番号A 2 5 0に掲げる地域歯科診療支援病院入院加算を除く。）は、それぞれの算定要件を満たす患者について、医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基本料等加算の例により算定する。この場合において、医科点数表の区分番号A 2 0 4-2に

本節各区分に掲げる入院基本料の所定点数に加算する。

- 4 本節各区分に掲げる入院基本料に係る加算要件は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）に係る加算要件の例による。
- 5 本節各区分に掲げる入院基本料に含まれる費用の範囲は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）の例による。
- 6 本節各区分に掲げる入院基本料を算定する保険医療機関において、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算について、それぞれの算定要件を満たす場合に算定できる。
- 7 前号の規定により算定できる入院基本料等加算の範囲は、医科点数表の第1章第2部第1節に掲げる入院基本料（特別入院基本料等を含む。）につき算定できる医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基本料等加算の例による。ただし、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算に限られる。

#### 区分

- A 1 0 0 一般病棟入院基本料
  - A 1 0 1 療養病棟入院基本料
  - A 1 0 2 特定機能病院入院基本料
  - A 1 0 3 専門病院入院基本料
  - A 1 0 3-2 障害者施設等入院基本料
  - A 1 0 4 削除
  - A 1 0 5 有床診療所入院基本料
  - A 1 0 6 有床診療所療養病床入院基本料
- 第2節 入院基本料等加算

#### 通則

- 1 本節各区分に掲げる入院基本料等加算（区分番号A 2 5 0に掲げる地域歯科診療支援病院入院加算を除く。）は、それぞれの算定要件を満たす患者について、医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基本料等加算の例により算定する。この場合において、医科点数表の区分番号A 2 0 4-2に

掲げる臨床研修病院入院診療加算については、「基幹型」とあるのは「単独型又は管理型」と、「医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項に規定する都道府県知事の指定する病院」とあるのは「歯科医師法（昭和23年法律第202号）第16条の2第1項に規定する歯学若しくは医学を履修する課程を置く大学に附属する病院（歯科医業を行わないものを除く。）又は厚生労働大臣の指定する病院」と読み替えるものとする。

2 本節各区分に掲げる入院基本料等加算（区分番号A 250に掲げる地域歯科診療支援病院入院加算を除く。）の算定要件は、医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基本料等加算の算定要件の例による。

#### 区分

A 200 急性期総合体制加算

（削る）

A 201 から A 203 まで 削除

A 204 地域医療支援病院入院診療加算

A 204-2 臨床研修病院入院診療加算

A 204-3 紹介受診重点医療機関入院診療加算

A 204-4 包括期充実体制加算

A 205 救急医療管理加算

A 205-2 在宅患者緊急入院診療加算

A 206 診療録管理体制加算

A 206-2 医師事務作業補助体制加算

A 206-3 急性期看護補助体制加算

A 206-4 看護職員夜間配置加算

A 206-5 電子的診療情報連携体制整備加算

A 207 乳幼児加算・幼児加算

A 208 特定感染症入院医療管理加算

A 208-2 難病等特別入院診療加算

A 208-3 超重症児（者）入院診療加算・準超重症児（者）

掲げる臨床研修病院入院診療加算については、「基幹型」とあるのは「単独型又は管理型」と、「医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項に規定する都道府県知事の指定する病院」とあるのは「歯科医師法（昭和23年法律第202号）第16条の2第1項に規定する歯学若しくは医学を履修する課程を置く大学に附属する病院（歯科医業を行わないものを除く。）又は厚生労働大臣の指定する病院」と読み替えるものとする。

2 本節各区分に掲げる入院基本料等加算（区分番号A 250に掲げる地域歯科診療支援病院入院加算を除く。）の算定要件は、医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基本料等加算の算定要件の例による。

#### 区分

A 200 総合入院体制加算

A 200-2 急性期充実体制加算

A 201 から A 203 まで 削除

A 204 地域医療支援病院入院診療加算

A 204-2 臨床研修病院入院診療加算

A 204-3 紹介受診重点医療機関入院診療加算

（新設）

A 205 救急医療管理加算

A 205-2 在宅患者緊急入院診療加算

A 206 診療録管理体制加算

A 206-2 医師事務作業補助体制加算

A 206-3 急性期看護補助体制加算

A 206-4 看護職員夜間配置加算

（新設）

A 207 乳幼児加算・幼児加算

A 208 特定感染症入院医療管理加算

A 208-2 難病等特別入院診療加算

A 208-3 超重症児（者）入院診療加算・準超重症児（者）

入院診療加算

A 2 0 9 看護配置加算

A 2 1 0 看護補助加算

A 2 1 1 看護・多職種協働加算

A 2 1 2 及び A 2 1 3 削除

A 2 1 4 地域加算

A 2 1 4 - 2 離島加算

A 2 1 5 療養環境加算

A 2 1 6 H I V感染者療養環境特別加算

A 2 1 6 - 2 特定感染症患者療養環境特別加算

A 2 1 6 - 3 特定薬剤治療環境特別加算

A 2 1 7 重症者等療養環境特別加算

A 2 1 7 - 2 小児療養環境特別加算

A 2 1 8 療養病棟療養環境加算

A 2 1 8 - 2 療養病棟療養環境改善加算

A 2 1 9 診療所療養病床療養環境加算

A 2 1 9 - 2 診療所療養病床療養環境改善加算

A 2 2 0 無菌治療室管理加算

A 2 2 1 放射線治療病室管理加算

A 2 2 1 - 2 緩和ケア診療加算

A 2 2 1 - 3 有床診療所緩和ケア診療加算

A 2 2 1 - 4 小児緩和ケア診療加算

A 2 2 2 がん拠点病院加算

A 2 2 3 リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算<sup>△</sup>

A 2 2 3 - 2 栄養サポートチーム加算

A 2 2 4 医療安全対策加算

A 2 2 4 - 2 感染対策向上加算

A 2 2 4 - 3 患者サポート体制充実加算

A 2 2 4 - 4 重症患者初期支援充実加算

A 2 2 4 - 5 報告書管理体制加算

A 2 2 5 身体的拘束最小化推進体制加算

入院診療加算

A 2 0 9 看護配置加算

A 2 1 0 看護補助加算

(新設)

A 2 1 1 から A 2 1 3 まで 削除

A 2 1 4 地域加算

A 2 1 4 - 2 離島加算

A 2 1 5 療養環境加算

A 2 1 6 H I V感染者療養環境特別加算

A 2 1 6 - 2 特定感染症患者療養環境特別加算

(新設)

A 2 1 7 重症者等療養環境特別加算

A 2 1 7 - 2 小児療養環境特別加算

A 2 1 8 療養病棟療養環境加算

A 2 1 8 - 2 療養病棟療養環境改善加算

A 2 1 9 診療所療養病床療養環境加算

A 2 1 9 - 2 診療所療養病床療養環境改善加算

A 2 2 0 無菌治療室管理加算

A 2 2 1 放射線治療病室管理加算

A 2 2 1 - 2 緩和ケア診療加算

A 2 2 1 - 3 有床診療所緩和ケア診療加算

A 2 2 1 - 4 小児緩和ケア診療加算

A 2 2 2 がん拠点病院加算

A 2 2 3 リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算<sup>△</sup>

A 2 2 3 - 2 栄養サポートチーム加算

A 2 2 4 医療安全対策加算

A 2 2 4 - 2 感染対策向上加算

A 2 2 4 - 3 患者サポート体制充実加算

A 2 2 4 - 4 重症患者初期支援充実加算

A 2 2 4 - 5 報告書管理体制加算

A 2 2 5 削除

A 2 2 6 褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
 A 2 2 7 からA 2 2 7-4まで 削除  
 A 2 2 7-5 入退院支援加算  
 A 2 2 7-6 医療的ケア児（者）入院前支援加算  
 A 2 2 8 認知症ケア加算  
 A 2 2 8-2 せん妄ハイリスク患者ケア加算  
 A 2 4 0 削除  
 A 2 4 1 削除  
 A 2 4 2 削除  
 A 2 4 2-2 術後疼痛管理チーム加算  
A 2 4 3 地域支援・医薬品供給対応体制加算  
 A 2 4 3-2 バイオ後続品使用体制加算  
 A 2 4 4 病棟薬剤業務実施加算  
 A 2 4 5 薬剤総合評価調整加算  
 A 2 4 6 地域医療体制確保加算  
A 2 4 7 医療提供機能連携確保加算  
 A 2 5 0 地域歯科診療支援病院入院加算 300点  
 注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科訪問診療を実施している別の保険医療機関で区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料又は区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A 0 0 2に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定した患者であって、区分番号B 0 0 0-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号C 0 0 1-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号C 0 0 1-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指

A 2 2 6 褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
 A 2 2 7 からA 2 2 7-4まで 削除  
 A 2 2 7-5 入退院支援加算  
 A 2 2 7-6 医療的ケア児（者）入院前支援加算  
 A 2 2 8 認知症ケア加算  
 A 2 2 8-2 せん妄ハイリスク患者ケア加算  
 A 2 4 0 削除  
 A 2 4 1 削除  
 A 2 4 2 削除  
 A 2 4 2-2 術後疼痛管理チーム加算  
A 2 4 3 後発医薬品使用体制加算  
 A 2 4 3-2 バイオ後続品使用体制加算  
 A 2 4 4 病棟薬剤業務実施加算  
 A 2 4 5 薬剤総合評価調整加算  
 A 2 4 6 地域医療体制確保加算  
 (新設)  
 A 2 5 0 地域歯科診療支援病院入院加算 300点  
 注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科訪問診療を実施している別の保険医療機関で区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料又は区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A 0 0 2に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定した患者であって、区分番号B 0 0 0-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号C 0 0 1-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号C 0 0 1-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指

導管理料を入院の月又はその前月に算定しているものについて、当該保険医療機関から文書による診療情報提供を受け、求めに応じて入院させた場合に、当該患者（第1節のいずれかの入院基本料（特別入院基本料等を含む。）を現に算定している患者に限る。）について、入院初日に限り所定点数に加算する。

### 第3節 特定入院料

#### 通則

- 1 本節各区分に掲げる特定入院料は、それぞれの算定要件を満たす患者について、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料の例により算定する。
- 2 本節各区分に掲げる特定入院料に係る算定要件は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料に係る算定要件の例による。
- 3 本節各区分に掲げる特定入院料について、加算要件を満たす場合は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料に係る加算の例により、本節各区分に掲げる特定入院料の所定点数に加算する。
- 4 本節各区分に掲げる特定入院料に係る加算要件は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料に係る加算要件の例による。
- 5 本節各区分に掲げる特定入院料に含まれる費用の範囲は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料の例による。
- 6 本節各区分に掲げる特定入院料を算定する保険医療機関においては、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算について、それぞれの算定要件を満たす場合に算定できる。
- 7 前号の規定により算定できる入院基本料等加算の範囲は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料につき算定できる医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基

導管理料を入院の月又はその前月に算定しているものについて、当該保険医療機関から文書による診療情報提供を受け、求めに応じて入院させた場合に、当該患者（第1節のいずれかの入院基本料（特別入院基本料等を含む。）を現に算定している患者に限る。）について、入院初日に限り所定点数に加算する。

### 第3節 特定入院料

#### 通則

- 1 本節各区分に掲げる特定入院料は、それぞれの算定要件を満たす患者について、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料の例により算定する。
- 2 本節各区分に掲げる特定入院料に係る算定要件は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料に係る算定要件の例による。
- 3 本節各区分に掲げる特定入院料について、加算要件を満たす場合は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料に係る加算の例により、本節各区分に掲げる特定入院料の所定点数に加算する。
- 4 本節各区分に掲げる特定入院料に係る加算要件は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料に係る加算要件の例による。
- 5 本節各区分に掲げる特定入院料に含まれる費用の範囲は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料の例による。
- 6 本節各区分に掲げる特定入院料を算定する保険医療機関においては、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算について、それぞれの算定要件を満たす場合に算定できる。
- 7 前号の規定により算定できる入院基本料等加算の範囲は、医科点数表の第1章第2部第3節に掲げる特定入院料につき算定できる医科点数表の第1章第2部第2節に掲げる入院基

本料等加算の例による。ただし、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算に限られる。

区分

- A 3 0 0 特定集中治療室管理料
- A 3 0 1 ハイケアユニット入院医療管理料
- A 3 0 2 小児特定集中治療室管理料
- A 3 0 3 緩和ケア病棟入院料
- A 3 0 4 小児入院医療管理料
- A 3 0 5 特定一般病棟入院料
- A 3 0 6 地域包括ケア病棟入院料
- A 3 0 7 地域包括医療病棟入院料

第4節 短期滞在手術等基本料

区分

- A 4 0 0 短期滞在手術等基本料

注1 医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料の注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料の算定要件を満たした場合に、医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料の例により算定する。

2 短期滞在手術等基本料に含まれる費用の範囲は、医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料に含まれる費用の範囲の例による。この場合において、同注4中「及び第11部麻酔」とあるのは「並びに第11部麻酔及び別表第二歯科診療報酬点数表（以下「歯科点数表」という。）の第2章第10部麻酔」と、同注4のル中「麻酔管理料①」区分番号L 0 0 9に

本料等加算の例による。ただし、第2節の各区分に掲げる入院基本料等加算に限られる。

区分

- A 3 0 0 特定集中治療室管理料
- A 3 0 1 ハイケアユニット入院医療管理料
- A 3 0 2 小児特定集中治療室管理料
- A 3 0 3 緩和ケア病棟入院料
- A 3 0 4 小児入院医療管理料
- A 3 0 5 特定一般病棟入院料
- A 3 0 6 地域包括ケア病棟入院料
- A 3 0 7 地域包括医療病棟入院料

第4節 短期滞在手術等基本料

区分

- A 4 0 0 短期滞在手術等基本料

注1 医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料の注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料の算定要件を満たした場合に、医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料の例により算定する。

2 短期滞在手術等基本料に含まれる費用の範囲は、医科点数表の区分番号A 4 0 0に掲げる短期滞在手術等基本料に含まれる費用の範囲の例による。この場合において、同注3中「及び第11部麻酔」とあるのは「並びに第11部麻酔及び別表第二歯科診療報酬点数表（以下「歯科点数表」という。）の第2章第10部麻酔」と、同注3のル中「麻酔管理料①」区分番号L 0 0 9に

掲げるもの」とあるのは「麻酔管理料Ⅱ及び歯科麻酔管理料 区分番号L009に掲げるもの及び歯科点数表の区分番号K004に掲げるもの」と読み替えるものとする。

## 第2章 特掲診療料

### 第1部 医学管理等

#### 区分

B000からB000-3まで 削除

B000-4 歯科疾患管理料 90点

注1 1回目の歯科疾患管理料は、歯科疾患の管理が必要な患者に対し、当該患者又はその家族等（以下この部において「患者等」という。）の同意を得て管理計画を作成し、その内容について説明を行った場合に算定する。

2 2回目以降の歯科疾患管理料は、1回目の歯科疾患管理料を算定した患者に対して、注1の規定による管理計画に基づく継続的な管理を行っている場合であって、歯科疾患の管理及び療養上必要な指導を行ったときに、1回目の歯科疾患管理料を算定した日の属する月の翌月以降月1回に限り算定する。

3 区分番号B000-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C001

掲げるもの」とあるのは「麻酔管理料Ⅱ及び歯科麻酔管理料 区分番号L009に掲げるもの及び歯科点数表の区分番号K004に掲げるもの」と読み替えるものとする。

## 第2章 特掲診療料

### 第1部 医学管理等

#### 区分

B000からB000-3まで 削除

B000-4 歯科疾患管理料 100点

注1 1回目の歯科疾患管理料は、歯科疾患の管理が必要な患者に対し、当該患者又はその家族等（以下この部において「患者等」という。）の同意を得て管理計画を作成し、その内容について説明を行った場合に算定する。なお、初診日の属する月に算定する場合は、所定点数の100分の80に相当する点数により算定する。

2 2回目以降の歯科疾患管理料は、1回目の歯科疾患管理料を算定した患者に対して、注1の規定による管理計画に基づく継続的な管理を行っている場合であって、歯科疾患の管理及び療養上必要な指導を行ったときに、1回目の歯科疾患管理料を算定した日の属する月の翌月以降月1回に限り算定する。

3 区分番号B000-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>Ⅲ</sup>、区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C001

－3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1－5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C 0 0 1－6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料を算定した患者に対して、当該管理の終了後に療養上の必要があつて歯科疾患の継続的な管理を行う場合は、区分番号B 0 0 0－6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅰ)</sup>、区分番号B 0 0 0－7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅱ)</sup>、区分番号B 0 0 0－8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>、区分番号B 0 0 0－9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅳ)</sup>、区分番号B 0 0 0－1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1－3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1－5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C 0 0 1－6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料を算定した日の属する月の翌月以降から算定する。

4 入院中の患者に対して管理を行った場合又は退院した患者に対して退院の日の属する月に管理を行った場合における当該管理の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院中の患者又は当該病棟を退院した患者については、こ

－3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1－5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C 0 0 1－6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料を算定した患者に対して、当該管理の終了後に療養上の必要があつて歯科疾患の継続的な管理を行う場合は、区分番号B 0 0 0－6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅰ)</sup>、区分番号B 0 0 0－7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅱ)</sup>、区分番号B 0 0 0－8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>、区分番号B 0 0 0－9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅳ)</sup>、区分番号B 0 0 0－1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1－3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1－5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C 0 0 1－6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料を算定した日の属する月の翌月以降から算定する。

4 入院中の患者に対して管理を行った場合又は退院した患者に対して退院の日の属する月に管理を行った場合における当該管理の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院中の患者又は当該病棟を退院した患者については、こ

の限りでない。

- 5 初診日から入院（歯科診療に限る。）中の患者について、退院後に歯科疾患の継続的な管理が必要な場合は、退院した日の属する月の翌月以降から算定する。
- 6 管理計画に基づく治療終了日から起算して2月を経過するまでの間、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料は、算定できない。
- 7 歯科疾患管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(2)</sup>、区分番号B 0 0 0-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(3)</sup>、区分番号B 0 0 0-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(4)</sup>、区分番号B 0 0 0-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C 0 0 1-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は、算定できない。
- 8 16歳未満のう蝕に罹患している患者であつて、う蝕多発傾向にあり、う蝕に対する歯冠修復終了後もう蝕活動性が高く、継続的な指導管理が必要なもの（以下「う蝕多発傾向者」という。）のうち、4歳以上のう蝕多発傾向者又はその家族等に対して、当該患者の療養を主として担う歯科医師（以下「主治の歯科医師」という。）又はその指示を受けた歯科衛生

の限りでない。

- 5 初診日から入院（歯科診療に限る。）中の患者について、退院後に歯科疾患の継続的な管理が必要な場合は、退院した日の属する月の翌月以降から算定する。
- 6 管理計画に基づく治療終了日から起算して2月を経過するまでの間、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料は、算定できない。
- 7 歯科疾患管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(2)</sup>、区分番号B 0 0 0-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(3)</sup>、区分番号B 0 0 0-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(4)</sup>、区分番号B 0 0 0-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C 0 0 1-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は、算定できない。
- 8 16歳未満のう蝕に罹患している患者であつて、う蝕多発傾向にあり、う蝕に対する歯冠修復終了後もう蝕活動性が高く、継続的な指導管理が必要なもの（以下「う蝕多発傾向者」という。）のうち、4歳以上のう蝕多発傾向者又はその家族等に対して、当該患者の療養を主として担う歯科医師（以下「主治の歯科医師」という。）又はその指示を受けた歯科衛生

士が、フッ化物洗口に係る薬液の取扱い及び洗口法に関する指導を行った場合は、歯科疾患管理の実施期間中に患者1人につき1回に限り、フッ化物洗口指導加算として、40点を所定点数に加算する。ただし、区分番号C001に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定している患者については、当該加算は算定できない。

9 注1の規定による管理計画に基づき、患者等に対し、歯科疾患の管理に係る内容を文書により提供した場合は、文書提供加算として、10点を所定点数に加算する。

10 別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）から歯科治療における総合的医療管理が必要な患者であるとして文書による診療情報の提供を受けたものに対し、必要な管理及び療養上の指導等を行った場合は、総合医療管理加算として、50点を所定点数に加算する。

11 初診日の属する月から起算して6月を超えて歯科疾患の管理及び療養上必要な指導を行った場合は、長期管理加算として、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。

イ 区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の場合 120点  
ロ イ以外の保険医療機関の場合 100点

12 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、注1又は注2に規定する管理に加えて、特別な歯科医学的管理を行った場合は、特別管理加算として、80点を所定点数に加

士が、フッ化物洗口に係る薬液の取扱い及び洗口法に関する指導を行った場合は、歯科疾患管理の実施期間中に患者1人につき1回に限り、フッ化物洗口指導加算として、40点を所定点数に加算する。ただし、区分番号C001に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定している患者については、当該加算は算定できない。

9 注1の規定による管理計画に基づき、患者等に対し、歯科疾患の管理に係る内容を文書により提供した場合は、文書提供加算として、10点を所定点数に加算する。

10 別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）から歯科治療における総合的医療管理が必要な患者であるとして文書による診療情報の提供を受けたものに対し、必要な管理及び療養上の指導等を行った場合は、総合医療管理加算として、50点を所定点数に加算する。

11 初診日の属する月から起算して6月を超えて歯科疾患の管理及び療養上必要な指導を行った場合は、長期管理加算として、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。

イ 区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の場合 120点  
ロ イ以外の保険医療機関の場合 100点

（新設）

算する。

B 0 0 0 - 4 - 2 小児口腔機能管理料

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| <u>1 小児口腔機能管理料 1</u> | 90点 |
| <u>2 小児口腔機能管理料 2</u> | 50点 |

注1 区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、口腔機能発達不全症の18歳未満の患者に対して、口腔機能の獲得を目的として、当該患者等の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、当該管理計画に基づき、口腔機能の管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

- 2 1については、口腔機能の評価項目において3項目以上に該当する者に対して、注1に規定する管理をする場合に当該管理料を算定する。  
3 2については、口腔機能の評価項目において2項目に該当する者に対して、注1に規定する管理をする場合に当該管理料を算定する。

4 入院中の患者に対して管理を行った場合又は退院した患者に対して退院の日の属する月に管理を行った場合における当該管理の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院中の患者又は当該病棟を退院した患者については、この限りでない。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において、口腔機能の

B 0 0 0 - 4 - 2 小児口腔機能管理料

60点

(新設)

(新設)

注1 区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、口腔機能の発達不全を有する18歳未満の児童に対して、口腔機能の獲得を目的として、当該患者等の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、当該管理計画に基づき、口腔機能の管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

(新設)

(新設)

2 入院中の患者に対して管理を行った場合又は退院した患者に対して退院の日の属する月に管理を行った場合における当該管理の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院中の患者又は当該病棟を退院した患者については、この限りでない。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において、口腔機能の

管理を行った場合は、口腔管理体制強化加算として、50点を所定点数に加算する。

6 小児口腔機能管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅰ、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅳ、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は、算定できない。

7 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるもの（過去に小児口腔機能管理料を算定した患者に限る。）に対して、小児口腔機能管理料を算定すべき医学管理を情報通信機器を用いて行った場合は、1又は2の所定点数に代えて、それぞれ78点又は44点を算定する。

#### B 0 0 0 - 4 - 3 口腔機能管理料

<u>1 口腔機能管理料1</u>	<u>90点</u>
<u>2 口腔機能管理料2</u>	<u>50点</u>

注1 区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、口腔機能低下症の患者に対して、口腔機能の回復又は維持を目的として、当該患者等の同意を得て、当

管理を行った場合は、口腔管理体制強化加算として、50点を所定点数に加算する。

4 小児口腔機能管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅰ、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅳ、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は、算定できない。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるもの（過去に小児口腔機能管理料を算定した患者に限る。）に対して、小児口腔機能管理料を算定すべき医学管理を情報通信機器を用いて行った場合は、所定点数に代えて、53点を算定する。

#### B 0 0 0 - 4 - 3 口腔機能管理料

60点

(新設)

(新設)

注1 区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、口腔機能の低下を来しているものに対して、口腔機能の回復又は維持を目的として、当該患者等の同意

該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、当該管理計画に基づき、口腔機能の管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

2 1については、D002-6に掲げる口腔細菌定量検査（2に限る。）、D011-2に掲げる咀嚼能力検査（1に限る。）、D011-3に掲げる咬合圧検査（1に限る。）、D011-5に掲げる口腔粘膜湿潤度検査又はD012に掲げる舌圧検査のいずれかを実施した口腔機能低下症の患者に対して注1に規定する管理をする場合に当該管理料を算定する。

3 2については、口腔機能低下症の患者（注2に規定する患者を除く。）に対して注1に規定する管理をする場合に当該管理料を算定する。

4 入院中の患者に対して管理を行った場合又は退院した患者に対して退院の日の属する月に管理を行った場合における当該管理の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院中の患者又は当該病棟を退院した患者については、この限りでない。

5 区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において、口腔機能の管理を行った場合は、口腔管理体制強化加算として50点を所定点数に加算する。

6 口腔機能管理料を算定した月において、区分

を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、当該管理計画に基づき、口腔機能の管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

（新設）

（新設）

2 入院中の患者に対して管理を行った場合又は退院した患者に対して退院の日の属する月に管理を行った場合における当該管理の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院中の患者又は当該病棟を退院した患者については、この限りでない。

3 区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において、口腔機能の管理を行った場合は、口腔管理体制強化加算として50点を所定点数に加算する。

4 口腔機能管理料を算定した月において、区分

番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(2)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(3)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(4)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は、算定できない。

- 7 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるもの（過去に口腔機能管理料を算定した患者に限る。）に対して、口腔機能管理料を算定すべき医学管理を情報通信機器を用いて行った場合は、1又は2の所定点数に代えて、それぞれ78点又は44点を算定する。

#### B 0 0 0 - 5 周術期等口腔機能管理計画策定料

- 1 周術期等口腔機能管理計画策定料1 300点  
2 周術期等口腔機能管理計画策定料2 150点

注1 1については、がん等に係る手術（歯科疾患に係る手術については、入院期間が2日を超えるものに限る。）又は放射線治療、化学療法、集中治療室における治療若しくは緩和ケア（以下「手術等」という。）を実施する患者に対して、歯科診療を実施している保険医療機関において、手術等を実施する保険医療機関からの文書による依頼に基づき、当該患者又はその家族

番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(2)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(3)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(4)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は、算定できない。

- 5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるもの（過去に口腔機能管理料を算定した患者に限る。）に対して、口腔機能管理料を算定すべき医学管理を情報通信機器を用いて行った場合は、所定点数に代えて、53点を算定する。

#### B 0 0 0 - 5 周術期等口腔機能管理計画策定料 300点

- (新設)  
(新設)

注1 がん等に係る手術（歯科疾患に係る手術については、入院期間が2日を超えるものに限る。）又は放射線治療、化学療法、集中治療室における治療若しくは緩和ケア（以下「手術等」という。）を実施する患者に対して、歯科診療を実施している保険医療機関において、手術等を実施する保険医療機関からの文書による依頼に基づき、当該患者又はその家族の同意を得た上

の同意を得た上で、周術期等の口腔機能の評価及び一連の管理計画を策定するとともに、その内容について説明を行い、当該管理計画を文書により提供した場合に、当該手術等に係る一連の治療を通じて1回に限り算定する。

2 2について、注1に規定する管理計画を策定した患者の状態の変化等により、当該患者の治療計画を変更した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。

3 歯科診療を実施している保険医療機関又は手術等を実施する保険医療機関において、区分番号N001に掲げる顎口腔機能診断料を算定した患者に対して、顎離断等の手術に係る注1に規定する管理計画を策定した場合（当該顎離断等の手術に当たって、全身的な管理が必要な患者に対して、当該管理計画を策定した場合を除く。）は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

4 区分番号B006に掲げる開放型病院共同指導料<sup>①</sup>、区分番号B006-3に掲げるがん治療連携計画策定料、区分番号B000-10に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>②</sup>の注5に規定する加算及び区分番号B015に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。

#### B000-6 周術期等口腔機能管理料<sup>①</sup>

- |       |      |
|-------|------|
| 1 手術前 | 280点 |
| 2 手術後 | 190点 |

注1 がん等に係る手術（歯科疾患に係る手術については、入院期間が2日を超えるものに限る。）を実施する患者の周術期における口腔機能の

で、周術期等の口腔機能の評価及び一連の管理計画を策定するとともに、その内容について説明を行い、当該管理計画を文書により提供した場合に、当該手術等に係る一連の治療を通じて1回に限り算定する。

(新設)

2 歯科診療を実施している保険医療機関又は手術等を実施する保険医療機関において、区分番号N001に掲げる顎口腔機能診断料を算定した患者に対して、顎離断等の手術に係る注1に規定する管理計画を策定した場合（当該顎離断等の手術に当たって、全身的な管理が必要な患者に対して、当該管理計画を策定した場合を除く。）は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

3 区分番号B006に掲げる開放型病院共同指導料<sup>①</sup>、区分番号B006-3に掲げるがん治療連携計画策定料、区分番号B000-10に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>②</sup>の注5に規定する加算及び区分番号B015に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。

#### B000-6 周術期等口腔機能管理料<sup>①</sup>

- |       |      |
|-------|------|
| 1 手術前 | 280点 |
| 2 手術後 | 190点 |

注1 がん等に係る手術（歯科疾患に係る手術については、入院期間が2日を超えるものに限る。）を実施する患者の周術期における口腔機能の

管理を行うため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、当該手術を実施する他の病院である保険医療機関に入院中の患者又は他の病院である保険医療機関若しくは同一の病院である保険医療機関に入院中の患者以外の患者に対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、かつ、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、手術前は1回に限り、手術後は手術を行った日の属する月から起算して3月以内において3回に限り算定する。ただし、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注3に規定する場合に策定した管理計画に基づき、歯科医師が口腔機能の管理等を行う場合は、算定できない。

2 周術期等口腔機能管理料(Ⅱ)を算定した月において、区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 – 6 – 2に掲げる歯科治療時医療管理料、区分番号B 0 0 6 – 3 – 2に掲げるがん治療連携指導料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 4 – 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

管理を行うため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、当該手術を実施する他の病院である保険医療機関に入院中の患者又は他の病院である保険医療機関若しくは同一の病院である保険医療機関に入院中の患者以外の患者に対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、かつ、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、手術前は1回に限り、手術後は手術を行った日の属する月から起算して3月以内において3回に限り算定する。ただし、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注2に規定する場合に策定した管理計画に基づき、歯科医師が口腔機能の管理等を行う場合は、算定できない。

2 周術期等口腔機能管理料(Ⅱ)を算定した月において、区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 – 6 – 2に掲げる歯科治療時医療管理料、区分番号B 0 0 6 – 3 – 2に掲げるがん治療連携指導料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 4 – 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

**B 0 0 0 - 7 周術期等口腔機能管理料②**

- |       |      |
|-------|------|
| 1 手術前 | 500点 |
| 2 手術後 | 300点 |

注1 がん等に係る手術（歯科疾患に係る手術については、入院期間が2日を超えるものに限る。）を実施する患者の周術期における口腔機能の管理を行うため、歯科診療を実施している病院である保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 - 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、当該手術を実施する同一の保険医療機関に入院中の患者に対して、当該保険医療機関に属する歯科医師が口腔機能の管理を行い、かつ、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、手術前は1回に限り、手術後は手術を行った日の属する月から起算して3月以内において、月2回に限り算定する。

2 周術期等口腔機能管理料②を算定した月において、区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 - 6 - 2に掲げる歯科治療時医療管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 4 - 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

**B 0 0 0 - 8 周術期等口腔機能管理料③**

200点

**B 0 0 0 - 7 周術期等口腔機能管理料②**

- |       |      |
|-------|------|
| 1 手術前 | 500点 |
| 2 手術後 | 300点 |

注1 がん等に係る手術（歯科疾患に係る手術については、入院期間が2日を超えるものに限る。）を実施する患者の周術期における口腔機能の管理を行うため、歯科診療を実施している病院である保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 - 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、当該手術を実施する同一の保険医療機関に入院中の患者に対して、当該保険医療機関に属する歯科医師が口腔機能の管理を行い、かつ、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、手術前は1回に限り、手術後は手術を行った日の属する月から起算して3月以内において、月2回に限り算定する。

2 周術期等口腔機能管理料②を算定した月において、区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 - 6 - 2に掲げる歯科治療時医療管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 4 - 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

**B 0 0 0 - 8 周術期等口腔機能管理料③**

200点

注1 がん等に係る放射線治療、化学療法、集中治療室における治療又は緩和ケア（以下「放射線治療等」という。）を実施する患者の口腔機能を管理するため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、他の保険医療機関又は同一の保険医療機関に入院中の患者以外の患者であって、放射線治療等を実施するものに対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から月1回に限り算定する。

2 区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から起算して6月を超えて、注1に規定する管理を行った場合は、長期管理加算として50点を所定点数に加算する。

3 周術期等口腔機能管理料Ⅱを算定した月において、区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 – 6 – 2に掲げる歯科治療時医療管理料、区分番号B 0 0 6 – 3 – 2に掲げるがん治療連携指導料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C

注1 がん等に係る放射線治療、化学療法、集中治療室における治療又は緩和ケア（以下「放射線治療等」という。）を実施する患者の口腔機能を管理するため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、他の保険医療機関又は同一の保険医療機関に入院中の患者以外の患者であって、放射線治療等を実施するものに対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から月1回に限り算定する。

2 区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から起算して6月を超えて、注1に規定する管理を行った場合は、長期管理加算として50点を所定点数に加算する。

3 周術期等口腔機能管理料Ⅱを算定した月において、区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 – 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 – 6 – 2に掲げる歯科治療時医療管理料、区分番号B 0 0 6 – 3 – 2に掲げるがん治療連携指導料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C

001-4-2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N002に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

B000-9 周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup> 200点

- 注1 放射線治療等を実施する患者の口腔機能を管理するため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、他の保険医療機関又は同一の保険医療機関に入院中の患者であって、放射線治療等を実施するものに対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から起算して3月以内においては月2回に限り、その他の月においては月1回に限り算定する。
- 2 区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から起算して6月を超えて、注1に規定する管理を行った場合は、長期管理加算として50点を所定点数に加算する。
- 3 周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>を算定した月において、区分番号B000-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B000-4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B004-6-2に掲げる歯科治療時

001-4-2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N002に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

B000-9 周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup> 200点

- 注1 放射線治療等を実施する患者の口腔機能を管理するため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、他の保険医療機関又は同一の保険医療機関に入院中の患者であって、放射線治療等を実施するものに対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から起算して3月以内においては月2回に限り、その他の月においては月1回に限り算定する。
- 2 区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から起算して6月を超えて、注1に規定する管理を行った場合は、長期管理加算として50点を所定点数に加算する。
- 3 周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>を算定した月において、区分番号B000-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B000-4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B004-6-2に掲げる歯科治療時

医療管理料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 4 – 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

B 0 0 0 – 1 0	回復期等口腔機能管理計画策定料	
1	回復期等口腔機能管理計画策定料 1	300点
2	回復期等口腔機能管理計画策定料 2	150点

注1 1については、医科点数表の区分番号A 1 0 1に掲げる療養病棟入院基本料、区分番号A 3 0 8に掲げる回復期リハビリテーション病棟入院料又は区分番号A 3 0 8 – 3に掲げる地域包括ケア病棟入院料を算定する患者に対して、歯科診療を実施している保険医療機関において、リハビリテーション等を行う保険医療機関からの文書による依頼に基づき、当該患者又はその家族の同意を得た上で、回復期等の口腔機能の評価及び一連の管理計画を策定するとともに、その内容について説明を行い、当該管理計画を文書により提供した場合に、当該リハビリテーション等に係る一連の治療を通じて1回に限り算定する。

2 2については、注1に規定する管理計画を策定した患者の状態の変化等により、当該患者の治療計画を変更した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。

3 区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B 0 0 6に掲げる開放型病院共同指導料Ⅱ、区分番号B 0 0 6 – 3に掲げるがん治療連携計画策定料、区分番号B 0 0 9に掲げる診療情報提供料Ⅱの注5に

医療管理料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 4 – 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

B 0 0 0 – 1 0	回復期等口腔機能管理計画策定料	300点
	(新設)	
	(新設)	

注1 医科点数表の区分番号A 1 0 1に掲げる療養病棟入院基本料、区分番号A 3 0 8に掲げる回復期リハビリテーション病棟入院料又は区分番号A 3 0 8 – 3に掲げる地域包括ケア病棟入院料を算定する患者に対して、歯科診療を実施している保険医療機関において、リハビリテーション等を行う保険医療機関からの文書による依頼に基づき、当該患者又はその家族の同意を得た上で、回復期等の口腔機能の評価及び一連の管理計画を策定するとともに、その内容について説明を行い、当該管理計画を文書により提供した場合に、当該リハビリテーション等に係る一連の治療を通じて1回に限り算定する。

(新設)

2 区分番号B 0 0 0 – 5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B 0 0 6に掲げる開放型病院共同指導料Ⅱ、区分番号B 0 0 6 – 3に掲げるがん治療連携計画策定料、区分番号B 0 0 9に掲げる診療情報提供料Ⅱの注5に

<p>規定する加算及び区分番号B 0 1 5に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。</p> <p><b>B 0 0 0 - 1 1 回復期等口腔機能管理料</b> 200点</p> <p>注1 医科点数表の区分番号A 1 0 1に掲げる療養病棟入院基本料、区分番号A 3 0 8に掲げる回復期リハビリテーション病棟入院料又は区分番号A 3 0 8-3に掲げる地域包括ケア病棟入院料を算定する患者の口腔機能を管理するため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 - 1 0に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、リハビリテーション等を行う他の保険医療機関又は同一の保険医療機関に入院中の患者に対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、かつ、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、区分番号B 0 0 0 - 1 0に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から月1回に限り算定する。</p> <p>2 回復期等口腔機能管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 4-2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅰ、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅳ、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 - 6 - 2に掲げる歯科治療時医療管理</p>	<p>規定する加算及び区分番号B 0 1 5に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。</p> <p><b>B 0 0 0 - 1 1 回復期等口腔機能管理料</b> 200点</p> <p>注1 医科点数表の区分番号A 1 0 1に掲げる療養病棟入院基本料、区分番号A 3 0 8に掲げる回復期リハビリテーション病棟入院料又は区分番号A 3 0 8-3に掲げる地域包括ケア病棟入院料を算定する患者の口腔機能を管理するため、歯科診療を実施している保険医療機関において、区分番号B 0 0 0 - 1 0に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、リハビリテーション等を行う他の保険医療機関又は同一の保険医療機関に入院中の患者に対して、歯科医師が口腔機能の管理を行い、かつ、当該管理内容に係る情報を文書により提供した場合は、当該患者につき、区分番号B 0 0 0 - 1 0に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料を算定した日の属する月から月1回に限り算定する。</p> <p>2 回復期等口腔機能管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 4-2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅰ、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅳ、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号B 0 0 4 - 6 - 2に掲げる歯科治療時医療管理</p>
--	--

料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 4 – 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

B 0 0 0 – 1 2 根面う蝕<sup>しょく</sup>管理料 30点

注1 区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料若しくは区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者（65歳以上のものに限る。）又は区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって、初期の根面う蝕<sup>しょく</sup>に罹患しているものに対して、当該う蝕<sup>しょく</sup>の評価に基づく管理計画を作成するとともに、その内容について説明を行い、非切削による当該う蝕<sup>しょく</sup>の管理を行う場合に、月1回に限り算定する。

2 区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関が当該管理を行う場合は、口腔管理体制強化加算として、48点を所定点数に加算する。

B 0 0 0 – 1 3 エナメル質初期う蝕<sup>しょく</sup>管理料 30点

注1 区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、エナメル質初期う蝕<sup>しょく</sup>に罹患しているものに対して、当該う蝕<sup>しょく</sup>の評価に基づく管理計画を作成するとともに、その内容について説明を行い、当該う蝕<sup>しょく</sup>の管理を行う場合に、月1回に限り算定する。

料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 4 – 2に掲げる在宅患者歯科治療時医療管理料及び区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料は算定できない。

B 0 0 0 – 1 2 根面う蝕<sup>しょく</sup>管理料 30点

注1 区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料若しくは区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者（65歳以上のものに限る。）又は区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって、初期の根面う蝕<sup>しょく</sup>に罹患しているものに対して、当該う蝕<sup>しょく</sup>の評価に基づく管理計画を作成するとともに、その内容について説明を行い、非切削による当該う蝕<sup>しょく</sup>の管理を行う場合に、月1回に限り算定する。

2 区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関が当該管理を行う場合は、口腔管理体制強化加算として、48点を所定点数に加算する。

B 0 0 0 – 1 3 エナメル質初期う蝕<sup>しょく</sup>管理料 30点

注1 区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、エナメル質初期う蝕<sup>しょく</sup>に罹患しているものに対して、当該う蝕<sup>しょく</sup>の評価に基づく管理計画を作成するとともに、その内容について説明を行い、当該う蝕<sup>しょく</sup>の管理を行う場合に、月1回に限り算定する。

2 区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関が当該管理を行う場合は、口腔管理体制強化加算として、48点を所定点数に加算する。

B001 削除

B001-2 歯科衛生実地指導料

- |               |      |
|---------------|------|
| 1 歯科衛生実地指導料 1 | 80点  |
| 2 歯科衛生実地指導料 2 | 100点 |

注1 1については、歯科疾患に罹患している患者に対して、主治の歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、直接15分以上の実地指導を行った上で、当該指導内容に係る情報を文書により提供了した場合に、月1回に限り算定する。

2 2については、区分番号A000に掲げる初診料の注12に規定する加算に係る施設基準又は地域歯科診療支援病院歯科初診料に係る施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号A000に掲げる初診料の注6又は区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定している患者であって、歯科疾患に罹患しているものに対して、主治の歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、直接15分以上の実地指導（15分以上の実地指導を行うことが困難な場合にあっては、月2回の実地指導を合わせて15分以上の実地指導）を行い、かつ、当該指導内容に係る情報を文書により提供了した場合に、月1回に限り算定する。ただし

2 区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関が当該管理を行う場合は、口腔管理体制強化加算として、48点を所定点数に加算する。

B001 削除

B001-2 歯科衛生実地指導料

- |               |      |
|---------------|------|
| 1 歯科衛生実地指導料 1 | 80点  |
| 2 歯科衛生実地指導料 2 | 100点 |

注1 1については、歯科疾患に罹患している患者に対して、主治の歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、直接15分以上の実地指導を行った上で、当該指導内容に係る情報を文書により提供了した場合に、月1回に限り算定する。

2 2については、区分番号A000に掲げる初診料の注11に規定する加算に係る施設基準又は地域歯科診療支援病院歯科初診料に係る施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号A000に掲げる初診料の注6又は区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定している患者であって、歯科疾患に罹患しているものに対して、主治の歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、直接15分以上の実地指導（15分以上の実地指導を行うことが困難な場合にあっては、月2回の実地指導を合わせて15分以上の実地指導）を行い、かつ、当該指導内容に係る情報を文書により提供了した場合に、月1回に限り算定する。ただし

、歯科衛生実地指導料2を算定した月においては、歯科衛生実地指導料1は算定できない。  
(削る)

3 入院中の患者に対して行った指導又は退院した患者に対して退院の日から当該退院した日の属する月の末日までに行った指導の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、当該患者が歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外に係る病棟に入院している場合は、この限りでない。

4 区分番号C001に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定している月は、算定できない。

#### B001-2-2 口腔機能実地指導料 46点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関であって、口腔機能の発達不全を有する患者又は口腔機能の低下を来している患者に対して、口腔機能発達不全症及び口腔機能低下症の実地指導に係る研修を受講した歯科衛生士が、主治の歯科医師の指示を受けて口腔機能に係る指導を行い、かつ、当該指導内容に係る情報を文書により提供した場合に、月1回に限り算定する。

#### B001-3 歯周病患者画像活用指導料 50点

、歯科衛生実地指導料2を算定した月においては、歯科衛生実地指導料1は算定できない。

3 1及び2について、口腔機能の発達不全を有する患者又は口腔機能の低下を来している患者に対して、主治の歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、注1又は注2に規定する実地指導と併せて口腔機能に係る指導を行った場合は、口腔機能指導加算として、12点を所定点数に加算する。

4 入院中の患者に対して行った指導又は退院した患者に対して退院の日から当該退院した日の属する月の末日までに行った指導の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、当該患者が歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外に係る病棟に入院している場合は、この限りでない。

5 区分番号C001に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定している月は、算定できない。

(新設)

#### B001-3 歯周病患者画像活用指導料 10点

(新設)

## 2 顕微鏡画像

50点

注1 1については、歯周病に罹患している患者に対して区分番号D002に掲げる歯周病検査を実施する場合において、継続的な管理を行うに当たって必要な口腔内写真を撮影し、当該患者又はその家族等に対し療養上必要な指導を行った場合に算定する。

2 2については、歯周病に罹患している患者に対して区分番号D002に掲げる歯周病検査を実施する場合において、動機付けを目的として位相差顕微鏡により描写された画像等を用いて指導を行った場合は、患者1人につき1回に限り算定する。

## B002 歯科特定疾患療養管理料

170点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める疾患を主病とする患者に対して、治療計画に基づき療養上必要な指導を行った場合は、月2回に限り算定する。
- 2 指導に先立って、患者の療養を主として担う医師（注1に規定する別に厚生労働大臣が定める疾患に限る。）と共同して、歯科診療に関する総合的な口腔の療養指導計画を策定し、当該患者に対し、その内容を文書により提供した場合は、1回に限り、共同療養指導計画加算として、100点を所定点数に加算する。
- 3 入院中の患者に対して行った指導又は退院した患者に対して退院の日から1月以内に行った指導の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、当該患者が歯科診療及び歯科診療以外の診

（新設）

注 齢歯周病に罹患している患者に対して区分番号D002に掲げる歯周病検査を実施する場合において、継続的な管理を行うに当たって必要な口腔内写真を撮影し、当該患者又はその家族等に対し療養上必要な指導を行った場合に算定する。なお、2枚以上撮影した場合は、2枚目から1枚につき10点を所定点数に加算し、1回につき5枚に限り算定する。

（新設）

## B002 歯科特定疾患療養管理料

170点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める疾患を主病とする患者に対して、治療計画に基づき療養上必要な指導を行った場合は、月2回に限り算定する。
- 2 指導に先立って、患者の療養を主として担う医師（注1に規定する別に厚生労働大臣が定める疾患に限る。）と共同して、歯科診療に関する総合的な口腔の療養指導計画を策定し、当該患者に対し、その内容を文書により提供した場合は、1回に限り、共同療養指導計画加算として、100点を所定点数に加算する。
- 3 入院中の患者に対して行った指導又は退院した患者に対して退院の日から1月以内に行った指導の費用は、第1章第2部第1節、第3節又は第4節の各区分の所定点数に含まれる。ただし、当該患者が歯科診療及び歯科診療以外の診

療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院している場合又は当該病棟に入院していた場合は、この限りでない。

- 4 区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅰ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅱ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅳ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号C 0 0 1 - 6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定している患者に対して行った歯科特定疾患療養管理料は、別に算定できない。

- 5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるもの

（過去に歯科特定疾患療養管理料を算定した患者に限る。）に対して、歯科特定疾患療養管理料を算定すべき医学管理を情報通信機器を用いて行った場合は、所定点数に代えて、148点を算定する。

B 0 0 3 特定薬剤治療管理料 470点

注1 別に厚生労働大臣が定める患者に対して、薬物血中濃度を測定して計画的な治療管理を行った場合に算定する。

療を併せて行う保険医療機関の歯科診療以外の診療に係る病棟に入院している場合又は当該病棟に入院していた場合は、この限りでない。

- 4 区分番号B 0 0 0 - 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅰ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅱ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅳ)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1 - 5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号C 0 0 1 - 6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定している患者に対して行った歯科特定疾患療養管理料は、別に算定できない。

- 5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、特に情報通信機器を用いた歯科診療を行うことが必要と認められるもの

（過去に歯科特定疾患療養管理料を算定した患者に限る。）に対して、歯科特定疾患療養管理料を算定すべき医学管理を情報通信機器を用いて行った場合は、所定点数に代えて、148点を算定する。

B 0 0 3 特定薬剤治療管理料 470点

注1 別に厚生労働大臣が定める患者に対して、薬物血中濃度を測定して計画的な治療管理を行った場合に算定する。

- 2 同一の患者につき 1 月以内に特定薬剤治療管理料を算定すべき測定及び計画的な治療管理を 2 回以上行った場合においては、特定薬剤治療管理料は 1 回とし、第 1 回の測定及び計画的な治療管理を行ったときに算定する。
- 3 薬物血中濃度の測定及び計画的な治療管理のうち、4 月目以降のものについては、所定点数の 100 分の 50 に相当する点数により算定する。
- 4 入院中の患者であって、バンコマイシンを投与しているものに対して、同一暦月に血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1 回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、530 点を所定点数に加算する。
- 5 注 4 に規定する患者以外の患者に対して、特定薬剤治療管理に係る薬剤の投与を行った場合は、1 回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280 点を所定点数に加算する。

B 0 0 4 悪性腫瘍特異物質治療管理料

注 医科点数表の区分番号 B 0 0 1 の 3 に掲げる悪性腫瘍特異物質治療管理料の例により算定する。

B 0 0 4-1-2 がん性疼痛緩和指導管理料 200 点

注 1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がん性疼痛の症状緩和を目的として麻薬を投与している患者に対して、WHO 方式のがん性疼痛の治療法に基づき、当該保険医療機関の緩和ケアに係る研修を受けた歯科医師が計画的な治療管理及び療養上必要な指導を行い、麻薬を処方した場合は、月 1 回に限り算定する。

- 2 同一の患者につき 1 月以内に特定薬剤治療管理料を算定すべき測定及び計画的な治療管理を 2 回以上行った場合においては、特定薬剤治療管理料は 1 回とし、第 1 回の測定及び計画的な治療管理を行ったときに算定する。
- 3 薬物血中濃度の測定及び計画的な治療管理のうち、4 月目以降のものについては、所定点数の 100 分の 50 に相当する点数により算定する。
- 4 入院中の患者であって、バンコマイシンを投与しているものに対して、同一暦月に血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1 回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、530 点を所定点数に加算する。
- 5 注 4 に規定する患者以外の患者に対して、特定薬剤治療管理に係る薬剤の投与を行った場合は、1 回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280 点を所定点数に加算する。

B 0 0 4 悪性腫瘍特異物質治療管理料

注 医科点数表の区分番号 B 0 0 1 の 3 に掲げる悪性腫瘍特異物質治療管理料の例により算定する。

B 0 0 4-1-2 がん性疼痛緩和指導管理料 200 点

注 1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がん性疼痛の症状緩和を目的として麻薬を投与している患者に対して、WHO 方式のがん性疼痛の治療法に基づき、当該保険医療機関の緩和ケアに係る研修を受けた歯科医師が計画的な治療管理及び療養上必要な指導を行い、麻薬を処方した場合は、月 1 回に限り算定する。

- 2 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がん性疼痛緩和のための専門的な治療が必要な患者に対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師が、その必要性及び診療方針等について文書により説明を行った場合に、難治性がん性疼痛緩和指導管理加算として、患者1人につき1回に限り所定点数に100点を加算する。
- 3 当該患者が15歳未満の小児である場合は、小児加算として、50点を所定点数に加算する。
- 4 区分番号B004-1-3に掲げるがん患者指導管理料（2に限る。）は、別に算定できない。

#### B004-1-3 がん患者指導管理料

- 1 歯科医師が看護師と共同して診療方針等について話し合い、その内容を文書等により提供した場合 500点
- 2 歯科医師、看護師又は公認心理師が心理的不安を軽減するための面接を行った場合 200点
- 3 歯科医師又は薬剤師が抗悪性腫瘍剤の投薬又は注射の必要性等について文書により説明を行った場合 200点

注1 1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がんと診断された患者であって継続して治療を行うものに対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師が看護師と共同して、診療方針等について十分に話し合い、その内容を文書

- 2 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がん性疼痛緩和のための専門的な治療が必要な患者に対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師が、その必要性及び診療方針等について文書により説明を行った場合に、難治性がん性疼痛緩和指導管理加算として、患者1人につき1回に限り所定点数に100点を加算する。
- 3 当該患者が15歳未満の小児である場合は、小児加算として、50点を所定点数に加算する。
- 4 区分番号B004-1-3に掲げるがん患者指導管理料（2に限る。）は、別に算定できない。

#### B004-1-3 がん患者指導管理料

- 1 歯科医師が看護師と共同して診療方針等について話し合い、その内容を文書等により提供した場合 500点
- 2 歯科医師、看護師又は公認心理師が心理的不安を軽減するための面接を行った場合 200点
- 3 歯科医師又は薬剤師が抗悪性腫瘍剤の投薬又は注射の必要性等について文書により説明を行った場合 200点

注1 1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がんと診断された患者であって継続して治療を行うものに対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師が看護師と共同して、診療方針等について十分に話し合い、その内容を文書

等により提供した場合又は末期の悪性腫瘍の患者に対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師が看護師と共同して、診療方針等について十分に話し合った上で、当該診療方針等に関する当該患者の意思決定に対する支援を行い、その内容を文書等により提供した場合に、患者1人につき1回（当該患者について区分番号B006-3に掲げるがん治療連携計画策定料を算定した保険医療機関及び区分番号B006-3-2に掲げるがん治療連携指導料を算定した保険医療機関が、それぞれ当該指導管理を実施した場合は、それぞれの保険医療機関において、患者1人につき1回）に限り算定する。ただし、病状の変化に伴って診療方針の変更等について話し合いが必要となった場合は、更に1回に限り算定できる。

- 2 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がんと診断された患者であって継続して治療を行うものに対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師、その指示に基づき看護師又は歯科医師と医師との連携の下に公認心理師が患者の心理的不安を軽減するための面接を行った場合に、患者1人につき6回に限り算定する。
- 3 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がんと診断された患者であって継続して抗悪性腫瘍剤の投薬又は注射を受けているものに対して、当該

等により提供した場合又は入院中の患者以外の末期の悪性腫瘍の患者に対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師が看護師と共同して、診療方針等について十分に話し合った上で、当該診療方針等に関する当該患者の意思決定に対する支援を行い、その内容を文書等により提供した場合に、患者1人につき1回（当該患者について区分番号B006-3に掲げるがん治療連携計画策定料を算定した保険医療機関及び区分番号B006-3-2に掲げるがん治療連携指導料を算定した保険医療機関が、それぞれ当該指導管理を実施した場合は、それぞれの保険医療機関において、患者1人につき1回）に限り算定する。

- 2 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がんと診断された患者であって継続して治療を行うものに対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師、その指示に基づき看護師又は歯科医師と医師との連携の下に公認心理師が患者の心理的不安を軽減するための面接を行った場合に、患者1人につき6回に限り算定する。
- 3 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がんと診断された患者であって継続して抗悪性腫瘍剤の投薬又は注射を受けているものに対して、当該

患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師又はその指示に基づき、薬剤師が投薬又は注射の前後にその必要性について文書により説明を行った場合に、患者1人につき6回に限り算定する。

4 2について、区分番号A221-2に掲げる緩和ケア診療加算、区分番号B004-1-2に掲げるがん性疼痛緩和指導管理料及び区分番号B004-1-5に掲げる外来緩和ケア管理料は、別に算定できない。

5 3について、区分番号B004-1-8に掲げる外来腫瘍化学療法診療料、区分番号B008に掲げる薬剤管理指導料、区分番号F100に掲げる処方料の注6に規定する加算及び区分番号F400に掲げる処方箋料の注4に規定する加算は、別に算定できない。

#### B004-1-4 入院栄養食事指導料（週1回）

##### 1 入院栄養食事指導料1

イ 初回	260点
ロ 2回目	200点

##### 2 入院栄養食事指導料2

イ 初回	250点
ロ 2回目	190点

注1 1については、入院中の患者であって、別に厚生労働大臣が定めるものに対して、保険医療機関の歯科医師と医師との連携の下に当該保険医療機関の管理栄養士が具体的な献立等によって指導を行った場合に、入院中2回に限り算定する。

2 2については、診療所において、入院中の患者であって、別に厚生労働大臣が定めるものに

患者の同意を得て、当該保険医療機関の歯科医師又はその指示に基づき、薬剤師が投薬又は注射の前後にその必要性について文書により説明を行った場合に、患者1人につき6回に限り算定する。

4 2について、区分番号A221-2に掲げる緩和ケア診療加算、区分番号B004-1-2に掲げるがん性疼痛緩和指導管理料及び区分番号B004-1-5に掲げる外来緩和ケア管理料は、別に算定できない。

5 3について、区分番号B004-1-8に掲げる外来腫瘍化学療法診療料、区分番号B008に掲げる薬剤管理指導料、区分番号F100に掲げる処方料の注6に規定する加算及び区分番号F400に掲げる処方箋料の注4に規定する加算は、別に算定できない。

#### B004-1-4 入院栄養食事指導料（週1回）

##### 1 入院栄養食事指導料1

イ 初回	260点
ロ 2回目	200点

##### 2 入院栄養食事指導料2

イ 初回	250点
ロ 2回目	190点

注1 1については、入院中の患者であって、別に厚生労働大臣が定めるものに対して、保険医療機関の歯科医師と医師との連携の下に当該保険医療機関の管理栄養士が具体的な献立等によって指導を行った場合に、入院中2回に限り算定する。

2 2については、診療所において、入院中の患者であって、別に厚生労働大臣が定めるものに

対して、保険医療機関の歯科医師と医師との連携の下に当該保険医療機関以外の管理栄養士が具体的な献立等によって指導を行った場合に、入院中2回に限り算定する。

B 0 0 4 - 1 - 5 外来緩和ケア管理料 290点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、緩和ケアを要する入院中の患者以外の患者（症状緩和を目的として麻薬が投与されている患者に限る。）に対して、当該保険医療機関の歯科医師、看護師、薬剤師等が共同して療養上必要な指導を行った場合に、月1回に限り算定する。
- 2 当該患者が15歳未満の小児である場合は、小児加算として、150点を所定点数に加算する。
- 3 区分番号B 0 0 4 - 1 - 2に掲げるがん性疼痛緩和指導管理料又は区分番号B 0 0 4 - 1 - 3に掲げるがん患者指導管理料（2に限る。）は、別に算定できない。

B 0 0 4 - 1 - 6 外来リハビリテーション診療料

- 1 外来リハビリテーション診療料1 74点
- 2 外来リハビリテーション診療料2 111点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、リハビリテーション（区分番号H 0 0 0に掲げる脳血管疾患等リハビリテーション料又は区分番号H 0 0 0 - 3に掲げる廃用症候群リハビリテーション料を算定するものに限る。以下この区分番号において同じ。）を要する入院中の患者以外の患者に対して、リハビリテーションの実施に関し必要な診療を行った場合に、外来リハビリテーション診療

対して、保険医療機関の歯科医師と医師との連携の下に当該保険医療機関以外の管理栄養士が具体的な献立等によって指導を行った場合に、入院中2回に限り算定する。

B 0 0 4 - 1 - 5 外来緩和ケア管理料 290点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、緩和ケアを要する入院中の患者以外の患者（症状緩和を目的として麻薬が投与されている患者に限る。）に対して、当該保険医療機関の歯科医師、看護師、薬剤師等が共同して療養上必要な指導を行った場合に、月1回に限り算定する。
- 2 当該患者が15歳未満の小児である場合は、小児加算として、150点を所定点数に加算する。
- 3 区分番号B 0 0 4 - 1 - 2に掲げるがん性疼痛緩和指導管理料又は区分番号B 0 0 4 - 1 - 3に掲げるがん患者指導管理料（2に限る。）は、別に算定できない。

B 0 0 4 - 1 - 6 外来リハビリテーション診療料

- 1 外来リハビリテーション診療料1 73点
- 2 外来リハビリテーション診療料2 110点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、リハビリテーション（区分番号H 0 0 0に掲げる脳血管疾患等リハビリテーション料又は区分番号H 0 0 0 - 3に掲げる廃用症候群リハビリテーション料を算定するものに限る。以下この区分番号において同じ。）を要する入院中の患者以外の患者に対して、リハビリテーションの実施に関し必要な診療を行った場合に、外来リハビリテーション診療

料1については7日間に1回に限り、外来リハビリテーション診療料2については14日間に1回に限り算定する。

2 外来リハビリテーション診療料1を算定する日から起算して7日以内の期間においては、当該リハビリテーションの実施に係る区分番号A000に掲げる初診料（注15に規定する加算を除く。）、区分番号A002に掲げる再診料（注12に規定する加算を除く。）及び外来リハビリテーション診療料2は、算定できない。

3 外来リハビリテーション診療料2を算定する日から起算して14日以内の期間においては、当該リハビリテーションの実施に係る区分番号A000に掲げる初診料（注15に規定する加算を除く。）、区分番号A002に掲げる再診料（注12に規定する加算を除く。）及び外来リハビリテーション診療料1は、算定できない。

#### B 0 0 4 - 1 - 7 外来放射線照射診療料 298点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を要する入院中の患者以外の患者に対して、放射線治療の実施に関し必要な診療を行った場合に、7日間に1回に限り算定する。

2 外来放射線照射診療料を算定する日から起算して7日以内の期間に4日以上の放射線治療を予定していない場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

3 外来放射線照射診療料を算定する日から起算

料1については7日間に1回に限り、外来リハビリテーション診療料2については14日間に1回に限り算定する。

2 外来リハビリテーション診療料1を算定する日から起算して7日以内の期間においては、当該リハビリテーションの実施に係る区分番号A000に掲げる初診料（注14及び注15に規定する加算を除く。）、区分番号A002に掲げる再診料（注11に規定する加算を除く。）及び外来リハビリテーション診療料2は、算定できない。

3 外来リハビリテーション診療料2を算定する日から起算して14日以内の期間においては、当該リハビリテーションの実施に係る区分番号A000に掲げる初診料（注14及び注15に規定する加算を除く。）、区分番号A002に掲げる再診料（注11に規定する加算を除く。）及び外来リハビリテーション診療料1は、算定できない。

#### B 0 0 4 - 1 - 7 外来放射線照射診療料 297点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を要する入院中の患者以外の患者に対して、放射線治療の実施に関し必要な診療を行った場合に、7日間に1回に限り算定する。

2 外来放射線照射診療料を算定する日から起算して7日以内の期間に4日以上の放射線治療を予定していない場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

3 外来放射線照射診療料を算定する日から起算

して7日以内の期間においては、当該放射線治療の実施に係る区分番号A000に掲げる初診料（注15に規定する加算を除く。）及び区分番号A002に掲げる再診料（注12に規定する加算を除く。）は、算定できない。

B004-1-8 外来腫瘍化学療法診療料

1 外来腫瘍化学療法診療料1

イ 抗悪性腫瘍剤を投与した場合

(1) 初回から3回目まで (静注製剤等の場合)

801点

(2) 初回から3回目まで (その他の場合)

351点

(3) 4回目以降 (静注製剤等の場合) 451点

(4) 4回目以降 (その他の場合) 201点

ロ イ以外の必要な治療管理を行った場合

351点

2 外来腫瘍化学療法診療料2

イ 抗悪性腫瘍剤を投与した場合

(1) 初回から3回目まで (静注製剤等の場合)

601点

(2) 初回から3回目まで (その他の場合)

261点

(3) 4回目以降 (静注製剤等の場合) 321点

(4) 4回目以降 (その他の場合) 141点

ロ イ以外の必要な治療管理を行った場合

221点

3 外来腫瘍化学療法診療料3

イ 抗悪性腫瘍剤を投与した場合

(1) 初回から3回目まで (静注製剤等の場合)

541点

(2) 初回から3回目まで (その他の場合)

して7日以内の期間においては、当該放射線治療の実施に係る区分番号A000に掲げる初診料（注14及び注15に規定する加算を除く。）及び区分番号A002に掲げる再診料（注11に規定する加算を除く。）は、算定できない。

B004-1-8 外来腫瘍化学療法診療料

1 外来腫瘍化学療法診療料1

イ 抗悪性腫瘍剤を投与した場合

(1) 初回から3回目まで 800点

(新設)

(2) 4回目以降 450点

(新設)

ロ イ以外の必要な治療管理を行った場合 350点

2 外来腫瘍化学療法診療料2

イ 抗悪性腫瘍剤を投与した場合

(1) 初回から3回目まで 600点

(新設)

(2) 4回目以降 320点

(新設)

ロ イ以外の必要な治療管理を行った場合 220点

3 外来腫瘍化学療法診療料3

イ 抗悪性腫瘍剤を投与した場合

(1) 初回から3回目まで 540点

(新設)

<u>(3) 4回目以降（静注製剤等の場合）</u>	<u>241点</u>
<u>(4) 4回目以降（その他の場合）</u>	<u>281点</u>
□ イ以外の必要な治療管理を行った場合	<u>121点</u>

□ イ以外の必要な治療管理を行った場合  
181点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、悪性腫瘍を主病とする患者であって入院中の患者以外のものに対して、外来化学療法（別に厚生労働大臣が定めるものに限る。）の実施その他の必要な治療管理を行った場合に、当該基準に係る区分に従い算定する。この場合において、区分番号A 0 0 0 に掲げる初診料（注5、注7、注8及び注15に規定する加算を除く。）、区分番号A 0 0 2 に掲げる再診料（注3、注5、注6及び注12に規定する加算を除く。）又は区分番号B 0 0 4－1－3 に掲げるがん患者指導管理料の3は、別に算定できない。

2 1のイの①、2のイの①及び3のイの①については、当該患者に対して、抗悪性腫瘍剤を投与した場合（区分番号G 0 0 0 に掲げる皮内、皮下及び筋肉内注射のうち皮下注射による場合を除く。）に、1のイの②、2のイの②及び3のイの②については、当該患者に対して、区分番号G 0 0 0 に掲げる皮内、皮下及び筋肉内注射のうち皮下注射により、抗悪性腫瘍剤を投与した場合に、月3回に限り算定する。

3 1のイの③、2のイの③及び3のイの③については、1のイの④若しくは⑤、2のイの④若しくは⑤又は3のイの④若しくは⑤を算定する

<u>(1) 4回目以降</u>	<u>280点</u>
（新設）	

□ イ以外の必要な治療管理を行った場合  
180点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、悪性腫瘍を主病とする患者であって入院中の患者以外のものに対して、外来化学療法（別に厚生労働大臣が定めるものに限る。）の実施その他の必要な治療管理を行った場合に、当該基準に係る区分に従い算定する。この場合において、区分番号A 0 0 0 に掲げる初診料（注5、注7、注8、注14及び注15に規定する加算を除く。）、区分番号A 0 0 2 に掲げる再診料（注3、注5、注6及び注11に規定する加算を除く。）又は区分番号B 0 0 4－1－3 に掲げるがん患者指導管理料の3は、別に算定できない。

2 1のイの①、2のイの①及び3のイの①については、当該患者に対して、抗悪性腫瘍剤を投与した場合に、月3回に限り算定する。

3 1のイの④、2のイの④及び3のイの④については、1のイの⑤、2のイの⑤又は3のイの⑤を算定する日以外の日において、当該患者に

日以外の日において、当該患者に対して、区分番号G 0 0 0に掲げる皮内、皮下及び筋肉内注射のうち皮下注射以外の方法により抗悪性腫瘍剤を投与した場合に、1のイの①、2のイの②及び3のイの③については、1のイの①若しくは②、2のイの①若しくは②又は3のイの①若しくは②を算定する日以外の日において、当該患者に対して、区分番号G 0 0 0に掲げる皮内、皮下及び筋肉内注射のうち皮下注射により抗悪性腫瘍剤を投与した場合に、週1回に限り算定する。

4 1の口については、次に掲げるいずれかの治療管理を行った場合に、週1回に限り算定する。

イ 1のイの①から④までのいずれかを算定する日以外の日において、当該患者に対して、抗悪性腫瘍剤の投与以外の必要な治療管理を行った場合

ロ 連携する他の保険医療機関が外来化学療法を実施している患者に対し、緊急に抗悪性腫瘍剤の投与以外の必要な治療管理を行った場合

5 2の口及び3の口については、2のイの①から④までのいずれか又は3のイの①から④までのいずれかを算定する日以外の日において、当該患者に対して、抗悪性腫瘍剤の投与以外の必要な治療管理を行った場合に、週1回に限り算定する。

6 退院した患者に対して退院の日から起算して7日以内に行った治療管理の費用は、第1章第2部第1節に掲げる入院基本料に含まれるもの

対して、抗悪性腫瘍剤を投与した場合に、週1回に限り算定する。

4 1の口については、次に掲げるいずれかの治療管理を行った場合に、週1回に限り算定する。

イ 1のイの①又は②を算定する日以外の日において、当該患者に対して、抗悪性腫瘍剤の投与以外の必要な治療管理を行った場合

ロ 連携する他の保険医療機関が外来化学療法を実施している患者に対し、緊急に抗悪性腫瘍剤の投与以外の必要な治療管理を行った場合

5 2の口及び3の口については、2のイの①若しくは②又は3のイの①若しくは②を算定する日以外の日において、当該患者に対して、抗悪性腫瘍剤の投与以外の必要な治療管理を行った場合に、週1回に限り算定する。

6 退院した患者に対して退院の日から起算して7日以内に行った治療管理の費用は、第1章第2部第1節に掲げる入院基本料に含まれるもの

とする。

- 7 当該患者が15歳未満の小児である場合には、小児加算として、所定点数に200点を加算する。
- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、1のイの①又は②を算定した患者に対して、当該保険医療機関の歯科医師又は当該歯科医師の指示に基づき薬剤師が、副作用の発現状況、治療計画等を文書により提供した上で、当該患者の状態を踏まえて必要な指導を行った場合は、連携充実加算として、月1回に限り150点を所定点数に加算する。
- 9 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、1のイの①又は②を算定する患者に対して、当該保険医療機関の歯科医師の指示に基づき薬剤師が、服薬状況、副作用の有無等の情報の収集及び評価を行い、歯科医師の診察前に情報提供や処方の提案等を行った場合は、がん薬物療法体制充実加算として、月1回に限り100点を所定点数に加算する。

#### B 0 0 4 - 1 - 9 遺伝性疾患療養指導管理料

イ 歯科医師が遺伝子検査の必要性等について文書により説明を行った場合 300点

ロ 歯科医師が遺伝子検査の結果に基づき遺伝学的な評価等について文書により説明を行った場合

① 初回 700点

② 2回目 200点

注1 イについては、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長

とする。

- 7 当該患者が15歳未満の小児である場合には、小児加算として、所定点数に200点を加算する。
- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、1のイの①を算定した患者に対して、当該保険医療機関の歯科医師又は当該歯科医師の指示に基づき薬剤師が、副作用の発現状況、治療計画等を文書により提供した上で、当該患者の状態を踏まえて必要な指導を行った場合は、連携充実加算として、月1回に限り150点を所定点数に加算する。
- 9 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、1のイの①を算定する患者に対して、当該保険医療機関の歯科医師の指示に基づき薬剤師が、服薬状況、副作用の有無等の情報の収集及び評価を行い、歯科医師の診察前に情報提供や処方の提案等を行った場合は、がん薬物療法体制充実加算として、月1回に限り100点を所定点数に加算する。

(新設)

等に届け出た保険医療機関において、難病に関する検査（医科点数表の区分番号D 0 0 6－4に掲げる遺伝学的検査、区分番号D 0 0 6－20に掲げる角膜ジストロフィー遺伝子検査、区分番号D 0 0 6－26に掲げる染色体構造変異解析及び区分番号D 0 0 6－30に掲げる遺伝性網膜ジストロフィー遺伝子検査をいう。以下同じ。）又は遺伝性腫瘍に関する検査（区分番号D 0 0 6－19に掲げるがんゲノムプロファイリング検査を除く。以下同じ。）若しくは病理診断を実施する前にその必要性及び診療方針等について文書により説明を行った場合に、患者1人につき1回に限り算定する。

- 2 口の①については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、難病に関する検査又は遺伝性腫瘍に関する検査若しくは病理診断の結果に基づく遺伝学的な評価等について文書により説明を行った場合に、患者1人につき1回に限り算定する。
- 3 口の②については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、過去に難病に関する検査又は遺伝性腫瘍に関する検査若しくは病理診断を実施した患者に対して、当該検査又は病理診断の結果に基づく遺伝学的な評価等について文書により説明を行った場合に、患者1人につき1回に限り算定する。
- 4 遠隔連携遺伝性疾患療養指導管理（注1から注3までに掲げる行為のうち、情報通信機器を用いて、他の保険医療機関と連携して行われる

もの（難病に関する検査に係るものに限る。）  
をいう。）を行う場合は、別に厚生労働大臣が  
定める施設基準を満たす保険医療機関において  
行う場合に限り算定する。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合し  
ているものとして地方厚生局長等に届け出た保  
険医療機関において、医科点数表の区分番号D  
006-19に掲げるがんゲノムプロファイリング  
検査について、注1から注3までに掲げる行  
為を行った場合は、患者1人につき1回に限り  
、それれイ又はロの①若しくは②に掲げる所  
定点数を算定する。

B 004-2 手術前医学管理料 1,192点

注1 手術前に行われる検査の結果に基づき計画的な医学管理を行う保険医療機関において、手術の実施に際して第10部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる硬膜外麻酔、脊椎麻酔又は声門上器具又は気管挿管による気道確保を伴う閉鎖循環式全身麻酔を行った場合に、当該手術に係る手術料を算定した日に算定する。

2 同一の患者につき1月以内に手術前医学管理料を算定すべき医学管理を2回以上行った場合は、第1回目の手術前医学管理に係る手術料を算定した日1回に限り手術前医学管理料を算定する。

3 手術前医学管理料を算定した同一月に医科点数表の区分番号D208に掲げる心電図検査を算定した場合は、算定の期日にかかわらず、所定点数の100分の90に相当する点数により算定する。

B 004-2 手術前医学管理料 1,192点

注1 手術前に行われる検査の結果に基づき計画的な医学管理を行う保険医療機関において、手術の実施に際して第10部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる硬膜外麻酔、脊椎麻酔又はマスク若しくは気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔を行った場合に、当該手術に係る手術料を算定した日に算定する。

2 同一の患者につき1月以内に手術前医学管理料を算定すべき医学管理を2回以上行った場合は、第1回目の手術前医学管理に係る手術料を算定した日1回に限り手術前医学管理料を算定する。

3 手術前医学管理料を算定した同一月に医科点数表の区分番号D208に掲げる心電図検査を算定した場合は、算定の期日にかかわらず、所定点数の100分の90に相当する点数により算定する。

- 4 同一の部位につき当該管理料に含まれる区分番号E 0 0 0 に掲げる写真診断及び区分番号E 1 0 0 に掲げる歯、歯周組織、顎骨、口腔軟組織と同時に2枚以上同一の方法により撮影を行った場合における第2枚目から第5枚目までの写真診断及び撮影（区分番号E 0 0 0 及び区分番号E 1 0 0 に規定する歯科用3次元エックス線断層撮影を除く。）の費用は、それぞれの所定点数の100分の50に相当する点数により別に算定する。この場合において、第6枚目以後の写真診断及び撮影の費用については算定できない。
- 5 当該所定点数に含まれる検査及び画像診断は医科点数表の区分番号B 0 0 1 – 4 の注5の例による。ただし、当該期間において同一の検査又は画像診断を2回以上行った場合の第2回目以降のものについては、別に算定する。
- 6 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる血液学的検査判断料、生化学的検査<sup>(II)</sup>判断料又は免疫学的検査判断料を算定している患者については算定できない。
- 7 第1章第2部第3節に掲げる特定入院料又は第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D 0 2 7 に掲げる基本的検体検査判断料を算定している患者については算定できない。

#### B 0 0 4 – 3 手術後医学管理料（1日につき）

- |          |        |
|----------|--------|
| 1 病院の場合  | 1,188点 |
| 2 診療所の場合 | 1,056点 |

注1 病院（療養病棟、結核病棟及び精神病棟を除く。）又は診療所に入院している患者について

- 4 同一の部位につき当該管理料に含まれる区分番号E 0 0 0 に掲げる写真診断及び区分番号E 1 0 0 に掲げる歯、歯周組織、顎骨、口腔軟組織と同時に2枚以上同一の方法により撮影を行った場合における第2枚目から第5枚目までの写真診断及び撮影（区分番号E 0 0 0 及び区分番号E 1 0 0 に規定する歯科用3次元エックス線断層撮影を除く。）の費用は、それぞれの所定点数の100分の50に相当する点数により別に算定する。この場合において、第6枚目以後の写真診断及び撮影の費用については算定できない。
- 5 当該所定点数に含まれる検査及び画像診断は医科点数表の区分番号B 0 0 1 – 4 の注5の例による。ただし、当該期間において同一の検査又は画像診断を2回以上行った場合の第2回目以降のものについては、別に算定する。
- 6 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる血液学的検査判断料、生化学的検査<sup>(II)</sup>判断料又は免疫学的検査判断料を算定している患者については算定できない。
- 7 第1章第2部第3節に掲げる特定入院料又は第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D 0 2 7 に掲げる基本的検体検査判断料を算定している患者については算定できない。

#### B 0 0 4 – 3 手術後医学管理料（1日につき）

- |          |        |
|----------|--------|
| 1 病院の場合  | 1,188点 |
| 2 診療所の場合 | 1,056点 |

注1 病院（療養病棟、結核病棟及び精神病棟を除く。）又は診療所に入院している患者について

、第10部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる声門上器具又は気管挿管による気道確保を伴う閉鎖循環式全身麻酔を伴う手術（入院の日から起算して10日以内に行われたものに限る。）後に、必要な医学管理を行った場合に、当該手術に係る手術料を算定した日の翌日から起算して3日を限度として算定する。

2 同一の手術について、同一月に区分番号B004-2に掲げる手術前医学管理料を算定する場合は、本管理料を算定する3日間については、所定点数の100分の95に相当する点数により算定する。

3 当該所定点数に含まれる検査は医科点数表の区分番号B001-5に掲げる手術後医学管理料の注3の例による。

4 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる尿・糞便等検査判断料、血液学的検査判断料又は生化学的検査<sup>(II)</sup>判断料を算定している患者については算定できない。

5 第1章第2部第3節に掲げる特定入院料又は第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D027に掲げる基本的検体検査判断料を算定している患者については算定できない。

6 第1章第2部第3節に掲げる特定入院料のうち、特定集中治療室管理料に係る別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者については算定できない。

B004-4からB004-6まで 削除

B004-6-2 歯科治療時医療管理料（1日につき） 45点

、第10部の通則第5号により医科点数表の例によることとされるマスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔を伴う手術（入院の日から起算して10日以内に行われたものに限る。）後に、必要な医学管理を行った場合に、当該手術に係る手術料を算定した日の翌日から起算して3日を限度として算定する。

2 同一の手術について、同一月に区分番号B004-2に掲げる手術前医学管理料を算定する場合は、本管理料を算定する3日間については、所定点数の100分の95に相当する点数により算定する。

3 当該所定点数に含まれる検査は医科点数表の区分番号B001-5に掲げる手術後医学管理料の注3の例による。

4 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる尿・糞便等検査判断料、血液学的検査判断料又は生化学的検査<sup>(II)</sup>判断料を算定している患者については算定できない。

5 第1章第2部第3節に掲げる特定入院料又は第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D027に掲げる基本的検体検査判断料を算定している患者については算定できない。

6 第1章第2部第3節に掲げる特定入院料のうち、特定集中治療室管理料に係る別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者については算定できない。

B004-4からB004-6まで 削除

B004-6-2 歯科治療時医療管理料（1日につき） 45点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、全身的な管理が必要な患者に対し、第8部処置（区分番号I 0 0 9、I 0 0 9-2及びI 0 1 0に掲げるものを除く。）、第9部手術又は第12部歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M 0 0 1から区分番号M 0 0 3まで又はM 0 0 3-4に掲げるものに限る。）を行うに当たって、必要な医療管理を行った場合（当該処置、手術又は歯冠修復及び欠損補綴を全身麻酔下で行った場合を除く。）に算定する。

2 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D 2 2 0に掲げる呼吸心拍監視、新生児心拍・呼吸監視、カルジオスコープ（ハートスコープ）、カルジオタコスコープを算定した日は、当該管理料は算定できない。

3 歯科治療時医療管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>①</sup>、区分番号B 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>②</sup>、区分番号B 0 0 0-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>③</sup>、区分番号B 0 0 0-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>④</sup>又は区分番号B 0 0 0-1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料は、別に算定できない。

B 0 0 4-7及びB 0 0 4-8 削除

B 0 0 4-9 介護支援等連携指導料

- |               |      |
|---------------|------|
| 1 介護支援等連携指導料1 | 400点 |
| 2 介護支援等連携指導料2 | 500点 |

注1 介護支援等連携指導料1については、当該保

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、全身的な管理が必要な患者に対し、第8部処置（区分番号I 0 0 9、I 0 0 9-2及びI 0 1 0に掲げるものを除く。）、第9部手術又は第12部歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M 0 0 1から区分番号M 0 0 3まで又はM 0 0 3-4に掲げるものに限る。）を行うに当たって、必要な医療管理を行った場合（当該処置、手術又は歯冠修復及び欠損補綴を全身麻酔下で行った場合を除く。）に算定する。

2 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D 2 2 0に掲げる呼吸心拍監視、新生児心拍・呼吸監視、カルジオスコープ（ハートスコープ）、カルジオタコスコープを算定した日は、当該管理料は算定できない。

3 歯科治療時医療管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>①</sup>、区分番号B 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>②</sup>、区分番号B 0 0 0-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>③</sup>、区分番号B 0 0 0-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>④</sup>又は区分番号B 0 0 0-1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料は、別に算定できない。

B 0 0 4-7及びB 0 0 4-8 削除

B 0 0 4-9 介護支援等連携指導料

400点

（新設）

（新設）

注 当該保険医療機関に入院中の患者に対して、当

険医療機関に入院中の患者に対して、当該患者の同意を得て、歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士、看護師等が介護支援専門員又は相談支援専門員と共同して、患者の心身の状態等を踏まえて導入が望ましい介護サービス又は障害福祉サービス等や退院後に利用可能な介護サービス又は障害福祉サービス等について説明及び指導を行った場合に、当該入院中2回に限り算定する。この場合において、同一日に、区分番号B015の注3に掲げる加算（介護支援専門員又は相談支援専門員と共同して指導を行った場合に限る。）は別に算定できない。また、当該入院中、介護支援等連携指導料1を算定した場合は、介護支援等連携指導料2は算定できない。

2 介護支援等連携指導料2については、当該保険医療機関に入院中の患者（ただし、入退院支援加算1の届出を行っている病棟に入院中の患者に限る。）に対して、当該患者の同意を得て、入退院支援及び地域連携業務を担う部門の担当者が、平時から連携体制を構築している介護支援専門員又は相談支援専門員と共同して必要な患者の心身の状態等を踏まえて導入が望ましい介護サービス又は障害福祉サービス等について説明及び指導を行った場合に、当該入院中に2回に限り算定する。なお、同一日に、区分番号B015の注3に掲げる加算（介護支援専門員又は相談支援専門員と共同して指導を行った場合に限る。）は、別に算定できない。

B005 開放型病院共同指導料① 350点  
注1 診察に基づき紹介された患者が、別に厚生労

該患者の同意を得て、歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士、看護師等が介護支援専門員又は相談支援専門員と共同して、患者の心身の状態等を踏まえて導入が望ましい介護サービス又は障害福祉サービス等や退院後に利用可能な介護サービス又は障害福祉サービス等について説明及び指導を行った場合に、当該入院中2回に限り算定する。この場合において、同一日に、区分番号B015の注3に掲げる加算（介護支援専門員又は相談支援専門員と共同して指導を行った場合に限る。）は別に算定できない。

（新設）

B005 開放型病院共同指導料① 350点  
注1 診察に基づき紹介された患者が、別に厚生労

	<p>労働大臣が定める開放利用に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（以下この表において「開放型病院」という。）に入院中である場合において、当該開放型病院に赴いて、当該患者に対して療養上必要な指導を共同して行った場合に、患者1人1日につき1回算定する。</p> <p>2 区分番号A000に掲げる初診料、区分番号A002に掲げる再診料及び区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料は別に算定できない。</p>	
B006	開放型病院共同指導料Ⅱ	220点
	注 診察に基づき紹介された患者が開放型病院に入院中である場合において、当該開放型病院において、当該患者を診察した保険医療機関の医師又は歯科医師と共同して療養上必要な指導を行った場合に、患者1人1日につき1回算定する。	
B006-2	削除	
B006-3	がん治療連携計画策定料	
	1 がん治療連携計画策定料1	750点
	2 がん治療連携計画策定料2	300点
	注1 がん治療連携計画策定料1については、入院中のがん患者の退院後の治療を総合的に管理するため、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た病院である保険医療機関（以下この表において「計画策定病院」という。）が、あらかじめがんの種類やステージを考慮した地域連携診療計画を作成し、がん治療を担う別の保険医療機関と共有し、かつ、当該患者の同意を得た上で、入院中又は当該保険医療機関を退院した日から起算して30日以内に、当該計画に基づき当	
	<p>労働大臣が定める開放利用に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（以下この表において「開放型病院」という。）に入院中である場合において、当該開放型病院に赴いて、当該患者に対して療養上必要な指導を共同して行った場合に、患者1人1日につき1回算定する。</p> <p>2 区分番号A000に掲げる初診料、区分番号A002に掲げる再診料及び区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料は別に算定できない。</p>	
B006	開放型病院共同指導料Ⅱ	220点
	注 診察に基づき紹介された患者が開放型病院に入院中である場合において、当該開放型病院において、当該患者を診察した保険医療機関の医師又は歯科医師と共同して療養上必要な指導を行った場合に、患者1人1日につき1回算定する。	
B006-2	削除	
B006-3	がん治療連携計画策定料	
	1 がん治療連携計画策定料1	750点
	2 がん治療連携計画策定料2	300点
	注1 がん治療連携計画策定料1については、入院中のがん患者の退院後の治療を総合的に管理するため、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た病院である保険医療機関（以下この表において「計画策定病院」という。）が、あらかじめがんの種類やステージを考慮した地域連携診療計画を作成し、がん治療を担う別の保険医療機関と共有し、かつ、当該患者の同意を得た上で、入院中又は当該保険医療機関を退院した日から起算して30日以内に、当該計画に基づき当	

該患者の治療計画を作成し、患者に説明し、文書により提供するとともに、退院時又は退院した日から起算して30日以内に当該別の保険医療機関に当該患者に係る診療情報を文書により提供した場合（がんと診断されてから最初の入院に係るものに限る。）に、退院時又は退院した日から起算して30日以内に1回に限り所定点数を算定する。

- 2 がん治療連携計画策定料2については、当該保険医療機関において注1に規定するがん治療連携計画策定料1を算定した患者であって、他の保険医療機関において区分番号B006-3-2に掲げるがん治療連携指導料を算定しているものについて、状態の変化等に伴う当該他の保険医療機関からの紹介により、当該患者を診療し、当該患者の診療計画を変更した場合に、患者1人につき月1回に限り所定点数を算定する。
- 3 注1及び注2の規定に基づく当該別の保険医療機関への文書の提供に係る区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>及び区分番号B011に掲げる診療情報等連携共有料の費用は、所定点数に含まれる。
- 4 区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B000-10に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B006に掲げる開放型病院共同指導料<sup>(II)</sup>又は区分番号B015に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。

B006-3-2 がん治療連携指導料 300点  
注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合し

該患者の治療計画を作成し、患者に説明し、文書により提供するとともに、退院時又は退院した日から起算して30日以内に当該別の保険医療機関に当該患者に係る診療情報を文書により提供した場合（がんと診断されてから最初の入院に係るものに限る。）に、退院時又は退院した日から起算して30日以内に1回に限り所定点数を算定する。

- 2 がん治療連携計画策定料2については、当該保険医療機関において注1に規定するがん治療連携計画策定料1を算定した患者であって、他の保険医療機関において区分番号B006-3-2に掲げるがん治療連携指導料を算定しているものについて、状態の変化等に伴う当該他の保険医療機関からの紹介により、当該患者を診療し、当該患者の診療計画を変更した場合に、患者1人につき月1回に限り所定点数を算定する。
- 3 注1及び注2の規定に基づく当該別の保険医療機関への文書の提供に係る区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>及び区分番号B011に掲げる診療情報等連携共有料の費用は、所定点数に含まれる。
- 4 区分番号B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B000-10に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料、区分番号B006に掲げる開放型病院共同指導料<sup>(II)</sup>又は区分番号B015に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。

B006-3-2 がん治療連携指導料 300点  
注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合し

ているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（計画策定病院を除く。）が、区分番号B006-3に掲げるがん治療連携計画策定料を算定した患者であって入院中の患者以外のものに対して、地域連携診療計画に基づいた治療を行うとともに、当該患者の同意を得た上で、計画策定病院に当該患者に係る診療情報を文書により提供した場合に、月1回に限り算定する。

2 注1の規定に基づく計画策定病院への文書の提供に係る区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(Ⅰ)</sup>、区分番号B011に掲げる診療情報等連携共有料及び区分番号B011-2に掲げる連携強化診療情報提供料の費用は、所定点数に含まれる。

3 区分番号B000-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅱ)</sup>又は区分番号B000-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>は、別に算定できない。

#### B006-3-3 がん治療連携管理料

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1 がん診療連携拠点病院の場合 | 500点 |
| 2 地域がん診療病院の場合   | 300点 |
| 3 小児がん拠点病院の場合   | 750点 |

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関が、他の保険医療機関等から紹介された患者であってがんと診断された入院中の患者以外の患者に対して、化学療法又は放射線治療を行った場合に、当該基準に係る区分に従い、1人につき1回に限り所定点数を算定する。

#### B006-3-4 療養・就労両立支援指導料

- |      |      |
|------|------|
| 1 初回 | 850点 |
|------|------|

ているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（計画策定病院を除く。）が、区分番号B006-3に掲げるがん治療連携計画策定料を算定した患者であって入院中の患者以外のものに対して、地域連携診療計画に基づいた治療を行うとともに、当該患者の同意を得た上で、計画策定病院に当該患者に係る診療情報を文書により提供した場合に、月1回に限り算定する。

2 注1の規定に基づく計画策定病院への文書の提供に係る区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(Ⅰ)</sup>、区分番号B011に掲げる診療情報等連携共有料及び区分番号B011-2に掲げる連携強化診療情報提供料の費用は、所定点数に含まれる。

3 区分番号B000-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅱ)</sup>又は区分番号B000-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(Ⅲ)</sup>は、別に算定できない。

#### B006-3-3 がん治療連携管理料

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1 がん診療連携拠点病院の場合 | 500点 |
| 2 地域がん診療病院の場合   | 300点 |
| 3 小児がん拠点病院の場合   | 750点 |

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関が、他の保険医療機関等から紹介された患者であってがんと診断された入院中の患者以外の患者に対して、化学療法又は放射線治療を行った場合に、当該基準に係る区分に従い、1人につき1回に限り所定点数を算定する。

#### B006-3-4 療養・就労両立支援指導料

- |      |      |
|------|------|
| 1 初回 | 800点 |
|------|------|

2 2回目以降

500点

注1 1については、疾患の増悪防止等のための反復継続した治療が必要な入院中の患者以外の患者であって、就業の継続に配慮が必要なものに対して、当該患者と当該患者を雇用する事業者が共同して作成した勤務情報を記載した文書の内容を踏まえ、就労の状況を考慮して療養上の指導を行うとともに、当該患者の同意を得て、当該患者が勤務する事業場において選任されている労働安全衛生法第13条第1項に規定する産業医、同法第10条第1項に規定する総括安全衛生管理者、同法第12条に規定する衛生管理者若しくは同法第12条の2に規定する安全衛生推進者若しくは衛生推進者又は同法第13条の2の規定により労働者の健康管理等を行う保健師（以下「産業医等」という。）に対し、病状、治療計画、就労上の措置に関する意見等当該患者の就労と療養の両立に必要な情報を提供した場合に、月1回に限り算定する。

2 2については、当該保険医療機関において1を算定した患者について、就労の状況を考慮して療養上の指導を行った場合に、1を算定した日の属する月から起算して6月を限度として、月1回に限り算定する。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該患者に対して、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士又は歯科医師と医師との連携の下に公認心理師が相談支援を行った場合に、相談支援加算として、400点を所定点数に加算する。

2 2回目以降

400点

注1 1については、別に厚生労働大臣が定める疾患に罹患している患者に対して、当該患者と当該患者を使用する事業者が共同して作成した勤務情報を記載した文書の内容を踏まえ、就労の状況を考慮して療養上の指導を行うとともに、当該患者の同意を得て、当該患者が勤務する事業場において選任されている労働安全衛生法第13条第1項に規定する産業医、同法第10条第1項に規定する総括安全衛生管理者、同法第12条に規定する衛生管理者若しくは同法第12条の2に規定する安全衛生推進者若しくは衛生推進者又は同法第13条の2の規定により労働者の健康管理等を行う保健師（以下「産業医等」という。）に対し、病状、治療計画、就労上の措置に関する意見等当該患者の就労と療養の両立に必要な情報を提供した場合に、月1回に限り算定する。

2 2については、当該保険医療機関において1を算定した患者について、就労の状況を考慮して療養上の指導を行った場合に、1を算定した日の属する月から起算して3月を限度として、月1回に限り算定する。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該患者に対して、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士又は歯科医師と医師との連携の下に公認心理師が相談支援を行った場合に、相談支援加算として、50点を所定点数に加算する。

4 注1の規定に基づく産業医等への文書の提供に係る区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>又は区分番号B010に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>の費用は、所定点数に含まれるものとする。

B006-3-5 こころの連携指導料<sup>(II)</sup> 350点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者であって、地域社会からの孤立の状況等により、精神疾患が増悪するおそれがあると認められるもの又は精神科若しくは心療内科を担当する医師による療養上の指導が必要であると判断されたものに対して、診療及び療養上必要な指導を行い、当該患者<sup>ほり</sup>の同意を得て、精神科又は心療内科を標榜する保険医療機関に対して当該患者に係る診療情報の文書による提供等を行った場合に、初回算定日の属する月から起算して1年を限度として、患者1人につき月1回に限り算定する。

B006-4 歯科遠隔連携診療料 500点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、対面診療を行っている入院中の患者以外の患者であって、別に厚生労働大臣が定めるものに対して、症状の確認等を目的として、患者の同意を得て、当該施設基準を満たす当該患者の疾患等に関する専門的な診療を行っている他の保険医療機関の歯科医師と事前に診療情報を共有した上で、当該患者の来院時に、情報通信機器を用いて、当該他の保険医療機関の歯科医師と連携して診療を行った場合に、3月に1回に限り算定する。

4 注1の規定に基づく産業医等への文書の提供に係る区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>又は区分番号B010に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>の費用は、所定点数に含まれるものとする。

B006-3-5 こころの連携指導料<sup>(II)</sup> 350点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者であって、地域社会からの孤立の状況等により、精神疾患が増悪するおそれがあると認められるもの又は精神科若しくは心療内科を担当する医師による療養上の指導が必要であると判断されたものに対して、診療及び療養上必要な指導を行い、当該患者<sup>ほり</sup>の同意を得て、精神科又は心療内科を標榜する保険医療機関に対して当該患者に係る診療情報の文書による提供等を行った場合に、初回算定日の属する月から起算して1年を限度として、患者1人につき月1回に限り算定する。

B006-4 歯科遠隔連携診療料 500点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、対面診療を行っている入院中の患者以外の患者であって、別に厚生労働大臣が定めるものに対して、症状の確認等を目的として、患者の同意を得て、当該施設基準を満たす当該患者の疾患等に関する専門的な診療を行っている他の保険医療機関の歯科医師と事前に診療情報を共有した上で、当該患者の来院時に、情報通信機器を用いて、当該他の保険医療機関の歯科医師と連携して診療を行った場合に、3月に1回に限り算定する。

B 0 0 7	退院前訪問指導料	580点
	注 1 入院期間が1月を超えると見込まれる患者の円滑な退院のため、患家を訪問し、当該患者又はその家族等に対して、退院後の在宅での療養上の指導を行った場合に、当該入院中1回（入院後早期に退院前訪問指導の必要があると認められる場合は、2回）に限り算定する。	
	2 注 1に掲げる指導に要した交通費は、患家の負担とする。	
B 0 0 8	薬剤管理指導料	
1	特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者の場合	380点
2	1の患者以外の患者の場合	325点
注 1	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者のうち、1については別に厚生労働大臣が定める患者に対して、2についてはそれ以外の患者に対して、それぞれ投薬又は注射及び薬学的管理指導を行った場合は、当該患者に係る区分に従い、患者1人につき週1回かつ月4回に限り算定する。	
2	麻薬の投薬又は注射が行われている患者に対して、麻薬の使用に関し、必要な薬学的管理指導を行った場合は、麻薬管理指導加算として、1回につき50点を所定点数に加算する。	
3	区分番号B 0 0 4－1－3に掲げるがん患者指導管理料（3に限る。）は、算定できない。	
B 0 0 8－2	薬剤総合評価調整管理料	250点
注 1	入院中の患者以外の患者であって、6種類以上の内服薬（特に規定するものを除く。）が処方されていたものについて、当該処方の内容を	

B 0 0 7	退院前訪問指導料	580点
	注 1 入院期間が1月を超えると見込まれる患者の円滑な退院のため、患家を訪問し、当該患者又はその家族等に対して、退院後の在宅での療養上の指導を行った場合に、当該入院中1回（入院後早期に退院前訪問指導の必要があると認められる場合は、2回）に限り算定する。	
	2 注 1に掲げる指導に要した交通費は、患家の負担とする。	
B 0 0 8	薬剤管理指導料	
1	特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者の場合	380点
2	1の患者以外の患者の場合	325点
注 1	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者のうち、1については別に厚生労働大臣が定める患者に対して、2についてはそれ以外の患者に対して、それぞれ投薬又は注射及び薬学的管理指導を行った場合は、当該患者に係る区分に従い、患者1人につき週1回かつ月4回に限り算定する。	
2	麻薬の投薬又は注射が行われている患者に対して、麻薬の使用に関し、必要な薬学的管理指導を行った場合は、麻薬管理指導加算として、1回につき50点を所定点数に加算する。	
3	区分番号B 0 0 4－1－3に掲げるがん患者指導管理料（3に限る。）は、算定できない。	
B 0 0 8－2	薬剤総合評価調整管理料	250点
注 1	入院中の患者以外の患者であって、6種類以上の内服薬（特に規定するものを除く。）が処方されていたものについて、当該処方の内容を	

総合的に評価及び調整し、当該患者に処方する内服薬が2種類以上減少した場合に、月1回に限り所定点数を算定する。

- 2 処方の内容の調整に当たって、別の保険医療機関又は保険薬局に対して、照会又は情報提供を行った場合、連携管理加算として、50点を所定点数に加算する。ただし、連携管理加算を算定した場合において、区分番号B009に掲げる診療情報提供料(Ⅱ)（当該別の保険医療機関に対して患者の紹介を行った場合に限る。）又は区分番号B011に掲げる診療情報等連携共有料（当該別の保険医療機関又は当該別の保険薬局に対して行った場合に限る。）は同一日には算定できない。

B009 診療情報提供料(Ⅱ) 250点

注1 保険医療機関が、診療に基づき、別の保険医療機関での診療の必要を認め、これに対して、当該患者の同意を得て、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合に、紹介先保険医療機関ごとに患者1人につき月1回に限り算定する。

- 2 保険医療機関が、診療に基づき患者の同意を得て、当該患者の居住地を管轄する市町村又は介護保険法第46条第1項に規定する指定居宅介護支援事業者、同法第58条第1項に規定する指定介護予防支援事業者、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第51条の17第1項第1号に規定する指定特定相談支援事業者、児童福祉法第24条の26第1項第1号に規定する指定障害児相談支援事業者等に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者に係

総合的に評価及び調整し、当該患者に処方する内服薬が2種類以上減少した場合に、月1回に限り所定点数を算定する。

- 2 処方の内容の調整に当たって、別の保険医療機関又は保険薬局に対して、照会又は情報提供を行った場合、連携管理加算として、50点を所定点数に加算する。ただし、連携管理加算を算定した場合において、区分番号B009に掲げる診療情報提供料(Ⅱ)（当該別の保険医療機関に対して患者の紹介を行った場合に限る。）又は区分番号B011に掲げる診療情報等連携共有料（当該別の保険医療機関又は当該別の保険薬局に対して行った場合に限る。）は同一日には算定できない。

B009 診療情報提供料(Ⅱ) 250点

注1 保険医療機関が、診療に基づき、別の保険医療機関での診療の必要を認め、これに対して、当該患者の同意を得て、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合に、紹介先保険医療機関ごとに患者1人につき月1回に限り算定する。

- 2 保険医療機関が、診療に基づき患者の同意を得て、当該患者の居住地を管轄する市町村又は介護保険法第46条第1項に規定する指定居宅介護支援事業者、同法第58条第1項に規定する指定介護予防支援事業者、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第51条の17第1項第1号に規定する指定特定相談支援事業者、児童福祉法第24条の26第1項第1号に規定する指定障害児相談支援事業者等に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者に係

る保健福祉サービスに必要な情報を提供した場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。

- 3 保険医療機関が、診療に基づき保険薬局による在宅患者訪問薬剤管理指導の必要を認め、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難なもの同意を得て、当該保険薬局に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者に係る在宅患者訪問薬剤管理指導に必要な情報を提供した場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。
- 4 保険医療機関が、診療に基づき当該患者の同意を得て、介護老人保健施設又は介護医療院（当該保険医療機関と同一の敷地内にある介護老人保健施設又は介護医療院その他これに準ずる介護老人保健施設を除く。）に対して、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。
- 5 保険医療機関が、患者の退院日の属する月又はその翌月に、添付の必要を認め、当該患者の同意を得て、別の保険医療機関、精神障害者施設又は介護老人保健施設若しくは介護医療院に対して、退院後の治療計画、検査結果、画像診断に係る画像情報その他の必要な情報を添付して紹介を行った場合は、200点を所定点数に加算する。
- 6 保険医療機関（区分番号A000に掲げる初診料の注12に規定する厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関を除く。）が、区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定す

る保健福祉サービスに必要な情報を提供した場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。

- 3 保険医療機関が、診療に基づき保険薬局による在宅患者訪問薬剤管理指導の必要を認め、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難なもの同意を得て、当該保険薬局に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者に係る在宅患者訪問薬剤管理指導に必要な情報を提供した場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。
- 4 保険医療機関が、診療に基づき当該患者の同意を得て、介護老人保健施設又は介護医療院（当該保険医療機関と同一の敷地内にある介護老人保健施設又は介護医療院その他これに準ずる介護老人保健施設を除く。）に対して、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。
- 5 保険医療機関が、患者の退院日の属する月又はその翌月に、添付の必要を認め、当該患者の同意を得て、別の保険医療機関、精神障害者施設又は介護老人保健施設若しくは介護医療院に対して、退院後の治療計画、検査結果、画像診断に係る画像情報その他の必要な情報を添付して紹介を行った場合は、200点を所定点数に加算する。
- 6 保険医療機関（区分番号A000に掲げる初診料の注11に規定する厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関を除く。）が、区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定す

る歯科診療特別対応加算1を算定している患者若しくは著しく歯科診療が困難な者であって区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定している患者又は区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定している患者について、当該患者又はその家族の同意を得て、区分番号A000に掲げる初診料の注12に規定する加算に係る施設基準又は地域歯科診療支援病院歯科初診料に係る施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関、歯科医業を行わない保険医療機関又は指定居宅介護支援事業者に対して、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合は、100点を所定点数に加算する。

- 7 区分番号A000に掲げる初診料の注12に規定する加算に係る施設基準又は地域歯科診療支援病院歯科初診料に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関が、区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1を算定している患者又は著しく歯科診療が困難な者であって区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定している患者について、当該患者又はその家族の同意を得て、歯科診療を行う保険医療機関（区分番号A000に掲げる初診料の注12に規定する厚生労働

る歯科診療特別対応加算1を算定している患者若しくは著しく歯科診療が困難な者であって区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定している患者又は区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定している患者について、当該患者又はその家族の同意を得て、区分番号A000に掲げる初診料の注11に規定する加算に係る施設基準又は地域歯科診療支援病院歯科初診料に係る施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関、歯科医業を行わない保険医療機関又は指定居宅介護支援事業者に対して、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合は、100点を所定点数に加算する。

- 7 区分番号A000に掲げる初診料の注11に規定する加算に係る施設基準又は地域歯科診療支援病院歯科初診料に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関が、区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算1を算定している患者又は著しく歯科診療が困難な者であって区分番号A000に掲げる初診料の注6若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注4に規定する歯科診療特別対応加算2若しくは歯科診療特別対応加算3を算定している患者について、当該患者又はその家族の同意を得て、歯科診療を行う保険医療機関（区分番号A000に掲げる初診料の注11に規定する厚生労働

大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関を除く。)に対して、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合は、100点を所定点数に加算する。

- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関が、患者の紹介を行う際に、検査結果、画像情報、画像診断の所見、投薬内容、注射内容、退院時要約等の診療記録のうち主要なものについて、他の保険医療機関に対し、電子的方法により閲覧可能な形式で提供した場合又は電子的に送受される診療情報提供書に添付した場合に、検査・画像情報提供加算として、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、イについては、注5に規定する加算を算定する場合は算定しない。

- イ 退院する患者について、当該患者の退院日の属する月又はその翌月に、必要な情報を提供した場合 200点  
ロ 入院中の患者以外の患者について、必要な情報を提供した場合 30点

- 9 保険医療機関が、児童福祉法第6条の2第3項に規定する小児慢性特定疾病医療支援の対象である患者又は同法第56条の6第2項に規定する障害児である患者について、診療に基づき当該患者又はその家族の同意を得て、当該患者が通園又は通学する同法第39条第1項に規定する保育所又は学校教育法第1条に規定する学校(大学を除く。)等の学校歯科医等に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者が学校生

大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関を除く。)に対して、診療状況を示す文書を添えて患者の紹介を行った場合は、100点を所定点数に加算する。

- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関が、患者の紹介を行う際に、検査結果、画像情報、画像診断の所見、投薬内容、注射内容、退院時要約等の診療記録のうち主要なものについて、他の保険医療機関に対し、電子的方法により閲覧可能な形式で提供した場合又は電子的に送受される診療情報提供書に添付した場合に、検査・画像情報提供加算として、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、イについては、注5に規定する加算を算定する場合は算定しない。

- イ 退院する患者について、当該患者の退院日の属する月又はその翌月に、必要な情報を提供した場合 200点  
ロ 入院中の患者以外の患者について、必要な情報を提供した場合 30点

- 9 保険医療機関が、児童福祉法第6条の2第3項に規定する小児慢性特定疾病医療支援の対象である患者又は同法第56条の6第2項に規定する障害児である患者について、診療に基づき当該患者又はその家族の同意を得て、当該患者が通園又は通学する同法第39条第1項に規定する保育所又は学校教育法第1条に規定する学校(大学を除く。)等の学校歯科医等に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者が学校生

	活等を送るに当たり必要な情報を提供した場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。		
B 009-2 電子的診療情報評価料	30点	B 009-2 電子的診療情報評価料	30点
注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関が、別の保険医療機関から診療情報提供書の提供を受けた患者に係る検査結果、画像情報、画像診断の所見、投薬内容、注射内容、退院時要約等の診療記録のうち主要なものについて、電子的方法により閲覧又は受信し、当該患者の診療に活用した場合に算定する。		注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関が、別の保険医療機関から診療情報提供書の提供を受けた患者に係る検査結果、画像情報、画像診断の所見、投薬内容、注射内容、退院時要約等の診療記録のうち主要なものについて、電子的方法により閲覧又は受信し、当該患者の診療に活用した場合に算定する。	
B 010 診療情報提供料Ⅱ	500点	B 010 診療情報提供料Ⅱ	500点
注 保険医療機関が、治療法の選択等に関して当該保険医療機関以外の医師又は歯科医師の意見を求める患者からの要望を受けて、治療計画、検査結果、画像診断に係る画像情報その他の別の医療機関において必要な情報を添付し、診療状況を示す文書を患者に提供することを通じて、患者が当該保険医療機関以外の医師又は歯科医師の助言を得るために支援を行った場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。		注 保険医療機関が、治療法の選択等に関して当該保険医療機関以外の医師又は歯科医師の意見を求める患者からの要望を受けて、治療計画、検査結果、画像診断に係る画像情報その他の別の医療機関において必要な情報を添付し、診療状況を示す文書を患者に提供することを通じて、患者が当該保険医療機関以外の医師又は歯科医師の助言を得るために支援を行った場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。	
B 011 診療情報等連携共有料		B 011 診療情報等連携共有料	
1 診療情報等連携共有料1	120点	1 診療情報等連携共有料1	120点
2 診療情報等連携共有料2	120点	2 診療情報等連携共有料2	120点
注1 1については、歯科診療を行うに当たり全身的な管理が必要な患者に対し、当該患者の同意を得て、別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）で行った検査の結果若しくは投薬内容等の診療情報又は保険薬局が有する服用薬の情報等（以下この区分番号において「診療情報等」という。）について、当該別の保険医療		注1 1については、歯科診療を行うに当たり全身的な管理が必要な患者に対し、当該患者の同意を得て、別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）で行った検査の結果若しくは投薬内容等の診療情報又は保険薬局が有する服用薬の情報等（以下この区分番号において「診療情報等」という。）について、当該別の保険医療	

機関又は保険薬局に文書等により提供を求めた場合に、当該別の保険医療機関又は保険薬局ごとに患者1人につき、診療情報等の提供を求めた日の属する月から起算して3月に1回に限り算定する。

2 2については、別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）からの求めに応じ、患者の同意を得て、診療情報を文書により提供した場合に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき、診療情報を提供した日の属する月から起算して3月に1回に限り算定する。

3 1及び2について、区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>（同一の保険医療機関に対して紹介を行った場合に限る。）を算定した月は、別に算定できない。

4 2について、区分番号B011-2に掲げる連携強化診療情報提供料（同一の保険医療機関に対して文書を提供した場合に限る。）を算定した月は、別に算定できない。

#### B011-2 連携強化診療情報提供料 150点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす他の保険医療機関から紹介され、又は別に厚生労働大臣が定める基準を満たす他の保険医療機関へ紹介した患者について、当該他の保険医療機関からの求めに応じて、又は当該他の保険医療機関と共同して当該患者の治療管理を継続的に行う旨の合意に基づき、患者の同意を得て、診療状況を示す文書を提供した場合（区分番号A000に掲げる初診料を算定する日を除く。ただし、当該保険医療機関に

機関又は保険薬局に文書等により提供を求めた場合に、当該別の保険医療機関又は保険薬局ごとに患者1人につき、診療情報等の提供を求めた日の属する月から起算して3月に1回に限り算定する。

2 2については、別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）からの求めに応じ、患者の同意を得て、診療情報を文書により提供した場合に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき、診療情報を提供した日の属する月から起算して3月に1回に限り算定する。

3 1及び2について、区分番号B009に掲げる診療情報提供料<sup>(II)</sup>（同一の保険医療機関に対して紹介を行った場合に限る。）を算定した月は、別に算定できない。

4 2について、区分番号B011-2に掲げる連携強化診療情報提供料（同一の保険医療機関に対して文書を提供した場合に限る。）を算定した月は、別に算定できない。

#### B011-2 連携強化診療情報提供料 150点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす他の保険医療機関から紹介された患者について、当該患者を紹介した他の保険医療機関からの求めに応じ、患者の同意を得て、診療状況を示す文書を提供した場合（区分番号A000に掲げる初診料を算定する日を除く。ただし、当該保険医療機関に次回受診する日の予約を行った場合はこの限りでない。）に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき月1回に限り算定する。

次回受診する日の予約を行った場合はこの限りでない。)に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき3月に1回に限り算定する。

(削る)

2 注1に該当しない場合であって、別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、他の保険医療機関から紹介され、又は他の保険医療機関へ紹介した妊娠中の患者について、当該他の保険医療機関からの求めに応じて、又は当該他の保険医療機関と共同して当該患者の治療管理を継続的に行う旨の合意に基づき、患者の同意を得て、診療状況を示す文書を提供した場合(区分番号A000に掲げる初診料を算定する日を除く。ただし、当該医療機関に次回受診する日の予約を行った場合はこの

2 注1に該当しない場合であって、注1に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす外来機能報告対象病院等(医療法第30条の18の5第1項第2号の規定に基づき、同法第30条の18の2第1項第1号の厚生労働省令で定める外来医療を提供する基幹的な病院又は診療所として都道府県が公表したものに限る。)である保険医療機関において、他の保険医療機関(許可病床の数が200未満の病院又は診療所に限る。)から紹介された患者について、当該患者を紹介した他の保険医療機関からの求めに応じ、患者の同意を得て、診療状況を示す文書を提供した場合(区分番号A000に掲げる初診料を算定する日を除く。ただし、当該保険医療機関に次回受診する日の予約を行った場合はこの限りではない。)に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき月1回に限り算定する。

3 注1及び注2に該当しない場合であって、注1に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、他の保険医療機関から紹介された妊娠中の患者について、当該患者を紹介した他の保険医療機関からの求めに応じ、患者の同意を得て、診療状況を示す文書を提供した場合(区分番号A000に掲げる初診料を算定する日を除く。ただし、当該医療機関に次回受診する日の予約を行った場合はこの限りではない。)に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき3月に1回(別に厚生労

限りでない。)に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき3月に1回に限り算定する。

3 注1及び注2に該当しない場合であって、他の保険医療機関（別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関に限る。以下この注において同じ。）から紹介され、又は他の保険医療機関へ紹介した妊娠中の患者について、当該他の保険医療機関からの求めに応じて、又は当該他の保険医療機関と共同して当該患者の治療管理を継続的に行う旨の合意に基づき、患者の同意を得て、診療状況を示す文書を提供した場合（区分番号A000に掲げる初診料を算定する日を除く。ただし、当該保険医療機関に次回受診する日の予約を行った場合はこの限りでない。）に、提供する保険医療機関ごとに患者1人につき3月に1回に限り算定する。

4 区分番号B009に掲げる診療情報提供料①  
(同一の保険医療機関に対して紹介を行った場合に限る。)を算定した月は、別に算定できない。

B011-3 薬剤情報提供料 4点  
注1 入院中の患者以外の患者に対して、処方した薬剤の名称、用法、用量、効能、効果、副作用

働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、産科若しくは産婦人科を標榜する保険医療機関から紹介された妊娠中の患者又は産科若しくは産婦人科を標榜する別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、他の保険医療機関から紹介された妊娠中の患者について、診療に基づき、頻回の情報提供の必要を認め、当該患者を紹介した他の保険医療機関に情報提供を行った場合にあっては、月1回)に限り算定する。

(新設)

4 区分番号B009に掲げる診療情報提供料①  
(同一の保険医療機関に対して紹介を行った場合に限る。)を算定した月は、別に算定できない。

B011-3 薬剤情報提供料 4点  
注1 入院中の患者以外の患者に対して、処方した薬剤の名称、用法、用量、効能、効果、副作用

及び相互作用に関する主な情報を文書により提供した場合に、月1回に限り（処方の内容に変更があった場合は、その都度）算定する。

2 注1の場合において、処方した薬剤の名称を当該患者の求めに応じて手帳に記載した場合は、手帳記載加算として、3点を所定点数に加算する。

3 保険薬局において調剤を受けるために処方箋を交付した患者については、算定できない。

B011-4 退院時薬剤情報管理指導料 90点

注 保険医療機関が、患者の入院時に当該患者が服薬中の医薬品等について確認するとともに、当該患者に対して入院中に使用した主な薬剤の名称（副作用が発現した場合については、当該副作用の概要、講じた措置等を含む。）に関して当該患者の手帳に記載した上で、退院に際して当該患者又はその家族等に対して、退院後の薬剤の服用等に関する必要な指導を行った場合に、退院の日に1回に限り算定する。この場合において、同一日に、区分番号B015に掲げる退院時共同指導料2（注1の規定により、入院中の保険医療機関の薬剤師が指導等を行った場合に限る。）は、別に算定できない。

（削る）

B011-5 がんゲノムプロファイリング評価提供料

及び相互作用に関する主な情報を文書により提供した場合に、月1回に限り（処方の内容に変更があった場合は、その都度）算定する。

2 注1の場合において、処方した薬剤の名称を当該患者の求めに応じて手帳に記載した場合は、手帳記載加算として、3点を所定点数に加算する。

3 保険薬局において調剤を受けるために処方箋を交付した患者については、算定できない。

B011-4 退院時薬剤情報管理指導料 90点

注1 保険医療機関が、患者の入院時に当該患者が服薬中の医薬品等について確認するとともに、当該患者に対して入院中に使用した主な薬剤の名称（副作用が発現した場合については、当該副作用の概要、講じた措置等を含む。）に関して当該患者の手帳に記載した上で、退院に際して当該患者又はその家族等に対して、退院後の薬剤の服用等に関する必要な指導を行った場合に、退院の日に1回に限り算定する。この場合において、同一日に、区分番号B015に掲げる退院時共同指導料2（注1の規定により、入院中の保険医療機関の薬剤師が指導等を行った場合に限る。）は、別に算定できない。

2 保険医療機関が、入院前の内服薬の変更をした患者又は服用を中止した患者について、保険薬局に対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、その理由や変更又は中止後の当該患者の状況を文書により提供した場合に、退院時薬剤情報連携加算として、60点を所定点数に加算する。

B011-5 がんゲノムプロファイリング評価提供料

<p style="text-align: right;">12,000点</p> <p><b>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、医科点数表の区分番号D 0 0 6－19に掲げるがんゲノムプロファイリング検査により得られた包括的なゲノムプロファイルの結果について、当該検査結果を医学的に解釈するためのがん薬物療法又は遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師、遺伝カウンセリング技術を有する者等による検討会での検討を経た上で患者に提供し、かつ、治療方針等について文書を用いて当該患者に説明した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。</b></p> <p><b>B 0 1 1－6 栄養情報連携料 70点</b></p> <p><b>注1</b> 区分番号B 0 0 4－1－4に掲げる入院栄養食事指導料を算定する患者に対して、退院後の栄養食事管理について、保険医療機関の歯科医師と医師との連携の下に指導を行った内容及び入院中の栄養管理に関する情報を示す文書を用いて説明し、これを他の保険医療機関、介護老人保健施設、介護医療院、特別養護老人ホーム又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律第34条第1項に規定する指定障害者支援施設等若しくは児童福祉法第42条第1号に規定する福祉型障害児入所施設（以下この区分番号において「保険医療機関等」という。）の医師又は管理栄養士に情報提供し、共有した場合に、入院中1回に限り算定する。</p> <p><b>2 注1に該当しない場合であって、当該医療機関を退院後に他の保険医療機関等に転院又は入所する患者であって栄養管理計画が策定されているものについて、患者又はその家族等の同意</b></p>	<p style="text-align: right;">12,000点</p> <p><b>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、医科点数表の区分番号D 0 0 6－19に掲げるがんゲノムプロファイリング検査により得られた包括的なゲノムプロファイルの結果について、当該検査結果を医学的に解釈するためのがん薬物療法又は遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師、遺伝カウンセリング技術を有する者等による検討会での検討を経た上で患者に提供し、かつ、治療方針等について文書を用いて当該患者に説明した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。</b></p> <p><b>B 0 1 1－6 栄養情報連携料 70点</b></p> <p><b>注1</b> 区分番号B 0 0 4－1－4に掲げる入院栄養食事指導料を算定する患者に対して、退院後の栄養食事管理について、保険医療機関の歯科医師と医師との連携の下に指導を行った内容及び入院中の栄養管理に関する情報を示す文書を用いて説明し、これを他の保険医療機関、介護老人保健施設、介護医療院、特別養護老人ホーム又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律第34条第1項に規定する指定障害者支援施設等若しくは児童福祉法第42条第1号に規定する福祉型障害児入所施設（以下この区分番号において「保険医療機関等」という。）の医師又は管理栄養士に情報提供し、共有した場合に、入院中1回に限り算定する。</p> <p><b>2 注1に該当しない場合であって、当該医療機関を退院後に他の保険医療機関等に転院又は入所する患者であって栄養管理計画が策定されているものについて、患者又はその家族等の同意</b></p>
--	--

	<p>を得て、入院中の栄養管理に関する情報を示す文書を用いて当該他の保険医療機関等の管理栄養士に情報提供し、共有した場合に、入院中に1回に限り算定する。</p> <p>3 区分番号B 0 1 5に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。</p>				
B 0 1 2	<p>傷病手当金意見書交付料 100点</p> <p>注 健康保険法第99条第1項の規定による傷病手当金に係る意見書を交付した場合に算定する。</p>				
B 0 1 3	<p>新製有床義歯管理料（1装置につき）</p> <table> <tr> <td>1 局部義歯の場合</td><td>140点</td></tr> <tr> <td>2 総義歯の場合</td><td>140点</td></tr> </table> <p>注 新製有床義歯管理料は、新たに製作した有床義歯を装着した日の属する月に、当該有床義歯を製作した保険医療機関において、患者又はその家族等に対して、<u>当該有床義歯の取扱いについて必要な説明</u>を行った上で、その内容を文書により提供了の場合に、1回に限り算定する。</p>	1 局部義歯の場合	140点	2 総義歯の場合	140点
1 局部義歯の場合	140点				
2 総義歯の場合	140点				
	(削る)				
B 0 1 3-2	削除				
B 0 1 3-3	<p>広範囲顎骨支持型補綴物管理料（1口腔につき）</p> <table> <tr> <td>1 広範囲顎骨支持型補綴物管理料1</td><td>500点</td></tr> <tr> <td>2 広範囲顎骨支持型補綴物管理料2</td><td>350点</td></tr> </table> <p>注1 1について、区分番号J 1 0 9に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出</p>	1 広範囲顎骨支持型補綴物管理料1	500点	2 広範囲顎骨支持型補綴物管理料2	350点
1 広範囲顎骨支持型補綴物管理料1	500点				
2 広範囲顎骨支持型補綴物管理料2	350点				

	<p>を得て、入院中の栄養管理に関する情報を示す文書を用いて当該他の保険医療機関等の管理栄養士に情報提供し、共有した場合に、入院中に1回に限り算定する。</p> <p>3 区分番号B 0 1 5に掲げる退院時共同指導料2は、別に算定できない。</p>				
B 0 1 2	<p>傷病手当金意見書交付料 100点</p> <p>注 健康保険法第99条第1項の規定による傷病手当金に係る意見書を交付した場合に算定する。</p>				
B 0 1 3	<p>新製有床義歯管理料（1口腔につき）</p> <table> <tr> <td>1 2以外の場合</td><td>190点</td></tr> <tr> <td>2 困難な場合</td><td>230点</td></tr> </table> <p>注1 新製有床義歯管理料は、新たに製作した有床義歯を装着した日の属する月に、当該有床義歯を製作した保険医療機関において、<u>有床義歯の適合性等について検査を行い、併せて患者又はその家族等に対して取扱い、保存、清掃方法等について必要な指導</u>を行った上で、その内容を文書により提供了の場合に、1回に限り算定する。</p> <p>2 新製有床義歯管理料を算定した日の属する月は、区分番号H 0 0 1-2に掲げる歯科口腔リハビリテーション料1（1に限る。）は算定できない。</p>	1 2以外の場合	190点	2 困難な場合	230点
1 2以外の場合	190点				
2 困難な場合	230点				
B 0 1 3-2	削除				
B 0 1 3-3	<p>広範囲顎骨支持型補綴物管理料（1口腔につき）</p> <table> <tr> <td>1 広範囲顎骨支持型補綴物管理料1</td><td>500点</td></tr> <tr> <td>2 広範囲顎骨支持型補綴物管理料2</td><td>350点</td></tr> </table> <p>注1 1について、区分番号J 1 0 9に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出</p>	1 広範囲顎骨支持型補綴物管理料1	500点	2 広範囲顎骨支持型補綴物管理料2	350点
1 広範囲顎骨支持型補綴物管理料1	500点				
2 広範囲顎骨支持型補綴物管理料2	350点				

た保険医療機関において、区分番号M025-2に掲げる広範囲顎骨支持型補綴に係る補綴物（歯冠補綴物、ブリッジ及び有床義歯を除く。以下この表において同じ。）の適合性の確認等及び広範囲顎骨支持型装置周囲の組織の管理等を行い、かつ、患者又は家族に対して管理等に係る必要な指導を行った上で、当該指導内容に係る情報を文書により提供した場合に、当該補綴物を装着した日の属する月の翌月以降に月1回に限り算定する。

2 2について、区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M025-2に掲げる広範囲顎骨支持型補綴に係る補綴物の適合性の確認等のみ又は広範囲顎骨支持型装置周囲の組織の管理等のみを行い、かつ、患者又は家族に対して管理等に係る必要な指導を行った上で、当該指導内容に係る情報を文書により提供した場合に、当該補綴物を装着した日の属する月の翌月以降に月1回に限り算定する。

#### B014 退院時共同指導料 1

1 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院（在宅等における療養を歯科医療面から支援する保険医療機関であって、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出たものをいう。以下この表において同じ。）の場合 900点

2 1以外の場合 500点

注1 保険医療機関に入院中の患者について、地域

た保険医療機関において、区分番号M025-2に掲げる広範囲顎骨支持型補綴に係る補綴物（歯冠補綴物、ブリッジ及び有床義歯を除く。以下この表において同じ。）の適合性の確認等及び広範囲顎骨支持型装置周囲の組織の管理等を行い、かつ、患者又は家族に対して管理等に係る必要な指導を行った上で、当該指導内容に係る情報を文書により提供した場合に、当該補綴物を装着した日の属する月の翌月以降に月1回に限り算定する。

2 2について、区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M025-2に掲げる広範囲顎骨支持型補綴に係る補綴物の適合性の確認等のみ又は広範囲顎骨支持型装置周囲の組織の管理等のみを行い、かつ、患者又は家族に対して管理等に係る必要な指導を行った上で、当該指導内容に係る情報を文書により提供した場合に、当該補綴物を装着した日の属する月の翌月以降に月1回に限り算定する。

#### B014 退院時共同指導料 1

1 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院（在宅等における療養を歯科医療面から支援する保険医療機関であって、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出たものをいう。以下この表において同じ。）の場合 900点

2 1以外の場合 500点

注1 保険医療機関に入院中の患者について、地域

において当該患者の退院後の在宅療養を担う保険医療機関（以下この区分番号及び区分番号B 015において「在宅療養担当医療機関」という。）と連携する別の保険医療機関の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、当該患者の同意を得て、退院後、在宅での療養を行う患者に対して、療養上必要な説明及び指導を、入院中の保険医療機関の歯科医師若しくは医師又は保健師、助産師、看護師、准看護師（以下の区分番号及び区分番号B 015において「看護師等」という。）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士と共同して行った上で、文書により情報提供した場合に、1回に限り算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める疾病等の患者については、在宅療養担当医療機関と連携する別の保険医療機関の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、当該患者が入院している保険医療機関の歯科医師若しくは医師又は看護師等と1回以上共同して行う場合は、当該入院中2回に限り算定する。

- 2 注1の場合において、当該患者が別に厚生労働大臣が定める特別な管理を要する状態等にあるときは、特別管理指導加算として、200点を所定点数に加算する。

B 015 退院時共同指導料 2 400点

注1 入院中の保険医療機関の歯科医師又は看護師等、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士が、入院中の患者に対して、当該患者の同意を得て、退院後の在宅での療養上必要な説明及び指導を、

において当該患者の退院後の在宅療養を担う保険医療機関（以下この区分番号及び区分番号B 015において「在宅療養担当医療機関」という。）と連携する別の保険医療機関の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、当該患者の同意を得て、退院後、在宅での療養を行う患者に対して、療養上必要な説明及び指導を、入院中の保険医療機関の歯科医師若しくは医師又は保健師、助産師、看護師、准看護師（以下の区分番号及び区分番号B 015において「看護師等」という。）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士と共同して行った上で、文書により情報提供した場合に、1回に限り算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める疾病等の患者については、在宅療養担当医療機関と連携する別の保険医療機関の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、当該患者が入院している保険医療機関の歯科医師若しくは医師又は看護師等と1回以上共同して行う場合は、当該入院中2回に限り算定する。

- 2 注1の場合において、当該患者が別に厚生労働大臣が定める特別な管理を要する状態等にあるときは、特別管理指導加算として、200点を所定点数に加算する。

B 015 退院時共同指導料 2 400点

注1 入院中の保険医療機関の歯科医師又は看護師等、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士が、入院中の患者に対して、当該患者の同意を得て、退院後の在宅での療養上必要な説明及び指導を、

在宅療養担当医療機関の歯科医師若しくは医師、当該歯科医師若しくは医師の指示を受けた看護師等、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士又は在宅療養担当医療機関の医師の指示を受けた訪問看護ステーションの看護師等（准看護師を除く。）、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士と共同して行った上で、文書により情報提供した場合に、当該患者が入院している保険医療機関において、当該入院中1回に限り算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める疾病等の患者については、当該患者が入院している保険医療機関の歯科医師又は看護師等が、在宅療養担当医療機関の歯科医師若しくは医師、当該歯科医師若しくは医師の指示を受けた看護師等又は在宅療養担当医療機関の医師の指示を受けた訪問看護ステーションの看護師等（准看護師を除く。）と1回以上、共同して行う場合は、当該入院中2回に限り算定する。

- 2 注1の場合において、入院中の保険医療機関の歯科医師及び在宅療養担当医療機関の歯科医師又は医師が共同して指導を行った場合に、300点を所定点数に加算する。ただし、注3に規定する加算を算定する場合は、算定できない。
- 3 注1の場合において、入院中の保険医療機関の歯科医師又は看護師等が、在宅療養担当医療機関の医師若しくは看護師等、歯科医師若しくはその指示を受けた歯科衛生士、保険薬局の薬剤師、訪問看護ステーションの看護師等（准看護師を除く。）、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、介護支援専門員又は相談支援

在宅療養担当医療機関の歯科医師若しくは医師、当該歯科医師若しくは医師の指示を受けた看護師等、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士又は在宅療養担当医療機関の医師の指示を受けた訪問看護ステーションの看護師等（准看護師を除く。）、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士と共同して行った上で、文書により情報提供した場合に、当該患者が入院している保険医療機関において、当該入院中1回に限り算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める疾病等の患者については、当該患者が入院している保険医療機関の歯科医師又は看護師等が、在宅療養担当医療機関の歯科医師若しくは医師、当該歯科医師若しくは医師の指示を受けた看護師等又は在宅療養担当医療機関の医師の指示を受けた訪問看護ステーションの看護師等（准看護師を除く。）と1回以上、共同して行う場合は、当該入院中2回に限り算定する。

- 2 注1の場合において、入院中の保険医療機関の歯科医師及び在宅療養担当医療機関の歯科医師又は医師が共同して指導を行った場合に、300点を所定点数に加算する。ただし、注3に規定する加算を算定する場合は、算定できない。
- 3 注1の場合において、入院中の保険医療機関の歯科医師又は看護師等が、在宅療養担当医療機関の医師若しくは看護師等、歯科医師若しくはその指示を受けた歯科衛生士、保険薬局の薬剤師、訪問看護ステーションの看護師等（准看護師を除く。）、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、介護支援専門員又は相談支援

専門員のうちいづれか3者以上と共同して指導を行った場合に、多機関共同指導管理加算として、2,000点を所定点数に加算する。

- 4 注1の規定にかかるわらず、区分番号A227-5に掲げる入退院支援加算を算定する患者にあっては、当該保険医療機関において、疾患名、当該保険医療機関の退院基準、退院後に必要とされる診療等在宅での療養に必要な事項を記載した退院支援計画を策定し、当該患者に説明し、文書により提供するとともに、これを当該患者の退院後の治療等を担う別の保険医療機関と共有した場合に限り算定する。
- 5 区分番号B006に掲げる開放型病院共同指導料<sup>Ⅱ</sup>は、別に算定できない。

B016 削除

B017 肺血栓塞栓症予防管理料

305点

注1 病院（療養病棟を除く。）又は診療所（療養病床に係るものを除く。）に入院中の患者であって肺血栓塞栓症を発症する危険性が高いものに対して、肺血栓塞栓症の予防を目的として、必要な機器又は材料を用いて計画的な医学管理を行った場合に、当該入院中1回に限り算定する。

2 肺血栓塞栓症の予防を目的として行った処置に用いた機器及び材料の費用は、所定点数に含まれる。

B018 医療機器安全管理料（一連につき）

1,100点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療が必要な患者に対して、放射線治療計画に基づいて治療を行った場合

専門員のうちいづれか3者以上と共同して指導を行った場合に、多機関共同指導管理加算として、2,000点を所定点数に加算する。

- 4 注1の規定にかかるわらず、区分番号A227-5に掲げる入退院支援加算を算定する患者にあっては、当該保険医療機関において、疾患名、当該保険医療機関の退院基準、退院後に必要とされる診療等在宅での療養に必要な事項を記載した退院支援計画を策定し、当該患者に説明し、文書により提供するとともに、これを当該患者の退院後の治療等を担う別の保険医療機関と共有した場合に限り算定する。
- 5 区分番号B006に掲げる開放型病院共同指導料<sup>Ⅱ</sup>は、別に算定できない。

B016 削除

B017 肺血栓塞栓症予防管理料

305点

注1 病院（療養病棟を除く。）又は診療所（療養病床に係るものを除く。）に入院中の患者であって肺血栓塞栓症を発症する危険性が高いものに対して、肺血栓塞栓症の予防を目的として、必要な機器又は材料を用いて計画的な医学管理を行った場合に、当該入院中1回に限り算定する。

2 肺血栓塞栓症の予防を目的として行った処置に用いた機器及び材料の費用は、所定点数に含まれる。

B018 医療機器安全管理料（一連につき）

1,100点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療が必要な患者に対して、放射線治療計画に基づいて治療を行った場合

に算定する。

## 第2部 在宅医療

### 区分

#### C 0 0 0 歯科訪問診療料（1日につき）

1 歙科訪問診療 1	1,100点
2 歙科訪問診療 2	410点
3 歙科訪問診療 3	310点
4 歙科訪問診療 4	160点
5 歙科訪問診療 5	95点

注 1 1については、在宅等において療養を行っている患者（当該患者と同一の建物に居住する他の患者に対して当該保険医療機関が同日に歎科訪問診療を行う場合の当該患者（以下この区分番号において「同一建物居住者」という。）を除く。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、次のいずれかに該当する歎科訪問診療を行った場合に算定する。この場合において、区分番号A 0 0 0 に掲げる初診料又は区分番号A 0 0 2 に掲げる再診料は、算定できない。

イ 患者の求めに応じた歎科訪問診療

ロ 歙科訪問診療に基づき継続的な歎科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歎科訪問診療

2 2については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歎科訪問診療を同日に3人以下の患者行った場合に算定する。この場合において、区分番号A 0 0 0 に掲げる初

に算定する。

## 第2部 在宅医療

### 区分

#### C 0 0 0 歯科訪問診療料（1日につき）

1 歙科訪問診療 1	1,100点
2 歙科訪問診療 2	410点
3 歙科訪問診療 3	310点
4 歙科訪問診療 4	160点
5 歙科訪問診療 5	95点

注 1 1については、在宅等において療養を行っている患者（当該患者と同一の建物に居住する他の患者に対して当該保険医療機関が同日に歎科訪問診療を行う場合の当該患者（以下この区分番号において「同一建物居住者」という。）を除く。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、次のいずれかに該当する歎科訪問診療を行った場合に算定する。この場合において、区分番号A 0 0 0 に掲げる初診料又は区分番号A 0 0 2 に掲げる再診料は、算定できない。

イ 患者の求めに応じた歎科訪問診療

ロ 歙科訪問診療に基づき継続的な歎科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歎科訪問診療

2 2については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歎科訪問診療を同日に3人以下の患者行った場合に算定する。この場合において、区分番号A 0 0 0 に掲げる初

診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

3 3については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を同一日に4人以上9人以下の患者に行った場合に算定する。この場合において、区分番号A000に掲げる初診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

4 4については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を同一日に10人以上19人以下の患者に行った場合に算定する。この場合において、区分番号A000に掲げる初診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同

診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

3 3については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を同一日に4人以上9人以下の患者に行った場合に算定する。この場合において、区分番号A000に掲げる初診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

4 4については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を同一日に10人以上19人以下の患者に行った場合に算定する。この場合において、区分番号A000に掲げる初診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同

### 意を得た歯科訪問診療

5 5については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を同一日に20人以上の患者に行った場合に算定する。この場合において、区分番号A000に掲げる初診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

6 2から5までを算定する患者（歯科訪問診療料の注16又は注20に該当する場合を除く。）について、当該患者に対する診療時間が20分未満の場合における歯科訪問診療2、歯科訪問診療3、歯科訪問診療4又は歯科訪問診療5についてはそれぞれ287点、217点、96点又は57点を算定する。ただし、2及び3について、当該患者の容体が急変し、やむを得ず治療を中止した場合は、この限りではない。

7 4及び5については、在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関以外の保険医療機関及び別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関以外の保険医療機関においては、所定点数及び注6に定める所定点数の100分の50に相当する点数によ

### 意を得た歯科訪問診療

5 5については、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、当該保険医療機関が、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を同一日に20人以上の患者に行った場合に算定する。この場合において、区分番号A000に掲げる初診料又は区分番号A002に掲げる再診料は、算定できない。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

6 2から5までを算定する患者（歯科訪問診療料の注15又は注19に該当する場合を除く。）について、当該患者に対する診療時間が20分未満の場合における歯科訪問診療2、歯科訪問診療3、歯科訪問診療4又は歯科訪問診療5についてはそれぞれ287点、217点、96点又は57点を算定する。ただし、2及び3について、当該患者の容体が急変し、やむを得ず治療を中止した場合は、この限りではない。

(新設)

り算定する。

8 歯科訪問診療料を算定する患者について、当該患者に対する診療時間が1時間を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、100点を所定点数に加算する。

9 著しく歯科診療が困難な者に対して歯科訪問診療を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算1として、175点を所定点数に加算し、著しく歯科診療が困難な者に対して当該患者が歯科治療環境に円滑に適応できるような技法を用いて歯科訪問診療を行った場合は、歯科診療特別対応加算2として、250点を所定点数に加算し、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症の患者に対して歯科訪問診療を行った場合は、歯科診療特別対応加算3として、500点を所定点数に加算する。

10 別に厚生労働大臣が定める時間であって、入院中の患者以外の患者に対して診療に従事している時間において緊急に歯科訪問診療を行った場合、夜間（深夜を除く。）において歯科訪問診療を行った場合又は深夜において歯科訪問診療を行った場合は、緊急歯科訪問診療加算、夜間歯科訪問診療加算又は深夜歯科訪問診療加算として、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。

イ 緊急歯科訪問診療加算

- (1) 歯科訪問診療1を算定する場合 425点
- (2) 歯科訪問診療2を算定する場合 159点

7 歯科訪問診療料を算定する患者について、当該患者に対する診療時間が1時間を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、100点を所定点数に加算する。

8 著しく歯科診療が困難な者に対して歯科訪問診療を行った場合（歯科診療特別対応加算3を算定する場合を除く。）は、歯科診療特別対応加算1として、175点を所定点数に加算し、著しく歯科診療が困難な者に対して当該患者が歯科治療環境に円滑に適応できるような技法を用いて歯科訪問診療を行った場合は、歯科診療特別対応加算2として、250点を所定点数に加算し、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症の患者に対して歯科訪問診療を行った場合は、歯科診療特別対応加算3として、500点を所定点数に加算する。

9 別に厚生労働大臣が定める時間であって、入院中の患者以外の患者に対して診療に従事している時間において緊急に歯科訪問診療を行った場合、夜間（深夜を除く。）において歯科訪問診療を行った場合又は深夜において歯科訪問診療を行った場合は、緊急歯科訪問診療加算、夜間歯科訪問診療加算又は深夜歯科訪問診療加算として、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。

イ 緊急歯科訪問診療加算

- (1) 歯科訪問診療1を算定する場合 425点
- (2) 歯科訪問診療2を算定する場合 159点

	(3) 歯科訪問診療 3 を算定する場合	120点		(3) 歙科訪問診療 3 を算定する場合	120点
	(4) 歯科訪問診療 4 を算定する場合	60点		(4) 歙科訪問診療 4 を算定する場合	60点
	(5) 歙科訪問診療 5 を算定する場合	36点		(5) 歙科訪問診療 5 を算定する場合	36点
ロ	夜間歎科訪問診療加算		ロ	夜間歎科訪問診療加算	
	(1) 歙科訪問診療 1 を算定する場合	850点		(1) 歙科訪問診療 1 を算定する場合	850点
	(2) 歙科訪問診療 2 を算定する場合	317点		(2) 歙科訪問診療 2 を算定する場合	317点
	(3) 歙科訪問診療 3 を算定する場合	240点		(3) 歙科訪問診療 3 を算定する場合	240点
	(4) 歙科訪問診療 4 を算定する場合	121点		(4) 歙科訪問診療 4 を算定する場合	121点
	(5) 歙科訪問診療 5 を算定する場合	72点		(5) 歙科訪問診療 5 を算定する場合	72点
ハ	深夜歎科訪問診療加算		ハ	深夜歎科訪問診療加算	
	(1) 歙科訪問診療 1 を算定する場合	1,700点		(1) 歙科訪問診療 1 を算定する場合	1,700点
	(2) 歙科訪問診療 2 を算定する場合	636点		(2) 歙科訪問診療 2 を算定する場合	636点
	(3) 歙科訪問診療 3 を算定する場合	481点		(3) 歙科訪問診療 3 を算定する場合	481点
	(4) 歙科訪問診療 4 を算定する場合	249点		(4) 歙科訪問診療 4 を算定する場合	249点
	(5) 歙科訪問診療 5 を算定する場合	148点		(5) 歙科訪問診療 5 を算定する場合	148点
<u>11</u>	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歎科訪問診療料を算定する患者について、歎科訪問診療に基づき、当該保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜における緊急時の診療体制を確保する必要を認め、当該患者に対し、当該保険医療機関が連携する保険医療機関（以下「連携保険医療機関」という。）に関する情報を文書により提供し、かつ、当該患者又はその家族等の同意を得て、連携保険医療機関に対し診療状況を示す文書を添えて、当該患者に係る歎科診療に必要な情報を提供した場合は、地域医療連携体制加算として、1回に限り300点を所定点数に加算する。		<u>10</u>	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歎科訪問診療料を算定する患者について、歎科訪問診療に基づき、当該保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜における緊急時の診療体制を確保する必要を認め、当該患者に対し、当該保険医療機関が連携する保険医療機関（以下「連携保険医療機関」という。）に関する情報を文書により提供し、かつ、当該患者又はその家族等の同意を得て、連携保険医療機関に対し診療状況を示す文書を添えて、当該患者に係る歎科診療に必要な情報を提供した場合は、地域医療連携体制加算として、1回に限り300点を所定点数に加算する。	

12 保険医療機関の所在地と訪問先の所在地との距離が16キロメートルを超えた場合又は海路による歯科訪問診療を行った場合で、特殊の事情があったときの歯科訪問診療料は、別に厚生労働大臣が定めるところによって算定する。

13 歯科訪問診療に要した交通費は、患家の負担とする。

14 歯科訪問診療を実施する保険医療機関の歯科衛生士が、歯科医師と同行の上、歯科訪問診療の補助を行った場合は、歯科訪問診療補助加算として、次に掲げる点数を1日につき所定点数に加算する。

イ 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2、区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関又は在宅療養支援歯科病院の場合

(1) 同一建物居住者以外の場合 115点

(2) 同一建物居住者の場合 50点

ロ イ以外の保険医療機関の場合

(1) 同一建物居住者以外の場合 90点

(2) 同一建物居住者の場合 30点

(削る)

15 1について、在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科

11 保険医療機関の所在地と訪問先の所在地との距離が16キロメートルを超えた場合又は海路による歯科訪問診療を行った場合で、特殊の事情があったときの歯科訪問診療料は、別に厚生労働大臣が定めるところによって算定する。

12 歯科訪問診療に要した交通費は、患家の負担とする。

13 歯科訪問診療を実施する保険医療機関の歯科衛生士が、歯科医師と同行の上、歯科訪問診療の補助を行った場合は、歯科訪問診療補助加算として、次に掲げる点数を1日につき所定点数に加算する。

イ 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2、区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関又は在宅療養支援歯科病院の場合

(1) 同一建物居住者以外の場合 115点

(2) 同一建物居住者の場合 50点

ロ イ以外の保険医療機関の場合

(1) 同一建物居住者以外の場合 90点

(2) 同一建物居住者の場合 30点

14 1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、在宅において療養を行っている患者に対して歯科訪問診療を実施した場合は、在宅歯科医療推進加算として、100点を所定点数に加算する。

(新設)

病院に係る施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科訪問診療 1 を実施した場合は、在宅療養支援歯科診療所加算 1、在宅療養支援歯科診療所加算 2 又は在宅療養支援歯科病院加算として、それぞれ100点、50点又は100点を所定点数に加算する。

16 1 から 5 までについて、在宅療養支援歯科診療所 1 又は在宅療養支援歯科診療所 2 以外の診療所であって、別に厚生労働大臣が定める基準を満たさないものにおいては、次に掲げる点数により算定する。

イ 初診時 272点  
ロ 再診時 59点

17 区分番号 A 0 0 0 に掲げる初診料の注 1 又は注 2 に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届出を行っていない保険医療機関については、1 から 5 まで又は注16若しくは注20に規定するそれぞれの所定点数から10点を減算する。

18 1 について、当該保険医療機関の外来（歯科診療を行うものに限る。）を受診していた患者であって在宅等において療養を行っているものに対して、歯科訪問診療を実施した場合は、歯科訪問診療移行加算として、次に掲げる点数を所定点数に加算する。

イ 区分番号 B 0 0 0 - 4 - 2 に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の場合 150点

15 1 から 5 までについて、在宅療養支援歯科診療所 1 又は在宅療養支援歯科診療所 2 以外の診療所であって、別に厚生労働大臣が定める基準を満たさないものにおいては、次に掲げる点数により算定する。

イ 初診時 267点  
ロ 再診時 58点

16 区分番号 A 0 0 0 に掲げる初診料の注 1 又は注 2 に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届出を行っていない保険医療機関については、1 から 5 まで又は注15若しくは注19に規定するそれぞれの所定点数から10点を減算する。

17 1 について、当該保険医療機関の外来（歯科診療を行うものに限る。）を受診していた患者であって在宅等において療養を行っているものに対して、歯科訪問診療を実施した場合は、歯科訪問診療移行加算として、次に掲げる点数を所定点数に加算する。なお、この場合において、注14に規定する加算は算定できない。

イ 区分番号 B 0 0 0 - 4 - 2 に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の場合 150点

□ イ以外の場合

100点

19 1から3までについて、地域歯科診療支援病院歯科初診料、在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院に係る施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該保険医療機関の歯科衛生士等が、過去2月以内に区分番号C001に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定した患者であって、当該歯科衛生指導の実施時に当該保険医療機関の歯科医師が情報通信機器を用いて口腔内の状態等を観察したものに対して、歯科訪問診療を実施した場合は、通信画像情報活用加算として、患者1人につき月1回に限り、30点を所定点数に加算する。

20 1から5までについて、当該保険医療機関と特別の関係にある他の保険医療機関等において療養を行っている患者に対して歯科訪問診療を実施した場合は、次に掲げる点数により算定する。

イ 初診時

272点

ロ 再診時

59点

21 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科診療を実施している保険医療機関において健康保険法第3条第13項に規定する電子資格確認等により得られる情報を踏まえて計画的な歯科医学的管理の下に、訪問して診療を行った場合は、在宅医療DX情報活用加算として、月1回に限り、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、区分

□ イ以外の場合

100点

18 1から3までについて、地域歯科診療支援病院歯科初診料、在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院に係る施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該保険医療機関の歯科衛生士等が、過去2月以内に区分番号C001に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定した患者であって、当該歯科衛生指導の実施時に当該保険医療機関の歯科医師が情報通信機器を用いて口腔内の状態等を観察したものに対して、歯科訪問診療を実施した場合は、通信画像情報活用加算として、患者1人につき月1回に限り、30点を所定点数に加算する。

19 1から5までについて、当該保険医療機関と特別の関係にある他の保険医療機関等において療養を行っている患者に対して歯科訪問診療を実施した場合は、次に掲げる点数により算定する。

イ 初診時

267点

ロ 再診時

58点

20 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科診療を実施している保険医療機関において健康保険法第3条第13項に規定する電子資格確認等により得られる情報を踏まえて計画的な歯科医学的管理の下に、訪問して診療を行った場合は、在宅医療DX情報活用加算として、月1回に限り、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。ただし、区分

番号A000に掲げる初診料の注15及びA002に掲げる再診料の注12に規定する電子的歯科診療情報連携体制整備加算を算定した月は、在宅医療DX情報活用加算は算定できない。

- イ 在宅医療DX情報活用加算 1 9点  
ロ 在宅医療DX情報活用加算 2 8点

22 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、連携する歯科診療以外の診療のみを行う保険医療機関からの依頼に基づき、当該保険医療機関に入院中の口腔状態に係る課題のために医科における治療上の課題が生じている患者に対して、歯科訪問診療を実施した場合は、医科連携訪問加算として、所定点数に500点を加算する。ただし、B000-5に掲げる周術期等口腔機能管理計画策定料、B000-6に掲げる周術期等口腔機能管理料(I)、B000-7に掲げる周術期等口腔機能管理料(II)、B000-8に掲げる周術期等口腔機能管理料(III)、B000-9に掲げる周術期等口腔機能管理料(IV)、B000-10に掲げる回復期等口腔機能管理計画策定料及びB000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料は別に算定できない。

C001 訪問歯科衛生指導料

- |                        |      |
|------------------------|------|
| 1 単一建物診療患者が1人の場合       | 380点 |
| 2 単一建物診療患者が2人以上9人以下の場合 | 330点 |
| 3 1及び2以外の場合            | 260点 |

番号A000に掲げる初診料の注14若しくは区分番号A002に掲げる再診料の注11にそれぞれ規定する医療情報取得加算又は区分番号A000に掲げる初診料の注15に規定する医療DX推進体制整備加算を算定した月は、在宅医療DX情報活用加算は算定できない。

- イ 在宅医療DX情報活用加算 1 9点  
ロ 在宅医療DX情報活用加算 2 8点  
(新設)

C001 訪問歯科衛生指導料

- |                        |      |
|------------------------|------|
| 1 単一建物診療患者が1人の場合       | 362点 |
| 2 単一建物診療患者が2人以上9人以下の場合 | 326点 |
| 3 1及び2以外の場合            | 295点 |

- 注1 歯科訪問診療を行った歯科医師の指示に基づき、歯科衛生士、保健師、看護師又は准看護師が訪問して療養上必要な指導として、单一建物診療患者（当該患者が居住する建物に居住するもののうち、当該保険医療機関が歯科訪問診療を実施し、歯科衛生士等が同一月に訪問歯科衛生指導を行っているものをいう。）又はその家族等に対して、当該患者の口腔内の清掃（機械的歯面清掃を含む。）、有床義歯の清掃指導又は口腔機能の回復若しくは維持に関する実地指導を行い指導時間が20分以上であった場合は、患者1人につき、月4回に限り算定する。なお、当該歯科衛生指導で実施した指導内容等については、当該患者又はその家族等に対し文書により提供する。
- 2 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって緩和ケアを実施するものに対して行った場合には、注1の規定にかかわらず、月8回に限り算定する。
- 3 1については、訪問歯科衛生指導が困難な者等に対して、保険医療機関の歯科衛生士等が、当該保険医療機関の他の歯科衛生士等と同時に訪問歯科衛生指導を行うことについて、当該患者又はその家族等の同意を得て、訪問歯科衛生指導を実施した場合（区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定する日を除く。）には、複数名訪問歯科衛生指導加算として、150点を所定点数に加算する。
- 4 1から3までについて、当該保険医療機関と特別の関係にある他の保険医療機関等において療養を行っている患者に対して訪問歯科衛生指

- 注1 歯科訪問診療を行った歯科医師の指示に基づき、歯科衛生士、保健師、看護師又は准看護師が訪問して療養上必要な指導として、单一建物診療患者（当該患者が居住する建物に居住するもののうち、当該保険医療機関が歯科訪問診療を実施し、歯科衛生士等が同一月に訪問歯科衛生指導を行っているものをいう。）又はその家族等に対して、当該患者の口腔内の清掃（機械的歯面清掃を含む。）、有床義歯の清掃指導又は口腔機能の回復若しくは維持に関する実地指導を行い指導時間が20分以上であった場合は、患者1人につき、月4回に限り算定する。なお、当該歯科衛生指導で実施した指導内容等については、当該患者又はその家族等に対し文書により提供する。
- 2 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって緩和ケアを実施するものに対して行った場合には、注1の規定にかかわらず、月8回に限り算定する。
- 3 1については、訪問歯科衛生指導が困難な者等に対して、保険医療機関の歯科衛生士等が、当該保険医療機関の他の歯科衛生士等と同時に訪問歯科衛生指導を行うことについて、当該患者又はその家族等の同意を得て、訪問歯科衛生指導を実施した場合（区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定する日を除く。）には、複数名訪問歯科衛生指導加算として、150点を所定点数に加算する。
- (新設)

導を実施した場合は、所定点数に代えて、140点を算定する。

- 5 訪問歯科衛生指導に要した交通費は、患家の負担とする。  
6 区分番号B 0 0 1－2に掲げる歯科衛生実地指導料を算定している月は算定できない。

C 0 0 1－2 削除

C 0 0 1－3 歯科疾患在宅療養管理料

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1 在宅療養支援歯科診療所 1 の場合 | 340点 |
| 2 在宅療養支援歯科診療所 2 の場合 | 230点 |
| 3 在宅療養支援歯科病院の場合     | 340点 |
| 4 1 から 3 まで以外の場合    | 200点 |

注 1 当該保険医療機関の歯科医師が、区分番号C 0 0 0 に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、当該患者の歯科疾患の状況及び併せて実施した口腔機能評価の結果等を踏まえて管理計画を作成した場合に、月 1 回に限り算定する。

2 2回目以降の歯科疾患在宅療養管理料は、1回目の歯科疾患在宅療養管理料を算定した患者に対して、注 1 の規定による管理計画に基づく継続的な管理を行っている場合であって、歯科疾患の管理及び療養上必要な指導を行った場合に、1回目の歯科疾患在宅療養管理料を算定した日の属する月の翌月以降月 1 回に限り算定する。

3 注 1 の規定による管理計画に基づき、当該患者等に対し、歯科疾患の管理及び口腔機能に係る内容を文書により提供した場合は、文書提供加算として、10点を所定点数に加算する。

4 訪問歯科衛生指導に要した交通費は、患家の負担とする。

- 5 区分番号B 0 0 1－2に掲げる歯科衛生実地指導料を算定している月は算定できない。

C 0 0 1－2 削除

C 0 0 1－3 歯科疾患在宅療養管理料

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1 在宅療養支援歯科診療所 1 の場合 | 340点 |
| 2 在宅療養支援歯科診療所 2 の場合 | 230点 |
| 3 在宅療養支援歯科病院の場合     | 340点 |
| 4 1 から 3 まで以外の場合    | 200点 |

注 1 当該保険医療機関の歯科医師が、区分番号C 0 0 0 に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、当該患者の歯科疾患の状況及び併せて実施した口腔機能評価の結果等を踏まえて管理計画を作成した場合に、月 1 回に限り算定する。

2 2回目以降の歯科疾患在宅療養管理料は、1回目の歯科疾患在宅療養管理料を算定した患者に対して、注 1 の規定による管理計画に基づく継続的な管理を行っている場合であって、歯科疾患の管理及び療養上必要な指導を行った場合に、1回目の歯科疾患在宅療養管理料を算定した日の属する月の翌月以降月 1 回に限り算定する。

3 注 1 の規定による管理計画に基づき、当該患者等に対し、歯科疾患の管理及び口腔機能に係る内容を文書により提供した場合は、文書提供加算として、10点を所定点数に加算する。

- |  |  |
|--|--|
| <p>4 別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）から歯科治療における総合的医療管理が必要な患者であるとして文書による診療情報の提供を受けたものに対し、必要な管理及び療養上の指導等を行った場合は、在宅総合医療管理加算として50点を所定点数に加算する。</p> <p>5 他の保険医療機関を退院した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該他の保険医療機関の歯科医師から患者の退院時に受けた情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算1として100点を所定点数に加算する。</p> <p>6 他の保険医療機関を退院した患者又は介護保険法第8条第25項に規定する介護保険施設等に入所している患者若しくは同法第8条第2項に規定する訪問介護等の利用者であって、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、医師、看護師、介護支援専門員等からの情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算2として100点を所定点数に加算する。</p> <p>7 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であつて通院が困難なものとの同意を得て、当該保険医療機関と連携する他の保険医療機関の保険医、他の保険医療機関の保険医である歯科医師等、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助</p> | <p>4 別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）から歯科治療における総合的医療管理が必要な患者であるとして文書による診療情報の提供を受けたものに対し、必要な管理及び療養上の指導等を行った場合は、在宅総合医療管理加算として50点を所定点数に加算する。</p> <p>5 他の保険医療機関を退院した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該他の保険医療機関の歯科医師から患者の退院時に受けた情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算1として100点を所定点数に加算する。</p> <p>6 他の保険医療機関を退院した患者又は介護保険法第8条第25項に規定する介護保険施設等に入所している患者若しくは同法第8条第2項に規定する訪問介護等の利用者であって、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、医師、看護師、介護支援専門員等からの情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算2として100点を所定点数に加算する。</p> <p>7 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であつて通院が困難なものとの同意を得て、当該保険医療機関と連携する他の保険医療機関の保険医、他の保険医療機関の保険医である歯科医師等、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助</p> |
|--|--|

産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員又は相談支援専門員等であって当該患者に関わる者が、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法を用いて記録した当該患者に係る診療情報等を活用した上で、計画的な歯科医学的管理を行った場合に、在宅歯科医療情報連携加算として、月1回に限り、100点を所定点数に加算する。ただし、C007に掲げる在宅患者連携指導料は別に算定できない。

8 区分番号B000-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B000-4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B000-6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅰ、区分番号B000-7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ、区分番号B000-8に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号B000-9に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅳ、区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C001-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C001-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号N002に掲げる歯科矯正管理料は、別に算定できない。

C001-4 削除

C001-4-2 在宅患者歯科治療時医療管理料（1日につき  
）

45点

産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員又は相談支援専門員等であって当該患者に関わる者が、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法を用いて記録した当該患者に係る診療情報等を活用した上で、計画的な歯科医学的管理を行った場合に、在宅歯科医療情報連携加算として、月1回に限り、100点を所定点数に加算する。

8 区分番号B000-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B000-4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B000-6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅰ、区分番号B000-7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ、区分番号B000-8に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号B000-9に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅳ、区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C001-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料、区分番号C001-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号N002に掲げる歯科矯正管理料は、別に算定できない。

C001-4 削除

C001-4-2 在宅患者歯科治療時医療管理料（1日につき  
）

45点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、全身的な管理が必要な患者に対し、第8部処置（区分番号I 0 0 9、I 0 0 9-2及びI 0 1 0に掲げるものを除く。）、第9部手術又は第12部歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M 0 0 1からM 0 0 3まで、M 0 0 3-3又はM 0 0 3-4に掲げるものに限る。）を行うに当たって、必要な医療管理を行った場合（当該処置、手術又は歯冠修復及び欠損補綴を全身麻酔下で行った場合を除く。）に算定する。

2 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D 2 2 0に掲げる呼吸心拍監視、新生児心拍・呼吸監視、カルジオスコープ（ハートスコープ）、カルジオタコスコープを算定した日は、当該管理料は算定できない。

3 在宅患者歯科治療時医療管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>①</sup>、区分番号B 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>②</sup>、区分番号B 0 0 0-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>③</sup>、区分番号B 0 0 0-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>④</sup>又は区分番号B 0 0 0-1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料は、別に算定できない。

C 0 0 1-5	在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料	
1	10歯未満	400点
2	10歯以上20歯未満	500点
3	20歯以上	600点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、全身的な管理が必要な患者に対し、第8部処置（区分番号I 0 0 9、I 0 0 9-2及びI 0 1 0に掲げるものを除く。）、第9部手術又は第12部歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M 0 0 1からM 0 0 3まで、M 0 0 3-3又はM 0 0 3-4に掲げるものに限る。）を行うに当たって、必要な医療管理を行った場合（当該処置、手術又は歯冠修復及び欠損補綴を全身麻酔下で行った場合を除く。）に算定する。

2 第3部の通則第5号により医科点数表の例によることとされる医科点数表の区分番号D 2 2 0に掲げる呼吸心拍監視、新生児心拍・呼吸監視、カルジオスコープ（ハートスコープ）、カルジオタコスコープを算定した日は、当該管理料は算定できない。

3 在宅患者歯科治療時医療管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>①</sup>、区分番号B 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>②</sup>、区分番号B 0 0 0-8に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>③</sup>、区分番号B 0 0 0-9に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>④</sup>又は区分番号B 0 0 0-1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料は、別に算定できない。

C 0 0 1-5	在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料	
1	10歯未満	400点
2	10歯以上20歯未満	500点
3	20歯以上	600点

- 注1 当該保険医療機関の歯科医師が、区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって、摂食機能障害又は口腔機能低下症を有し、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、20分以上必要な指導管理を行った場合に、月4回に限り算定する。
- 2 区分番号D 0 0 2に掲げる歯周病検査、区分番号D 0 0 2-5に掲げる歯周病部分的再評価検査、区分番号D 0 0 2-6の1に掲げる口腔細菌定量検査1、区分番号I 0 1 1に掲げる歯周基本治療、区分番号I 0 1 1-2に掲げる歯周病継続支援治療、区分番号I 0 2 9-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I 0 3 0に掲げる機械的歯面清掃処置、区分番号I 0 3 0-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置及び区分番号H 0 0 1に掲げる摂食機能療法は所定点数に含まれ、別に算定できない。
- 3 在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0-4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料及び区分番号C 0 0 1-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料は別に算定できない。
- 4 区分番号B 0 0 0-4-2に掲げる小児口腔

- 注1 当該保険医療機関の歯科医師が、区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定した患者であって、摂食機能障害又は口腔機能低下症を有し、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、20分以上必要な指導管理を行った場合に、月4回に限り算定する。
- 2 区分番号D 0 0 2に掲げる歯周病検査、区分番号D 0 0 2-5に掲げる歯周病部分的再評価検査、区分番号D 0 0 2-6の1に掲げる口腔細菌定量検査1、区分番号I 0 1 1に掲げる歯周基本治療、区分番号I 0 1 1-2に掲げる歯周病定期治療、区分番号I 0 1 1-2-3に掲げる歴周病重症化予防治療、区分番号I 0 2 9-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I 0 3 0に掲げる機械的歯面清掃処置、区分番号I 0 3 0-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置及び区分番号H 0 0 1に掲げる摂食機能療法は所定点数に含まれ、別に算定できない。
- 3 在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0-4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0-4-3に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料及び区分番号C 0 0 1-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料は別に算定できない。
- 4 区分番号B 0 0 0-4-2に掲げる小児口腔

機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の歯科医師が当該指導管理を実施した場合は、口腔管理体制強化加算として、75点を所定点数に加算する。

- 5 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院の歯科医師が、当該指導管理を実施した場合は、在宅療養支援歯科診療所加算1、在宅療養支援歯科診療所加算2又は在宅療養支援歯科病院加算として、それぞれ145点、80点又は145点を所定点数に加算する。ただし、注4に規定する加算を算定している場合は、算定できない。
- 6 他の保険医療機関を退院した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該他の保険医療機関の歯科医師から患者の退院時に受けた情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算1として100点を所定点数に加算する。
- 7 他の保険医療機関を退院した患者又は介護保険法第8条第25項に規定する介護保険施設等に入所している患者若しくは同法第8条第2項に規定する訪問介護等の利用者であって、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、医師、看護師、介護支援専門員等からの情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算2として100点を所定点数に加算する。
- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯

機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の歯科医師が当該指導管理を実施した場合は、口腔管理体制強化加算として、75点を所定点数に加算する。

- 5 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院の歯科医師が、当該指導管理を実施した場合は、在宅療養支援歯科診療所加算1、在宅療養支援歯科診療所加算2又は在宅療養支援歯科病院加算として、それぞれ145点、80点又は145点を所定点数に加算する。ただし、注4に規定する加算を算定している場合は、算定できない。
- 6 他の保険医療機関を退院した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該他の保険医療機関の歯科医師から患者の退院時に受けた情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算1として100点を所定点数に加算する。
- 7 他の保険医療機関を退院した患者又は介護保険法第8条第25項に規定する介護保険施設等に入所している患者若しくは同法第8条第2項に規定する訪問介護等の利用者であって、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、医師、看護師、介護支援専門員等からの情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、在宅歯科医療連携加算2として100点を所定点数に加算する。
- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯

科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であつて通院が困難なものとの同意を得て、当該保険医療機関と連携する他の保険医療機関の保険医、他の保険医療機関の保険医である歯科医師等、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員又は相談支援専門員等であつて当該患者に関わる者が、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法を用いて記録した当該患者に係る診療情報等を活用した上で、計画的な歯科医学的管理を行った場合に、在宅歯科医療情報連携加算として、月1回に限り、100点を所定点数に加算する。ただし、C007に掲げる在宅患者連携指導料は別に算定できない。

C001-6 小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料 600点

注1 当該保険医療機関の歯科医師が、区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定した18歳未満の患者であつて、継続的な歯科疾患の管理が必要なもの又は18歳に達した日前に当該管理料を算定した患者であつて、同日以後も継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該患者又はその家族の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、20分以上必要な指導管理を行った場合に、月4回に限り算定する。

2 区分番号D002に掲げる歯周病検査、区分

科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であつて通院が困難なものとの同意を得て、当該保険医療機関と連携する他の保険医療機関の保険医、他の保険医療機関の保険医である歯科医師等、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員又は相談支援専門員等であつて当該患者に関わる者が、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法を用いて記録した当該患者に係る診療情報等を活用した上で、計画的な歯科医学的管理を行った場合に、在宅歯科医療情報連携加算として、月1回に限り、100点を所定点数に加算する。

C001-6 小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料 600点

注1 当該保険医療機関の歯科医師が、区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定した18歳未満の患者であつて、継続的な歯科疾患の管理が必要なもの又は18歳に達した日前に当該管理料を算定した患者であつて、同日以後も継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該患者又はその家族の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、20分以上必要な指導管理を行った場合に、月4回に限り算定する。

2 区分番号D002に掲げる歯周病検査、区分

番号D 0 0 2 – 5に掲げる歯周病部分的再評価検査、区分番号D 0 0 2 – 6の1に掲げる口腔細菌定量検査1、区分番号H 0 0 1に掲げる摂食機能療法、区分番号I 0 1 1に掲げる歯周基本治療、区分番号I 0 1 1 – 2に掲げる歯周病継続支援治療、区分番号I 0 2 9 – 2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I 0 3 0に掲げる機械的歯面清掃処置及び区分番号I 0 3 0 – 3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は所定点数に含まれ、別に算定できない。

3 小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料及び区分番号C 0 0 1 – 5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料は別に算定できない。

4 区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の歯科医師が当該指導管理を実施した場合は、口腔管理体制強化加算として、75点を所定点数に加算する。

5 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院の歯科医師が、当該指導管理を実施した場合は、在宅療養支援歯科診療所加算1、在宅療養支援歯科診

番号D 0 0 2 – 5に掲げる歯周病部分的再評価検査、区分番号D 0 0 2 – 6の1に掲げる口腔細菌定量検査1、区分番号H 0 0 1に掲げる摂食機能療法、区分番号I 0 1 1に掲げる歯周基本治療、区分番号I 0 1 1 – 2に掲げる歯周病定期治療、区分番号I 0 1 1 – 2 – 3に掲げる歯周病重症化予防治療、区分番号I 0 2 9 – 2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I 0 3 0に掲げる機械的歯面清掃処置及び区分番号I 0 3 0 – 3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は所定点数に含まれ、別に算定できない。

3 小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定した月において、区分番号B 0 0 0 – 4に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料、区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料及び区分番号C 0 0 1 – 5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料は別に算定できない。

4 区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関の歯科医師が当該指導管理を実施した場合は、口腔管理体制強化加算として、75点を所定点数に加算する。

5 在宅療養支援歯科診療所1、在宅療養支援歯科診療所2又は在宅療養支援歯科病院の歯科医師が、当該指導管理を実施した場合は、在宅療養支援歯科診療所加算1、在宅療養支援歯科診

療所加算2又は在宅療養支援歯科病院加算として、それぞれ145点、80点又は145点を所定点数に加算する。ただし、注4に規定する加算を算定している場合は、算定できない。

- 6 他の保険医療機関を退院した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該他の保険医療機関の歯科医師から患者の退院時に受けた情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、小児在宅歯科医療連携加算1として100点を所定点数に加算する。
- 7 他の保険医療機関を退院した患者又は児童福祉法第42条に規定する障害児入所施設等に入所している患者であって、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、医師、看護師、相談支援専門員等からの情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、小児在宅歯科医療連携加算2として100点を所定点数に加算する。
- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難なものの同意を得て、当該保険医療機関と連携する他の保険医療機関の保険医、他の保険医療機関の保険医である歯科医師等、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員又は相談支援専門員等であって当該患者に関わる

療所加算2又は在宅療養支援歯科病院加算として、それぞれ145点、80点又は145点を所定点数に加算する。ただし、注4に規定する加算を算定している場合は、算定できない。

- 6 他の保険医療機関を退院した患者であって継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、当該他の保険医療機関の歯科医師から患者の退院時に受けた情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、小児在宅歯科医療連携加算1として100点を所定点数に加算する。
- 7 他の保険医療機関を退院した患者又は児童福祉法第42条に規定する障害児入所施設等に入所している患者であって、継続的な歯科疾患の管理が必要なものに対して、医師、看護師、相談支援専門員等からの情報提供及び当該患者の歯科疾患の状況等を踏まえて管理計画を作成した場合は、小児在宅歯科医療連携加算2として100点を所定点数に加算する。
- 8 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難なものの同意を得て、当該保険医療機関と連携する他の保険医療機関の保険医、他の保険医療機関の保険医である歯科医師等、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員又は相談支援専門員等であって当該患者に関わる

者が、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法を用いて記録した当該患者に係る診療情報等を活用した上で、計画的な歯科医学的管理を行った場合に、在宅歯科医療情報連携加算として、月1回に限り、100点を所定点数に加算する。ただし、C007に掲げる在宅患者連携指導料は別に算定できない。

C001-7 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料

- 1 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料 1  
100点
- 2 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料 2  
100点
- 3 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料 3  
100点
- 4 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料 4  
100点

注1 1については、当該保険医療機関の歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、他の保険医療機関に入院している患者であって、区分番号C001-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C001-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号C001-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定しているものに対して、当該患者の入院している他の保険医療機関の栄養サポートチーム等の構成員として診療を行い、その結果を踏まえて口腔機能評価に基づく指導を行った場合に、月1回に限り算定する。

2 2については、当該保険医療機関の歯科医師

者が、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法を用いて記録した当該患者に係る診療情報等を活用した上で、計画的な歯科医学的管理を行った場合に、在宅歯科医療情報連携加算として、月1回に限り、100点を所定点数に加算する。

C001-7 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料

- 1 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料 1  
100点
  - 2 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料 2  
100点
  - 3 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料 3  
100点
- (新設)

注1 1については、当該保険医療機関の歯科医師が、他の保険医療機関に入院している患者であって、区分番号C001-3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C001-5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号C001-6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定しているものに対して、当該患者の入院している他の保険医療機関の栄養サポートチーム等の構成員として診療を行い、その結果を踏まえて口腔機能評価に基づく指導を行った場合に、月1回に限り算定する。

2 2については、当該保険医療機関の歯科医師

又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、介護保険法第8条第25項に規定する介護保険施設等に入所している患者であって、区分番号C 0 0 1－3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料又は区分番号C 0 0 1－5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定しているものに対して、当該患者の入所している施設で行われる食事観察等に参加し、その結果を踏まえて口腔機能評価に基づく指導を行った場合に、月1回に限り算定する。

3 3については、当該保険医療機関の歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、児童福祉法第42条に規定する障害児入所施設等に入所している患者であって、区分番号C 0 0 1－6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定しているものに対して、当該患者の入所している施設で行われる食事観察等に参加し、その結果を踏まえて口腔機能評価に基づく指導を行った場合に、月1回に限り算定する。

4 4については、当該保険医療機関の歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、自宅での療養を行っている患者であって、区分番号C 0 0 1－3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料、区分番号C 0 0 1－5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料又は区分番号C 0 0 1－6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定しているものに対して、食事観察等を行いその結果を踏まえて、患者又はその看護に当たっている者に口腔機能評価に基づく指導を行った場合に、

が、介護保険法第8条第25項に規定する介護保険施設等に入所している患者であって、区分番号C 0 0 1－3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料又は区分番号C 0 0 1－5に掲げる在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定しているものに対して、当該患者の入所している施設で行われる食事観察等に参加し、その結果を踏まえて口腔機能評価に基づく管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

3 3については、当該保険医療機関の歯科医師が、児童福祉法第42条に規定する障害児入所施設等に入所している患者であって、区分番号C 0 0 1－6に掲げる小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定しているものに対して、当該患者の入所している施設で行われる食事観察等に参加し、その結果を踏まえて口腔機能評価に基づく管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

(新設)

月1回に限り算定する。

5 1から4までについて、区分番号B001—  
2-2に掲げる口腔機能実地指導料を算定して  
いる月は算定できない。

C002 削除

C003 在宅患者訪問薬剤管理指導料

- |                        |      |
|------------------------|------|
| 1 単一建物診療患者が1人の場合       | 650点 |
| 2 単一建物診療患者が2人以上9人以下の場合 | 320点 |
| 3 1及び2以外の場合            | 290点 |

注1 在宅で療養を行っている患者であって通院が困難なものに対して、診療に基づき計画的な医学管理を継続して行い、かつ、薬剤師が訪問して薬学的管理指導を行った場合に、単一建物診療患者（当該患者が居住する建物に居住する者のうち、当該保険医療機関の薬剤師が訪問し薬学的管理指導を行っているものをいう。）の人数に従い、患者1人につき月4回（末期の悪性腫瘍の患者及び中心静脈栄養法の対象患者につ

(新設)

C002 救急搬送診療料

1,300点

- 注1 患者を救急用の自動車で保険医療機関に搬送する際、診療上の必要から当該自動車に同乗して診療を行った場合に算定する。
- 2 注1に規定する場合であって、当該診療に要した時間が30分を超えた場合には、長時間加算として、700点を所定点数に加算する。
- 3 注1に規定する場合であって、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関が、重篤な患者に対して当該診療を行った場合には、重症患者搬送加算として、1,800点を所定点数に加算する。

C003 在宅患者訪問薬剤管理指導料

- |                        |      |
|------------------------|------|
| 1 単一建物診療患者が1人の場合       | 650点 |
| 2 単一建物診療患者が2人以上9人以下の場合 | 320点 |
| 3 1及び2以外の場合            | 290点 |

注1 在宅で療養を行っている患者であって通院が困難なものに対して、診療に基づき計画的な医学管理を継続して行い、かつ、薬剤師が訪問して薬学的管理指導を行った場合に、単一建物診療患者（当該患者が居住する建物に居住する者のうち、当該保険医療機関の薬剤師が訪問し薬学的管理指導を行っているものをいう。）の人数に従い、患者1人につき月4回（末期の悪性腫瘍の患者及び中心静脈栄養法の対象患者につ

いては、週2回かつ月8回)に限り算定する。この場合において、1から3までを合わせて薬剤師1人につき週40回に限り算定できる。

- 2 麻薬の投薬が行われている患者に対して、麻薬の使用に関し、その服用及び保管の状況、副作用の有無等について患者に確認し、必要な薬学的管理指導を行った場合は、1回につき100点を所定点数に加算する。
- 3 在宅患者訪問薬剤管理指導に要した交通費は、患家の負担とする。
- 4 6歳未満の乳幼児に対して、薬剤師が訪問して薬学的管理指導を行った場合には、乳幼児加算として、100点を所定点数に加算する。

#### C 004 削除

#### C 005 削除

いては、週2回かつ月8回)に限り算定する。この場合において、1から3までを合わせて薬剤師1人につき週40回に限り算定できる。

- 2 麻薬の投薬が行われている患者に対して、麻薬の使用に関し、その服用及び保管の状況、副作用の有無等について患者に確認し、必要な薬学的管理指導を行った場合は、1回につき100点を所定点数に加算する。
- 3 在宅患者訪問薬剤管理指導に要した交通費は、患家の負担とする。
- 4 6歳未満の乳幼児に対して、薬剤師が訪問して薬学的管理指導を行った場合には、乳幼児加算として、100点を所定点数に加算する。

#### C 004 退院前在宅療養指導管理料 120点

- 注1 入院中の患者が在宅療養に備えて一時的に外泊するに当たり、当該在宅療養に関する指導管理を行った場合に月1回に限り算定する。
- 2 6歳未満の乳幼児に対して在宅療養に関する指導管理を行った場合は、乳幼児加算として、200点を所定点数に加算する。

#### C 005 在宅麻薬等注射指導管理料 1,500点

- 注1 慢性腫瘍の患者であって、入院中の患者以外の末期の患者に対して、在宅における麻薬等の注射に関する指導管理を行った場合に月1回に限り算定する。
- 2 退院した患者に対して退院の日から1月以内に行った指導管理の費用は算定できない。
- 3 入院中の患者に対して退院時に指導管理を行った場合は、当該退院の日に所定点数を算定し、退院の日の歯科医学的管理に要する費用は、所定点数に含まれる。

(削る)

(削る)

C 0 0 6 削除

C 0 0 7 在宅患者連携指導料

900点

注 1 歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難なものに対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、訪問診療を実施している保険医療機関（診療所及び許可病床数が200床未満の病院に限る。）、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局又は訪問看護ステーションと文書等により情報共有を行うとともに

C 0 0 5 - 2 在宅腫瘍化学療法注射指導管理料 1,500点

注 悪性腫瘍の患者であって、入院中の患者以外の患者に対して、在宅における抗悪性腫瘍剤等の注射に関する指導管理を行った場合に月1回に限り算定する。

C 0 0 5 - 3 在宅悪性腫瘍患者共同指導管理料 1,500点

注 1 別に厚生労働大臣が定める保険医療機関の保険医が、他の保険医療機関において区分番号C 0 0 5に掲げる在宅麻薬等注射指導管理料又は区分番号C 0 0 5 - 2に掲げる在宅腫瘍化学療法注射指導管理料を算定する指導管理を受けている患者に対し、当該他の保険医療機関と連携して、同一日に当該患者に対する麻薬等又は抗悪性腫瘍剤等の注射に関する指導管理を行った場合に算定する。

2 退院した患者に対して退院の日から1月以内に行った指導管理の費用は算定できない。

3 入院中の患者に対して退院時に指導管理を行った場合は、当該退院の日に所定点数を算定し、退院の日の歯科医学的管理に要する費用は、所定点数に含まれる。

C 0 0 6 削除

C 0 0 7 在宅患者連携指導料

900点

注 1 歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師が、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難なものに対して、当該患者又はその家族等の同意を得て、訪問診療を実施している保険医療機関（診療所及び許可病床数が200床未満の病院に限る。）、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局又は訪問看護ステーションと文書等により情報共有を行うとともに

<p>、共有された情報を踏まえて療養上必要な指導を行つた場合に、月1回に限り算定する。</p> <p>2 1回目の歯科訪問診療料を算定する日に行つた指導又は当該歯科訪問診療の日から1月以内に行つた指導の費用は、1回目の歯科訪問診療料に含まれる。</p> <p>3 当該保険医療機関を退院した患者に対して退院の日から起算して1月以内に行つた指導の費用は、第1章第2部第1節に掲げる入院基本料に含まれる。</p> <p>4 区分番号B009に掲げる診療情報提供料(Ⅰ)を算定している患者については算定できない。</p>	<p>、共有された情報を踏まえて療養上必要な指導を行つた場合に、月1回に限り算定する。</p> <p>2 1回目の歯科訪問診療料を算定する日に行つた指導又は当該歯科訪問診療の日から1月以内に行つた指導の費用は、1回目の歯科訪問診療料に含まれる。</p> <p>3 当該保険医療機関を退院した患者に対して退院の日から起算して1月以内に行つた指導の費用は、第1章第2部第1節に掲げる入院基本料に含まれる。</p> <p>4 区分番号B009に掲げる診療情報提供料(Ⅰ)を算定している患者については算定できない。</p>
<p>C008 在宅患者緊急時等カンファレンス料 200点 注 歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、在宅での療養を行つてゐる患者であつて通院が困難なもの状態の急変等に伴い、当該歯科医師の求め又は当該患者の在宅療養を担う保険医療機関の医師の求めにより、訪問診療を実施している保険医療機関の医師、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、介護支援専門員又は相談支援専門員と共同でカンファレンスを行い又はカンファレンスに参加し、それらの者と共同で療養上必要な指導を行つた場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>第3部 検査</p> <p>通則</p> <p>1 検査の費用は、第1節の各区分の所定点数により算定する。ただし、検査に当たつて患者に対し薬剤を施用した場合は</p>	<p>C008 在宅患者緊急時等カンファレンス料 200点 注 歯科訪問診療を実施している保険医療機関の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、在宅での療養を行つてゐる患者であつて通院が困難なもの状態の急変等に伴い、当該歯科医師の求め又は当該患者の在宅療養を担う保険医療機関の医師の求めにより、訪問診療を実施している保険医療機関の医師、訪問薬剤管理指導を実施している保険薬局の保険薬剤師、訪問看護ステーションの保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士、介護支援専門員又は相談支援専門員と共同でカンファレンスを行い又はカンファレンスに参加し、それらの者と共同で療養上必要な指導を行つた場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>第3部 検査</p> <p>通則</p> <p>1 検査の費用は、第1節の各区分の所定点数により算定する。ただし、検査に当たつて患者に対し薬剤を施用した場合は</p>

- 、特に規定する場合を除き、第1節及び第2節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 第1節に掲げられていない検査であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている検査のうちで最も近似する検査の各区分の所定点数により算定する。
  - 3 対称器官に係る検査の各区分の所定点数は、特に規定する場合を除き、両側の器官の検査料に係る点数とする。
  - 4 保険医療機関が、患者の人体から排出され、又は採取された検体について、当該保険医療機関以外の施設に臨床検査技師等に関する法律第2条に規定する検査を委託する場合における検査に要する費用については、別に厚生労働大臣が定めるところにより算定する。
  - 5 第3部に掲げる検査料以外の検査料の算定は、医科点数表の例による。

#### 第1節 検査料

##### 区分

(歯科一般検査)

D 0 0 0	電気的根管長測定検査	30点
	注 2根管以上の歯に対して実施した場合は、2根管目からは1根管を増すごとに15点を所定点数に加算する。	
D 0 0 1	細菌簡易培養検査	60点
	注 感染根管処置後の根管貼薬処置期間中に行なった場合に算定する。	
D 0 0 2	歯周病検査	
1	歯周基本検査	
イ	1歯以上10歯未満	50点
ロ	10歯以上20歯未満	110点
ハ	20歯以上	200点
2	歯周精密検査	
イ	1歯以上10歯未満	100点

- 、特に規定する場合を除き、第1節及び第2節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 第1節に掲げられていない検査であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている検査のうちで最も近似する検査の各区分の所定点数により算定する。
  - 3 対称器官に係る検査の各区分の所定点数は、特に規定する場合を除き、両側の器官の検査料に係る点数とする。
  - 4 保険医療機関が、患者の人体から排出され、又は採取された検体について、当該保険医療機関以外の施設に臨床検査技師等に関する法律第2条に規定する検査を委託する場合における検査に要する費用については、別に厚生労働大臣が定めるところにより算定する。
  - 5 第3部に掲げる検査料以外の検査料の算定は、医科点数表の例による。

#### 第1節 検査料

##### 区分

(歯科一般検査)

D 0 0 0	電気的根管長測定検査	30点
	注 2根管以上の歯に対して実施した場合は、2根管目からは1根管を増すごとに15点を所定点数に加算する。	
D 0 0 1	細菌簡易培養検査	60点
	注 感染根管処置後の根管貼薬処置期間中に行なった場合に算定する。	
D 0 0 2	歯周病検査	
1	歯周基本検査	
イ	1歯以上10歯未満	50点
ロ	10歯以上20歯未満	110点
ハ	20歯以上	200点
2	歯周精密検査	
イ	1歯以上10歯未満	100点

<p>□ 10歯以上20歯未満 220点      ハ 20歯以上 400点</p> <p>3 混合歯列期歯周病検査 80点</p> <p>注 同一の患者につき1月以内に歯周病検査を算定する検査を2回以上行った場合は、第2回目以後の検査については所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。</p> <p>D 002-2からD 002-4まで 削除</p> <p>D 002-5 歯周病部分的再評価検査（1歯につき） 15点</p> <p>注 区分番号J 063に掲げる歯周外科手術を行った部位に対して、歯周病の治癒の状態を評価することを目的として実施した場合に、手術後1回に限り算定する。</p> <p>D 002-6 口腔細菌定量検査（1回につき）</p> <table border="0"> <tr> <td>1 口腔細菌定量検査1</td> <td>130点</td> </tr> <tr> <td>2 口腔細菌定量検査2</td> <td>65点</td> </tr> </table> <p>注1 1について、口腔細菌定量検査を行った場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>2 1について、同一の患者につき1月以内に口腔細菌定量検査を2回以上行った場合は、第2回目以後の検査については所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。</p> <p>3 2について、歯の喪失や加齢等により口腔機能の低下を来している患者に対して口腔細菌定量検査を行った場合（口腔細菌定量検査1を算定する場合を除く。）に、3月に1回に限り算定する。</p>	1 口腔細菌定量検査1	130点	2 口腔細菌定量検査2	65点	<p>□ 10歯以上20歯未満 220点      ハ 20歯以上 400点</p> <p>3 混合歯列期歯周病検査 80点</p> <p>注 同一の患者につき1月以内に歯周病検査を算定する検査を2回以上行った場合は、第2回目以後の検査については所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。</p> <p>D 002-2からD 002-4まで 削除</p> <p>D 002-5 歯周病部分的再評価検査（1歯につき） 15点</p> <p>注 区分番号J 063に掲げる歯周外科手術を行った部位に対して、歯周病の治癒の状態を評価することを目的として実施した場合に、手術後1回に限り算定する。</p> <p>D 002-6 口腔細菌定量検査（1回につき）</p> <table border="0"> <tr> <td>1 口腔細菌定量検査1</td> <td>130点</td> </tr> <tr> <td>2 口腔細菌定量検査2</td> <td>65点</td> </tr> </table> <p>注1 1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、口腔細菌定量検査を行った場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>2 1について、同一の患者につき1月以内に口腔細菌定量検査を2回以上行った場合は、第2回目以後の検査については所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。</p> <p>3 2について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯の喪失や加齢等により口腔機能の低下を来している患者に対して口腔細菌定量検査を行った場合（口腔細菌定量検査1を算定する場合を除く。）に、</p>	1 口腔細菌定量検査1	130点	2 口腔細菌定量検査2	65点
1 口腔細菌定量検査1	130点								
2 口腔細菌定量検査2	65点								
1 口腔細菌定量検査1	130点								
2 口腔細菌定量検査2	65点								

	4 1について、区分番号D 0 0 2に掲げる歯周病検査又は区分番号D 0 0 2－5に掲げる歯周病部分的再評価検査を算定した月は、別に算定できない。
D 0 0 3からD 0 0 8まで 削除	
D 0 0 9 頸運動関連検査（1装置につき1回）	380点
注 頸運動関連検査は、下顎運動路描記法(MMG)、ゴシックアーチ描記法若しくはパントグラフ描記法により検査を行った場合又はチェックバイト検査を実施した場合に算定する。	
D 0 1 0 歯冠補綴時色調採得検査（1枚につき）	10点
注 前歯部に対し、区分番号M 0 1 1に掲げるレジン前装金属冠、区分番号M 0 1 1－2に掲げるレジン前装チタン冠、区分番号M 0 1 5の2に掲げる硬質レジンジャケット冠又は区分番号M 0 1 5－2に掲げるCAD/CAM冠を製作する場合において、硬質レジン部の色調を決定することを目的として、色調見本とともに当該歯冠補綴を行う部位の口腔内写真を撮影した場合に算定する。	
D 0 1 1 有床義歯咀嚼機能検査（1口腔につき）	
1 有床義歯咀嚼機能検査1（1回につき）	
イ 下顎運動測定と咀嚼能力測定を併せて行う場合	560点
ロ 咀嚼能力測定のみを行う場合	140点
2 有床義歯咀嚼機能検査2（1回につき）	
イ 下顎運動測定と咬合圧測定を併せて行う場合	550点
ロ 咬合圧測定のみを行う場合	130点
注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保	

	3月に1回に限り算定する。
D 0 0 3からD 0 0 8まで 削除	
D 0 0 9 頸運動関連検査（1装置につき1回）	380点
注 頸運動関連検査は、下顎運動路描記法(MMG)、ゴシックアーチ描記法若しくはパントグラフ描記法により検査を行った場合又はチェックバイト検査を実施した場合に算定する。	
D 0 1 0 歯冠補綴時色調採得検査（1枚につき）	10点
注 前歯部に対し、区分番号M 0 1 1に掲げるレジン前装金属冠、区分番号M 0 1 1－2に掲げるレジン前装チタン冠、区分番号M 0 1 5の2に掲げる硬質レジンジャケット冠又は区分番号M 0 1 5－2に掲げるCAD/CAM冠を製作する場合において、硬質レジン部の色調を決定することを目的として、色調見本とともに当該歯冠補綴を行う部位の口腔内写真を撮影した場合に算定する。	
D 0 1 1 有床義歯咀嚼機能検査（1口腔につき）	
1 有床義歯咀嚼機能検査1（1回につき）	
イ 下顎運動測定と咀嚼能力測定を併せて行う場合	560点
ロ 咀嚼能力測定のみを行う場合	140点
2 有床義歯咀嚼機能検査2（1回につき）	
イ 下顎運動測定と咬合圧測定を併せて行う場合	550点
ロ 咬合圧測定のみを行う場合	130点
注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保	

険医療機関において、咀嚼機能検査を行った場合に算定する。

- 2 有床義歯等を新製する場合において、新製有床義歯等の装着日前及び当該装着日以後のそれについて、当該検査を実施した場合に算定する。
- 3 新製有床義歯等の装着日前に2回以上行った場合は、第1回目の検査を行ったときに限り算定する。
- 4 新製有床義歯等の装着日以後に行った場合は、新製有床義歯等の装着日の属する月から起算して6月以内を限度として、月1回に限り算定する。
- 5 2については、1を算定した月は算定できない。

#### D 0 1 1 - 2 咀嚼能力検査（1回につき）

- |           |      |
|-----------|------|
| 1 咀嚼能力検査1 | 140点 |
| 2 咀嚼能力検査2 | 140点 |

注1 1について、歯の喪失や加齢等により口腔機能の低下を来している患者に対して、咀嚼能力測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。

2 2について、顎変形症に係る手術を実施する患者に対して、咀嚼能力測定を行った場合は、手術前は1回に限り、手術後は6月に1回に限り算定する。

3 区分番号D 0 1 1に掲げる有床義歯咀嚼機

険医療機関において、咀嚼機能検査を行った場合に算定する。

- 2 有床義歯等を新製する場合において、新製有床義歯等の装着日前及び当該装着日以後のそれについて、当該検査を実施した場合に算定する。
- 3 新製有床義歯等の装着日前に2回以上行った場合は、第1回目の検査を行ったときに限り算定する。
- 4 新製有床義歯等の装着日以後に行った場合は、新製有床義歯等の装着日の属する月から起算して6月以内を限度として、月1回に限り算定する。
- 5 2については、1を算定した月は算定できない。

#### D 0 1 1 - 2 咀嚼能力検査（1回につき）

- |           |      |
|-----------|------|
| 1 咀嚼能力検査1 | 140点 |
| 2 咀嚼能力検査2 | 140点 |

注1 1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯の喪失や加齢等により口腔機能の低下を来している患者に対して、咀嚼能力測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。

2 2について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、顎変形症に係る手術を実施する患者に対して、咀嚼能力測定を行った場合は、手術前は1回に限り、手術後は6月に1回に限り算定する。

3 区分番号D 0 1 1に掲げる有床義歯咀嚼機

能検査を算定した月は、別に算定できない。

4 当該検査を算定した月から起算して3月以内（顎変形症に係る手術後の患者にあっては、6月以内）に行う区分番号D 0 1 1－3に掲げる咬合圧検査は、別に算定できない。

5 1及び2は同時に算定できない。

D 0 1 1－3 咬合圧検査（1回につき）

1 咬合圧検査1 130点

2 咬合圧検査2 130点

注1 1について、歯の喪失や加齢等により口腔機能の低下を来している患者に対して、咬合圧測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。

2 2について、顎変形症に係る手術を実施する患者に対して、咬合圧測定を行った場合は、手術前は1回に限り、手術後は6月に1回に限り算定する。

3 区分番号D 0 1 1に掲げる有床義歯咀嚼機能検査を算定した月は、別に算定できない。

4 当該検査を算定した月から起算して3月以内（顎変形症に係る手術後の患者にあっては、6月以内）に行う区分番号D 0 1 1－2に掲げる咀嚼能力検査は、別に算定できない。

5 1及び2は同時に算定できない。

D 0 1 1－4 小児口唇閉鎖力検査（1回につき） 100点

注 小児口唇閉鎖力測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。

能検査を算定した月は、別に算定できない。

4 当該検査を算定した月から起算して3月以内（顎変形症に係る手術後の患者にあっては、6月以内）に行う区分番号D 0 1 1－3に掲げる咬合圧検査は、別に算定できない。

5 1及び2は同時に算定できない。

D 0 1 1－3 咬合圧検査（1回につき）

1 咬合圧検査1 130点

2 咬合圧検査2 130点

注1 1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯の喪失や加齢等により口腔機能の低下を来している患者に対して、咬合圧測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。

2 2について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、顎変形症に係る手術を実施する患者に対して、咬合圧測定を行った場合は、手術前は1回に限り、手術後は6月に1回に限り算定する。

3 区分番号D 0 1 1に掲げる有床義歯咀嚼機能検査を算定した月は、別に算定できない。

4 当該検査を算定した月から起算して3月以内（顎変形症に係る手術後の患者にあっては、6月以内）に行う区分番号D 0 1 1－2に掲げる咀嚼能力検査は、別に算定できない。

5 1及び2は同時に算定できない。

D 0 1 1－4 小児口唇閉鎖力検査（1回につき） 100点

注 小児口唇閉鎖力測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。

<p><u>D 011-5 口腔粘膜湿润度検査（1回につき）</u> 130点</p> <p>注1 加齢等により口腔機能の低下を来している患者に対して、口腔粘膜湿润度検査を行った場合は、3月に1回に限り算定する。</p> <p>2 注1の規定にかかわらず、放射線治療又は化学療法を原因とした口腔乾燥を来している患者に対して口腔粘膜湿润度検査を行った場合は、3月に1回に限り算定する。</p>	<p>(新設)</p>
<p><u>D 012 舌圧検査（1回につき）</u> 140点</p> <p>注1 舌圧測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。</p> <p>2 注1の規定にかかわらず、区分番号I 017-1-3に掲げる舌接触補助床又は区分番号M 025に掲げる口蓋補綴、顎補綴を装着する患者若しくはJ 109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術の対象となる患者に対して舌圧測定を行った場合は、月2回に限り算定する。</p>	<p><u>D 012 舌圧検査（1回につき）</u> 140点</p> <p>注1 舌圧測定を行った場合は、3月に1回に限り算定する。</p> <p>2 注1の規定にかかわらず、区分番号I 017-1-3に掲げる舌接触補助床又は区分番号M 025に掲げる口蓋補綴、顎補綴を装着する患者若しくはJ 109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術の対象となる患者に対して舌圧測定を行った場合は、月2回に限り算定する。</p>
<p><u>D 013 精密触覚機能検査</u> 460点</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該検査を行った場合に月1回に限り算定する。</p>	<p><u>D 013 精密触覚機能検査</u> 460点</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該検査を行った場合に月1回に限り算定する。</p>
<p><u>D 014 睡眠時歯科筋電図検査（一連につき）</u> 580点</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、睡眠時筋電図検査を行った場合に算定する。</p>	<p><u>D 014 睡眠時歯科筋電図検査（一連につき）</u> 580点</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、睡眠時筋電図検査を行った場合に算定する。</p>
<p>区分</p> <p>D 100 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満</p>	<p>区分</p> <p>D 100 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満</p>

の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注1 薬価が15円以下である場合は、算定できない

。

2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第4部 画像診断

##### 通則

1 画像診断の費用は、第1節の各区分の所定点数により、又は第1節、第2節及び第4節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。

2 同一の部位につき、同時に2枚以上のエックス線撮影を行った場合（第11号の規定により医科点数表の例による場合を含む。）における第1節の診断料（区分番号E000に掲げる写真診断（2のイ及びハ並びに3に係るものに限る。）を除く。）は、第1の診断については第1節の各区分の所定点数により、第2の診断以後の診断については、同節の各区分の所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

3 同一の部位につき、同時に2枚以上同一の方法により、撮影を行った場合（第11号の規定により医科点数表の例による場合を含む。）における第2節の撮影料（区分番号E100に掲げる歯、歯周組織、<sup>くつ</sup>頸骨、口腔軟組織（3に係るものに限る。）を除く。）は、特に規定する場合を除き、第1枚目の撮影については第2節の各区分の所定点数により、第2枚目から第5枚目までの撮影については同節の各区分の所定点数の100分の50に相当する点数により算定し、第6枚目以後の撮影については算定できない。

4 入院中の患者以外の患者について、緊急のために、保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜において、当該保険医療機関内において撮影及び画像診断を行った場合は、時間外緊急院内画像診断加算として、1日につき11

の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注1 薬価が15円以下である場合は、算定できない

。

2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第4部 画像診断

##### 通則

1 画像診断の費用は、第1節の各区分の所定点数により、又は第1節、第2節及び第4節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。

2 同一の部位につき、同時に2枚以上のエックス線撮影を行った場合における第1節の診断料（区分番号E000に掲げる写真診断（3に係るものに限る。）を除く。）は、第1の診断については第1節の各区分の所定点数により、第2の診断以後の診断については、同節の各区分の所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

3 同一の部位につき、同時に2枚以上同一の方法により、撮影を行った場合における第2節の撮影料（区分番号E100に掲げる歯、歯周組織、<sup>くつ</sup>頸骨、口腔軟組織（3に係るものに限る。）を除く。）は、特に規定する場合を除き、第1枚目の撮影については第2節の各区分の所定点数により、第2枚目から第5枚目までの撮影については同節の各区分の所定点数の100分の50に相当する点数により算定し、第6枚目以後の撮影については算定できない。

4 入院中の患者以外の患者について、緊急のために、保険医療機関が表示する診療時間以外の時間、休日又は深夜において、当該保険医療機関内において撮影及び画像診断を行った場合は、時間外緊急院内画像診断加算として、1日につき11

0点を所定点数に加算する。

5 撮影した画像を電子化して管理及び保存した場合においては、電子画像管理加算として、第1号から第3号までにより算定した点数に、一連の撮影について次の点数を加算する。ただし、この場合においては、フィルムの費用は算定できない。

イ 歯科エックス線撮影の場合（1回につき）	10点
ロ 歯科パノラマ断層撮影の場合	95点
ハ 歯科用3次元エックス線断層撮影の場合	120点
ニ 歯科部分パノラマ断層撮影の場合（1口腔 <sup>くわう</sup> 1回につき）	10点
ホ その他の場合	60点

6 区分番号E000に掲げる写真診断（1のイ、2のロ及び3に係るものを除く。）及び区分番号E200に掲げる基本的エックス線診断料については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を文書により報告した場合は、歯科画像診断管理加算1として月1回に限り70点を所定点数に加算する。ただし、歯科画像診断管理加算2を算定する場合はこの限りでない。

7 区分番号E000に掲げる写真診断（3に係るものに限る。）又は通則第11号により医科点数表の区分番号E203に掲げるコンピューター断層診断の例によることとされる画像診断については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を文書により報告した場合は、歯科画像診断管理加算2として、月1回に限り180点を所定点数に加算する。

8 遠隔画像診断による画像診断（区分番号E000に掲げる

0点を所定点数に加算する。

5 撮影した画像を電子化して管理及び保存した場合においては、電子画像管理加算として、第1号から第3号までにより算定した点数に、一連の撮影について次の点数を加算する。ただし、この場合においては、フィルムの費用は算定できない。

イ 歯科エックス線撮影の場合（1回につき）	10点
ロ 歯科パノラマ断層撮影の場合	95点
ハ 歯科用3次元エックス線断層撮影の場合	120点
ニ 歯科部分パノラマ断層撮影の場合（1口腔 <sup>くわう</sup> 1回につき）	10点
ホ その他の場合	60点

6 区分番号E000に掲げる写真診断（1のイ、2のロ及び3に係るものを除く。）及び区分番号E200に掲げる基本的エックス線診断料については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を文書により報告した場合は、歯科画像診断管理加算1として月1回に限り70点を所定点数に加算する。ただし、歯科画像診断管理加算2を算定する場合はこの限りでない。

7 区分番号E000に掲げる写真診断（3に係るものに限る。）又は通則第11号により医科点数表の区分番号E203に掲げるコンピューター断層診断の例によることとされる画像診断については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を文書により報告した場合は、歯科画像診断管理加算2として、月1回に限り180点を所定点数に加算する。

8 遠隔画像診断による画像診断（区分番号E000に掲げる

写真診断（1のイ、2のロ及び3に係るものを除く。）又は区分番号E 2 0 0に掲げる基本的エックス線診断料に限る。）を行った場合については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関で行われた場合に限り算定する。この場合において、受信側の保険医療機関が通則第6号の届出を行った保険医療機関であり、当該保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を送信側の保険医療機関に文書等により報告した場合は、月1回に限り歯科画像診断管理加算1を算定する。ただし、歯科画像診断管理加算2を算定する場合は、この限りでない。

9 遠隔画像診断による画像診断（区分番号E 0 0 0に掲げる写真診断（3に係るものに限る。）又は通則第11号により医科点数表の区分番号E 2 0 3に掲げるコンピューター断層診断の例によることとされる画像診断に限る。）を前号に規定する保険医療機関で行った場合であって、受信側の保険医療機関が通則第7号の届出を行った保険医療機関であり、当該保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を送信側の保険医療機関に文書等により報告した場合は、月1回に限り歯科画像診断管理加算2を算定する。

10 特定機能病院である保険医療機関における入院中の患者に係る診断料及び撮影料は、第3節の所定点数及び当該所定点数に含まれない各項目の所定点数により算定する。

11 第4部に掲げる画像診断料以外の画像診断料の算定は、医科点数表の例による。

#### 第1節 診断料

##### 区分

E 0 0 0 写真診断

1 単純撮影

イ 歯科エックス線撮影

写真診断（1のイ、2のロ及び3に係るものを除く。）又は区分番号E 2 0 0に掲げる基本的エックス線診断料に限る。）を行った場合については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関で行われた場合に限り算定する。この場合において、受信側の保険医療機関が通則第6号の届出を行った保険医療機関であり、当該保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を送信側の保険医療機関に文書等により報告した場合は、月1回に限り歯科画像診断管理加算1を算定する。ただし、歯科画像診断管理加算2を算定する場合は、この限りでない。

9 遠隔画像診断による画像診断（区分番号E 0 0 0に掲げる写真診断（3に係るものに限る。）又は通則第11号により医科点数表の区分番号E 2 0 3に掲げるコンピューター断層診断の例によることとされる画像診断に限る。）を前号に規定する保険医療機関で行った場合であって、受信側の保険医療機関が通則第7号の届出を行った保険医療機関であり、当該保険医療機関において画像診断を専ら担当する常勤の歯科医師が、画像診断を行い、その結果を送信側の保険医療機関に文書等により報告した場合は、月1回に限り歯科画像診断管理加算2を算定する。

10 特定機能病院である保険医療機関における入院中の患者に係る診断料及び撮影料は、第3節の所定点数及び当該所定点数に含まれない各項目の所定点数により算定する。

11 第4部に掲げる画像診断料以外の画像診断料の算定は、医科点数表の例による。

#### 第1節 診断料

##### 区分

E 0 0 0 写真診断

1 単純撮影

イ 歯科エックス線撮影

(1) 全顎撮影の場合	160点
(2) 全顎撮影以外の場合（1枚につき）	20点
ロ その他の場合	85点
<b>2 特殊撮影</b>	
イ 歯科パノラマ断層撮影	125点
ロ 歯科部分パノラマ断層撮影（1口腔 <sup>くう</sup> 1回につき）	20点
ハ イ及びロ以外の場合（一連につき）	96点
<b>3 歯科用3次元エックス線断層撮影</b>	450点
<b>4 造影剤使用撮影</b>	72点
（削る）	

注 3については、撮影の回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

## 第2節 撮影料

### 区分

E 1 0 0 歯、歯周組織、頸骨、口腔軟組織

#### 1 単純撮影

##### イ 歯科エックス線撮影

###### (1) 全顎撮影の場合

① アナログ撮影 250点

② デジタル撮影 252点

###### (2) 全顎撮影以外の場合（1枚につき）

① アナログ撮影 25点

② デジタル撮影 28点

###### ロ その他の場合

(1) 全顎撮影の場合	160点
(2) 全顎撮影以外の場合（1枚につき）	20点
ロ その他の場合	85点
<b>2 特殊撮影</b>	
イ 歯科パノラマ断層撮影	125点
ロ 歯科部分パノラマ断層撮影（1口腔 <sup>くう</sup> 1回につき）	20点
ハ イ及びロ以外の場合（一連につき）	96点
<b>3 歯科用3次元エックス線断層撮影</b>	450点
<b>4 造影剤使用撮影</b>	72点

注1 一連の症状を確認するため、同一部位に対し  
て撮影を行った場合における2枚目以降の撮影  
に係る写真診断（2のイ及びハ並びに3に係る  
ものを除く。）の費用については、各区分の所  
定点数の100分の50に相当する点数により算定  
する。

注2 3については、撮影の回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

## 第2節 撮影料

### 区分

E 1 0 0 歯、歯周組織、頸骨、口腔軟組織

#### 1 単純撮影

##### イ 歯科エックス線撮影

###### (1) 全顎撮影の場合

① アナログ撮影 250点

② デジタル撮影 252点

###### (2) 全顎撮影以外の場合（1枚につき）

① アナログ撮影 25点

② デジタル撮影 28点

###### ロ その他の場合

	(1) アナログ撮影	65点		(1) アナログ撮影	65点
	(2) デジタル撮影	68点		(2) デジタル撮影	68点
2 特殊撮影			2 特殊撮影		
イ 歯科パノラマ断層撮影の場合			イ 歯科パノラマ断層撮影の場合		
(1) アナログ撮影	180点		(1) アナログ撮影	180点	
(2) デジタル撮影	182点		(2) デジタル撮影	182点	
ロ 歯科部分パノラマ断層撮影の場合 (1 口腔 <sup>1</sup> 回につき)	28点		ロ 歯科部分パノラマ断層撮影の場合 (1 口腔 <sup>1</sup> 回につき)	28点	
ハ イ及びロ以外の場合 (一連につき)			ハ イ及びロ以外の場合 (一連につき)		
(1) アナログ撮影	264点		(1) アナログ撮影	264点	
(2) デジタル撮影	266点		(2) デジタル撮影	266点	
3 歯科用 3 次元エックス線断層撮影 (一連につき )	600点		3 歙科用 3 次元エックス線断層撮影 (一連につき )	600点	
4 造影剤使用撮影			4 造影剤使用撮影		
イ アナログ撮影	148点		イ アナログ撮影	148点	
ロ デジタル撮影	150点		ロ デジタル撮影	150点	
注1 1のイについて、咬翼法撮影又は咬合法撮影 を行った場合には、10点を所定点数に加算する 。			注1 1のイについて、咬翼法撮影又は咬合法撮影 を行った場合には、10点を所定点数に加算する 。		
2 新生児 (生後28日未満の者をいう。以下この 表において同じ。) 、3歳未満の乳幼児 (新生 児を除く。) 又は3歳以上6歳未満の幼児に対 して撮影を行った場合は、新生児加算、乳幼児 加算又は幼児加算として、当該撮影の所定点数 にそれぞれ所定点数の100分の80、100分の50又 は100分の30に相当する点数を加算する。			2 新生児 (生後28日未満の者をいう。以下この 表において同じ。) 、3歳未満の乳幼児 (新生 児を除く。) 又は3歳以上6歳未満の幼児に対 して撮影を行った場合は、新生児加算、乳幼児 加算又は幼児加算として、当該撮影の所定点数 にそれぞれ所定点数の100分の80、100分の50又 は100分の30に相当する点数を加算する。		
3 3について、同一月に2回以上行った場合は 、当該月の2回目以降の撮影については、所定 点数にかかわらず、一連につき所定点数の100 分の80に相当する点数により算定する。			3 3について、同一月に2回以上行った場合は 、当該月の2回目以降の撮影については、所定 点数にかかわらず、一連につき所定点数の100 分の80に相当する点数により算定する。		
4 3について、造影剤を使用した場合は、500			4 3について、造影剤を使用した場合は、500		

	点を所定点数に加算する。この場合において、造影剤注入手技料及び麻酔料は、加算点数に含まれる。	
E 1 0 1	造影剤注入手技 第3節 基本的エックス線診断料	120点
区分		
E 2 0 0	基本的エックス線診断料（1日につき）	
	1 入院の日から起算して4週間以内の期間	55点
	2 入院の日から起算して4週間を超えた期間	
		40点
	注1 特定機能病院である保険医療機関において、入院中の患者に対して行ったエックス線診断について算定する。	
	2 次に掲げるエックス線診断の費用は、所定点数に含まれる。	
	イ 区分番号E 0 0 0に掲げる写真診断の1に掲げるもの	
	ロ 区分番号E 1 0 0に掲げる歯、歯周組織、 頸骨、口腔軟組織の1に掲げるもの	
	3 療養病棟に入院している患者及び区分番号A 2 1 6に掲げるH I V感染者療養環境特別加算、区分番号A 2 1 6-2に掲げる特定感染症患者療養環境特別加算若しくは区分番号A 2 1 7に掲げる重症者等療養環境特別加算又は第1章第2部第3節に掲げる特定入院料を算定している患者については適用しない。	
	第4節 フィルム及び造影剤料	
区分		
E 3 0 0	フィルム 注1 6歳未満の乳幼児に対して撮影を行った場合は、材料価格に1.1を乗じて得た額を10円で除	材料価格を10円で除して得た点数
	点を所定点数に加算する。この場合において、造影剤注入手技料及び麻酔料は、加算点数に含まれる。	
E 1 0 1	造影剤注入手技 第3節 基本的エックス線診断料	120点
区分		
E 2 0 0	基本的エックス線診断料（1日につき）	
	1 入院の日から起算して4週間以内の期間	55点
	2 入院の日から起算して4週間を超えた期間	
		40点
	注1 特定機能病院である保険医療機関において、入院中の患者に対して行ったエックス線診断について算定する。	
	2 次に掲げるエックス線診断の費用は、所定点数に含まれる。	
	イ 区分番号E 0 0 0に掲げる写真診断の1に掲げるもの	
	ロ 区分番号E 1 0 0に掲げる歯、歯周組織、 頸骨、口腔軟組織の1に掲げるもの	
	3 療養病棟に入院している患者及び区分番号A 2 1 6に掲げるH I V感染者療養環境特別加算、区分番号A 2 1 6-2に掲げる特定感染症患者療養環境特別加算若しくは区分番号A 2 1 7に掲げる重症者等療養環境特別加算又は第1章第2部第3節に掲げる特定入院料を算定している患者については適用しない。	
	第4節 フィルム及び造影剤料	
区分		
E 3 0 0	フィルム 注1 6歳未満の乳幼児に対して撮影を行った場合は、材料価格に1.1を乗じて得た額を10円で除	材料価格を10円で除して得た点数

して得た点数とする。

- 2 使用したフィルムの材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

E 3 0 1 造影剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注 1 薬価が15円以下である場合は算定できない。

- 2 使用した造影剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

## 第5部 投薬

### 通則

- 1 投薬の費用は、第1節から第3節までの各区分の所定点数を合算した点数により算定する。ただし、処方箋を交付した場合は、第5節の所定点数のみにより算定する。
- 2 投薬に当たって、別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療材料」という。）を支給した場合は、前号により算定した点数及び第4節の所定点数により算定する。
- 3 薬剤師が常時勤務する保険医療機関において投薬を行った場合（処方箋を交付した場合を除く。）は、前2号により算定した点数及び第6節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 4 入院中の患者以外の患者に対して、うがい薬のみを投薬した場合には、区分番号F 0 0 0に掲げる調剤料、区分番号F 1 0 0に掲げる処方料、区分番号F 2 0 0に掲げる薬剤、区分番号F 4 0 0に掲げる処方箋料及び区分番号F 5 0 0に掲げる調剤技術基本料は、算定しない。

## 第1節 調剤料

### 区分

F 0 0 0 調剤料

して得た点数とする。

- 2 使用したフィルムの材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

E 3 0 1 造影剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注 1 薬価が15円以下である場合は算定できない。

- 2 使用した造影剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

## 第5部 投薬

### 通則

- 1 投薬の費用は、第1節から第3節までの各区分の所定点数を合算した点数により算定する。ただし、処方箋を交付した場合は、第5節の所定点数のみにより算定する。
- 2 投薬に当たって、別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療材料」という。）を支給した場合は、前号により算定した点数及び第4節の所定点数により算定する。
- 3 薬剤師が常時勤務する保険医療機関において投薬を行った場合（処方箋を交付した場合を除く。）は、前2号により算定した点数及び第6節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 4 入院中の患者以外の患者に対して、うがい薬のみを投薬した場合には、区分番号F 0 0 0に掲げる調剤料、区分番号F 1 0 0に掲げる処方料、区分番号F 2 0 0に掲げる薬剤、区分番号F 4 0 0に掲げる処方箋料及び区分番号F 5 0 0に掲げる調剤技術基本料は、算定しない。

## 第1節 調剤料

### 区分

F 0 0 0 調剤料

- 1 入院中の患者以外の患者に対して投薬を行った場合  
 イ 内服薬、浸煎薬及び屯服薬（1回の処方に係る調剤につき） 11点  
 ロ 外用薬（1回の処方に係る調剤につき） 8点
- 2 入院中の患者に対して投薬を行った場合（1日につき） 7点  
 注 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料又は毒薬を調剤した場合は、麻薬等加算として、1に係る場合は1処方につき1点を、2に係る場合は1日につき1点をそれぞれ所定点数に加算する。
- 第2節 処方料
- 区分  
 F 1 0 0 処方料
- 1 7種類以上の内服薬の投薬（臨時の投薬であつて、投薬期間が2週間以内のものを除く。）を行った場合 29点  
 2 1以外の場合 42点  
 注1 入院中の患者以外の患者に対する1回の処方について算定する。  
 2 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料又は毒薬を処方した場合は、麻薬等加算として、1処方につき1点を所定点数に加算する。  
 3 入院中の患者に対する処方を行った場合は、当該処方の費用は、第1章第2部第1節に掲げる入院基本料に含まれる。  
 4 3歳未満の乳幼児に対して処方を行った場合は、乳幼児加算として、1処方につき3点を所定点数に加算する。  
 5 診療所又は許可病床数が200床未満の病院で

- 1 入院中の患者以外の患者に対して投薬を行った場合  
 イ 内服薬、浸煎薬及び屯服薬（1回の処方に係る調剤につき） 11点  
 ロ 外用薬（1回の処方に係る調剤につき） 8点
- 2 入院中の患者に対して投薬を行った場合（1日につき） 7点  
 注 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料又は毒薬を調剤した場合は、麻薬等加算として、1に係る場合は1処方につき1点を、2に係る場合は1日につき1点をそれぞれ所定点数に加算する。
- 第2節 処方料
- 区分  
 F 1 0 0 処方料
- 1 7種類以上の内服薬の投薬（臨時の投薬であつて、投薬期間が2週間以内のものを除く。）を行った場合 29点  
 2 1以外の場合 42点  
 注1 入院中の患者以外の患者に対する1回の処方について算定する。  
 2 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料又は毒薬を処方した場合は、麻薬等加算として、1処方につき1点を所定点数に加算する。  
 3 入院中の患者に対する処方を行った場合は、当該処方の費用は、第1章第2部第1節に掲げる入院基本料に含まれる。  
 4 3歳未満の乳幼児に対して処方を行った場合は、乳幼児加算として、1処方につき3点を所定点数に加算する。  
 5 診療所又は許可病床数が200床未満の病院で

ある保険医療機関において、入院中の患者以外の患者（別に厚生労働大臣が定める疾患を主病とするものに限る。）に対して薬剤の処方期間が28日以上の処方を行った場合は、特定疾患処方管理加算として、月1回に限り、1処方につき56点を所定点数に加算する。

6 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（許可病床数が200床以上の病院に限る。）において、治療の開始に当たり投薬の必要性、危険性等について文書により説明を行った上で抗悪性腫瘍剤を処方した場合は、抗悪性腫瘍剤処方管理加算として、月1回に限り1処方につき70点を所定点数に加算する。

7 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において投薬を行った場合には、地域支援・外来医薬品供給対応体制加算として、当該基準に係る区分に従い、1処方につき次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。

イ 地域支援・外来医薬品供給対応体制加算1 8点

ロ 地域支援・外来医薬品供給対応体制加算2 7点

ハ 地域支援・外来医薬品供給対応体制加算3 5点

### 第3節 薬剤料

#### 区分

F 2 0 0 薬剤 薬剤料は、次の各区分ごとに所定単位につき、使用薬剤の薬価が15円以下である場合は1点とし、15円を超える場合は10円又はその端数を増すご

ある保険医療機関において、入院中の患者以外の患者（別に厚生労働大臣が定める疾患を主病とするものに限る。）に対して薬剤の処方期間が28日以上の処方を行った場合は、特定疾患処方管理加算として、月1回に限り、1処方につき56点を所定点数に加算する。

6 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（許可病床数が200床以上の病院に限る。）において、治療の開始に当たり投薬の必要性、危険性等について文書により説明を行った上で抗悪性腫瘍剤を処方した場合は、抗悪性腫瘍剤処方管理加算として、月1回に限り1処方につき70点を所定点数に加算する。

7 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において投薬を行った場合には、外来後発医薬品使用体制加算として、当該基準に係る区分に従い、1処方につき次に掲げる点数をそれぞれ所定点数に加算する。

イ 外来後発医薬品使用体制加算1 8点

ロ 外来後発医薬品使用体制加算2 7点

ハ 外来後発医薬品使用体制加算3 5点

### 第3節 薬剤料

#### 区分

F 2 0 0 薬剤 薬剤料は、次の各区分ごとに所定単位につき、使用薬剤の薬価が15円以下である場合は1点とし、15円を超える場合は10円又はその端数を増すご

とに1点を所定点数に加算する。

使用薬剤 単位

内服薬及び浸煎薬 1剤1日分

屯服薬 1回分

外用薬 1調剤

注1 特別入院基本料等を算定している病棟を有する病院に入院している患者であって入院期間が1年を超えるものに対する同一月の投薬に係る薬剤料と注射に係る薬剤料とを合算して得た点数（以下この表において「合算薬剤料」という。）が、220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数を超える場合（悪性新生物その他の特定の疾患に罹患している患者に対して投薬又は注射を行った場合を除く。）は、当該合算薬剤料は、所定点数にかかわらず、220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数により算定する。

2 1処方につき7種類以上の内服薬の投薬（臨時の投薬であって、投薬期間が2週間以内のものを除く。）を行った場合は、所定点数の100分の90に相当する点数により算定する。

3 健康保険法第85条第1項及び高齢者医療確保法第74条第1項に規定する入院時食事療養費に係る食事療養若しくは健康保険法第85条の2第1項及び高齢者医療確保法第75条第1項に規定する入院時生活療養費に係る生活療養を受けている患者又は入院中の患者以外の患者に対して投与されたビタミン剤については、当該患者の疾患又は症状の原因がビタミンの欠乏又は代謝異常であることが明らかであり、かつ、必要なビタミンを食事により摂取することが困難であ

とに1点を所定点数に加算する。

使用薬剤 単位

内服薬及び浸煎薬 1剤1日分

屯服薬 1回分

外用薬 1調剤

注1 特別入院基本料等を算定している病棟を有する病院に入院している患者であって入院期間が1年を超えるものに対する同一月の投薬に係る薬剤料と注射に係る薬剤料とを合算して得た点数（以下この表において「合算薬剤料」という。）が、220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数を超える場合（悪性新生物その他の特定の疾患に罹患している患者に対して投薬又は注射を行った場合を除く。）は、当該合算薬剤料は、所定点数にかかわらず、220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数により算定する。

2 1処方につき7種類以上の内服薬の投薬（臨時の投薬であって、投薬期間が2週間以内のものを除く。）を行った場合は、所定点数の100分の90に相当する点数により算定する。

3 健康保険法第85条第1項及び高齢者医療確保法第74条第1項に規定する入院時食事療養費に係る食事療養若しくは健康保険法第85条の2第1項及び高齢者医療確保法第75条第1項に規定する入院時生活療養費に係る生活療養を受けている患者又は入院中の患者以外の患者に対して投与されたビタミン剤については、当該患者の疾患又は症状の原因がビタミンの欠乏又は代謝異常であることが明らかであり、かつ、必要なビタミンを食事により摂取することが困難であ

る場合その他これに準ずる場合であって、歯科医師が当該ビタミン剤の投与が有効であると判断したときを除き、これを算定しない。

4 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第4節 特定保険医療材料料

##### 区分

F 3 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 支給した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第5節 処方箋料

##### 区分

F 4 0 0 処方箋料  
1 7種類以上の内服薬の投薬（臨時の投薬であつて、投薬期間が2週間以内のものを除く。）を行った場合 32点  
2 1以外の場合 60点  
注1 保険薬局において調剤を受けるために処方箋を交付した場合に、交付1回につき算定する。  
2 3歳未満の乳幼児に対して処方を行った場合は、乳幼児加算として、処方箋の交付1回につき3点を所定点数に加算する。

3 診療所又は許可病床数が200床未満の病院である保険医療機関において、入院中の患者以外の患者（別に厚生労働大臣が定める疾患を主病とするものに限る。）に対して薬剤の処方期間が28日以上の処方（リフィル処方箋の複数回の使用による合計の処方期間が28日以上の処方を含む。）を行った場合は、特定疾患処方管理加算として、月1回に限り、1処方につき56点を所定点数に加算する。

る場合その他これに準ずる場合であって、歯科医師が当該ビタミン剤の投与が有効であると判断したときを除き、これを算定しない。

4 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第4節 特定保険医療材料料

##### 区分

F 3 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 支給した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第5節 処方箋料

##### 区分

F 4 0 0 処方箋料  
1 7種類以上の内服薬の投薬（臨時の投薬であつて、投薬期間が2週間以内のものを除く。）を行った場合 32点  
2 1以外の場合 60点  
注1 保険薬局において調剤を受けるために処方箋を交付した場合に、交付1回につき算定する。  
2 3歳未満の乳幼児に対して処方を行った場合は、乳幼児加算として、処方箋の交付1回につき3点を所定点数に加算する。  
3 診療所又は許可病床数が200床未満の病院である保険医療機関において、入院中の患者以外の患者（別に厚生労働大臣が定める疾患を主病とするものに限る。）に対して薬剤の処方期間が28日以上の処方（リフィル処方箋の複数回の使用による合計の処方期間が28日以上の処方を含む。）を行った場合は、特定疾患処方管理加算として、月1回に限り、1処方につき56点を所定点数に加算する。

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（許可病床数が200床以上の病院に限る。）において、治療の開始に当たり投薬の必要性、危険性等について文書により説明を行った上で抗悪性腫瘍剤に係る処方箋を交付した場合は、抗悪性腫瘍剤処方管理加算として、月1回に限り、処方箋の交付1回につき70点を所定点数に加算する。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、薬剤の一般的な名称を記載する処方箋を交付した場合は、当該処方箋の内容に応じ、次に掲げる点数を処方箋の交付1回につきそれぞれ所定点数に加算する。

イ 一般名処方加算 1 8点

ロ 一般名処方加算 2 6点

6 1及び2について、直近3月に処方箋を交付した回数が一定以上である保険医療機関が、別表第三調剤報酬点数表区分番号00調剤基本料に掲げる特別調剤基本料Aを算定する薬局であって、当該保険医療機関から集中的に処方箋を受け付けているものと不動産取引等その他の特別な関係を有する場合は、1又は2の所定点数に代えて、それぞれ29点又は42点を算定する。

#### 第6節 調剤技術基本料

##### 区分

###### F 5 0 0 調剤技術基本料

- 1 入院中の患者に投薬を行った場合 42点  
2 その他の患者に投薬を行った場合 14点

注1 薬剤師が常時勤務する保険医療機関において投薬を行った場合（処方箋を交付した場合を除

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関（許可病床数が200床以上の病院に限る。）において、治療の開始に当たり投薬の必要性、危険性等について文書により説明を行った上で抗悪性腫瘍剤に係る処方箋を交付した場合は、抗悪性腫瘍剤処方管理加算として、月1回に限り、処方箋の交付1回につき70点を所定点数に加算する。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、薬剤の一般的な名称を記載する処方箋を交付した場合は、当該処方箋の内容に応じ、次に掲げる点数を処方箋の交付1回につきそれぞれ所定点数に加算する。

イ 一般名処方加算 1 10点

ロ 一般名処方加算 2 8点

6 1及び2について、直近3月に処方箋を交付した回数が一定以上である保険医療機関が、別表第三調剤報酬点数表区分番号00調剤基本料に掲げる特別調剤基本料Aを算定する薬局であって、当該保険医療機関から集中的に処方箋を受け付けているものと不動産取引等その他の特別な関係を有する場合は、1又は2の所定点数に代えて、それぞれ29点又は42点を算定する。

#### 第6節 調剤技術基本料

##### 区分

###### F 5 0 0 調剤技術基本料

- 1 入院中の患者に投薬を行った場合 42点  
2 その他の患者に投薬を行った場合 14点

注1 薬剤師が常時勤務する保険医療機関において投薬を行った場合（処方箋を交付した場合を除

く。)に算定する。

2 同一の患者につき同一月内に調剤技術基本料を算定すべき投薬を2回以上行った場合においては、調剤技術基本料は月1回に限り算定する。

3 1において、調剤を院内製剤の上行った場合は、院内製剤加算として、10点を所定点数に加算する。

4 区分番号B008に掲げる薬剤管理指導料又は区分番号C003に掲げる在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定している患者については、算定できない。

## 第6部 注射

### 通則

- 1 注射の費用は、第1節及び第2節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 注射に当たって、別に厚生労働大臣が定める保険医療材料(以下この部において「特定保険医療材料」という。)を使用した場合は、前号により算定した点数及び第3節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 3 生物学的製剤注射を行った場合は、生物学的製剤注射加算として、15点を前2号により算定した点数に加算する。
- 4 精密持続点滴注射を行った場合は、精密持続点滴注射加算として、1日につき80点を前3号により算定した点数に加算する。
- 5 注射に当たって、麻薬を使用した場合は、麻薬注射加算として、5点を前各号により算定した点数に加算する。
- 6 区分番号G001に掲げる静脈内注射、G002に掲げる動脈注射、G004に掲げる点滴注射、G005に掲げる中心静脈注射又はG006に掲げる植込型カテーテルによる中心静脈注射について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に

く。)に算定する。

2 同一の患者につき同一月内に調剤技術基本料を算定すべき投薬を2回以上行った場合においては、調剤技術基本料は月1回に限り算定する。

3 1において、調剤を院内製剤の上行った場合は、院内製剤加算として、10点を所定点数に加算する。

4 区分番号B008に掲げる薬剤管理指導料又は区分番号C003に掲げる在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定している患者については、算定できない。

## 第6部 注射

### 通則

- 1 注射の費用は、第1節及び第2節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 注射に当たって、別に厚生労働大臣が定める保険医療材料(以下この部において「特定保険医療材料」という。)を使用した場合は、前号により算定した点数及び第3節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 3 生物学的製剤注射を行った場合は、生物学的製剤注射加算として、15点を前2号により算定した点数に加算する。
- 4 精密持続点滴注射を行った場合は、精密持続点滴注射加算として、1日につき80点を前3号により算定した点数に加算する。
- 5 注射に当たって、麻薬を使用した場合は、麻薬注射加算として、5点を前各号により算定した点数に加算する。
- 6 区分番号G001に掲げる静脈内注射、G002に掲げる動脈注射、G004に掲げる点滴注射、G005に掲げる中心静脈注射又はG006に掲げる植込型カテーテルによる中心静脈注射について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に

適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者（悪性腫瘍を主病とする患者を除く。）に対して、治療の開始に当たり注射の必要性、危険性等について文書により説明を行った上で化学療法を行った場合は、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を、それぞれ1日につき前各号により算定した点数に加算する。

イ 外来化学療法加算 1

- |                 |      |
|-----------------|------|
| (1) 15歳未満の患者の場合 | 670点 |
| (2) 15歳以上の患者の場合 | 450点 |

ロ 外来化学療法加算 2

- |                 |      |
|-----------------|------|
| (1) 15歳未満の患者の場合 | 640点 |
| (2) 15歳以上の患者の場合 | 370点 |

7 入院中の患者以外の患者に対する注射に当たって、当該患者に対し、バイオ後続品に係る説明を行い、バイオ後続品を使用した場合は、バイオ後続品導入初期加算として、当該バイオ後続品の初回の使用日の属する月から起算して3月を限度として、月1回に限り150点を所定点数に加算する。

8 第1節に掲げられていない注射であって簡単なものの費用は、第2節の各区分の所定点数のみにより算定し、特殊なものの費用は、第1節に掲げられている注射のうちで最も近似する注射の各区分の所定点数により算定する。

9 注射に伴って行った反応試験の費用は、第1節の各区分の所定点数に含まれる。

第1節 注射料

通則

注射料は、第1款及び第2款の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。

第1款 注射実施料

区分

G 0 0 0 皮内、皮下及び筋肉内注射（1回につき） 25点

適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者（悪性腫瘍を主病とする患者を除く。）に対して、治療の開始に当たり注射の必要性、危険性等について文書により説明を行った上で化学療法を行った場合は、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を、それぞれ1日につき前各号により算定した点数に加算する。

イ 外来化学療法加算 1

- |                 |      |
|-----------------|------|
| (1) 15歳未満の患者の場合 | 670点 |
| (2) 15歳以上の患者の場合 | 450点 |

ロ 外来化学療法加算 2

- |                 |      |
|-----------------|------|
| (1) 15歳未満の患者の場合 | 640点 |
| (2) 15歳以上の患者の場合 | 370点 |

7 入院中の患者以外の患者に対する注射に当たって、当該患者に対し、バイオ後続品に係る説明を行い、バイオ後続品を使用した場合は、バイオ後続品導入初期加算として、当該バイオ後続品の初回の使用日の属する月から起算して3月を限度として、月1回に限り150点を所定点数に加算する。

8 第1節に掲げられていない注射であって簡単なものの費用は、第2節の各区分の所定点数のみにより算定し、特殊なものの費用は、第1節に掲げられている注射のうちで最も近似する注射の各区分の所定点数により算定する。

9 注射に伴って行った反応試験の費用は、第1節の各区分の所定点数に含まれる。

第1節 注射料

通則

注射料は、第1款及び第2款の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。

第1款 注射実施料

区分

G 0 0 0 皮内、皮下及び筋肉内注射（1回につき） 25点

	<p>注 入院中の患者以外の患者に対して行った場合に算定する。</p> <p>G 001 静脈内注射（1回につき） 37点</p> <p>注1 入院中の患者以外の患者に対して行った場合に算定する。</p> <p>2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、52点を所定点数に加算する。 (削る)</p>	<p>注 入院中の患者以外の患者に対して行った場合に算定する。</p> <p>G 001 静脈内注射（1回につき） 37点</p> <p>注1 入院中の患者以外の患者に対して行った場合に算定する。</p> <p>2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、52点を所定点数に加算する。</p> <p><u>3 区分番号C 005に掲げる在宅麻薬等注射指導管理料、区分番号C 005-2に掲げる在宅腫瘍化学療法注射指導管理料又は区分番号C 005-3に掲げる在宅悪性腫瘍患者共同指導管理料を算定している患者について、区分番号C 000に掲げる歯科訪問診療料を算定する日に併せて行った静脈内注射の費用は算定しない。</u></p>
G 002	動脈注射（1日につき）	
	1 内臓の場合 186点	1 内臓の場合 155点
	2 その他の場合 45点	2 その他の場合 45点
G 003	抗悪性腫瘍剤局所持続注入（1日につき） 165点	抗悪性腫瘍剤局所持続注入（1日につき） 165点
	注 皮下植込型カテーテルアクセス等を用いて抗悪性腫瘍剤を動脈内又は静脈内に局所持続注入した場合に算定する。	注 皮下植込型カテーテルアクセス等を用いて抗悪性腫瘍剤を動脈内又は静脈内に局所持続注入した場合に算定する。
G 004	点滴注射（1日につき）	点滴注射（1日につき）
	1 6歳未満の乳幼児に対するもの（1日分の注射量が100mL以上の場合） 105点	1 6歳未満の乳幼児に対するもの（1日分の注射量が100mL以上の場合） 105点
	2 1に掲げる者以外の者に対するもの（1日分の注射量が500mL以上の場合） 102点	2 1に掲げる者以外の者に対するもの（1日分の注射量が500mL以上の場合） 102点
	3 その他の場合（入院中の患者以外の患者に限る。） 53点	3 その他の場合（入院中の患者以外の患者に限る。） 53点
	注1 点滴に係る管理に要する費用は、所定点数に含まれる。	注1 点滴に係る管理に要する費用は、所定点数に含まれる。
	2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳	2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳

幼児加算として、48点を所定点数に加算する。

- 3 血漿成分製剤の注射を行う場合であって、  
1回目の注射に当たって、患者に対して注射の  
必要性、危険性等について文書による説明を行  
ったときは、血漿成分製剤加算として、当該  
注射を行った日に限り、50点を所定点数に加算  
する。

(削る)

G 0 0 5 中心静脈注射（1日につき） 140点

- 注1 血漿成分製剤の注射を行う場合であって、  
1回目の注射に当たって、患者に対して注射の  
必要性、危険性等について文書による説明を行  
ったときは、血漿成分製剤加算として、当該  
注射を行った日に限り、50点を所定点数に加算  
する。
- 2 中心静脈注射の費用を算定した患者につい  
ては、同一日に行われた区分番号G 0 0 4に掲げ  
る点滴注射の費用は算定しない。
- 3 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳  
幼児加算として、50点を所定点数に加算する。  
(削る)

幼児加算として、48点を所定点数に加算する。

- 3 血漿成分製剤の注射を行う場合であって、  
1回目の注射に当たって、患者に対して注射の  
必要性、危険性等について文書による説明を行  
ったときは、血漿成分製剤加算として、当該  
注射を行った日に限り、50点を所定点数に加算  
する。

- 4 区分番号C 0 0 5に掲げる在宅麻薬等注射指  
導管理料、区分番号C 0 0 5-2に掲げる在宅  
腫瘍化学療法注射指導管理料又は区分番号C 0  
0 5-3に掲げる在宅悪性腫瘍患者共同指導管  
理料を算定している患者について、区分番号C  
0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定する日に  
併せて行った点滴注射の費用は算定しない。

G 0 0 5 中心静脈注射（1日につき） 140点

- 注1 血漿成分製剤の注射を行う場合であって、  
1回目の注射に当たって、患者に対して注射の  
必要性、危険性等について文書による説明を行  
ったときは、血漿成分製剤加算として、当該  
注射を行った日に限り、50点を所定点数に加算  
する。

- 2 中心静脈注射の費用を算定した患者につい  
ては、同一日に行われた区分番号G 0 0 4に掲げ  
る点滴注射の費用は算定しない。

- 3 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳  
幼児加算として、50点を所定点数に加算する。

- 4 区分番号C 0 0 5に掲げる在宅麻薬等注射指  
導管理料、区分番号C 0 0 5-2に掲げる在宅  
腫瘍化学療法注射指導管理料又は区分番号C 0  
0 5-3に掲げる在宅悪性腫瘍患者共同指導管  
理料を算定している患者について、区分番号C

G 0 0 5 – 2 中心静脈注射用カテーテル挿入 1,400点  
注 1 カテーテルの挿入に伴う検査及び画像診断の費用は、所定点数に含まれる。  
2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、600点を所定点数に加算する。  
3 別に厚生労働大臣が定める患者に対して静脈切開法を用いて行った場合は、静脈切開法加算として、2,000点を所定点数に加算する。

G 0 0 5 – 3 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入 700点  
注 1 カテーテルの挿入に伴う検査及び画像診断の費用は、所定点数に含まれる。  
2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、600点を所定点数に加算する。

G 0 0 6 植込型カテーテルによる中心静脈注射（1日につき） 125点  
(削除)

注 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、50点を所定点数に加算する。

0 0 0 に掲げる歯科訪問診療料を算定する日に併せて行った中心静脈注射の費用は算定しない

G 0 0 5 – 2 中心静脈注射用カテーテル挿入 1,400点  
注 1 カテーテルの挿入に伴う検査及び画像診断の費用は、所定点数に含まれる。  
2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、500点を所定点数に加算する。  
3 別に厚生労働大臣が定める患者に対して静脈切開法を用いて行った場合は、静脈切開法加算として、2,000点を所定点数に加算する。

G 0 0 5 – 3 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入 700点  
注 1 カテーテルの挿入に伴う検査及び画像診断の費用は、所定点数に含まれる。  
2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、500点を所定点数に加算する。

G 0 0 6 植込型カテーテルによる中心静脈注射（1日につき） 125点  
注 1 区分番号C 0 0 5に掲げる在宅麻薬等注射指導管理料、区分番号C 0 0 5 – 2に掲げる在宅腫瘍化学療法注射指導管理料又は区分番号C 0 0 5 – 3に掲げる在宅悪性腫瘍患者共同指導管理料を算定している患者について、区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定する日に併せて行った植込型カテーテルによる中心静脈注射の費用は算定しない。  
2 6歳未満の乳幼児に対して行った場合は、乳幼児加算として、50点を所定点数に加算する。

G 007	関節腔内注射 <sup>くつう</sup> のうせん	80点	G 007	関節腔内注射 <sup>くつう</sup> のうせん	80点
G 008	滑液囊穿刺後の注入 <sup>かくれいのう</sup> のうしり	100点	G 008	滑液囊穿刺後の注入 <sup>かくれいのう</sup> のうしり	100点
第2款 無菌製剤処理料					
区分					
G 020	無菌製剤処理料		G 020	無菌製剤処理料	
1	無菌製剤処理料1 (悪性腫瘍に対して用いる薬剤が注射される一部の患者)		1	無菌製剤処理料1 (悪性腫瘍に対して用いる薬剤が注射される一部の患者)	
イ	閉鎖式接続器具を使用した場合	180点	イ	閉鎖式接続器具を使用した場合	180点
ロ	イ以外の場合	45点	ロ	イ以外の場合	45点
2	無菌製剤処理料2 (1以外のもの)	40点	2	無菌製剤処理料2 (1以外のもの)	40点
<u>注1</u>	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、動脈注射、抗悪性腫瘍剤局所持続注入、点滴注射、中心静脈注射又は植込型カテーテルによる中心静脈注射を行う際に、別に厚生労働大臣が定める患者に対して使用する薬剤について、必要があって無菌製剤処理が行われた場合は、当該患者に係る区分に従い1日につき所定点数を算定する。		<u>注</u>	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、動脈注射、抗悪性腫瘍剤局所持続注入、点滴注射、中心静脈注射又は植込型カテーテルによる中心静脈注射を行う際に、別に厚生労働大臣が定める患者に対して使用する薬剤について、必要があって無菌製剤処理が行われた場合は、当該患者に係る区分に従い1日につき所定点数を算定する。	
<u>2</u>	<u>別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合している保険医療機関において、1のイを実施した場合に、閉鎖式接続器具を用いて無菌製剤処理を行い、かつ、患者への投与時にも閉鎖式接続器具を用いた場合は、投与時閉鎖式接続器具使用加算として、150点を所定点数に加算する</u>		(新設)		
第2節 薬剤料					
区分					
G 100	薬剤		G 100	薬剤	
1	薬価が1回分使用量につき15円以下である場合		1	薬価が1回分使用量につき15円以下である場合	

1点

2 薬価が1回分使用量につき15円を超える場合

薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数

注1 特別入院基本料等を算定している病棟を有する病院に入院している患者であって入院期間が1年を超えるものに対する合算薬剤料が、220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数を超える場合（悪性新生物その他の特定の疾患に罹患している患者に対して投薬又は注射を行った場合を除く。）は、当該合算薬剤料は所定点数にかかわらず220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数により算定する。

2 健康保険法第85条第1項及び高齢者医療確保法第74条第1項に規定する入院時食事療養費に係る食事療養又は健康保険法第85条の2第1項及び高齢者医療確保法第75条第1項に規定する入院時生活療養費に係る生活療養の食事の提供たる療養を受けている患者又は入院中の患者以外の患者に対して投与されたビタミン剤については、当該患者の疾患又は症状の原因がビタミンの欠乏又は代謝異常であることが明らかであり、かつ、必要なビタミンを食事により摂取することが困難である場合その他これに準ずる場合であって、歯科医師が当該ビタミン剤の注射が有効であると判断したときを除き、これを算定しない。

3 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

1点

2 薬価が1回分使用量につき15円を超える場合

薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数

注1 特別入院基本料等を算定している病棟を有する病院に入院している患者であって入院期間が1年を超えるものに対する合算薬剤料が、220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数を超える場合（悪性新生物その他の特定の疾患に罹患している患者に対して投薬又は注射を行った場合を除く。）は、当該合算薬剤料は所定点数にかかわらず220点にその月における当該患者の入院日数を乗じて得た点数により算定する。

2 健康保険法第85条第1項及び高齢者医療確保法第74条第1項に規定する入院時食事療養費に係る食事療養又は健康保険法第85条の2第1項及び高齢者医療確保法第75条第1項に規定する入院時生活療養費に係る生活療養の食事の提供たる療養を受けている患者又は入院中の患者以外の患者に対して投与されたビタミン剤については、当該患者の疾患又は症状の原因がビタミンの欠乏又は代謝異常であることが明らかであり、かつ、必要なビタミンを食事により摂取することが困難である場合その他これに準ずる場合であって、歯科医師が当該ビタミン剤の注射が有効であると判断したときを除き、これを算定しない。

3 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第3節 特定保険医療材料料

#### 区分

G 2 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第7部 リハビリテーション

#### 通則

- 1 リハビリテーションの費用は、特に規定する場合を除き、疾病、部位又は部位数にかかわらず、1日につき第1節の各区分の所定点数により算定する。
- 2 リハビリテーションに当たって薬剤を使用した場合は、前号により算定した点数及び第2節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 3 第1節に掲げられていないリハビリテーションであって特殊なものの費用は、同節に掲げられているリハビリテーションのうちで最も近似するリハビリテーションの各区分の所定点数により算定する。
- 4 脳血管疾患等リハビリテーション料又は廃用症候群リハビリテーション料については、患者の疾患等を勘案し、適当な区分1つに限り算定できる。この場合、患者の疾患、状態等を総合的に勘案し、治療上有効であると医学的に判断される場合であって、患者1人につき1日6単位（別に厚生労働大臣が定める患者については1日9単位）に限り算定できるものとする。

#### 第1節 リハビリテーション料

#### 区分

H 0 0 0 脳血管疾患等リハビリテーション料

- |  |      |
|--|------|
| 1 脳血管疾患等リハビリテーション料 <sup>(1)</sup> (1単位 ) |      |
| イ 理学療法士による場合                             | 245点 |
| ロ 作業療法士による場合                             | 245点 |

### 第3節 特定保険医療材料料

#### 区分

G 2 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第7部 リハビリテーション

#### 通則

- 1 リハビリテーションの費用は、特に規定する場合を除き、疾病、部位又は部位数にかかわらず、1日につき第1節の各区分の所定点数により算定する。
- 2 リハビリテーションに当たって薬剤を使用した場合は、前号により算定した点数及び第2節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 3 第1節に掲げられていないリハビリテーションであって特殊なものの費用は、同節に掲げられているリハビリテーションのうちで最も近似するリハビリテーションの各区分の所定点数により算定する。
- 4 脳血管疾患等リハビリテーション料又は廃用症候群リハビリテーション料については、患者の疾患等を勘案し、適当な区分1つに限り算定できる。この場合、患者の疾患、状態等を総合的に勘案し、治療上有効であると医学的に判断される場合であって、患者1人につき1日6単位（別に厚生労働大臣が定める患者については1日9単位）に限り算定できるものとする。

#### 第1節 リハビリテーション料

#### 区分

H 0 0 0 脳血管疾患等リハビリテーション料

- |  |      |
|--|------|
| 1 脳血管疾患等リハビリテーション料 <sup>(1)</sup> (1単位 ) |      |
| イ 理学療法士による場合                             | 245点 |
| ロ 作業療法士による場合                             | 245点 |

ハ 言語聴覚士による場合	245点
ニ 歯科医師による場合	245点
2 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ (1単位)	
)	
イ 理学療法士による場合	200点
ロ 作業療法士による場合	200点
ハ 言語聴覚士による場合	200点
ニ 歯科医師による場合	200点
3 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅲ (1単位)	
)	
イ 理学療法士による場合	100点
ロ 作業療法士による場合	100点
ハ 言語聴覚士による場合	100点
ニ 歯科医師による場合	100点
ホ イからニまで以外の場合	100点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、当該基準に係る区分に従って、それぞれ発症、手術若しくは急性増悪又は最初に診断された日から180日を限度として所定点数を算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める患者について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合その他の別に厚生労働大臣が定める場合には、180日を超えて所定点数を算定することができる。
- 2 注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、入院した日から起

ハ 言語聴覚士による場合	245点
ニ 歯科医師による場合	245点
2 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ (1単位)	
)	
イ 理学療法士による場合	200点
ロ 作業療法士による場合	200点
ハ 言語聴覚士による場合	200点
ニ 歯科医師による場合	200点
3 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅲ (1単位)	
)	
イ 理学療法士による場合	100点
ロ 作業療法士による場合	100点
ハ 言語聴覚士による場合	100点
ニ 歯科医師による場合	100点
ホ イからニまで以外の場合	100点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、当該基準に係る区分に従って、それぞれ発症、手術若しくは急性増悪又は最初に診断された日から180日を限度として所定点数を算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める患者について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合その他の別に厚生労働大臣が定める場合には、180日を超えて所定点数を算定することができる。
- 2 注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、それぞれ発症、手

算して14日を限度として、早期リハビリテーション加算として、1単位につき60点（起算日から4日目以降は1単位につき25点）を所定点数に加算する。ただし、他の保険医療機関から転院してきた患者については、転院前の保険医療機関に入院した日を起算日とする。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、それぞれ発症、手術又は急性増悪から14日を限度として、初期加算として、1単位につき45点を更に所定点数に加算する。

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者（入院中のものに限る。）であって、リハビリテーションを実施する日において別に厚生労働大臣が定める患者であるものに対してリハビリテーションを行った場合は、発症、手術又は急性増悪から14日を限度として、急性期リハビリテーション加算として、1単位につき50点を更に所定点数に加算する。

5 注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって入院中のもの又は入院中の患者以外の患者（脳卒中の患者であって、当該保険医療機関を退院したもの又は他の保険医療機関を退院したもの（第1章第2部第2節の通則第2号により医科点数表の例によることとされる

術又は急性増悪から30日を限度として、早期リハビリテーション加算として、1単位につき25点を所定点数に加算する。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、それぞれ発症、手術又は急性増悪から14日を限度として、初期加算として、1単位につき45点を更に所定点数に加算する。

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者（入院中のものに限る。）であって、リハビリテーションを実施する日において別に厚生労働大臣が定める患者であるものに対してリハビリテーションを行った場合は、発症、手術又は急性増悪から14日を限度として、急性期リハビリテーション加算として、1単位につき50点を更に所定点数に加算する。

(新設)

医科点数表の区分番号A 2 4 6に掲げる入退院支援加算の注4に規定する地域連携診療計画加算を算定した患者に限る。)に限る。)に対して、休日にリハビリテーションを行った場合は、それぞれ発症、手術又は急性増悪から30日目までを限度として、休日リハビリテーション加算として、1単位につき25点を所定点数に加算する。

6 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって、要介護被保険者等以外のものに対して、必要があつてそれぞれ発症、手術若しくは急性増悪又は最初に診断された日から180日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り、算定できるものとする。

7 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって、入院中の要介護被保険者等に対して、必要があつてそれぞれ発症、手術若しくは急性増悪又は最初に診断された日から180日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り、注1に規定する施設基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を算定できるものとする。

イ 脳血管疾患等リハビリテーション料① (1  
単位)

- (1) 理学療法士による場合 147点
- (2) 作業療法士による場合 147点
- (3) 言語聴覚士による場合 147点
- (4) 歯科医師による場合 147点

ロ 脳血管疾患等リハビリテーション料② (1  
単位)

5 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって、要介護被保険者等以外のものに対して、必要があつてそれぞれ発症、手術若しくは急性増悪又は最初に診断された日から180日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り、算定できるものとする。

6 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって、入院中の要介護被保険者等に対して、必要があつてそれぞれ発症、手術若しくは急性増悪又は最初に診断された日から180日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り、注1に規定する施設基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を算定できるものとする。

イ 脳血管疾患等リハビリテーション料① (1  
単位)

- (1) 理学療法士による場合 147点
- (2) 作業療法士による場合 147点
- (3) 言語聴覚士による場合 147点
- (4) 歯科医師による場合 147点

ロ 脳血管疾患等リハビリテーション料② (1  
単位)

	(1) 理学療法士による場合	120点		(1) 理学療法士による場合	120点
	(2) 作業療法士による場合	120点		(2) 作業療法士による場合	120点
	(3) 言語聴覚士による場合	120点		(3) 言語聴覚士による場合	120点
	(4) 歯科医師による場合	120点		(4) 歯科医師による場合	120点
	ハ 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅲ (1 単位)			ハ 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅲ (1 単位)	
	(1) 理学療法士による場合	60点		(1) 理学療法士による場合	60点
	(2) 作業療法士による場合	60点		(2) 作業療法士による場合	60点
	(3) 言語聴覚士による場合	60点		(3) 言語聴覚士による場合	60点
	(4) 歯科医師による場合	60点		(4) 歯科医師による場合	60点
	(5) (1)から(4)まで以外の場合	60点		(5) (1)から(4)まで以外の場合	60点
8	<u>1から3まで及び注7にかかわらず、特定の患者に離床を伴わずに20分以上個別療法であるリハビリテーションを行った場合は、所定点数の100分の90に相当する点数により算定する。</u> <u>この場合、通則第4号にかかわらず、患者1人につき1日2単位まで算定する。</u>		(新設)		
H 0 0 0 - 2	削除		H 0 0 0 - 2	削除	
H 0 0 0 - 3	廃用症候群リハビリテーション料		H 0 0 0 - 3	廃用症候群リハビリテーション料	
1	廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ (1 単位)		1	廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ (1 単位)	
イ	理学療法士による場合	180点	イ	理学療法士による場合	180点
ロ	作業療法士による場合	180点	ロ	作業療法士による場合	180点
ハ	言語聴覚士による場合	180点	ハ	言語聴覚士による場合	180点
ニ	歯科医師による場合	180点	ニ	歯科医師による場合	180点
2	廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ (1 単位)		2	廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ (1 単位)	
イ	理学療法士による場合	146点	イ	理学療法士による場合	146点
ロ	作業療法士による場合	146点	ロ	作業療法士による場合	146点
ハ	言語聴覚士による場合	146点	ハ	言語聴覚士による場合	146点
ニ	歯科医師による場合	146点	ニ	歯科医師による場合	146点
3	廃用症候群リハビリテーション料Ⅲ (1 单位)		3	廃用症候群リハビリテーション料Ⅲ (1 単位)	
イ	理学療法士による場合	77点	イ	理学療法士による場合	77点

ロ 作業療法士による場合	77点
ハ 言語聴覚士による場合	77点
ニ 歯科医師による場合	77点
ホ イからニまで以外の場合	77点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める基準に適合している保険医療機関において、急性疾患等に伴う安静による廃用症候群の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力及び日常生活能力の低下を来しているものに対して個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、当該基準に係る区分に従って、それぞれ廃用症候群の診断又は急性増悪から120日を限度として所定点数を算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める患者について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合その他の別に厚生労働大臣が定める場合には、120日を超えて所定点数を算定することができる。
- 2 注1本文に規定する患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、入院した日から起算して14日を限度として、早期リハビリテーション加算として、1単位につき60点（入院した日から起算して4日目以降は1単位につき25点）を所定点数に加算する。ただし、他の保険医療機関から転院してきた患者については、転院前の保険医療機関に入院した日を起算日とする。
- 3 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、注1本文に規定する患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、当該患者の廃用症候群

ロ 作業療法士による場合	77点
ハ 言語聴覚士による場合	77点
ニ 歯科医師による場合	77点
ホ イからニまで以外の場合	77点

- 注1 別に厚生労働大臣が定める基準に適合している保険医療機関において、急性疾患等に伴う安静による廃用症候群の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力及び日常生活能力の低下を来しているものに対して個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、当該基準に係る区分に従って、それぞれ廃用症候群の診断又は急性増悪から120日を限度として所定点数を算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める患者について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合その他の別に厚生労働大臣が定める場合には、120日を超えて所定点数を算定することができる。
- 2 注1本文に規定する患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、当該患者の廃用症候群に係る急性疾患等の発症、手術若しくは急性増悪又は当該患者の廃用症候群の急性増悪から30日を限度として、早期リハビリテーション加算として、1単位につき25点を所定点数に加算する。
- 3 別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、注1本文に規定する患者であって入院中のものに対してリハビリテーションを行った場合は、当該患者の廃用症候群

に係る急性疾患等の発症、手術若しくは急性増悪又は当該患者の廃用症候群の急性増悪から14日を限度として、初期加算として、1単位につき45点を更に所定点数に加算する。

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、注1本文に規定する患者（入院中のものに限る。）であって、リハビリテーションを実施する日において別に厚生労働大臣が定める患者であるものに対してリハビリテーションを行った場合は、当該患者の廃用症候群に係る急性疾患等の発症、手術若しくは急性増悪又は当該患者の廃用症候群の急性増悪から14日を限度として、急性期リハビリテーション加算として、1単位につき50点を更に所定点数に加算する。

5 注1本文に規定する別に厚生労働大臣が定める患者であって入院中のものに対して、休日にリハビリテーションを行った場合は、当該患者の廃用症候群に係る急性疾患等の発症、手術若しくは急性増悪又は当該患者の廃用症候群の急性増悪から30日目までを限度として、休日リハビリテーション加算として、1単位につき25点を所定点数に加算する。

6 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規定する患者であって、要介護被保険者等以外のものに対して、必要があつてそれぞれ廃用症候群の診断又は急性増悪から120日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り算定できるものとする。

7 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規

に係る急性疾患等の発症、手術若しくは急性増悪又は当該患者の廃用症候群の急性増悪から14日を限度として、初期加算として、1単位につき45点を更に所定点数に加算する。

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、注1本文に規定する患者（入院中のものに限る。）であって、リハビリテーションを実施する日において別に厚生労働大臣が定める患者であるものに対してリハビリテーションを行った場合は、当該患者の廃用症候群に係る急性疾患等の発症、手術若しくは急性増悪又は当該患者の廃用症候群の急性増悪から14日を限度として、急性期リハビリテーション加算として、1単位につき50点を更に所定点数に加算する。

(新設)

5 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規定する患者であって、要介護被保険者等以外のものに対して、必要があつてそれぞれ廃用症候群の診断又は急性増悪から120日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り算定できるものとする。

6 注1本文の規定にかかわらず、注1本文に規

定する患者であって、入院中の要介護被保険者等に対して、必要があつてそれぞれ廃用症候群の診断又は急性増悪から120日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り、注1に規定する施設基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を算定できるものとする。

イ 廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ（1単位）

- |                |      |
|----------------|------|
| (1) 理学療法士による場合 | 108点 |
| (2) 作業療法士による場合 | 108点 |
| (3) 言語聴覚士による場合 | 108点 |
| (4) 歯科医師による場合  | 108点 |

ロ 廃用症候群リハビリテーション料Ⅲ（1単位）

- |                |     |
|----------------|-----|
| (1) 理学療法士による場合 | 88点 |
| (2) 作業療法士による場合 | 88点 |
| (3) 言語聴覚士による場合 | 88点 |
| (4) 歯科医師による場合  | 88点 |

ハ 廃用症候群リハビリテーション料Ⅳ（1単位）

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| (1) 理学療法士による場合      | 46点 |
| (2) 作業療法士による場合      | 46点 |
| (3) 言語聴覚士による場合      | 46点 |
| (4) 歯科医師による場合       | 46点 |
| (5) (1)から(4)まで以外の場合 | 46点 |

8 1から3まで及び注7にかかわらず、特定の患者に離床を伴わずに20分以上個別療法であるリハビリテーションを行った場合は、所定点数の100分の90に相当する点数により算定する。  
この場合、通則第4号にかかわらず、患者1人につき1日2単位まで算定する。

定する患者であつて、入院中の要介護被保険者等に対して、必要があつてそれぞれ廃用症候群の診断又は急性増悪から120日を超えてリハビリテーションを行った場合は、1月13単位に限り、注1に規定する施設基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を算定できるものとする。

イ 廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ（1単位）

- |                |      |
|----------------|------|
| (1) 理学療法士による場合 | 108点 |
| (2) 作業療法士による場合 | 108点 |
| (3) 言語聴覚士による場合 | 108点 |
| (4) 歯科医師による場合  | 108点 |

ロ 廃用症候群リハビリテーション料Ⅲ（1単位）

- |                |     |
|----------------|-----|
| (1) 理学療法士による場合 | 88点 |
| (2) 作業療法士による場合 | 88点 |
| (3) 言語聴覚士による場合 | 88点 |
| (4) 歯科医師による場合  | 88点 |

ハ 廃用症候群リハビリテーション料Ⅳ（1単位）

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| (1) 理学療法士による場合      | 46点 |
| (2) 作業療法士による場合      | 46点 |
| (3) 言語聴覚士による場合      | 46点 |
| (4) 歯科医師による場合       | 46点 |
| (5) (1)から(4)まで以外の場合 | 46点 |

（新設）

H 0 0 1 摂食機能療法（1日につき）

- |            |      |
|------------|------|
| 1 30分以上の場合 | 185点 |
| 2 30分未満の場合 | 130点 |

注1 1については、摂食機能障害を有する患者に対して、1月に4回に限り算定する。ただし、治療開始日から起算して3月以内の患者については、1日につき算定できる。

2 2については、脳卒中の患者であって、摂食機能障害を有するものに対して、脳卒中の発症から14日以内に限り、1日につき算定できる。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、摂食機能又は嚥下機能の回復に必要な指導管理を行った場合は、摂食嚥下機能回復体制加算として、当該基準に係る区分に従い、患者（ハについては、療養病棟入院料1又は療養病棟入院料2を現に算定しているものに限る。）1人につき週1回に限り次に掲げる点数を所定点数に加算する。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| イ 摂食嚥下機能回復体制加算1 | 210点 |
| ロ 摂食嚥下機能回復体制加算2 | 190点 |
| ハ 摂食嚥下機能回復体制加算3 | 120点 |

4 治療開始日から起算して3月を超えた場合においては、摂食機能療法と区分番号H 0 0 1－2に掲げる歯科口腔リハビリテーション料1（2及び3に限る。）を合わせて月6回に限り算定する。

H 0 0 1－2 歯科口腔リハビリテーション料1（1口腔につき）

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 1 有床義歯の場合<br>(削る) | 114点 |
|-------------------|------|

H 0 0 1 摂食機能療法（1日につき）

- |            |      |
|------------|------|
| 1 30分以上の場合 | 185点 |
| 2 30分未満の場合 | 130点 |

注1 1については、摂食機能障害を有する患者に対して、1月に4回に限り算定する。ただし、治療開始日から起算して3月以内の患者については、1日につき算定できる。

2 2については、脳卒中の患者であって、摂食機能障害を有するものに対して、脳卒中の発症から14日以内に限り、1日につき算定できる。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、摂食機能又は嚥下機能の回復に必要な指導管理を行った場合は、摂食嚥下機能回復体制加算として、当該基準に係る区分に従い、患者（ハについては、療養病棟入院料1又は療養病棟入院料2を現に算定しているものに限る。）1人につき週1回に限り次に掲げる点数を所定点数に加算する。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| イ 摂食嚥下機能回復体制加算1 | 210点 |
| ロ 摂食嚥下機能回復体制加算2 | 190点 |
| ハ 摂食嚥下機能回復体制加算3 | 120点 |

4 治療開始日から起算して3月を超えた場合においては、摂食機能療法と区分番号H 0 0 1－2に掲げる歯科口腔リハビリテーション料1（2及び3に限る。）を合わせて月6回に限り算定する。

H 0 0 1－2 歯科口腔リハビリテーション料1（1口腔につき）

- |                       |      |
|-----------------------|------|
| 1 有床義歯の場合<br>イ ロ以外の場合 | 104点 |
|-----------------------|------|

<p>(削る)</p> <table border="0"> <tr> <td><u>2 舌接触補助床の場合</u></td> <td>194点</td> </tr> <tr> <td><u>3 小児保険装置の場合</u></td> <td><u>180点</u></td> </tr> <tr> <td><u>4 その他の場合</u></td> <td>189点</td> </tr> </table> <p>注 1 1については、有床義歯を装着している患者に対して、月1回に限り算定する。</p> <p>2 2については、区分番号I017-1-3に掲げる舌接触補助床を装着している患者に対して、月4回に限り算定する。</p> <p><u>3 3については、区分番号M016-2に掲げる小児保険装置を装着している患者に対して、月1回に限り算定する。</u></p> <p><u>4 4については、区分番号M025に掲げる口蓋補綴、顎補綴により算定した装置を装着している患者に対して、月4回に限り算定する。</u></p> <p><u>5 2及び4について、区分番号H001に掲げる摂食機能療法を算定した日は、歯科口腔リハビリテーション料1は算定できない。</u></p> <p><u>6 2及び4について、区分番号H001に掲げる摂食機能療法の治療開始日から起算して3月を超えた場合においては、当該摂食機能療法と歯科口腔リハビリテーション料1を合わせて月6回に限り算定する。</u></p> <p>H001-3 歯科口腔リハビリテーション料2 (1口腔につき)  <u>1 口腔内装置を装着している場合</u> 54点  <u>2 1以外の場合</u> 70点</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、<u>頸関節症</u>を有する患者に対して、療養上必要な指導又は訓練を行った場合に、月1回</p>	<u>2 舌接触補助床の場合</u>	194点	<u>3 小児保険装置の場合</u>	<u>180点</u>	<u>4 その他の場合</u>	189点	<p>口 困難な場合 124点</p> <table border="0"> <tr> <td><u>2 舌接触補助床の場合</u></td> <td>194点</td> </tr> <tr> <td>(新設)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>3 その他の場合</u></td> <td>189点</td> </tr> </table> <p>注 1 1については、有床義歯を装着している患者に対して、月1回に限り算定する。</p> <p>2 2については、区分番号I017-1-3に掲げる舌接触補助床を装着している患者に対して、月4回に限り算定する。</p> <p>(新設)</p> <p><u>3 3については、区分番号M025に掲げる口蓋補綴、顎補綴により算定した装置を装着している患者に対して、月4回に限り算定する。</u></p> <p><u>4 2及び3について、区分番号H001に掲げる摂食機能療法を算定した日は、歯科口腔リハビリテーション料1は算定できない。</u></p> <p><u>5 2及び3について、区分番号H001に掲げる摂食機能療法の治療開始日から起算して3月を超えた場合においては、当該摂食機能療法と歯科口腔リハビリテーション料1を合わせて月6回に限り算定する。</u></p> <p>H001-3 歯科口腔リハビリテーション料2 (1口腔につき)  <u>1 口腔内装置を装着している場合</u> 54点</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、<u>頸関節治療用装置を装着している患者</u>に対して、月1回に限り算定する。</p>	<u>2 舌接触補助床の場合</u>	194点	(新設)		<u>3 その他の場合</u>	189点
<u>2 舌接触補助床の場合</u>	194点												
<u>3 小児保険装置の場合</u>	<u>180点</u>												
<u>4 その他の場合</u>	189点												
<u>2 舌接触補助床の場合</u>	194点												
(新設)													
<u>3 その他の場合</u>	189点												

<p>に限り算定する。</p> <p>H 0 0 1-4 歯科口腔リハビリテーション料 3 (1 口腔につき )</p> <p>1 口腔機能の発達不全を有する18歳未満の患者の場合 50点</p> <p>2 口腔機能の低下を来している患者の場合 50点</p> <p>注 1 1については、区分番号B 0 0 0 - 4 - 2に掲げる小児口腔機能管理料又は区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料を算定する患者に対して、口腔機能の獲得を目的として、療養上必要な指導及び訓練を行った場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>2 2については、区分番号B 0 0 0 - 4 - 3に掲げる口腔機能管理料又は区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料を算定する患者に対して、口腔機能の回復又は維持を目的として、療養上必要な指導及び訓練を行った場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>3 区分番号H 0 0 1に掲げる摂食機能療法を算定した日は、歯科口腔リハビリテーション料3は算定できない。</p> <p>H 0 0 2 障害児(者)リハビリテーション料 (1単位)</p> <p>1 6歳未満の患者の場合 225点</p> <p>2 6歳以上18歳未満の患者の場合 195点</p> <p>3 18歳以上の患者の場合 155点</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、患者1人につき1日6単位まで算定する。</p>	<p>H 0 0 1-4 歯科口腔リハビリテーション料 3 (1 口腔につき )</p> <p>1 口腔機能の発達不全を有する18歳未満の患者の場合 50点</p> <p>2 口腔機能の低下を来している患者の場合 50点</p> <p>注 1 1については、区分番号B 0 0 0 - 4 - 2に掲げる小児口腔機能管理料又は区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料を算定する患者に対して、口腔機能の獲得を目的として、療養上必要な指導及び訓練を行った場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>2 2については、区分番号B 0 0 0 - 4 - 3に掲げる口腔機能管理料又は区分番号C 0 0 1 - 3に掲げる歯科疾患在宅療養管理料を算定する患者に対して、口腔機能の回復又は維持を目的として、療養上必要な指導及び訓練を行った場合に、月2回に限り算定する。</p> <p>3 区分番号H 0 0 1に掲げる摂食機能療法を算定した日は、歯科口腔リハビリテーション料3は算定できない。</p> <p>H 0 0 2 障害児(者)リハビリテーション料 (1単位)</p> <p>1 6歳未満の患者の場合 225点</p> <p>2 6歳以上18歳未満の患者の場合 195点</p> <p>3 18歳以上の患者の場合 155点</p> <p>注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、患者1人につき1日6単位まで算定する。</p>
--	--

H 0 0 3	がん患者リハビリテーション料（1単位）	205点
注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者であって、がんの治療のために入院しているものに対して、個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、患者1人につき1日6単位まで算定する。		
H 0 0 8	集団コミュニケーション療法料（1単位）	50点
注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、集団コミュニケーション療法である言語聴覚療法を行った場合に、患者1人につき1日3単位まで算定する。		
第2節 薬剤料		
区分		
H 1 0 0	薬剤	薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。
注 1 薬価が15円以下である場合は、算定できない。 2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。		
第8部 処置		
通則		
1 処置の費用は、第1節の各区分の所定点数により算定する。 2 処置に当たって、第2節に掲げる医療機器等、薬剤又は別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において		

H 0 0 3	がん患者リハビリテーション料（1単位）	205点
注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者であって、がんの治療のために入院しているものに対して、個別療法であるリハビリテーションを行った場合に、患者1人につき1日6単位まで算定する。		
H 0 0 8	集団コミュニケーション療法料（1単位）	50点
注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、集団コミュニケーション療法である言語聴覚療法を行った場合に、患者1人につき1日3単位まで算定する。		
第2節 薬剤料		
区分		
H 1 0 0	薬剤	薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。
注 1 薬価が15円以下である場合は、算定できない。 2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。		
第8部 処置		
通則		
1 処置の費用は、第1節の各区分の所定点数により算定する。 2 処置に当たって、第2節に掲げる医療機器等、薬剤又は別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において		

「特定保険医療材料」という。)を使用した場合(別に厚生労働大臣が定める薬剤(以下この部において「特定薬剤」という。)にあっては、120点以上の処置若しくは特に規定する処置に使用した場合又は特定保険医療材料にあっては、特に規定する処置に使用した場合を除く。)は、前号により算定した点数及び第2節から第5節までの所定点数を合算した点数により算定する。

- 3 第1節に掲げられていない処置であって簡単なもののは費用は、薬剤又は特定保険医療材料を使用したときに限り、第3節、第4節又は第5節の所定点数のみにより算定する。
- 4 第1節に掲げられていない処置であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている処置のうちで最も近似する処置の各区分の所定点数により算定する。
- 5 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して、処置を行った場合は、全身麻酔下で行った場合を除き、次に掲げる点数を、それぞれ当該処置の所定点数に加算する。ただし、通則第8号又は第9号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。
  - イ 処置(区分番号I005(1及び2に限る。)に掲げる抜髓、区分番号I006(1及び2に限る。)に掲げる感染根管処置、区分番号I017に掲げる口腔内装置、区分番号I017-1-2に掲げる睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置、区分番号I017-1-3に掲げる舌接触補助床及び区分番号I017-1-4に掲げる術後即時顎補綴装置を除く。)を行った場合  
所定点数の100分の50に相当する点数
  - ロ 区分番号I005(1及び2に限る。)に掲げる抜髓又は区分番号I006(1及び2に限る。)に掲げる感染根管処置を行った場合  
所定点数の100分の30に相当する点数
- 6 緊急のために休日に処置を行った場合又は処置の開始時間

「特定保険医療材料」という。)を使用した場合(別に厚生労働大臣が定める薬剤(以下この部において「特定薬剤」という。)にあっては、120点以上の処置若しくは特に規定する処置に使用した場合又は特定保険医療材料にあっては、特に規定する処置に使用した場合を除く。)は、前号により算定した点数及び第2節から第5節までの所定点数を合算した点数により算定する。

- 3 第1節に掲げられていない処置であって簡単なもののは費用は、薬剤又は特定保険医療材料を使用したときに限り、第3節、第4節又は第5節の所定点数のみにより算定する。
- 4 第1節に掲げられていない処置であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている処置のうちで最も近似する処置の各区分の所定点数により算定する。
- 5 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して、処置を行った場合は、全身麻酔下で行った場合を除き、次に掲げる点数を、それぞれ当該処置の所定点数に加算する。ただし、通則第8号又は第9号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。
  - イ 処置(区分番号I005(1及び2に限る。)に掲げる抜髓、区分番号I006(1及び2に限る。)に掲げる感染根管処置、区分番号I017に掲げる口腔内装置、区分番号I017-1-2に掲げる睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置、区分番号I017-1-3に掲げる舌接触補助床及び区分番号I017-1-4に掲げる術後即時顎補綴装置を除く。)を行った場合  
所定点数の100分の50に相当する点数
  - ロ 区分番号I005(1及び2に限る。)に掲げる抜髓又は区分番号I006(1及び2に限る。)に掲げる感染根管処置を行った場合  
所定点数の100分の30に相当する点数
- 6 緊急のために休日に処置を行った場合又は処置の開始時間

が保険医療機関の表示する診療時間以外の時間若しくは深夜である場合は、次に掲げる点数を、それぞれ所定点数に加算した点数により算定する。

イ 処置の所定点数が1,000点以上の場合であって、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合

- (1) 休日加算1 所定点数の100分の160に相当する点数
- (2) 時間外加算1 (入院中の患者以外の患者に対して行われる場合に限る。)

所定点数の100分の80に相当する点数

- (3) 深夜加算1 所定点数の100分の160に相当する点数

(4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して、処置の開始時間が同注のただし書に規定する時間である処置を行った場合 所定点数の100分の80に相当する点数

ロ 処置の所定点数が150点以上の場合であって、入院中の患者以外の患者に対し行われる場合（イに該当する場合を除く。）

- (1) 休日加算2 所定点数の100分の80に相当する点数

- (2) 時間外加算2 所定点数の100分の40に相当する点数

- (3) 深夜加算2 所定点数の100分の80に相当する点数

(4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、処置の開始時間が同注のただし書に規定する時間である処置を行った場合 所定点数の100分の40に相当する点数

7 120点以上の処置又は特に規定する処置の所定点数は、当該処置に当たって、表面麻酔、浸潤麻酔又は簡単な伝達麻酔を行った場合の費用を含む。ただし、区分番号I001に掲

が保険医療機関の表示する診療時間以外の時間若しくは深夜である場合は、次に掲げる点数を、それぞれ所定点数に加算した点数により算定する。

イ 処置の所定点数が1,000点以上の場合であって、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合

- (1) 休日加算1 所定点数の100分の160に相当する点数
- (2) 時間外加算1 (入院中の患者以外の患者に対して行われる場合に限る。)

所定点数の100分の80に相当する点数

- (3) 深夜加算1 所定点数の100分の160に相当する点数

(4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して、処置の開始時間が同注のただし書に規定する時間である処置を行った場合 所定点数の100分の80に相当する点数

ロ 処置の所定点数が150点以上の場合であって、入院中の患者以外の患者に対し行われる場合（イに該当する場合を除く。）

- (1) 休日加算2 所定点数の100分の80に相当する点数

- (2) 時間外加算2 所定点数の100分の40に相当する点数

- (3) 深夜加算2 所定点数の100分の80に相当する点数

(4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、処置の開始時間が同注のただし書に規定する時間である処置を行った場合 所定点数の100分の40に相当する点数

7 120点以上の処置又は特に規定する処置の所定点数は、当該処置に当たって、表面麻酔、浸潤麻酔又は簡単な伝達麻酔を行った場合の費用を含む。ただし、区分番号I004の1

げる歯髓保護処置（1又は2に限る。）、区分番号I004に掲げる生活歯髓切断又は区分番号I005に掲げる抜歯を行いう場合の当該麻酔に当たって使用した薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣の定めるところにより算定できる。

8 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定する患者であって、同注9に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定しないものに対して、歯科訪問診療時に処置を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該処置の所定点数に加算する。

イ 区分番号I005（3に限る。）に掲げる抜歯又は区分番号I006（3に限る。）に掲げる感染根管処置を行った場合 所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号I005（1及び2に限る。）に掲げる抜歯又は区分番号I006（1及び2に限る。）に掲げる感染根管処置を行った場合

所定点数の100分の30に相当する点数

9 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料及び同注9に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者に対して、歯科訪問診療時に処置を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該処置の所定点数に加算する。

イ 処置（区分番号I005（1及び2に限る。）に掲げる抜歯、区分番号I006（1及び2に限る。）に掲げる感染根管処置、区分番号I017に掲げる口腔内装置、区分番号I017-1-2に掲げる睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置、区分番号I017-1-3に掲げる舌接触補助床及び区分番号I017-1-4に掲げる術後即時頸補綴装置を除く。）を行った場合

所定点数の100分の50に相当する点数

ロ 区分番号I005（1及び2に限る。）に掲げる抜歯又は区分番号I006（1及び2に限る。）に掲げる感染根

に掲げる生活歯髓切断又は区分番号I005に掲げる抜歯を行う場合の当該麻酔に当たって使用した薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣の定めるところにより算定できる。

8 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定する患者であって、同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定しないものに対して、歯科訪問診療時に処置を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該処置の所定点数に加算する。

イ 区分番号I005（3に限る。）に掲げる抜歯又は区分番号I006（3に限る。）に掲げる感染根管処置を行った場合 所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号I005（1及び2に限る。）に掲げる抜歯又は区分番号I006（1及び2に限る。）に掲げる感染根管処置を行った場合

所定点数の100分の30に相当する点数

9 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料及び同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者に対して、歯科訪問診療時に処置を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該処置の所定点数に加算する。

イ 処置（区分番号I005（1及び2に限る。）に掲げる抜歯、区分番号I006（1及び2に限る。）に掲げる感染根管処置、区分番号I017に掲げる口腔内装置、区分番号I017-1-2に掲げる睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置、区分番号I017-1-3に掲げる舌接触補助床及び区分番号I017-1-4に掲げる術後即時頸補綴装置を除く。）を行った場合

所定点数の100分の50に相当する点数

ロ 区分番号I005（1及び2に限る。）に掲げる抜歯又は区分番号I006（1及び2に限る。）に掲げる感染根

### 管処置を行った場合

所定点数の100分の30に相当する点数

- 10 区分番号A 0 0 0 に掲げる初診料の注9又は区分番号A 0 0 2 に掲げる再診料の注7に規定する地域歯科医療加算を算定した患者に対して、巡回診療時に処置を行った場合は、所定点数の100分の30に相当する点数を、当該処置の所定点数に加算する。ただし、通則第5号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。

#### 第1節 処置料

##### 区分

(歯の疾患の処置)

- I 0 0 0 単純処置（1歯1回につき） 18点  
注 貼薬、仮封及び特定薬剤の費用並びに特定保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- I 0 0 0-2 咬合調整  
1 1歯以上10歯未満 40点  
2 10歯以上 60点
- I 0 0 0-3 残根削合（1歯1回につき） 18点  
注 貼薬、仮封及び特定薬剤の費用並びに特定保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- I 0 0 1 齧保護処置（1歯につき）  
1 齧温存療法 200点  
2 直接齧保護処置 154点  
3 間接齧保護処置 38点  
注 1 齧温存療法を行った場合の経過観察中の区分番号I 0 0 0 に掲げる単純処置の費用は、所定点数に含まれる。  
2 特定薬剤の費用及び特定保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- I 0 0 1-2 象牙質レジンコーティング（1歯につき） 46点  
注 区分番号M 0 0 1 の1に掲げる生活歯歯冠形成

### 管処置を行った場合

所定点数の100分の30に相当する点数

(新設)

#### 第1節 処置料

##### 区分

(歯の疾患の処置)

- I 0 0 0 う蝕処置（1歯1回につき） 18点  
注 貼薬、仮封及び特定薬剤の費用並びに特定保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- I 0 0 0-2 咬合調整  
1 1歯以上10歯未満 40点  
2 10歯以上 60点
- I 0 0 0-3 残根削合（1歯1回につき） 18点  
注 貼薬、仮封及び特定薬剤の費用並びに特定保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- I 0 0 1 齧保護処置（1歯につき）  
1 齧温存療法 200点  
2 直接齧保護処置 154点  
3 間接齧保護処置 38点  
注 1 齧温存療法を行った場合の経過観察中の区分番号I 0 0 0 に掲げるう蝕処置の費用は、所定点数に含まれる。  
2 特定薬剤の費用及び特定保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- I 0 0 1-2 象牙質レジンコーティング（1歯につき） 46点  
注 区分番号M 0 0 1 の1に掲げる生活歯歯冠形成

	を行った場合、当該補綴に係る補綴物の歯冠形成から <u>印象採得</u> までの一連の行為につき1回に限り算定する。	
I 002	知覚過敏処置（1口腔1回につき）	
1	3歯まで	46点
2	4歯以上	56点
	注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。	
I 002-2	う蝕薬物塗布処置（1口腔1回につき）	
1	3歯まで	46点
2	4歯以上	56点
	注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。	
I 003	初期う蝕早期充填処置（1歯につき）	134点
	注 小窩裂溝の清掃、歯面の前処理及び填塞の費用は、所定点数に含まれる。	
I 004	生活歯髄切断（1歯につき）	233点
	（削る）	
	（削る）	
	注1 永久歯の歯根完成期以前及び乳歯の歯髄につき、生活歯髄切断を行った場合は、42点を所定点数に加算する。	
	2 歯髄保護処置の費用は、所定点数に含まれる。	
I 005	拔髄（1歯につき）	
1	単根管	234点
2	2根管	426点
3	3根管以上	600点
	注1 区分番号I 001の1に掲げる歯髄温存療法を行った日から起算して3月以内に当該処置を行った場合は、その区分に従い、42点、234点又は408点を算定する。	
	2 区分番号I 001の2に掲げる直接歯髄保護	
	を行った場合、当該補綴に係る補綴物の歯冠形成から <u>装着</u> までの一連の行為につき1回に限り算定する。	
I 002	知覚過敏処置（1口腔1回につき）	
1	3歯まで	46点
2	4歯以上	56点
	注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。	
I 002-2	う蝕薬物塗布処置（1口腔1回につき）	
1	3歯まで	46点
2	4歯以上	56点
	注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。	
I 003	初期う蝕早期充填処置（1歯につき）	134点
	注 小窩裂溝の清掃、歯面の前処理及び填塞の費用は、所定点数に含まれる。	
I 004	歯髄切断（1歯につき）	
1	<u>生活歯髄切断</u>	233点
2	<u>失活歯髄切断</u>	72点
	注1 永久歯の歯根完成期以前及び乳歯の歯髄につき、 <u>1</u> の生活歯髄切断を行った場合は、42点を所定点数に加算する。	
	2 歯髄保護処置の費用は、所定点数に含まれる。	
I 005	拔髄（1歯につき）	
1	単根管	234点
2	2根管	426点
3	3根管以上	600点
	注1 区分番号I 001の1に掲げる歯髄温存療法を行った日から起算して3月以内に当該処置を行った場合は、その区分に従い、42点、234点又は408点を算定する。	
	2 区分番号I 001の2に掲げる直接歯髄保護	

処置を行った日から起算して1月以内に当該処置を行った場合は、その区分に従い、80点、27点又は446点を算定する。

3 麻酔（通則第7号に規定する麻酔に限る。）の費用（麻酔に当たって使用した薬剤の薬価を除く。）及び特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 006 感染根管処置（1歯につき）

1 単根管	160点
2 2根管	310点
3 3根管以上	450点

注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 007 根管貼薬処置（1歯1回につき）

1 単根管	33点
2 2根管	41点
3 3根管以上	57点

注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 008 根管充填（1歯につき）

1 単根管	72点
2 2根管	94点
3 3根管以上	122点

注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 008-2 加圧根管充填処置（1歯につき）

1 単根管	150点
2 2根管	180点
3 3根管以上	230点

注1 区分番号M000-2に掲げるクラウン・ブリッジ維持管理料の注1により当該管理料を算定する旨を地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において算定する。

2 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

処置を行った日から起算して1月以内に当該処置を行った場合は、その区分に従い、80点、27点又は446点を算定する。

3 麻酔（通則第7号に規定する麻酔に限る。）の費用（麻酔に当たって使用した薬剤の薬価を除く。）及び特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 006 感染根管処置（1歯につき）

1 単根管	160点
2 2根管	310点
3 3根管以上	450点

注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 007 根管貼薬処置（1歯1回につき）

1 単根管	33点
2 2根管	41点
3 3根管以上	57点

注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 008 根管充填（1歯につき）

1 単根管	72点
2 2根管	94点
3 3根管以上	122点

注 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

I 008-2 加圧根管充填処置（1歯につき）

1 単根管	139点
2 2根管	168点
3 3根管以上	213点

注1 区分番号M000-2に掲げるクラウン・ブリッジ維持管理料の注1により当該管理料を算定する旨を地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において算定する。

2 特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

- 3 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いて根管治療を行った場合に、手術用顕微鏡加算として、400点を所定点数に加算する。なお、第4部に掲げる歯科用3次元エックス線断層撮影の費用は別に算定できる。ただし、区分番号I021に掲げる根管内異物除去の注に規定する手術用顕微鏡加算を算定している場合は、算定できない。
- 4 3については、Ni-Tiロータリーファイルを用いて根管治療を行った場合に、Ni-Tiロータリーファイル加算として、150点を所定点数に加算する。

(外科後処置)

I 009 外科後処置

- |                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| 1 口腔内外科後処置（1口腔 <sup>くわう</sup> 1回につき） | 22点 |
| 2 口腔外外科後処置（1回につき）                    | 22点 |

I 009-2 創傷処置

- |                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| 1 100平方センチメートル未満                   | 52点 |
| 2 100平方センチメートル以上500平方センチメー<br>トル未満 | 60点 |
| 3 500平方センチメートル以上                   | 90点 |

注 1については、入院中の患者以外の患者及び手術後の患者（入院中の患者に限る。）についてのみ算定する。ただし、手術後の患者（入院中の患者に限る。）については手術日から起算して14日

- 3 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いて根管治療を行った場合に、手術用顕微鏡加算として、400点を所定点数に加算する。なお、第4部に掲げる歯科用3次元エックス線断層撮影の費用は別に算定できる。ただし、区分番号I021に掲げる根管内異物除去の注に規定する手術用顕微鏡加算を算定している場合は、算定できない。
- 4 3については、歯科用3次元エックス線断層撮影装置を用いて根管治療を行った場合であつて、Ni-Tiロータリーファイルを用いて根管治療を行った場合に、Ni-Tiロータリーファイル加算として、150点を所定点数に加算する。なお、第4部に掲げる歯科用3次元エックス線断層撮影の費用は別に算定できる。

(外科後処置)

I 009 外科後処置

- |                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| 1 口腔内外科後処置（1口腔 <sup>くわう</sup> 1回につき） | 22点 |
| 2 口腔外外科後処置（1回につき）                    | 22点 |

I 009-2 創傷処置

- |                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| 1 100平方センチメートル未満                   | 52点 |
| 2 100平方センチメートル以上500平方センチメー<br>トル未満 | 60点 |
| 3 500平方センチメートル以上                   | 90点 |

注 1については、入院中の患者以外の患者及び手術後の患者（入院中の患者に限る。）についてのみ算定する。ただし、手術後の患者（入院中の患者に限る。）については手術日から起算して14日

	を限度として算定する。	
I 009-3	歯科ドレーン法（ドレナージ）（1日につき）	50点
I 009-4	上顎洞洗浄（片側）	55点
I 009-5	口腔内分泌物吸引（1日につき）	48点
I 009-6	摘便	100点
I 009-7	ハイフローセラピー（1日につき）	
1	15歳未満の患者の場合	<u>338点</u>
2	15歳以上の患者の場合	<u>230点</u>
I 009-8	経管栄養・薬剤投与用カテーテル交換法	200点
	注 区分番号 I 009-2 に掲げる創傷処置、区分番号 J 084 に掲げる創傷処理の費用は所定点数に含まれるものとする。	
I 009-9	留置カテーテル設置	40点
I 009-10	超音波ネブライザ（1日につき） （歯周組織の処置）	24点
I 010	歯周病処置（1口腔1回につき）	14点
	注 特定薬剤を用いて行った場合に算定する。	
I 011	歯周基本治療	
1	スケーリング（3分の1頸につき）	72点
2	スケーリング・ルートプレーニング（1歯につき）	
イ	前歯	60点
ロ	小白歯	64点
ハ	大臼歯	72点
	注 1 1については、同時に3分の1頸を超えて行った場合は、3分の1頸を増すごとに、38点を所定点数に加算する。	
	2 同一部位に2回以上同一の区分に係る歯周基本治療を行った場合、2回目以降の費用は、所定点数（1については、注1の加算を含む。）	
	を限度として算定する。	
I 009-3	歯科ドレーン法（ドレナージ）（1日につき）	50点
I 009-4	上顎洞洗浄（片側）	55点
I 009-5	口腔内分泌物吸引（1日につき）	48点
I 009-6	摘便	100点
I 009-7	ハイフローセラピー（1日につき）	
1	15歳未満の患者の場合	<u>282点</u>
2	15歳以上の患者の場合	<u>192点</u>
I 009-8	経管栄養・薬剤投与用カテーテル交換法	200点
	注 区分番号 I 009-2 に掲げる創傷処置、区分番号 J 084 に掲げる創傷処理の費用は所定点数に含まれるものとする。	
I 009-9	留置カテーテル設置	40点
I 009-10	超音波ネブライザ（1日につき） （歯周組織の処置）	24点
I 010	歯周病処置（1口腔1回につき）	14点
	注 特定薬剤を用いて行った場合に算定する。	
I 011	歯周基本治療	
1	スケーリング（3分の1頸につき）	72点
2	スケーリング・ルートプレーニング（1歯につき）	
イ	前歯	60点
ロ	小白歯	64点
ハ	大臼歯	72点
	注 1 1については、同時に3分の1頸を超えて行った場合は、3分の1頸を増すごとに、38点を所定点数に加算する。	
	2 同一部位に2回以上同一の区分に係る歯周基本治療を行った場合、2回目以降の費用は、所定点数（1については、注1の加算を含む。）	

の100分の50に相当する点数により算定する。

3 区分番号 I 0 1 1 – 2 に掲げる歯周病継続支援治療を開始した日以降は、算定できない。

4 麻酔及び特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

5 区分番号 D 0 0 2 の 3 に掲げる混合歯列期歯周病検査に基づく歯周基本治療については、1により算定する。

#### I 0 1 1 – 2 歯周病継続支援治療

1	1歯以上10歯未満	170点
2	10歯以上20歯未満	200点
3	20歯以上	350点

注 1 一連の歯周病治療終了後、継続支援が必要な患者に対し、歯周組織の状態維持又は重症化予防を目的として、プラーカコントロール、スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整、機械的歯面清掃等の継続的な治療（以下この表において「歯周病継続支援治療」という。）を開始した場合は、それぞれの区分に従い月1回に限り算定する。

2 2回目以降の歯周病継続支援治療の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行う。ただし、一連の歯周病治療において歯周外科手術を実施した場合等の歯周病継続支援治療の治療間隔の短縮が必要とされる場合又は区分番号 B 0 0 0 – 4 – 2 に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において歯

の100分の50に相当する点数により算定する。

3 区分番号 I 0 1 1 – 2 に掲げる歯周病定期治療又は区分番号 I 0 1 1 – 2 – 3 に掲げる歯周病重症化予防治療を開始した日以降は、算定できない。

4 麻酔及び特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

5 区分番号 D 0 0 2 の 3 に掲げる混合歯列期歯周病検査に基づく歯周基本治療については、1により算定する。

#### I 0 1 1 – 2 歯周病定期治療

1	1歯以上10歯未満	200点
2	10歯以上20歯未満	250点
3	20歯以上	350点

注 1 一連の歯周病治療終了後、一時的に病状が安定した状態にある患者に対し、歯周組織の状態を維持するためのプラーカコントロール、スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整、機械的歯面清掃等の継続的な治療（以下この表において「歯周病定期治療」という。）を開始した場合は、それぞれの区分に従い月1回に限り算定する。

2 2回目以降の歯周病定期治療の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行う。ただし、一連の歯周病治療において歯周外科手術を実施した場合等の歯周病定期治療の治療間隔の短縮が必要とされる場合又は区分番号 B 0 0 0 – 4 – 2 に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において歯周病

周病継続支援治療を開始した場合は、この限りでない。

- 3 区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料の注5に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において歯周病継続支援治療を開始した場合は、口腔管理体制強化加算として、120点を所定点数に加算する。
- 4 歯周病の重症化するおそれのある患者に対して他の保険医療機関（歯科診療のみを行う保険医療機関を除く。）からの情報に基づき歯周病継続支援治療を実施し、診療情報を当該他の保険医療機関に提供した場合は、重症化予防連携強化加算として、100点を所定点数に加算する。
- 5 歯周病継続支援治療を開始した後、病状の変化により歯周外科手術を実施した場合は、歯周精密検査により再び病状が安定し継続的な治療が必要であると判断されるまでの間は、歯周病継続支援治療は算定できない。
- 6 歯周病継続支援治療を開始した日以降に歯周外科手術を実施した場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

(削る)

(削る)

(削る)

定期治療を開始した場合は、この限りでない。

- 3 区分番号B 0 0 0 – 4 – 2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において歯周病定期治療を開始した場合は、口腔管理体制強化加算として、120点を所定点数に加算する。
- 4 歯周病の重症化するおそれのある患者に対して歯周病定期治療を実施した場合は、歯周病ハイリスク患者加算として、80点を所定点数に加算する。
- 5 歯周病定期治療を開始した後、病状の変化により歯周外科手術を実施した場合は、歯周精密検査により再び病状が安定し継続的な治療が必要であると判断されるまでの間は、歯周病定期治療は算定できない。
- 6 歯周病定期治療を開始した日以降に歯周外科手術を実施した場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。
- 7 歯周病重症化予防治療を算定した月は算定できない。

I 0 1 1 – 2 – 2 削除

I 0 1 1 – 2 – 3 歯周病重症化予防治療

1	1歯以上10歯未満	150点
2	10歯以上20歯未満	200点
3	20歯以上	300点

注1 2回目以降の区分番号D 0 0 2に掲げる歯周

病検査終了後、一時的に病状が改善傾向にある患者に対し、重症化予防を目的として、スケーリング、機械的歯面清掃等の継続的な治療を開始した場合は、それぞれの区分に従い月1回に限り算定する。

2 2回目以降の歯周病重症化予防治療の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行う。ただし、区分番号B000-4-2に掲げる小児口腔機能管理料の注3に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た診療所である保険医療機関において、区分番号I011-2に掲げる歯周病定期治療を算定した患者について、一連の治療終了後の再評価の結果に基づき、当該患者に対して、歯周病重症化予防治療を開始した場合は、この限りでない。

3 歯周病定期治療を算定した月は算定できない。

I012及びI013 削除  
(その他の処置)

I014 暫間固定

- |         |      |
|---------|------|
| 1 簡単なもの | 200点 |
| 2 困難なもの | 500点 |

(削る)

I015 口唇プロテクター

290点

I016 線副子（1顎につき）

650点

I017 口腔内装置（1装置につき）

- |          |        |
|----------|--------|
| 1 口腔内装置1 | 1,500点 |
| 2 口腔内装置2 | 800点   |
| 3 口腔内装置3 | 650点   |

注 頸関節治療用装置、歯ぎしりに対する口腔内装

I011-3 削除  
(その他の処置)

I014 暫間固定

- |         |      |
|---------|------|
| 1 簡単なもの | 200点 |
| 2 困難なもの | 500点 |

I014-2 暫間固定装置修理

I015 口唇プロテクター

70点

I016 線副子（1顎につき）

290点

I017 口腔内装置（1装置につき）

- |          |        |
|----------|--------|
| 1 口腔内装置1 | 1,500点 |
| 2 口腔内装置2 | 800点   |
| 3 口腔内装置3 | 650点   |

注 頸関節治療用装置、歯ぎしりに対する口腔内装

置、口腔粘膜等の保護のための口腔内装置、外傷歯の保護のための口腔内装置又はその他口腔内装置を製作した場合に当該製作方法に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

I 0 1 7 - 1 - 2 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置（1装置につき）

- 1 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置 1  
3,000点
- 2 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置 2  
2,000点

注 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置を製作した場合に、当該製作方法に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

I 0 1 7 - 1 - 3 舌接触補助床（1装置につき）

- 1 新たに製作した場合 2,500点
- 2 旧義歯を用いた場合 1,000点

I 0 1 7 - 1 - 4 術後即時顎補綴装置（1顎につき）

2,500点

I 0 1 7 - 2 口腔内装置調整・修理（1口腔につき）

- 1 口腔内装置調整
  - イ 口腔内装置調整 1 120点
  - ロ 口腔内装置調整 2 120点
  - ハ 口腔内装置調整 3 220点
- 2 口腔内装置修理 234点

注 1 1のイについては、新たに製作した区分番号 I 0 1 7 - 1 - 2 に掲げる睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置の装着時又は装着後1月以内に製作を行った保険医療機関において適合を図るために調整を行った場合に、1回に限り算定する。

2 1のロについては、区分番号 I 0 1 7 に掲げ

置、口腔粘膜等の保護のための口腔内装置、外傷歯の保護のための口腔内装置又はその他口腔内装置を製作した場合に当該製作方法に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

I 0 1 7 - 1 - 2 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置（1装置につき）

- 1 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置 1  
3,000点
- 2 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置 2  
2,000点

注 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置を製作した場合に、当該製作方法に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

I 0 1 7 - 1 - 3 舌接触補助床（1装置につき）

- 1 新たに製作した場合 2,500点
- 2 旧義歯を用いた場合 1,000点

I 0 1 7 - 1 - 4 術後即時顎補綴装置（1顎につき）

2,500点

I 0 1 7 - 2 口腔内装置調整・修理（1口腔につき）

- 1 口腔内装置調整
  - イ 口腔内装置調整 1 120点
  - ロ 口腔内装置調整 2 120点
  - ハ 口腔内装置調整 3 220点
- 2 口腔内装置修理 234点

注 1 1のイについては、新たに製作した区分番号 I 0 1 7 - 1 - 2 に掲げる睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置の装着時又は装着後1月以内に製作を行った保険医療機関において適合を図るために調整を行った場合に、1回に限り算定する。

2 1のロについては、区分番号 I 0 1 7 に掲げ

る口腔内装置の注に規定する歯ぎしりに対する口腔内装置、口腔粘膜等の保護のための口腔内装置、外傷歯の保護のための口腔内装置又はその他口腔内装置の調整を行った場合に算定する。

- 3 1のハについては、区分番号 I 0 1 7 に掲げる口腔内装置の注に規定する頸関節治療用装置又は区分番号 I 0 1 7-1-4 に掲げる術後即時頸補綴装置の調整を行った場合に算定する。
- 4 同一の患者について1月以内に口腔内装置調整を2回以上行った場合は、第1回の調整を行ったときに算定する。
- 5 2については、同一の患者について1月以内に口腔内装置修理を2回以上行った場合は、第1回の修理を行ったときに算定する。

#### I 0 1 7-3 頸外固定

- |         |        |
|---------|--------|
| 1 簡単なもの | 600点   |
| 2 困難なもの | 1,500点 |

#### I 0 1 8 削除

#### I 0 1 9 歯冠修復物又は補綴物の除去（1歯につき）

- |            |     |
|------------|-----|
| 1 簡単なもの    | 20点 |
| 2 困難なもの    | 48点 |
| 3 著しく困難なもの | 80点 |

#### I 0 2 0 削除

#### I 0 2 1 根管内異物除去（1歯につき）

150点

る口腔内装置の注に規定する歯ぎしりに対する口腔内装置、口腔粘膜等の保護のための口腔内装置又は外傷歯の保護のための口腔内装置の調整を行った場合に算定する。

- 3 1のハについては、区分番号 I 0 1 7 に掲げる口腔内装置の注に規定する頸関節治療用装置又は区分番号 I 0 1 7-1-4 に掲げる術後即時頸補綴装置の調整を行った場合に算定する。
- 4 同一の患者について1月以内に口腔内装置調整を2回以上行った場合は、第1回の調整を行ったときに算定する。
- 5 2については、同一の患者について1月以内に口腔内装置修理を2回以上行った場合は、第1回の修理を行ったときに算定する。

#### I 0 1 7-3 頸外固定

- |         |        |
|---------|--------|
| 1 簡単なもの | 600点   |
| 2 困難なもの | 1,500点 |

#### I 0 1 8 歯周治療用装置

- |                    |      |
|--------------------|------|
| 1 冠形態のもの（1歯につき）    | 50点  |
| 2 床義歯形態のもの（1装置につき） | 750点 |

注1 区分番号D 0 0 2に掲げる歯周病検査（2に限る。）を実施した患者に対して算定する。

2 印象採得、特定保険医療材料等の費用は、所定点数に含まれる。

#### I 0 1 9 歯冠修復物又は補綴物の除去（1歯につき）

- |            |     |
|------------|-----|
| 1 簡単なもの    | 20点 |
| 2 困難なもの    | 48点 |
| 3 著しく困難なもの | 80点 |

#### I 0 2 0 暫間固定装置の除去（1装置につき）

30点

#### I 0 2 1 根管内異物除去（1歯につき）

150点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いて根管内異物除去を行った場合に、手術用顕微鏡加算として、400点を所定点数に加算する。なお、第4部に掲げる歯科用3次元エックス線断層撮影の費用は別に算定できる。

I 0 2 1 - 2	歯の破折片除去（1歯につき）	30点
I 0 2 2	有床義歯床下粘膜調整処置（1顆1回につき）	110点
I 0 2 3	心身医学療法	
1	入院中の患者	150点
2	入院中の患者以外の患者	
イ	初診時	110点
ロ	再診時	80点
注1	区分番号A000に掲げる初診料を算定する初診の日において心身医学療法を行った場合は、診療に要した時間が30分を超えたときに限り算定する。	
2	入院中の患者については、入院の日から起算して4週間以内の場合にあっては週2回、入院の日から起算して4週間を超える場合にあっては週1回に限り算定する。	
3	入院中の患者以外の患者については、初診日から起算して4週間以内の場合にあっては週2回、初診日から起算して4週間を超える場合にあっては週1回に限り算定する。	
4	20歳未満の患者に対して心身医学療法を行った場合は、所定点数に所定点数の100分の100に相当する点数を加算する。	

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いて根管内異物除去を行った場合に、手術用顕微鏡加算として、400点を所定点数に加算する。なお、第4部に掲げる歯科用3次元エックス線断層撮影の費用は別に算定できる。

(新設)		
I 0 2 2	有床義歯床下粘膜調整処置（1顆1回につき）	110点
I 0 2 3	心身医学療法	
1	入院中の患者	150点
2	入院中の患者以外の患者	
イ	初診時	110点
ロ	再診時	80点
注1	区分番号A000に掲げる初診料を算定する初診の日において心身医学療法を行った場合は、診療に要した時間が30分を超えたときに限り算定する。	
2	入院中の患者については、入院の日から起算して4週間以内の場合にあっては週2回、入院の日から起算して4週間を超える場合にあっては週1回に限り算定する。	
3	入院中の患者以外の患者については、初診日から起算して4週間以内の場合にあっては週2回、初診日から起算して4週間を超える場合にあっては週1回に限り算定する。	
4	20歳未満の患者に対して心身医学療法を行った場合は、所定点数に所定点数の100分の100に相当する点数を加算する。	

I 024	鼻腔栄養（1日につき）	60点	I 024	鼻腔栄養（1日につき）	60点
I 025	酸素吸入（1日につき）	65点	I 025	酸素吸入（1日につき）	65点
	注1 使用した精製水の費用は、所定点数に含まれる。		注1 使用した精製水の費用は、所定点数に含まれる。		
	2 人工呼吸と同時に行った酸素吸入の費用は、人工呼吸の所定点数に含まれる。		2 人工呼吸と同時に行った酸素吸入の費用は、人工呼吸の所定点数に含まれる。		
I 026	高気圧酸素治療（1日につき）	3,000点	I 026	高気圧酸素治療（1日につき）	3,000点
I 027	人工呼吸		I 027	人工呼吸	
	1 30分までの場合	302点		1 30分までの場合	302点
	2 30分を超えて5時間までの場合	302点に30分 又はその端数を増すごとに50点を加算して得た点数		2 30分を超えて5時間までの場合	302点に30分 又はその端数を増すごとに50点を加算して得た点数
	3 5時間を超えた場合（1日につき）			3 5時間を超えた場合（1日につき）	
	イ 14日目まで	<u>1,140点</u>		イ 14日目まで	<u>950点</u>
	ロ 15日目以降	815点		ロ 15日目以降	815点
	注1 使用した精製水の費用及び人工呼吸と同時に行う呼吸心拍監視、経皮的動脈血酸素飽和度測定若しくは非観血的連続血圧測定又は酸素吸入の費用は、所定点数に含まれる。		注1 使用した精製水の費用及び人工呼吸と同時に行う呼吸心拍監視、経皮的動脈血酸素飽和度測定若しくは非観血的連続血圧測定又は酸素吸入の費用は、所定点数に含まれる。		
	2 気管挿管が行われている患者に対して、意識状態に係る評価を行った場合は、覚醒試験加算として、当該治療の開始日から起算して14日を限度として、1日につき100点を所定点数に加算する。		2 気管内挿管が行われている患者に対して、意識状態に係る評価を行った場合は、覚醒試験加算として、当該治療の開始日から起算して14日を限度として、1日につき100点を所定点数に加算する。		
	3 注2の場合において、当該患者に対して人工呼吸器からの離脱のために必要な評価を行った場合は、離脱試験加算として、1日につき60点を更に所定点数に加算する。		3 注2の場合において、当該患者に対して人工呼吸器からの離脱のために必要な評価を行った場合は、離脱試験加算として、1日につき60点を更に所定点数に加算する。		
I 028	削除		I 028	削除	
I 029	周術期等専門的口腔衛生処置（1口腔につき）		I 029	周術期等専門的口腔衛生処置（1口腔につき）	
	1 周術期等専門的口腔衛生処置 1	100点		1 周術期等専門的口腔衛生処置 1	100点

- 2 周術期等専門的口腔衛生処置 2 110点
- 注1 1について、区分番号B 0 0 0 – 6に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 7に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、区分番号B 0 0 0 – 6に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 7に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した日の属する月において、術前1回、術後1回に限り算定する。
- 2 1について、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した日の属する月において、月2回に限り算定する。
- 3 1について、注2の規定にかかわらず、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した緩和ケアを実施している患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した日の属する月において、月4回に限り算定する。
- 4 2については、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げ

- 2 周術期等専門的口腔衛生処置 2 110点
- 注1 1について、区分番号B 0 0 0 – 6に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 7に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、区分番号B 0 0 0 – 6に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 7に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した日の属する月において、術前1回、術後1回に限り算定する。
- 2 1について、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した日の属する月において、月2回に限り算定する。
- 3 1について、注2の規定にかかわらず、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した緩和ケアを実施している患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、区分番号B 0 0 0 – 8に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅱ〕又は区分番号B 0 0 0 – 9に掲げる周術期等口腔機能管理料〔Ⅲ〕を算定した日の属する月において、月4回に限り算定する。
- 4 2については、区分番号B 0 0 0 – 5に掲げ

る周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、口腔機能の管理を行っている患者（がん等に係る放射線治療又は化学療法を実施する患者に限る。）に対して、歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が口腔粘膜に対する処置を行い、口腔粘膜保護材を使用した場合に、月1回に限り算定する。

5 2について、1を算定した日は別に算定できない。

6 周術期等専門的口腔衛生処置1又は周術期等専門的口腔衛生処置2を算定した日の属する月において、区分番号I029-1-2に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I030に掲げる機械的歯面清掃処置、区分番号I030-2に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置及び区分番号I030-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は、別に算定できない。

I029-1-2 回復期等専門的口腔衛生処置（1口腔につき  
） 100点

注1 区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料を算定した入院中の患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、回復期等口腔機能管理料を算定した日の属する月において、月2回に限り算定する。

2 回復期等専門的口腔衛生処置を算定した日の属する月において、区分番号I029に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生

る周術期等口腔機能管理計画策定料の注1に規定する管理計画に基づき、口腔機能の管理を行っている患者（がん等に係る放射線治療又は化学療法を実施する患者に限る。）に対して、歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が口腔粘膜に対する処置を行い、口腔粘膜保護材を使用した場合に、月1回に限り算定する。

5 2について、1を算定した日は別に算定できない。

6 周術期等専門的口腔衛生処置1又は周術期等専門的口腔衛生処置2を算定した日の属する月において、区分番号I029-1-2に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I030に掲げる機械的歯面清掃処置、区分番号I030-2に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置及び区分番号I030-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は、別に算定できない。

I029-1-2 回復期等専門的口腔衛生処置（1口腔につき  
） 100点

注1 区分番号B000-11に掲げる回復期等口腔機能管理料を算定した入院中の患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃を行った場合に、回復期等口腔機能管理料を算定した日の属する月において、月2回に限り算定する。

2 回復期等専門的口腔衛生処置を算定した日の属する月において、区分番号I029に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生

	処置、区分番号 I 030 に掲げる機械的歯面清掃処置、区分番号 I 030-2 に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置及び区分番号 I 030-3 に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は、別に算定できない。	
I 029-2	在宅等療養患者専門的口腔衛生処置（1口腔につき） 130点	I 029-2 在宅等療養患者専門的口腔衛生処置（1口腔につき） 130点
	注 1 区分番号 C 001-3 に掲げる歯科疾患在宅療養管理料を算定した患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃処置を行った場合に、月 1 回に限り算定する。 2 区分番号 C 001 に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定した日は算定できない。 3 在宅等療養患者専門的口腔衛生処置を算定した日の属する月において、区分番号 I 030 に掲げる機械的歯面清掃処置、区分番号 I 030-2 に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置及び区分番号 I 030-3 に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は、別に算定できない。	注 1 区分番号 C 001-3 に掲げる歯科疾患在宅療養管理料を算定した患者に対して、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が専門的口腔清掃処置を行った場合に、月 1 回に限り算定する。 2 区分番号 C 001 に掲げる訪問歯科衛生指導料を算定した日は算定できない。 3 在宅等療養患者専門的口腔衛生処置を算定した日の属する月において、区分番号 I 030 に掲げる機械的歯面清掃処置、区分番号 I 030-2 に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置及び区分番号 I 030-3 に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は、別に算定できない。
I 029-3	口腔粘膜処置（1口腔につき） 30点	I 029-3 口腔粘膜処置（1口腔につき） 30点
	注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により当該処置を行った場合に算定する。ただし、2回目以降の口腔粘膜処置の算定は、前回算定日から起算して1月経過した日以降に行った場合に限り、月 1 回に限り算定する。	注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により当該処置を行った場合に算定する。ただし、2回目以降の口腔粘膜処置の算定は、前回算定日から起算して1月経過した日以降に行った場合に限り、月 1 回に限り算定する。
I 030	機械的歯面清掃処置（1口腔につき） 72点	I 030 機械的歯面清掃処置（1口腔につき） 72点
	注 1 区分番号 B 000-4 に掲げる歯科疾患管理料、区分番号 B 000-8 に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号 B 000-9 に掲げ	注 1 区分番号 B 000-4 に掲げる歯科疾患管理料、区分番号 B 000-8 に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲ、区分番号 B 000-9 に掲げ

る周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0 – 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料又は区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患有在宅療養管理料を算定した患者のうち、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、歯科疾患の管理を行っているもの（区分番号I 0 2 9に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号I 0 2 9 – 1 – 2に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号C 0 0 1に掲げる訪問歯科衛生指導料又は区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料を算定しているものを除く。）に対して機械的歯面清掃を行った場合は、2月に1回に限り算定する。ただし、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注6、区分番号A 0 0 2に掲げる再診料の注4若しくは区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料の注9に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者、区分番号B 0 0 0 – 1 2に掲げる根面う蝕管理料の注2に規定する加算を算定する患者であって特に機械的歯面清掃が必要と認められる患者、区分番号B 0 0 0 – 1 3に掲げるエナメル質初期う蝕管理料の注2に規定する加算を算定する患者、妊婦又は他の保険医療機関（歯科診療を行う保険医療機関を除く。）から文書による診療情報の提供を受けた糖尿病患者については月1回に限り算定する。

2 区分番号I 0 1 1 – 2に掲げる歯周病継続支援治療、区分番号I 0 2 9 – 2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I 0 3

る周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0 – 1 1に掲げる回復期等口腔機能管理料、区分番号B 0 0 2に掲げる歯科特定疾患療養管理料又は区分番号C 0 0 1 – 3に掲げる歯科疾患有在宅療養管理料を算定した患者のうち、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、歯科疾患の管理を行っているもの（区分番号I 0 2 9に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号I 0 2 9 – 1 – 2に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号C 0 0 1に掲げる訪問歯科衛生指導料又は区分番号N 0 0 2に掲げる歯科矯正管理料を算定しているものを除く。）に対して機械的歯面清掃を行った場合は、2月に1回に限り算定する。ただし、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注6、区分番号A 0 0 2に掲げる再診料の注4若しくは区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料の注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者、区分番号B 0 0 0 – 1 2に掲げる根面う蝕管理料の注2に規定する加算を算定する患者であって特に機械的歯面清掃が必要と認められる患者、区分番号B 0 0 0 – 1 3に掲げるエナメル質初期う蝕管理料の注2に規定する加算を算定する患者、妊婦又は他の保険医療機関（歯科診療を行う保険医療機関を除く。）から文書による診療情報の提供を受けた糖尿病患者については月1回に限り算定する。

2 区分番号I 0 1 1 – 2に掲げる歯周病安定期治療、区分番号I 0 1 1 – 2 – 3に掲げる歯周病重症化予防治療、区分番号I 0 2 9 – 2に掲

0-2に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置又は区分番号I030-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置を算定した月は算定できない。

I030-2 非経口摂取患者口腔粘膜処置（1口腔につき）  
110点

- 注1 経口摂取が困難な患者に対して、歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が口腔粘膜処置等を行った場合に、月2回に限り算定する。  
2 非経口摂取患者口腔粘膜処置を算定した月において、区分番号I010に掲げる歯周病処置、区分番号I011に掲げる歯周基本治療、区分番号I011-2に掲げる歯周病継続支援治療、区分番号I029に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-1-2に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I030に掲げる機械的歯面清掃処置及び区分番号I030-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は別に算定できない。

I030-3 口腔バイオフィルム除去処置（1口腔につき）  
110点

- 注1 口腔バイオフィルムの除去が必要な患者に対して、歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が口腔バイオフィルムの除去を行った場合に、月2回に限り算定する。  
2 口腔バイオフィルム除去処置を算定した月において、区分番号I010に掲げる歯周病処置

げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I030-2に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置又は区分番号I030-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置を算定した月は算定できない。

I030-2 非経口摂取患者口腔粘膜処置（1口腔につき）  
110点

- 注1 経口摂取が困難な患者に対して、歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が口腔粘膜処置等を行った場合に、月2回に限り算定する。  
2 非経口摂取患者口腔粘膜処置を算定した月において、区分番号I010に掲げる歯周病処置、区分番号I011に掲げる歯周基本治療、区分番号I011-2に掲げる歯周病定期治療、区分番号I011-2-3に掲げる歯周病重症化予防治療、区分番号I029に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-1-2に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号I029-2に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号I030に掲げる機械的歯面清掃処置及び区分番号I030-3に掲げる口腔バイオフィルム除去処置は別に算定できない。

I030-3 口腔バイオフィルム除去処置（1口腔につき）  
110点

- 注1 口腔バイオフィルムの除去が必要な患者に対して、歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が口腔バイオフィルムの除去を行った場合に、月2回に限り算定する。  
2 口腔バイオフィルム除去処置を算定した月において、区分番号I010に掲げる歯周病処置

、区分番号 I 0 1 1 に掲げる歯周基本治療、区分番号 I 0 1 1 - 2 に掲げる歯周病継続支援治療、区分番号 I 0 2 9 に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号 I 0 2 9 - 1 - 2 に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号 I 0 2 9 - 2 に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号 I 0 3 0 に掲げる機械的歯面清掃処置及び区分番号 I 0 3 0 - 2 に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置は別に算定できない。

I 0 3 1	フッ化物歯面塗布処置（1 口腔につき）	
1	う蝕 多発傾向者の場合	110点
2	初期の根面う蝕に罹患している患者の場合	80点
3	エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合	100点

注1 1については、区分番号B 0 0 0 - 4 に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 2 に掲げる歯科特定疾患療養管理料又は区分番号C 0 0 0 に掲げる歯科訪問診療料を算定したう蝕多発傾向者に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物歯面塗布処置を行った場合に、月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行った場合に限り、月1回に限り算定する。

2 2については、区分番号B 0 0 0 - 1 2 に掲げる根面う蝕管理料を算定した患者に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛

、区分番号 I 0 1 1 に掲げる歯周基本治療、区分番号 I 0 1 1 - 2 に掲げる歯周病定期治療、区分番号 I 0 1 1 - 2 - 3 に掲げる歯周病重症化予防治療、区分番号 I 0 2 9 に掲げる周術期等専門的口腔衛生処置、区分番号 I 0 2 9 - 1 - 2 に掲げる回復期等専門的口腔衛生処置、区分番号 I 0 2 9 - 2 に掲げる在宅等療養患者専門的口腔衛生処置、区分番号 I 0 3 0 に掲げる機械的歯面清掃処置及び区分番号 I 0 3 0 - 2 に掲げる非経口摂取患者口腔粘膜処置は別に算定できない。

I 0 3 1	フッ化物歯面塗布処置（1 口腔につき）	
1	う蝕 多発傾向者の場合	110点
2	初期の根面う蝕に罹患している患者の場合	80点
3	エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合	100点

注1 1については、区分番号B 0 0 0 - 4 に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 2 に掲げる歯科特定疾患療養管理料又は区分番号C 0 0 0 に掲げる歯科訪問診療料を算定したう蝕多発傾向者に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物歯面塗布処置を行った場合に、月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行った場合に限り、月1回に限り算定する。

2 2については、区分番号B 0 0 0 - 1 2 に掲げる根面う蝕管理料を算定した患者に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛

生士が、フッ化物歯面塗布処置を行った場合に、月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行つた場合に限り、月1回に限り算定する。

3 3については、区分番号B000-13に掲げるエナメル質初期う蝕管理料を算定した患者に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物歯面塗布処置を行つた場合に月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置（エナメル質初期う蝕管理料の注2に規定する加算を算定する患者に対して実施する場合を除く。）の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行つた場合に限り、月1回に限り算定する。

I 032 口腔リンパ管腫局所注入 1,020点

注1 6歳未満の乳幼児の場合は、乳幼児加算として、55点を加算する。

2 当該処置に当たって使用した薬剤の費用は別に算定できる。

#### 第2節 処置医療機器等加算

##### 区分

I 080及びI 081 削除

I 082 酸素加算

注1 区分番号I 025からI 027までに掲げる処置に当たって酸素を使用した場合は、その価格を10円で除して得た点数（窒素を使用した場合は、その価格を10円で除して得た点数を合算した点数）を加算する。

生士が、フッ化物歯面塗布処置を行つた場合に、月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行つた場合に限り、月1回に限り算定する。

3 3については、区分番号B000-13に掲げるエナメル質初期う蝕管理料を算定した患者に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物歯面塗布処置を行つた場合に月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置（エナメル質初期う蝕管理料の注2に規定する加算を算定する患者に対して実施する場合を除く。）の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行つた場合に限り、月1回に限り算定する。

I 032 口腔リンパ管腫局所注入 1,020点

注1 6歳未満の乳幼児の場合は、乳幼児加算として、55点を加算する。

2 当該処置に当たって使用した薬剤の費用は別に算定できる。

#### 第2節 処置医療機器等加算

##### 区分

I 080及びI 081 削除

I 082 酸素加算

注1 区分番号I 025からI 027までに掲げる処置に当たって酸素を使用した場合は、その価格を10円で除して得た点数（窒素を使用した場合は、その価格を10円で除して得た点数を合算した点数）を加算する。

2 酸素及び窒素の価格は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第3節 薬剤料

#### 区分

I 0 9 0 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

### 第4節 特定薬剤料

#### 区分

I 1 0 0 特定薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注 1 薬価が15円以下である場合は、算定できない。  
2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第5節 特定保険医療材料料

#### 区分

I 2 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第9部 手術

#### 通則

- 手術の費用は、第1節若しくは第2節の各区分の所定点数のみにより、又は第1節及び第2節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。
- 手術に当たって、第3節に掲げる医療機器等、薬剤（別に厚生労働大臣が定めるものを除く。）又は別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療

2 酸素及び窒素の価格は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第3節 薬剤料

#### 区分

I 0 9 0 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

### 第4節 特定薬剤料

#### 区分

I 1 0 0 特定薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注 1 薬価が15円以下である場合は、算定できない。  
2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第5節 特定保険医療材料料

#### 区分

I 2 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第9部 手術

#### 通則

- 手術の費用は、第1節若しくは第2節の各区分の所定点数のみにより、又は第1節及び第2節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。
- 手術に当たって、第3節に掲げる医療機器等、薬剤（別に厚生労働大臣が定めるものを除く。）又は別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療

材料」という。)を使用した場合(別に厚生労働大臣が定める薬剤(以下この部において「特定薬剤」という。)にあっては、120点以上の手術又は特に規定する手術に使用した場合を除く。)は、前号により算定した点数及び第3節から第6節までの所定点数を合算した点数により算定する。

- 3 第1節に掲げられていない手術であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている手術のうちで最も近似する手術の各区分の所定点数により算定する。
- 4 区分番号 J 018、J 032、J 039、J 060、J 069、J 070-2、J 076、J 096及びJ 104-2  
(注に規定する加算を算定する場合に限る。)に掲げる手術については、別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において行われる場合に限り算定する。
- 5 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して手術を行った場合は、全身麻酔下で行った場合を除き、次に掲げる点数を、それぞれ当該手術の所定点数に加算する。ただし、区分番号 J 100-2 の注1に規定する加算、通則第14号又は第15号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。  
イ 手術(区分番号 J 013 (1及び2に限る。)に掲げる口腔内消炎手術を除く。)を行った場合  
所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号 J 013 (1及び2に限る。)に掲げる口腔内消炎手術を行った場合  
所定点数の100分の30に相当する点数
- 6 全身麻酔下で極低出生体重児、新生児又は3歳未満の乳幼児(極低出生体重児及び新生児を除く。)に対して手術を行った場合は、当該手術の所定点数にそれぞれ所定点数の100分の400、100分の300又は100分の100に相当する点数を加算する。
- 7 区分番号 J 016、J 018、J 021の2、J 031、

材料」という。)を使用した場合(別に厚生労働大臣が定める薬剤(以下この部において「特定薬剤」という。)にあっては、120点以上の手術又は特に規定する手術に使用した場合を除く。)は、前号により算定した点数及び第3節から第6節までの所定点数を合算した点数により算定する。

- 3 第1節に掲げられていない手術であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている手術のうちで最も近似する手術の各区分の所定点数により算定する。
- 4 区分番号 J 018、J 032、J 039、J 060、J 069、J 070-2、J 076、J 096及びJ 104-2  
(注に規定する加算を算定する場合に限る。)に掲げる手術については、別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において行われる場合に限り算定する。
- 5 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して手術を行った場合は、全身麻酔下で行った場合を除き、次に掲げる点数を、それぞれ当該手術の所定点数に加算する。ただし、区分番号 J 100-2 の注1に規定する加算、通則第14号又は第15号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。  
イ 手術(区分番号 J 013 (1及び2に限る。)に掲げる口腔内消炎手術を除く。)を行った場合  
所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号 J 013 (1及び2に限る。)に掲げる口腔内消炎手術を行った場合  
所定点数の100分の30に相当する点数
- 6 全身麻酔下で極低出生体重児、新生児又は3歳未満の乳幼児(極低出生体重児及び新生児を除く。)に対して手術を行った場合は、当該手術の所定点数にそれぞれ所定点数の100分の400、100分の300又は100分の100に相当する点数を加算する。
- 7 区分番号 J 016、J 018、J 021の2、J 031、

J032、J035、J039の2及び3、J042、J057並びにJ060に掲げる手術については、頸部郭清術と併せて行った場合は、所定点数に片側は4,000点を、両側は6,000点を加算する。また、上記に掲げる手術については、放射性同位元素を用いたセンチネルリンパ節生検を行った場合には、頭頸部悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算として、3,000点を所定点数に加算する。

- 8 H I V抗体陽性の患者に対して、入院を必要とする観血的手術を行った場合は、当該手術の所定点数に4,000点を加算する。
- 9 緊急のために休日に手術を行った場合又は手術の開始時間が保険医療機関の表示する診療時間以外の時間若しくは深夜である場合において、当該手術の所定点数が150点以上のときは、次に掲げる点数を、それぞれ所定点数に加算する。
- イ 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合
- (1) 休日加算1 所定点数の100分の160に相当する点数
- (2) 時間外加算1 (入院中の患者以外の患者に対し行われる場合に限る。)
- 所定点数の100分の80に相当する点数
- (3) 深夜加算1 所定点数の100分の160に相当する点数
- (4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して、手術の開始時間が同注のただし書に規定する時間である手術を行った場合 所定点数の100分の80に相当する点数
- ロ イ以外の保険医療機関において行われる場合
- (1) 休日加算2 所定点数の100分の80に相当する点数
- (2) 時間外加算2 (入院中の患者以外の患者に対し行われる場合に限る。)
- 所定点数の100分の80に相当する点数

J032、J035、J039の2及び3、J042、J057並びにJ060に掲げる手術については、頸部郭清術と併せて行った場合は、所定点数に片側は4,000点を、両側は6,000点を加算する。

- 8 H I V抗体陽性の患者に対して、入院を必要とする観血的手術を行った場合は、当該手術の所定点数に4,000点を加算する。
- 9 緊急のために休日に手術を行った場合又は手術の開始時間が保険医療機関の表示する診療時間以外の時間若しくは深夜である場合において、当該手術の所定点数が150点以上のときは、次に掲げる点数を、それぞれ所定点数に加算する。
- イ 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合
- (1) 休日加算1 所定点数の100分の160に相当する点数
- (2) 時間外加算1 (入院中の患者以外の患者に対し行われる場合に限る。)
- 所定点数の100分の80に相当する点数
- (3) 深夜加算1 所定点数の100分の160に相当する点数
- (4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して、手術の開始時間が同注のただし書に規定する時間である手術を行った場合 所定点数の100分の80に相当する点数
- ロ イ以外の保険医療機関において行われる場合
- (1) 休日加算2 所定点数の100分の80に相当する点数
- (2) 時間外加算2 (入院中の患者以外の患者に対し行われる場合に限る。)
- 所定点数の100分の80に相当する点数

	所定点数の100分の40に相当する点数		所定点数の100分の40に相当する点数
(3) 深夜加算 2	所定点数の100分の80に相当する点数	(3) 深夜加算 2	所定点数の100分の80に相当する点数
(4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して、手術の開始時間が同注のただし書に規定する時間である手術を行った場合	所定点数の100分の40に相当する点数	(4) (1)から(3)までにかかわらず、区分番号A 0 0 0に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して、手術の開始時間が同注のただし書に規定する時間である手術を行った場合	所定点数の100分の40に相当する点数
10 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症患者(感染症法の規定に基づき都道府県知事に対して医師の届出が義務づけられるものに限る。)、B型肝炎感染患者(HBs又はHBs抗原陽性の者に限る。)若しくはC型肝炎感染患者又は結核患者に対して、医科点数表の区分番号L 0 0 8に掲げる <u>声門上器具又は気管挿管による気道確保を伴う閉鎖循環式全身麻酔</u> 、医科点数表の区分番号L 0 0 2に掲げる硬膜外麻酔又は医科点数表の区分番号L 0 0 4に掲げる脊椎麻酔を伴う手術を行った場合は、所定点数に1,000点を加算する。		10 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症患者(感染症法の規定に基づき都道府県知事に対して医師の届出が義務づけられるものに限る。)、B型肝炎感染患者(HBs又はHBs抗原陽性の者に限る。)若しくはC型肝炎感染患者又は結核患者に対して、医科点数表の区分番号L 0 0 8に掲げる <u>マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔</u> 、医科点数表の区分番号L 0 0 2に掲げる硬膜外麻酔又は医科点数表の区分番号L 0 0 4に掲げる脊椎麻酔を伴う手術を行った場合は、所定点数に1,000点を加算する。	
11 手術の所定点数は、当該手術に当たって、表面麻酔、浸潤麻酔又は簡単な伝達麻酔を行った場合の費用を含む。ただし、麻酔に当たって使用した薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣の定めるところにより算定できる。		11 手術の所定点数は、当該手術に当たって、表面麻酔、浸潤麻酔又は簡単な伝達麻酔を行った場合の費用を含む。ただし、麻酔に当たって使用した薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣の定めるところにより算定できる。	
12 対称器官に係る手術の各区分の所定点数は、特に規定する場合を除き、片側の器官の手術料に係る点数とする。		12 対称器官に係る手術の各区分の所定点数は、特に規定する場合を除き、片側の器官の手術料に係る点数とする。	
13 同一手術野又は同一病巣につき、2以上の手術を同時に行つた場合における費用の算定は、主たる手術の所定点数のみにより算定する。ただし、神経移植術、骨移植術、植皮術、動脈(皮)弁術、筋(皮)弁術、遊離皮弁術(顎微鏡下血管柄付きのもの)、複合組織移植術、自家遊離複合組織移植術(顎微鏡下血管柄付きのもの)又は粘膜移植術と他の手術とを同時に行った場合は、それぞれの所定点数を合算して算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める場合は、別に厚生		13 同一手術野又は同一病巣につき、2以上の手術を同時に行つた場合における費用の算定は、主たる手術の所定点数のみにより算定する。ただし、神経移植術、骨移植術、植皮術、動脈(皮)弁術、筋(皮)弁術、遊離皮弁術(顎微鏡下血管柄付きのもの)、複合組織移植術、自家遊離複合組織移植術(顎微鏡下血管柄付きのもの)又は粘膜移植術と他の手術とを同時に行った場合は、それぞれの所定点数を合算して算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める場合は、別に厚生	

労働大臣が定めるところにより算定する。

- 14 区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定する患者であって、同注9に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定しないものに対して、歯科訪問診療時に手術を行った場合は、次に掲げる点数をそれぞれ当該手術の所定点数に加算する。  
イ 区分番号J 0 0 0（1、2及び3に限る。）に掲げる抜歯手術を行った場合（注1の加算を算定した場合を除く。  
） 所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号J 0 1 3（2に限る。）に掲げる口腔内消炎手術を行った場合 所定点数の100分の30に相当する点数
- 15 区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料及び同注9に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者に対して、歯科訪問診療時に手術を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該手術の所定点数に加算する。  
イ 区分番号J 0 1 3（1及び2に限る。）に掲げる口腔内消炎手術以外の手術を行った場合 所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号J 0 1 3（1及び2に限る。）に掲げる口腔内消炎手術を行った場合 所定点数の100分の30に相当する点数
- 16 区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ又はB 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲを算定した患者に対して、算定後1月以内に悪性腫瘍手術を全身麻酔下で実施した場合は、周術期口腔機能管理後手術加算として、200点をそれぞれ所定点数に加算する。
- 17 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、手術の前後に必要な栄養管理を行った場合であって、医科点数表の区分番号L 0 0 8に掲げる声門上器具又は気管挿管による

労働大臣が定めるところにより算定する。

- 14 区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料を算定する患者であって、同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定しないものに対して、歯科訪問診療時に手術を行った場合は、次に掲げる点数をそれぞれ当該手術の所定点数に加算する。  
イ 区分番号J 0 0 0（1、2及び3に限る。）に掲げる抜歯手術を行った場合（注1の加算を算定した場合を除く。  
） 所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号J 0 1 3（2に限る。）に掲げる口腔内消炎手術を行った場合 所定点数の100分の30に相当する点数
- 15 区分番号C 0 0 0に掲げる歯科訪問診療料及び同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者に対して、歯科訪問診療時に手術を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該手術の所定点数に加算する。  
イ 区分番号J 0 1 3（1及び2に限る。）に掲げる口腔内消炎手術以外の手術を行った場合 所定点数の100分の50に相当する点数  
ロ 区分番号J 0 1 3（1及び2に限る。）に掲げる口腔内消炎手術を行った場合 所定点数の100分の30に相当する点数
- 16 区分番号B 0 0 0-6に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅱ又はB 0 0 0-7に掲げる周術期等口腔機能管理料Ⅲを算定した患者に対して、算定後1月以内に悪性腫瘍手術を全身麻酔下で実施した場合は、周術期口腔機能管理後手術加算として、200点をそれぞれ所定点数に加算する。
- 17 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、手術の前後に必要な栄養管理を行った場合であって、医科点数表の区分番号L 0 0 8に掲げるマスク又は気管内挿管による閉

気道確保を伴う閉鎖循環式全身麻酔を伴う手術を行った場合は、周術期栄養管理実施加算として、270点を所定点数に加算する。この場合において、当該加算は医科点数表の第2章第10部の通則第20号の例により算定する。

18 区分番号A000に掲げる初診料の注9又は区分番号A002に掲げる再診料の注7に規定する地域歯科医療加算を算定した患者に対して、巡回診療時に手術を行った場合は、所定点数の100分の30に相当する点数を、当該手術の所定点数に加算する。ただし、通則第5号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。

#### 第1節 手術料

##### 区分

J 0 0 0 拔歯手術（1歯につき）

1 乳歯	130点
2 前歯	160点
3 犬歯	270点
4 埋伏歯	1,080点

注1 2又は3については、歯根肥大、骨の癒着歯等に対する骨の開さく又は歯根分離術を行った場合に限り、難拔歯加算として、230点を所定点数に加算する。

2 4については、完全埋伏歯（骨性）又は水平埋伏智歯に限り算定する。

3 4については、下顎完全埋伏智歯（骨性）又は下顎水平埋伏智歯の場合は、230点を所定点数に加算する。

4 拔歯と同時に進行する歯槽骨の整形等の費用は、所定点数に含まれる。

J 0 0 0-2 歯根分割搔爬術 <sup>搔爬は</sup> 260点

J 0 0 0-3 上顎洞陷入歯等除去術

1 拔歯窩から行う場合 470点

鎖循環式全身麻酔を伴う手術を行った場合は、周術期栄養管理実施加算として、270点を所定点数に加算する。この場合において、当該加算は医科点数表の第2章第10部の通則第20号の例により算定する。

(新設)

#### 第1節 手術料

##### 区分

J 0 0 0 拔歯手術（1歯につき）

1 乳歯	130点
2 前歯	160点
3 犬歯	270点
4 埋伏歯	1,080点

注1 2又は3については、歯根肥大、骨の癒着歯等に対する骨の開さく又は歯根分離術を行った場合に限り、難拔歯加算として、230点を所定点数に加算する。

2 4については、完全埋伏歯（骨性）又は水平埋伏智歯に限り算定する。

3 4については、下顎完全埋伏智歯（骨性）又は下顎水平埋伏智歯の場合は、130点を所定点数に加算する。

4 拔歯と同時に進行する歯槽骨の整形等の費用は、所定点数に含まれる。

J 0 0 0-2 歯根分割搔爬術 <sup>搔爬は</sup> 260点

J 0 0 0-3 上顎洞陷入歯等除去術

1 拔歯窩から行う場合 470点

	2 犬歯窩開さくにより行う場合	2,000点		2 犬歯窩開さくにより行う場合	2,000点
J 001	ヘミセクション（分割抜歯）	470点	J 001	ヘミセクション（分割抜歯）	470点
J 002	抜歯窩再搔爬手術	130点	J 002	抜歯窩再搔爬手術	130点
J 003	歯根囊胞摘出手術		J 003	歯根囊胞摘出手術	
	1 歯冠大のもの	800点		1 歯冠大のもの	800点
	2 拇指頭大のもの	1,350点		2 拇指頭大のもの	1,350点
	3 鶏卵大のもの	2,040点		3 鶏卵大のもの	2,040点
J 004	歯根端切除手術（1歯につき）		J 004	歯根端切除手術（1歯につき）	
	1 2以外の場合	1,350点		1 2以外の場合	1,350点
	2 歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合	2,000点		2 歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合	2,000点
	注1 第4部に掲げる歯科用3次元エックス線断層撮影の費用は別に算定できる。			注1 第4部に掲げる歯科用3次元エックス線断層撮影の費用は別に算定できる。	
	2 歯根端閉鎖の費用は、所定点数に含まれる。			2 歯根端閉鎖の費用は、所定点数に含まれる。	
	3 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該手術を実施した場合に算定する。			3 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該手術を実施した場合に算定する。	
J 004-2	歯の再植術	1,300点	J 004-2	歯の再植術	1,300点
	注 外傷性脱臼歯の再植術に限り算定する。			注 外傷性脱臼歯の再植術に限り算定する。	
J 004-3	歯の移植手術	1,300点	J 004-3	歯の移植手術	1,300点
	注 自家移植を行った場合に限り算定する。			注 自家移植を行った場合に限り算定する。	
J 005	削除		J 005	削除	
J 006	歯槽骨整形手術、骨瘤除去手術	110点	J 006	歯槽骨整形手術、骨瘤除去手術	110点
J 007	頸骨切断端形成術	4,400点	J 007	頸骨切断端形成術	4,400点
J 008	歯肉、歯槽部腫瘍手術（エプーリスを含む。）		J 008	歯肉、歯槽部腫瘍手術（エプーリスを含む。）	
	1 軟組織に限局するもの	600点		1 軟組織に限局するもの	600点
	2 硬組織に及ぶもの	1,300点		2 硬組織に及ぶもの	1,300点
J 009	浮動歯肉切除術		J 009	浮動歯肉切除術	
	1 3分の1頸程度	400点		1 3分の1頸程度	400点
	2 2分の1頸程度	800点		2 2分の1頸程度	800点

	3 全顎	1,600点		3 全顎	1,600点
J 010	頸堤形成術		J 010	頸堤形成術	
1	簡単なもの（1顎につき）	3,000点	1	簡単なもの（1顎につき）	3,000点
2	困難なもの（2分の1顎未満）	4,000点	2	困難なもの（2分の1顎未満）	4,000点
3	困難なもの（2分の1顎以上）	6,500点	3	困難なもの（2分の1顎以上）	6,500点
J 011	上顎結節形成術		J 011	上顎結節形成術	
1	簡単なもの	2,000点	1	簡単なもの	2,000点
2	困難なもの	3,000点	2	困難なもの	3,000点
	注 両側同時に行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。			注 両側同時に行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。	
J 012	おとがい神経移動術	1,300点	J 012	おとがい神経移動術	1,300点
	注 両側同時に行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。			注 両側同時に行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。	
J 013	口腔内消炎手術		J 013	口腔内消炎手術	
1	智歯周囲炎の歯肉弁切除等	120点	1	智歯周囲炎の歯肉弁切除等	120点
2	歯肉膿瘍等	180点	2	歯肉膿瘍等	180点
3	骨膜下膿瘍、口蓋膿瘍等	230点	3	骨膜下膿瘍、口蓋膿瘍等	230点
4	顎炎又は顎骨骨髓炎等		4	顎炎又は顎骨骨髓炎等	
イ	3分の1顎未満の範囲のもの	750点	イ	3分の1顎未満の範囲のもの	750点
ロ	3分の1顎以上の範囲のもの	2,600点	ロ	3分の1顎以上の範囲のもの	2,600点
ハ	全顎にわたるもの	5,700点	ハ	全顎にわたるもの	5,700点
J 014	口腔底膿瘍切開術	700点	J 014	口腔底膿瘍切開術	700点
J 015	口腔底腫瘍摘出術	7,210点	J 015	口腔底腫瘍摘出術	7,210点
J 015-2	口腔底迷入下顎智歯除去術	5,230点	J 015-2	口腔底迷入下顎智歯除去術	5,230点
J 016	口腔底悪性腫瘍手術	29,360点	J 016	口腔底悪性腫瘍手術	29,360点
J 017	舌腫瘍摘出術		J 017	舌腫瘍摘出術	
1	粘液嚢胞摘出術	1,220点	1	粘液嚢胞摘出術	1,220点
2	その他のもの	2,940点	2	その他のもの	2,940点
J 017-2	甲状腺嚢胞摘出術	10,050点	J 017-2	甲状腺嚢胞摘出術	10,050点
J 018	舌悪性腫瘍手術		J 018	舌悪性腫瘍手術	
1	切除	26,410点	1	切除	26,410点

	2 垂全摘	84,080点		2 垂全摘	84,080点
J 019	口蓋腫瘍摘出術		J 019	口蓋腫瘍摘出術	
	1 口蓋粘膜に限局するもの	520点		1 口蓋粘膜に限局するもの	520点
	2 口蓋骨に及ぶもの	8,050点		2 口蓋骨に及ぶもの	8,050点
J 020	口蓋混合腫瘍摘出術	5,600点	J 020	口蓋混合腫瘍摘出術	5,600点
J 021	口蓋悪性腫瘍手術		J 021	口蓋悪性腫瘍手術	
	1 切除（単純）	5,600点		1 切除（単純）	5,600点
	2 切除（広汎）	18,000点		2 切除（広汎）	18,000点
J 022	頸・口蓋裂形成手術		J 022	頸・口蓋裂形成手術	
	1 軟口蓋のみのもの	15,770点		1 軟口蓋のみのもの	15,770点
	2 硬口蓋に及ぶもの	24,170点		2 硬口蓋に及ぶもの	24,170点
	3 頸裂を伴うもの			3 頸裂を伴うもの	
	イ 片側	25,170点		イ 片側	25,170点
	ロ 両側	31,940点		ロ 両側	31,940点
J 023	歯槽部骨皮質切離術（コルチコトミー）		J 023	歯槽部骨皮質切離術（コルチコトミー）	
	1 6歯未満の場合	1,700点		1 6歯未満の場合	1,700点
	2 6歯以上の場合	3,400点		2 6歯以上の場合	3,400点
J 024	口唇裂形成手術（片側）		J 024	口唇裂形成手術（片側）	
	1 口唇のみの場合	13,180点		1 口唇のみの場合	13,180点
	2 口唇裂鼻形成を伴う場合	18,810点		2 口唇裂鼻形成を伴う場合	18,810点
	3 鼻腔底形成を伴う場合	24,350点		3 鼻腔底形成を伴う場合	24,350点
J 024-2	口唇裂形成手術（両側）		J 024-2	口唇裂形成手術（両側）	
	1 口唇のみの場合	18,810点		1 口唇のみの場合	18,810点
	2 口唇裂鼻形成を伴う場合	23,790点		2 口唇裂鼻形成を伴う場合	23,790点
	3 鼻腔底形成を伴う場合	36,620点		3 鼻腔底形成を伴う場合	36,620点
J 024-3	軟口蓋形成手術	9,700点	J 024-3	軟口蓋形成手術	9,700点
J 024-4	鼻咽腔閉鎖術	23,790点	J 024-4	鼻咽腔閉鎖術	23,790点
J 025	削除		J 025	削除	
J 026	舌繋瘢痕性短縮矯正術	2,650点	J 026	舌繋瘢痕性短縮矯正術	2,650点
J 027	頬、口唇、舌小帯形成術	630点	J 027	頬、口唇、舌小帯形成術	630点
J 028	舌形成手術（巨舌症手術）	9,100点	J 028	舌形成手術（巨舌症手術）	9,100点

J 029	削除		J 029	削除	
J 030	口唇腫瘍摘出術		J 030	口唇腫瘍摘出術	
	1 粘液囊胞摘出術	1,020点		1 粘液囊胞摘出術	1,020点
	2 その他のもの	3,050点		2 その他のもの	3,050点
J 031	口唇悪性腫瘍手術	33,010点	J 031	口唇悪性腫瘍手術	33,010点
J 032	口腔、頸、顔面悪性腫瘍切除術	121,740点	J 032	口腔、頸、顔面悪性腫瘍切除術	121,740点
J 033	頬腫瘍摘出術		J 033	頬腫瘍摘出術	
	1 粘液囊胞摘出術	910点		1 粘液囊胞摘出術	910点
	2 その他のもの	5,250点		2 その他のもの	5,250点
J 034	頬粘膜腫瘍摘出術	4,460点	J 034	頬粘膜腫瘍摘出術	4,460点
J 035	頬粘膜悪性腫瘍手術	26,310点	J 035	頬粘膜悪性腫瘍手術	26,310点
J 035-2	口腔粘膜血管腫凝固術（一連につき）	2,000点	J 035-2	口腔粘膜血管腫凝固術（一連につき）	2,000点
	注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により当該手術を実施した場合に算定する。			注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により当該手術を実施した場合に算定する。	
J 036	術後性上顎囊胞摘出術		J 036	術後性上顎囊胞摘出術	
	1 上顎に限局するもの	6,660点		1 上顎に限局するもの	6,660点
	2 篩骨蜂巣に及ぶもの	14,500点		2 篩骨蜂巣に及ぶもの	14,500点
J 037	上顎洞口腔瘻閉鎖術		J 037	上顎洞口腔瘻閉鎖術	
	1 簡単なもの	150点		1 簡単なもの	150点
	2 困難なもの	1,000点		2 困難なもの	1,000点
	3 著しく困難なもの	5,800点		3 著しく困難なもの	5,800点
J 038	上顎骨切除術	15,310点	J 038	上顎骨切除術	15,310点
J 039	上顎骨悪性腫瘍手術		J 039	上顎骨悪性腫瘍手術	
	1 搢爬	10,530点		1 搢爬	10,530点
	2 切除	34,420点		2 切除	34,420点
	3 全摘	68,480点		3 全摘	68,480点
J 040	下顎骨部分切除術	16,780点	J 040	下顎骨部分切除術	16,780点
J 041	下顎骨離断術	32,560点	J 041	下顎骨離断術	32,560点
J 042	下顎骨悪性腫瘍手術		J 042	下顎骨悪性腫瘍手術	

	1 切除	40,360点		1 切除	40,360点
	2 切断 (おとがい部を含むもの)	79,270点		2 切断 (おとがい部を含むもの)	79,270点
	3 切断 (その他のもの)	64,590点		3 切断 (その他のもの)	64,590点
J 0 4 3	頸骨腫瘍摘出術 (歯根嚢胞を除く。)		J 0 4 3	頸骨腫瘍摘出術 (歯根嚢胞を除く。)	
	1 長径3センチメートル未満	<u>4,020点</u>		1 長径3センチメートル未満	<u>2,820点</u>
	2 長径3センチメートル以上	13,390点		2 長径3センチメートル以上	13,390点
J 0 4 4	頸骨嚢胞開窓術	2,040点	J 0 4 4	頸骨嚢胞開窓術	2,040点
J 0 4 4-2	埋伏歯開窓術	2,820点	J 0 4 4-2	埋伏歯開窓術	2,820点
J 0 4 5	口蓋隆起形成術	2,040点	J 0 4 5	口蓋隆起形成術	2,040点
J 0 4 6	下顎隆起形成術	1,700点	J 0 4 6	下顎隆起形成術	1,700点
	注 両側同時に行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。			注 両側同時に行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。	
J 0 4 7	腐骨除去手術		J 0 4 7	腐骨除去手術	
	1 歯槽部に限局するもの	600点		1 歯槽部に限局するもの	600点
	2 頸骨に及ぶもの			2 頸骨に及ぶもの	
	イ 片側の3分の1未満の範囲のもの	<u>1,560点</u>		イ 片側の3分の1未満の範囲のもの	<u>1,300点</u>
	ロ 片側の3分の1以上の範囲のもの	<u>4,100点</u>		ロ 片側の3分の1以上の範囲のもの	<u>3,420点</u>
	注 2のイについて、骨吸収抑制薬関連頸骨壊死又は放射線性頸骨壊死に対して当該手術を行った場合は、 <u>1,200点</u> を所定点数に加算する。			注 2のイについて、骨吸収抑制薬関連頸骨壊死又は放射線性頸骨壊死に対して当該手術を行った場合は、 <u>1,000点</u> を所定点数に加算する。	
J 0 4 8	口腔外消炎手術		J 0 4 8	口腔外消炎手術	
	1 骨膜下膿瘍、皮下膿瘍、蜂窩織炎等			1 骨膜下膿瘍、皮下膿瘍、蜂窩織炎等	
	イ 2センチメートル未満のもの	180点		イ 2センチメートル未満のもの	180点
	ロ 2センチメートル以上5センチメートル未満のもの	300点		ロ 2センチメートル以上5センチメートル未満のもの	300点
	ハ 5センチメートル以上のもの	750点		ハ 5センチメートル以上のもの	750点
	2 頸炎又は頸骨骨髓炎			2 頸炎又は頸骨骨髓炎	
	イ 3分の1顎以上の範囲のもの	2,600点		イ 3分の1顎以上の範囲のもの	2,600点
	ロ 全顎にわたるもの	5,700点		ロ 全顎にわたるもの	5,700点
J 0 4 9	外歯瘻手術	1,500点	J 0 4 9	外歯瘻手術	1,500点
J 0 5 0	歯性扁桃周囲膿瘍切開手術	870点	J 0 5 0	歯性扁桃周囲膿瘍切開手術	870点

J 0 5 1	がま腫切開術	<u>1,230点</u>	J 0 5 1	がま腫切開術	<u>820点</u>
J 0 5 2	がま腫摘出術	7,140点	J 0 5 2	がま腫摘出術	7,140点
J 0 5 3	唾石摘出術（一連につき）		J 0 5 3	唾石摘出術（一連につき）	
1	表在性のもの	<u>1,080点</u>	1	表在性のもの	<u>720点</u>
2	深在性のもの	4,330点	2	深在性のもの	4,330点
3	腺体内に存在するもの	6,550点	3	腺体内に存在するもの	6,550点
注	2及び3について内視鏡を用いた場合は、1,000点を所定点数に加算する。		注	2及び3について内視鏡を用いた場合は、1,000点を所定点数に加算する。	
J 0 5 4	舌下腺腫瘍摘出術	7,180点	J 0 5 4	舌下腺腫瘍摘出術	7,180点
J 0 5 5	頸下腺摘出術	10,210点	J 0 5 5	頸下腺摘出術	10,210点
J 0 5 6	頸下腺腫瘍摘出術	9,640点	J 0 5 6	頸下腺腫瘍摘出術	9,640点
J 0 5 7	頸下腺悪性腫瘍手術	33,010点	J 0 5 7	頸下腺悪性腫瘍手術	33,010点
J 0 5 8	削除		J 0 5 8	削除	
J 0 5 9	耳下腺腫瘍摘出術		J 0 5 9	耳下腺腫瘍摘出術	
1	耳下腺浅葉摘出術	27,210点	1	耳下腺浅葉摘出術	27,210点
	2 耳下腺深葉摘出術	34,210点	2	耳下腺深葉摘出術	34,210点
J 0 6 0	耳下腺悪性腫瘍手術		J 0 6 0	耳下腺悪性腫瘍手術	
1	切除	33,010点	1	切除	33,010点
2	全摘	44,020点	2	全摘	44,020点
J 0 6 1	唾液腺膿瘍切開術	900点	J 0 6 1	唾液腺膿瘍切開術	900点
J 0 6 2	唾液腺管形成手術	13,630点	J 0 6 2	唾液腺管形成手術	13,630点
J 0 6 3	歯周外科手術		J 0 6 3	歯周外科手術	
1	歯周ポケット搔爬術	80点	1	歯周ポケット搔爬術	80点
2	新付着手術	160点	2	新付着手術	160点
3	歯肉切除手術	320点	3	歯肉切除手術	320点
4	歯肉剥離搔爬手術	630点	4	歯肉剥離搔爬手術	630点
5	歯周組織再生誘導手術		5	歯周組織再生誘導手術	
イ	1次手術（吸収性又は非吸収性膜の固定を伴うもの）	840点	イ	1次手術（吸収性又は非吸収性膜の固定を伴うもの）	840点
ロ	2次手術（非吸収性膜の除去）	380点	ロ	2次手術（非吸収性膜の除去）	380点
6	歯肉歯槽粘膜形成手術		6	歯肉歯槽粘膜形成手術	

イ 齒肉弁根尖側移動術	770点
ロ 齒肉弁歯冠側移動術	770点
ハ 齒肉弁側方移動術	770点
ニ 遊離歯肉移植術	770点
ホ 口腔前庭拡張術	2,820点
ヘ 結合組織移植術	840点

注1 4及び5については、当該手術と同時に歯槽骨欠損部に骨代用物質を挿入した場合は、110点を所定点数に加算する。

2 5については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、根分岐部病変又は垂直性の骨欠損を有する歯に対して行った場合に、算定する。

3 区分番号 I 0 1 1 – 2 に掲げる歯周病継続支援治療を開始した日以降に実施する場合（6については、歯周病治療を目的として実施する場合に限る。）は、所定点数（注1の加算を含む。）の100分の50に相当する点数により算定する。

4 簡単な暫間固定及び特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、4又は5について、レーザー照射により当該手術の対象歯の歯根面の歯石除去等を行った場合は、手術時歯根面レーザー応用加算として、60点を所定点数に加算する。

6 1から5まで及び6のイからハまでについて  
は1歯につき算定し、6のニからヘまでについ

イ 齒肉弁根尖側移動術	770点
ロ 齒肉弁歯冠側移動術	770点
ハ 齒肉弁側方移動術	770点
ニ 遊離歯肉移植術	770点
ホ 口腔前庭拡張術	2,820点
ヘ 結合組織移植術	840点

注1 4及び5については、当該手術と同時に歯槽骨欠損部に骨代用物質を挿入した場合は、110点を所定点数に加算する。

2 5については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、根分岐部病変又は垂直性の骨欠損を有する歯に対して行った場合に、算定する。

3 区分番号 I 0 1 1 – 2 に掲げる歯周病定期治療を開始した日以降に実施する場合（6については、歯周病治療を目的として実施する場合に限る。）は、所定点数（注1の加算を含む。）の100分の50に相当する点数により算定する。

4 簡単な暫間固定及び特定薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、4又は5について、レーザー照射により当該手術の対象歯の歯根面の歯石除去等を行った場合は、手術時歯根面レーザー応用加算として、60点を所定点数に加算する。

6 1から5まで及び6のイからハまでについて  
は1歯につき算定し、6のニからヘまでについ

ては手術野ごとに算定する。  
J 063-2 骨移植術（軟骨移植術を含む。）

1 自家骨移植	
イ 簡単なもの	1,780点
ロ 困難なもの	16,830点
2 同種骨移植（生体）	28,660点
3 同種骨移植（非生体）	
イ 同種骨移植（特殊なもの）	39,720点
ロ その他の場合	21,050点

注 骨提供者に係る組織適合性試験の費用は、所定点数に含まれる。

J 063-3 骨（軟骨）組織採取術

1 腸骨翼	3,150点
2 その他のもの	4,510点

注 2については、口腔内から組織採取を行った場合を除く。

J 064 削除

J 065 歯槽骨骨折非観血的整復術

1 1歯又は2歯にわたるもの	680点
2 3歯以上にわたるもの	1,300点

J 066 歯槽骨骨折観血的整復術

1 1歯又は2歯にわたるもの	1,300点
2 3歯以上にわたるもの	2,700点

J 067 上顎骨折非観血的整復術

1,800点

J 068 上顎骨折観血的手術

16,400点

J 069 上顎骨形成術

1 単純な場合	27,880点
2 複雑な場合及び2次的再建の場合	45,510点
3 骨移動を伴う場合	72,900点

注 1について、上顎骨を複数に分割した場合は、5,000点を所定点数に加算する。

ては手術野ごとに算定する。  
J 063-2 骨移植術（軟骨移植術を含む。）

1 自家骨移植	
イ 簡単なもの	1,780点
ロ 困難なもの	16,830点
2 同種骨移植（生体）	28,660点
3 同種骨移植（非生体）	
イ 同種骨移植（特殊なもの）	39,720点
ロ その他の場合	21,050点

注 骨提供者に係る組織適合性試験の費用は、所定点数に含まれる。

J 063-3 骨（軟骨）組織採取術

1 腸骨翼	3,150点
2 その他のもの	4,510点

注 2については、口腔内から組織採取を行った場合を除く。

J 064 削除

J 065 歯槽骨骨折非観血的整復術

1 1歯又は2歯にわたるもの	680点
2 3歯以上にわたるもの	1,300点

J 066 歯槽骨骨折観血的整復術

1 1歯又は2歯にわたるもの	1,300点
2 3歯以上にわたるもの	2,700点

J 067 上顎骨折非観血的整復術

1,800点

J 068 上顎骨折観血的手術

16,400点

J 069 上顎骨形成術

1 単純な場合	27,880点
2 複雑な場合及び2次的再建の場合	45,510点
3 骨移動を伴う場合	72,900点

注 1について、上顎骨を複数に分割した場合は、5,000点を所定点数に加算する。

	2 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、先天異常の患者に対して行われる場合に限り算定する。
J 070	きよつ 頸骨骨折観血的整復術 18,100点
J 070-2	きよつ 頸骨変形治癒骨折矯正術 38,610点
J 071	下顎骨折非観血的整復術 1,240点 注 連続した歯に対して三内式線副子以上の結紮法を行った場合は、650点を所定点数に加算する。
J 072	下顎骨折観血的手術 1 片側 13,000点 2 両側 27,320点
J 072-2	下顎関節突起骨折観血的手術 1 片側 28,210点 2 両側 47,020点
J 073	口腔内軟組織異物（人工物）除去術 1 簡単なもの 30点 2 困難なもの イ 浅在性のもの 680点 ロ 深在性のもの 1,290点 3 著しく困難なもの 4,400点
J 074	頸骨内異物（挿入物を含む。）除去術 1 簡単なもの イ 手術範囲が頸骨の2分の1頸程度未満の場合 1,500点 ロ 手術範囲が全顎にわたる場合 2,000点 2 困難なもの イ 手術範囲が頸骨の3分の2頸程度未満の場合 4,000点 ロ 手術範囲が全顎にわたる場合 5,500点
J 075	下顎骨形成術

	2 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、先天異常の患者に対して行われる場合に限り算定する。
J 070	きよつ 頸骨骨折観血的整復術 18,100点
J 070-2	きよつ 頸骨変形治癒骨折矯正術 38,610点
J 071	下顎骨折非観血的整復術 1,240点 注 連続した歯に対して三内式線副子以上の結紮法を行った場合は、650点を所定点数に加算する。
J 072	下顎骨折観血的手術 1 片側 13,000点 2 両側 27,320点
J 072-2	下顎関節突起骨折観血的手術 1 片側 28,210点 2 両側 47,020点
J 073	口腔内軟組織異物（人工物）除去術 1 簡単なもの 30点 2 困難なもの イ 浅在性のもの 680点 ロ 深在性のもの 1,290点 3 著しく困難なもの 4,400点
J 074	頸骨内異物（挿入物を含む。）除去術 1 簡単なもの イ 手術範囲が頸骨の2分の1頸程度未満の場合 850点 ロ 手術範囲が全顎にわたる場合 1,680点 2 困難なもの イ 手術範囲が頸骨の3分の2頸程度未満の場合 2,900点 ロ 手術範囲が全顎にわたる場合 4,180点
J 075	下顎骨形成術

	1 おとがい形成の場合	8,710点		1 おとがい形成の場合	8,710点
	2 短縮又は伸長の場合	30,790点		2 短縮又は伸長の場合	30,790点
	3 再建の場合	51,120点		3 再建の場合	51,120点
	4 骨移動を伴う場合	54,210点		4 骨移動を伴う場合	54,210点
	注 1 2については、両側を同時に行つた場合は、3,000点を所定点数に加算する。			注 1 2については、両側を同時に行つた場合は、3,000点を所定点数に加算する。	
	2 4については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、先天異常の患者に対して行われる場合に限り算定する。			2 4については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、先天異常の患者に対して行われる場合に限り算定する。	
J 075-2	下顎骨延長術		J 075-2	下顎骨延長術	
	1 片側	30,790点		1 片側	30,790点
	2 両側	47,550点		2 両側	47,550点
J 076	顔面多発骨折観血的手術	39,700点	J 076	顔面多発骨折観血的手術	39,700点
J 077	顎関節脱臼非観血的整復術	<u>800点</u>	J 077	顎関節脱臼非観血的整復術	<u>410点</u>
J 078	顎関節脱臼観血的手術	26,210点	J 078	顎関節脱臼観血的手術	26,210点
J 079	顎関節形成術	40,870点	J 079	顎関節形成術	40,870点
J 080	顎関節授動術		J 080	顎関節授動術	
	1 徒手的授動術			1 徒手的授動術	
	イ 単独の場合	440点		イ 単独の場合	440点
	ロ パンピングを併用した場合	990点		ロ パンピングを併用した場合	990点
	ハ 関節腔 <sup>くう</sup> 洗浄療法を併用した場合	2,760点		ハ 関節腔 <sup>くう</sup> 洗浄療法を併用した場合	2,760点
	2 顎関節鏡下授動術	12,090点		2 顎関節鏡下授動術	12,090点
	3 開放授動術	25,100点		3 開放授動術	25,100点
J 080-2	顎関節人工関節全置換術	59,260点	J 080-2	顎関節人工関節全置換術	59,260点
	注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、行われる場合に限り算定する。			注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、行われる場合に限り算定する。	
J 081	顎関節円板整位術		J 081	顎関節円板整位術	
	1 顎関節鏡下円板整位術	22,100点		1 顎関節鏡下円板整位術	22,100点
	2 開放円板整位術	27,300点		2 開放円板整位術	27,300点

J 082	歯科インプラント摘出術（1個につき）	
1	人工歯根タイプ	460点
2	ブレードタイプ	1,250点
3	骨膜下インプラント	1,700点
注	骨の開さくを行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。	
J 083	顎骨インプラント摘出術	
1	2分の1顎未満の範囲のもの	2,040点
2	2分の1顎以上の範囲のもの	6,270点
J 084	創傷処理	
1	筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	1,400点
2	筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満）	1,880点
3	筋肉、臓器に達するもの（長径10センチメートル以上） イ 頭頸部のもの（長径20センチメートル以上の ものに限る。）	9,630点
	ロ その他のもの	3,090点
4	筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル未満）	530点
5	筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満）	950点
6	筋肉、臓器に達しないもの（長径10センチメートル以上）	1,480点
注1	切、刺、割創又は挫創の手術について切除、 結紮又は縫合を行う場合に限り算定する。	
2	真皮縫合を伴う縫合閉鎖を行った場合は、露 出部の創傷に限り460点を所定点数に加算する 。	
3	汚染された挫創に対して区分番号 J 085 に	

J 082	歯科インプラント摘出術（1個につき）	
1	人工歯根タイプ	460点
2	ブレードタイプ	1,250点
3	骨膜下インプラント	1,700点
注	骨の開さくを行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数を所定点数に加算する。	
J 083	顎骨インプラント摘出術	
1	2分の1顎未満の範囲のもの	2,040点
2	2分の1顎以上の範囲のもの	6,270点
J 084	創傷処理	
1	筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	1,400点
2	筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満）	1,880点
3	筋肉、臓器に達するもの（長径10センチメートル以上） イ 頭頸部のもの（長径20センチメートル以上の ものに限る。）	9,630点
	ロ その他のもの	3,090点
4	筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル未満）	530点
5	筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満）	950点
6	筋肉、臓器に達しないもの（長径10センチメートル以上）	1,480点
注1	切、刺、割創又は挫創の手術について切除、 結紮又は縫合を行う場合に限り算定する。	
2	真皮縫合を伴う縫合閉鎖を行った場合は、露 出部の創傷に限り460点を所定点数に加算する 。	
3	汚染された挫創に対して区分番号 J 085 に	

掲げるデブリードマンを行った場合は、当初の  
1回に限り100点を所定点数に加算する。

J 084-2 小児創傷処理（6歳未満）

- 1 筋肉、臓器に達するもの（長径2.5センチメートル未満） 1,400点
- 2 筋肉、臓器に達するもの（長径2.5センチメートル以上5センチメートル未満） 1,540点
- 3 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満） 2,860点
- 4 筋肉、臓器に達するもの（長径10センチメートル以上） 4,410点
- 5 筋肉、臓器に達しないもの（長径2.5センチメートル未満） 500点
- 6 筋肉、臓器に達しないもの（長径2.5センチメートル以上5センチメートル未満） 560点
- 7 筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満） 1,060点
- 8 筋肉、臓器に達しないもの（長径10センチメートル以上） 1,950点

- 注1 切、刺、割創又は挫創の手術について切除、  
結紮又は縫合を行う場合に限り算定する。
- 2 真皮縫合を伴う縫合閉鎖を行った場合は、露  
出部の創傷に限り460点を所定点数に加算する  
。
  - 3 汚染された挫創に対して区分番号 J 085 に  
掲げるデブリードマンを行った場合は、当初の  
1回に限り100点を所定点数に加算する。

J 085 デブリードマン

- 1 100平方センチメートル未満 1,620点
- 2 100平方センチメートル以上3,000平方センチメートル未満 4,820点

掲げるデブリードマンを行った場合は、当初の  
1回に限り100点を所定点数に加算する。

J 084-2 小児創傷処理（6歳未満）

- 1 筋肉、臓器に達するもの（長径2.5センチメートル未満） 1,400点
- 2 筋肉、臓器に達するもの（長径2.5センチメートル以上5センチメートル未満） 1,540点
- 3 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満） 2,860点
- 4 筋肉、臓器に達するもの（長径10センチメートル以上） 4,410点
- 5 筋肉、臓器に達しないもの（長径2.5センチメートル未満） 500点
- 6 筋肉、臓器に達しないもの（長径2.5センチメートル以上5センチメートル未満） 560点
- 7 筋肉、臓器に達しないもの（長径5センチメートル以上10センチメートル未満） 1,060点
- 8 筋肉、臓器に達しないもの（長径10センチメートル以上） 1,950点

- 注1 切、刺、割創又は挫創の手術について切除、  
結紮又は縫合を行う場合に限り算定する。
- 2 真皮縫合を伴う縫合閉鎖を行った場合は、露  
出部の創傷に限り460点を所定点数に加算する  
。
  - 3 汚染された挫創に対して区分番号 J 085 に  
掲げるデブリードマンを行った場合は、当初の  
1回に限り100点を所定点数に加算する。

J 085 デブリードマン

- 1 100平方センチメートル未満 1,620点
- 2 100平方センチメートル以上3,000平方センチメートル未満 4,820点

注1 当初の1回に限り算定する。

2 骨、腱又は筋肉の露出を伴う損傷については、深部デブリードマン加算として、1,000点を所定点数に加算する。

J 086	上顎洞開窓術	1,300点
J 086-2	内視鏡下上顎洞開窓術	3,600点
J 087	上顎洞根治手術	9,180点
J 087-2	上顎洞炎術後後出血止血法	6,660点
J 088	リンパ節摘出術	
	1 長径3センチメートル未満	1,200点
	2 長径3センチメートル以上	2,880点
J 089	分層植皮術	
	1 25平方センチメートル未満	3,520点
	2 25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満	6,270点
	3 100平方センチメートル以上200平方センチメートル未満	9,000点
	4 200平方センチメートル以上	25,820点
J 089-2	全層植皮術	
	1 25平方センチメートル未満	10,000点
	2 25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満	12,500点
	3 100平方センチメートル以上200平方センチメートル未満	28,210点
	4 200平方センチメートル以上	40,290点
	注 広範囲皮膚欠損の患者に対して行う場合は、頭 頸部、左上肢、左下肢、右上肢、右下肢、腹部又 は背部のそれぞれの部位ごとに所定点数を算定す る。	
J 090	皮膚移植術（生体・培養）	6,110点
	注1 生体皮膚又は培養皮膚移植を行った場合に算	

注1 当初の1回に限り算定する。

2 骨、腱又は筋肉の露出を伴う損傷については、深部デブリードマン加算として、1,000点を所定点数に加算する。

J 086	上顎洞開窓術	1,300点
J 086-2	内視鏡下上顎洞開窓術	3,600点
J 087	上顎洞根治手術	9,180点
J 087-2	上顎洞炎術後後出血止血法	6,660点
J 088	リンパ節摘出術	
	1 長径3センチメートル未満	1,200点
	2 長径3センチメートル以上	2,880点
J 089	分層植皮術	
	1 25平方センチメートル未満	3,520点
	2 25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満	6,270点
	3 100平方センチメートル以上200平方センチメートル未満	9,000点
	4 200平方センチメートル以上	25,820点
J 089-2	全層植皮術	
	1 25平方センチメートル未満	10,000点
	2 25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満	12,500点
	3 100平方センチメートル以上200平方センチメートル未満	28,210点
	4 200平方センチメートル以上	40,290点
	注 広範囲皮膚欠損の患者に対して行う場合は、頭 頸部、左上肢、左下肢、右上肢、右下肢、腹部又 は背部のそれぞれの部位ごとに所定点数を算定す る。	
J 090	皮膚移植術（生体・培養）	6,110点
	注1 生体皮膚又は培養皮膚移植を行った場合に算	

定する。

2 生体皮膚を移植した場合は、生体皮膚の摘出のために要した提供者の療養上の費用として、この表に掲げる所定点数により算定した点数を加算する。

J 090-2 皮膚移植術（死体）

- |                                    |         |
|------------------------------------|---------|
| 1 200平方センチメートル未満                   | 8,000点  |
| 2 200平方センチメートル以上500平方センチメートル未満     | 16,000点 |
| 3 500平方センチメートル以上1,000平方センチメートル未満   | 32,000点 |
| 4 1,000平方センチメートル以上3,000平方センチメートル未満 | 80,000点 |

J 091 皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術

- |                               |         |
|-------------------------------|---------|
| 1 25平方センチメートル未満               | 5,180点  |
| 2 25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満 | 13,720点 |
| 3 100平方センチメートル以上              | 22,310点 |

J 092 動脈（皮）弁術、筋（皮）弁術

41,120点

J 093 遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付きのもの）

105,800点

J 094 削除

J 095 複合組織移植術

19,420点

J 096 自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付きのもの）

) 131,310点

J 097 粘膜移植術

- |                |        |
|----------------|--------|
| 1 4平方センチメートル未満 | 6,510点 |
| 2 4平方センチメートル以上 | 7,820点 |

J 098 血管結紮術

4,500点

J 099 動脈形成術、吻合術

21,700点

J 099-2 抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植

定する。

2 生体皮膚を移植した場合は、生体皮膚の摘出のために要した提供者の療養上の費用として、この表に掲げる所定点数により算定した点数を加算する。

J 090-2 皮膚移植術（死体）

- |                                    |         |
|------------------------------------|---------|
| 1 200平方センチメートル未満                   | 8,000点  |
| 2 200平方センチメートル以上500平方センチメートル未満     | 16,000点 |
| 3 500平方センチメートル以上1,000平方センチメートル未満   | 32,000点 |
| 4 1,000平方センチメートル以上3,000平方センチメートル未満 | 80,000点 |

J 091 皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術

- |                               |         |
|-------------------------------|---------|
| 1 25平方センチメートル未満               | 5,180点  |
| 2 25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満 | 13,720点 |
| 3 100平方センチメートル以上              | 22,310点 |

J 092 動脈（皮）弁術、筋（皮）弁術

41,120点

J 093 遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付きのもの）

105,800点

J 094 削除

J 095 複合組織移植術

19,420点

J 096 自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付きのもの）

) 131,310点

J 097 粘膜移植術

- |                |        |
|----------------|--------|
| 1 4平方センチメートル未満 | 6,510点 |
| 2 4平方センチメートル以上 | 7,820点 |

J 098 血管結紮術

4,500点

J 099 動脈形成術、吻合術

21,700点

J 099-2 抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植

	込型カテーテル設置	16,640点
注 使用したカテーテル、カテーテルアクセス等の材料の費用は、所定点数に含まれる。		
J 100	血管移植術、バイパス移植術	
1	頭、頸部動脈	61,660点
2	その他の動脈	30,290点
J 100-2	中心静脈注射用植込型カテーテル設置	10,800点
注1 6歳未満の乳幼児の場合は、300点を所定点数に加算する。		
注2 使用したカテーテル、カテーテルアクセス等の材料の費用は、所定点数に含まれる。		
J 101	神経移植術	23,520点
J 101-2	神経再生誘導術	21,590点
J 102	交感神経節切除術	26,030点
J 103	過長茎状突起切除術	6,440点
J 104	皮膚腫瘍冷凍凝固摘出術（一連につき）	
1	長径3センチメートル未満の良性皮膚腫瘍	1,280点
2	長径3センチメートル未満の悪性皮膚腫瘍	2,050点
3	長径3センチメートル以上6センチメートル未満の良性又は悪性皮膚腫瘍	3,230点
4	長径6センチメートル以上の良性又は悪性皮膚腫瘍	4,160点
注 口腔領域の腫瘍に限り算定する。		
J 104-2	皮膚悪性腫瘍切除術	
1	広汎切除	28,210点
2	単純切除	11,000点
注 放射性同位元素及び色素を用いたセンチネルリンパ節生検（悪性黒色腫等に係るものに限る。）を併せて行った場合は、皮膚悪性腫瘍センチネル		
	込型カテーテル設置	16,640点
注 使用したカテーテル、カテーテルアクセス等の材料の費用は、所定点数に含まれる。		
J 100	血管移植術、バイパス移植術	
1	頭、頸部動脈	61,660点
2	その他の動脈	30,290点
J 100-2	中心静脈注射用植込型カテーテル設置	10,800点
注1 6歳未満の乳幼児の場合は、300点を所定点数に加算する。		
注2 使用したカテーテル、カテーテルアクセス等の材料の費用は、所定点数に含まれる。		
J 101	神経移植術	23,520点
J 101-2	神経再生誘導術	21,590点
J 102	交感神経節切除術	26,030点
J 103	過長茎状突起切除術	6,440点
J 104	皮膚腫瘍冷凍凝固摘出術（一連につき）	
1	長径3センチメートル未満の良性皮膚腫瘍	1,280点
2	長径3センチメートル未満の悪性皮膚腫瘍	2,050点
3	長径3センチメートル以上6センチメートル未満の良性又は悪性皮膚腫瘍	3,230点
4	長径6センチメートル以上の良性又は悪性皮膚腫瘍	4,160点
注 口腔領域の腫瘍に限り算定する。		
J 104-2	皮膚悪性腫瘍切除術	
1	広汎切除	28,210点
2	単純切除	11,000点
注 放射性同位元素及び色素を用いたセンチネルリンパ節生検（悪性黒色腫等に係るものに限る。）を併せて行った場合は、皮膚悪性腫瘍センチネル		

	リンパ節生検加算として、5,000点を所定点数に加算する。ただし、当該手術に用いた色素の費用は、算定できない。	
J 1 0 5	瘢痕拘縮形成手術	12,660点
J 1 0 6	気管切開術	3,450点
J 1 0 7	気管切開孔閉鎖術	1,250点
J 1 0 8	顔面神経麻痺形成手術	
	1 静的なもの	19,110点
	2 動的なもの	64,350点
J 1 0 9	広範囲頸骨支持型装置埋入手術（1頸一連につき）	
	1 1回法によるもの	<u>16,000点</u>
	2 2回法によるもの	
	イ 1次手術	13,000点
	ロ 2次手術	<u>6,000点</u>
	注 1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合に限り算定する。	
	2 1及び2のイについては、3分の2頸以上の範囲にわたる場合は、4,000点を所定点数に加算する。	
J 1 1 0	広範囲頸骨支持型装置搔爬術（1頸につき）	<u>3,300点</u>
	注 区分番号 J 1 0 9 に掲げる広範囲頸骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M 0 2 5-2 に掲げる広範囲頸骨支持型補綴に係る補綴物を装着した患者に対し、当該手術を行った場合に1回に限り算定する。	
J 1 1 1	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	22,100点
	注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合して	

	リンパ節生検加算として、5,000点を所定点数に加算する。ただし、当該手術に用いた色素の費用は、算定できない。	
J 1 0 5	瘢痕拘縮形成手術	12,660点
J 1 0 6	気管切開術	3,450点
J 1 0 7	気管切開孔閉鎖術	1,250点
J 1 0 8	顔面神経麻痺形成手術	
	1 静的なもの	19,110点
	2 動的なもの	64,350点
J 1 0 9	広範囲頸骨支持型装置埋入手術（1頸一連につき）	
	1 1回法によるもの	<u>14,500点</u>
	2 2回法によるもの	
	イ 1次手術	11,500点
	ロ 2次手術	<u>4,500点</u>
	注 1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合に限り算定する。	
	2 1及び2のイについては、3分の2頸以上の範囲にわたる場合は、4,000点を所定点数に加算する。	
J 1 1 0	広範囲頸骨支持型装置搔爬術（1頸につき）	<u>1,800点</u>
	注 区分番号 J 1 0 9 に掲げる広範囲頸骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M 0 2 5-2 に掲げる広範囲頸骨支持型補綴に係る補綴物を装着した患者に対し、当該手術を行った場合に1回に限り算定する。	
J 1 1 1	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	22,100点
	注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合して	

いるものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、頭頸部悪性腫瘍の患者に対して、光線力学療法を実施した場合に算定する。

## 第2節 輸血料

### 区分

#### J 200 輸血

注 医科点数表の区分番号K 920に掲げる輸血の例により算定する。

#### J 200-2 輸血管管理料

注 医科点数表の区分番号K 920-2に掲げる輸血管管理料の例により算定する。

## 第3節 手術医療機器等加算

### 区分

#### J 200-3 削除

#### J 200-4 上顎洞手術用内視鏡加算 1,000点

注 区分番号J 087及びJ 087-2に掲げる手術に当たって、内視鏡を使用した場合に加算する。  
。

#### J 200-4-2 レーザー機器加算

- |              |      |
|--------------|------|
| 1 レーザー機器加算 1 | 50点  |
| 2 レーザー機器加算 2 | 100点 |
| 3 レーザー機器加算 3 | 200点 |

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により手術を行った場合に算定する。

2 1については、区分番号J 008（1に限る。）、J 009（1及び2に限る。）、J 017（1に限る。）、J 019（1に限る。）、J 027、J 030（1に限る。）、J 033（1に限る。）及びJ 051に掲げる手術に当

いるものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、頭頸部悪性腫瘍の患者に対して、光線力学療法を実施した場合に算定する。

## 第2節 輸血料

### 区分

#### J 200 輸血

注 医科点数表の区分番号K 920に掲げる輸血の例により算定する。

#### J 200-2 輸血管管理料

注 医科点数表の区分番号K 920-2に掲げる輸血管管理料の例により算定する。

## 第3節 手術医療機器等加算

### 区分

#### J 200-3 削除

#### J 200-4 上顎洞手術用内視鏡加算 1,000点

注 区分番号J 087及びJ 087-2に掲げる手術に当たって、内視鏡を使用した場合に加算する。  
。

#### J 200-4-2 レーザー機器加算

- |              |      |
|--------------|------|
| 1 レーザー機器加算 1 | 50点  |
| 2 レーザー機器加算 2 | 100点 |
| 3 レーザー機器加算 3 | 200点 |

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により手術を行った場合に算定する。

2 1については、区分番号J 008（1に限る。）、J 009（1及び2に限る。）、J 017（1に限る。）、J 019（1に限る。）、J 027、J 030（1に限る。）、J 033（1に限る。）及びJ 051に掲げる手術に当

たって、レーザー手術装置を使用した場合に算定する。

3 2については、区分番号J008（2に限る。）、J009（3に限る。）及びJ017（2に限る。）に掲げる手術に当たって、レーザー手術装置を使用した場合に算定する。

4 3については、区分番号J015、J019（2に限る。）、J020、J030（2に限る。）、J033（2に限る。）、J034、J052及びJ054に掲げる手術に当たって、レーザー手術装置を使用した場合に算定する。

J200-4-3 超音波切削機器加算 1,000点

注 区分番号J039、J042、J069、J075及びJ075-2に掲げる手術に当たって、超音波切削機器を使用した場合に加算する。

J200-4-4 口腔粘膜蛍光観察評価加算 200点

注 区分番号J018に掲げる手術に当たって、口腔粘膜蛍光観察機器を使用した場合に加算する。

J200-5 画像等手術支援加算

1 ナビゲーションによるもの 2,000点  
2 実物大臓器立体モデルによるもの 2,000点  
3 患者適合型手術支援ガイドによるもの  
2,000点

注1 1については、区分番号J086からJ087-2まで及びJ109に掲げる手術に当たって、ナビゲーションによる支援を行った場合に算定する。

2 2については、区分番号J019の2、J038からJ043まで、J068からJ070-2まで、J072及びJ075からJ076

たって、レーザー手術装置を使用した場合に算定する。

3 2については、区分番号J008（2に限る。）、J009（3に限る。）及びJ017（2に限る。）に掲げる手術に当たって、レーザー手術装置を使用した場合に算定する。

4 3については、区分番号J015、J019（2に限る。）、J020、J030（2に限る。）、J033（2に限る。）、J034、J052及びJ054に掲げる手術に当たって、レーザー手術装置を使用した場合に算定する。

J200-4-3 超音波切削機器加算 1,000点

注 区分番号J069、J075及びJ075-2に掲げる手術に当たって、超音波切削機器を使用した場合に加算する。

J200-4-4 口腔粘膜蛍光観察評価加算 200点

注 区分番号J018に掲げる手術に当たって、口腔粘膜蛍光観察機器を使用した場合に加算する。

J200-5 画像等手術支援加算

1 ナビゲーションによるもの 2,000点  
2 実物大臓器立体モデルによるもの 2,000点  
3 患者適合型手術支援ガイドによるもの  
2,000点

注1 1については、区分番号J086からJ087-2まで及びJ109に掲げる手術に当たって、ナビゲーションによる支援を行った場合に算定する。

2 2については、区分番号J019の2、J038からJ043まで、J068からJ070-2まで、J072及びJ075からJ076

までに掲げる手術に当たって、実物大臓器立体モデルによる支援を行った場合に算定する。

3 3については、区分番号J040からJ042まで及び区分番号J075に掲げる手術に当たって、患者適合型手術支援ガイドによる支援を行った場合に算定する。

J 200-6 切開創局所陰圧閉鎖処置機器加算 5,190点  
第4節 薬剤料

区分

J 201 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

## 第5節 特定薬剤料

区分

J 300 特定薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注1 薬価が15円以下である場合は、算定できない  
○  
2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

## 第6節 特定保險醫療材料料

区分

J 400 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に  
厚生労働大臣が定める。

第10部 麻醉

通則

1 麻酔の費用は、第1節及び第2節の各区分の所定点数を合

までに掲げる手術に当たって、実物大臓器立体モデルによる支援を行った場合に算定する。

3 3については、区分番号J040からJ042まで及び区分番号J075に掲げる手術に当たって、患者適合型手術支援ガイドによる支援を行った場合に算定する。

J 200-6 切開創局所陰圧閉鎖処置機器加算 5,190点  
第4節 薬剤料

区分

J 201 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

第5節 特定薬剤料

区分

J 300 特定薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき  
1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注1 薬価が15円以下である場合は、算定できない

○  
2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

## 第6節 特定保險醫療材料料

区分

J 400 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に  
厚生労働大臣が定める。

第10部 麻醉

通則

1 麻酔の費用は、第1節及び第2節の各区分の所定点数を合

算した点数により算定する。ただし、麻酔に当たって別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療材料」という。）を使用した場合は、第1節及び第2節の各区分の所定点数に第3節の所定点数を合算した点数により算定する。

- 2 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して麻酔を行った場合は、全身麻酔の場合を除き、当該麻酔の所定点数に所定点数の100分の50に相当する点数を加算する。
- 3 未熟児、新生児（未熟児を除く。）、乳児又は1歳以上3歳未満の幼児に対して全身麻酔を行った場合は、未熟児加算、新生児加算、乳児加算又は幼児加算として、当該麻酔の所定点数にそれぞれ所定点数の100分の200、100分の200、100分の50又は100分の20に相当する点数を加算する。
- 4 入院中の患者以外の患者に対し、緊急のために、休日に処置及び手術を行った場合又はその開始時間が保険医療機関の表示する診療時間以外の時間若しくは深夜である処置及び手術を行った場合の麻酔料は、それぞれ所定点数の100分の80又は100分の40若しくは100分の80に相当する点数を加算した点数により算定し、入院中の患者に対し、緊急のために、休日に処置若しくは手術を行った場合又はその開始時間が深夜である処置若しくは手術を行った場合の麻酔料は、それぞれ所定点数の100分の80に相当する点数を加算した点数により算定する。ただし、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関にあっては、入院中の患者以外の患者に対し、その開始時間が同注のただし書に規定する時間である処置及び手術を行った場合は、所定点数の10分の40に相当する点数を加算する。
- 5 第10部に掲げる麻酔料以外の麻酔料の算定は、医科点数表の例による。
- 6 酸素を使用した場合は、その価格を10円で除して得た点数（酸素と併せて窒素を使用した場合は、それぞれの価格を10

算した点数により算定する。ただし、麻酔に当たって別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療材料」という。）を使用した場合は、第1節及び第2節の各区分の所定点数に第3節の所定点数を合算した点数により算定する。

- 2 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して麻酔を行った場合は、全身麻酔の場合を除き、当該麻酔の所定点数に所定点数の100分の50に相当する点数を加算する。
- 3 未熟児、新生児（未熟児を除く。）、乳児又は1歳以上3歳未満の幼児に対して全身麻酔を行った場合は、未熟児加算、新生児加算、乳児加算又は幼児加算として、当該麻酔の所定点数にそれぞれ所定点数の100分の200、100分の200、100分の50又は100分の20に相当する点数を加算する。
- 4 入院中の患者以外の患者に対し、緊急のために、休日に処置及び手術を行った場合又はその開始時間が保険医療機関の表示する診療時間以外の時間若しくは深夜である処置及び手術を行った場合の麻酔料は、それぞれ所定点数の100分の80又は100分の40若しくは100分の80に相当する点数を加算した点数により算定し、入院中の患者に対し、緊急のために、休日に処置若しくは手術を行った場合又はその開始時間が深夜である処置若しくは手術を行った場合の麻酔料は、それぞれ所定点数の100分の80に相当する点数を加算した点数により算定する。ただし、区分番号A000に掲げる初診料の注7のただし書に規定する保険医療機関にあっては、入院中の患者以外の患者に対し、その開始時間が同注のただし書に規定する時間である処置及び手術を行った場合は、所定点数の10分の40に相当する点数を加算する。
- 5 第10部に掲げる麻酔料以外の麻酔料の算定は、医科点数表の例による。

（新設）

円で除して得た点数を合算した点数)を加算する。酸素及び  
窒素の価格は、別に厚生労働大臣が定める。

### 第1節 麻酔料

#### 区分

K 0 0 0	伝達麻酔（下顎孔又は眼窩下孔に行うもの）	42点
K 0 0 1	浸潤麻酔	30点
K 0 0 2	吸入鎮静法（30分まで）	70点

注 実施時間が30分を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、所定点数に10点を加算する。

(削除)

K 0 0 3	静脈内鎮静法	600点
	<u>注 区分番号K 0 0 2に掲げる吸入鎮静法は、別に算定できない。</u>	

K 0 0 4	歯科麻酔管理料	
1	<u>歯科麻酔管理料1</u>	<u>750点</u>
2	<u>歯科麻酔管理料2</u>	<u>600点</u>

注1 1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該保険医療機関の麻酔に従事する歯科医師（地方厚生局長等に届け出た者に限る。注2において同じ。）が、医科点数表の区分番号L 0 0 8に掲げる声門上器具又は気管挿管による気道確保を伴う閉鎖循環式全身麻酔を行った場合に算定する。

注2 2については、別に厚生労働大臣が定める施

### 第1節 麻酔料

#### 区分

K 0 0 0	伝達麻酔（下顎孔又は眼窩下孔に行うもの）	42点
K 0 0 1	浸潤麻酔	30点
K 0 0 2	吸入鎮静法（30分まで）	70点

注1 実施時間が30分を超えた場合は、30分又はその端数を増すごとに、所定点数に10点を加算する。

2 酸素を使用した場合は、その価格を10円で除して得た点数（酸素と併せて窒素を使用した場合は、それぞれの価格を10円で除して得た点数を合算した点数）を加算する。酸素及び窒素の価格は、別に厚生労働大臣が定める。

K 0 0 3	静脈内鎮静法	600点
	<u>注 区分番号K 0 0 2に掲げる吸入鎮静法は、別に算定できない。</u>	

K 0 0 4	歯科麻酔管理料	<u>750点</u>
	<u>(新設)</u>	
	<u>(新設)</u>	

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該保険医療機関の麻酔に従事する歯科医師（地方厚生局長等に届け出た者に限る。）が行った場合に算定する。

(新設)

設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該保険医療機関の麻酔に従事する歯科医師が、K002に掲げる吸入鎮静法、K003に掲げる静脈内鎮静法、K005に掲げる歯科吸入麻酔又は歯科静脈麻酔<sup>(I)</sup>又はK006に掲げる歯科吸入麻酔又は歯科静脈麻酔<sup>(II)</sup>を行った場合に算定する。

3 区分番号J018の2、J093及びJ096に掲げる手術に当たって、医科点数表の区分番号L008に掲げる声門上器具又は気管挿管による気道確保を伴う閉鎖循環式全身麻酔の実施時間が8時間を超えた場合は、長時間麻酔管理加算として、5,500点を所定点数に加算する。

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者に対して、当該保険医療機関の薬剤師が、病棟等において薬剤関連業務を実施している薬剤師等と連携して、周術期に必要な薬学的管理を行った場合は、周術期薬剤管理加算として、75点を所定点数に加算する。

K005 歯科吸入麻酔又は歯科静脈麻酔<sup>(I)</sup>

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1 10分未満のもの      | 120点 |
| 2 10分以上20分未満のもの | 310点 |

K006 歯科吸入麻酔又は歯科静脈麻酔<sup>(II)</sup>

- |                                |        |
|--------------------------------|--------|
| 1 麻酔に従事する歯科医師が専従で実施する場合        | 2,600点 |
| 2 麻酔に従事する歯科医師の指導下で麻酔を専従で実施する場合 | 1,700点 |

2 区分番号J018の2、J093及びJ096に掲げる手術に当たって、医科点数表の区分番号L008に掲げるマスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔の実施時間が8時間を超えた場合は、長時間麻酔管理加算として、5,500点を所定点数に加算する。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者に対して、当該保険医療機関の薬剤師が、病棟等において薬剤関連業務を実施している薬剤師等と連携して、周術期に必要な薬学的管理を行った場合は、周術期薬剤管理加算として、75点を所定点数に加算する。

(新設)

(新設)

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| <u>3 麻酔を専従で実施する場合</u> | <u>900点</u> |
| <u>4 1から3まで以外の場合</u>  | <u>600点</u> |

注1 1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該保険医療機関の麻酔に従事する歯科医師（以下この区分番号において「歯科麻酔科医」という。）が行った場合に算定する。

2 2について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯科麻酔科医の指導の下に麻酔を担当するものが行った場合に算定する。

3 1及び2について、実施時間が2時間を超えた場合は、麻酔管理時間加算として、30分又はその端数を増すごとに、それぞれ780点又は510点を所定点数に加算する。

4 3歳以上6歳未満の幼児に対して行った場合は、幼児加算として、所定点数にそれぞれ所定点数の100分の10に相当する点数を加算する。

## 第2節 薬剤料

### 区分

K 1 0 0 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注1 薬価が15円以下である場合は、算定できない。  
。  
2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

## 第3節 特定保険医療材料料

## 第2節 薬剤料

### 区分

K 1 0 0 薬剤 薬価が15円を超える場合は、薬価から15円を控除した額を10円で除して得た点数につき1点未満の端数を切り上げて得た点数に1点を加算して得た点数とする。

注1 薬価が15円以下である場合は、算定できない。  
。  
2 使用薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣が定める。

## 第3節 特定保険医療材料料

区分

K 2 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数

注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

第11部 放射線治療

通則

- 1 放射線治療の費用は、第1節の各区分の所定点数により算定する。ただし、放射線治療に当たって、別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療材料」という。）を使用した場合は、第1節の所定点数に第2節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 第1節に掲げられていない放射線治療であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている放射線治療のうちで最も近似する放射線治療の所定点数により算定する。
- 3 新生児、3歳未満の乳幼児（新生児を除く。）、3歳以上6歳未満の幼児又は6歳以上15歳未満の小児に対して放射線治療（区分番号L 0 0 0からL 0 0 3までに掲げる放射線治療に限る。）を行った場合は、小児放射線治療加算として、当該放射線治療の所定点数にそれぞれ所定点数の100分の80、100分の50、100分の30又は100分の20に相当する点数を加算する。

第1節 放射線治療管理・実施料

区分

L 0 0 0 放射線治療管理料（分布図の作成1回につき）

- |                                  |        |
|----------------------------------|--------|
| 1 1門照射、対向2門照射又は外部照射を行った場合        | 2,700点 |
| 2 非対向2門照射、3門照射又は腔内照射を行った場合       | 3,100点 |
| 3 4門以上の照射、運動照射、原体照射又は組織内照射を行った場合 | 4,000点 |
| 4 強度変調放射線治療（IMRT）による体外照          |        |

区分

K 2 0 0 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数

注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

第11部 放射線治療

通則

- 1 放射線治療の費用は、第1節の各区分の所定点数により算定する。ただし、放射線治療に当たって、別に厚生労働大臣が定める保険医療材料（以下この部において「特定保険医療材料」という。）を使用した場合は、第1節の所定点数に第2節の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 第1節に掲げられていない放射線治療であって特殊なものの費用は、同節に掲げられている放射線治療のうちで最も近似する放射線治療の所定点数により算定する。
- 3 新生児、3歳未満の乳幼児（新生児を除く。）、3歳以上6歳未満の幼児又は6歳以上15歳未満の小児に対して放射線治療（区分番号L 0 0 0からL 0 0 3までに掲げる放射線治療に限る。）を行った場合は、小児放射線治療加算として、当該放射線治療の所定点数にそれぞれ所定点数の100分の80、100分の50、100分の30又は100分の20に相当する点数を加算する。

第1節 放射線治療管理・実施料

区分

L 0 0 0 放射線治療管理料（分布図の作成1回につき）

- |                                  |        |
|----------------------------------|--------|
| 1 1門照射、対向2門照射又は外部照射を行った場合        | 2,700点 |
| 2 非対向2門照射、3門照射又は腔内照射を行った場合       | 3,100点 |
| 3 4門以上の照射、運動照射、原体照射又は組織内照射を行った場合 | 4,000点 |
| 4 強度変調放射線治療（IMRT）による体外照          |        |

射を行った場合 5,000点

注1 線量分布図を作成し、区分番号L 0 0 1に掲げる体外照射、区分番号L 0 0 3の1に掲げる外部照射、区分番号L 0 0 3の2に掲げる腔内照射又は区分番号L 0 0 3の3に掲げる組織内照射による治療を行った場合に、分布図の作成1回につき1回、一連につき2回に限り算定する。

2 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者に対して、放射線治療を専ら担当する常勤の歯科医師が策定した照射計画に基づく歯科医学的管理（区分番号L 0 0 1の2に掲げる高エネルギー放射線治療及び区分番号L 0 0 1の3に掲げる強度変調放射線治療（IMRT）に係るものに限る。）を行った場合は、放射線治療専任加算として、330点を所定点数に加算する。

3 注2に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を必要とする悪性腫瘍の入院中の患者以外の患者に対して、放射線治療（区分番号L 0 0 1の2に掲げる高エネルギー放射線治療及び区分番号L 0 0 1の3に掲げる強度変調放射線治療（IMRT）に係るものに限る。）を実施した場合に、外来放射線治療加算として、患者1人1日につき1回に限り100点を所定点数に加算する。

L 0 0 1 体外照射

1 エックス線表在治療

射を行った場合 5,000点

注1 線量分布図を作成し、区分番号L 0 0 1に掲げる体外照射、区分番号L 0 0 3の1に掲げる外部照射、区分番号L 0 0 3の2に掲げる腔内照射又は区分番号L 0 0 3の3に掲げる組織内照射による治療を行った場合に、分布図の作成1回につき1回、一連につき2回に限り算定する。

2 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者に対して、放射線治療を専ら担当する常勤の歯科医師が策定した照射計画に基づく歯科医学的管理（区分番号L 0 0 1の2に掲げる高エネルギー放射線治療及び区分番号L 0 0 1の3に掲げる強度変調放射線治療（IMRT）に係るものに限る。）を行った場合は、放射線治療専任加算として、330点を所定点数に加算する。

3 注2に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を必要とする悪性腫瘍の入院中の患者以外の患者に対して、放射線治療（区分番号L 0 0 1の2に掲げる高エネルギー放射線治療及び区分番号L 0 0 1の3に掲げる強度変調放射線治療（IMRT）に係るものに限る。）を実施した場合に、外来放射線治療加算として、患者1人1日につき1回に限り100点を所定点数に加算する。

L 0 0 1 体外照射

1 エックス線表在治療

<p>イ 1回目 110点 ロ 2回目 33点</p> <p>2 高エネルギー放射線治療 (削る)</p> <p><u>イ 1門照射を行った場合 (1回目)</u> 840点</p> <p>(削る)</p> <p>(削る)</p> <p>(削る)</p> <p><u>ロ 1門照射を行った場合 (2回目)</u> 336点</p> <p>(削る)</p> <p><u>ハ 2門以上の照射、運動照射又は原体照射を行った場合 (1回目)</u> 1,750点</p> <p><u>ミ 2門以上の照射、運動照射又は原体照射を行った場合 (2回目)</u> 700点</p> <p>3 強度変調放射線治療 (IMRT) 3,000点</p> <p>注1 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関以外の保険医療機関において行われる場合は、所定点数の100分の60に相当する点数により算定する。</p> <p>2 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、放射線治療を実施した場合に算定する。</p> <p>3 疾病、部位又は部位数にかかわらず、1回に</p>	<p>イ 1回目 110点 ロ 2回目 33点</p> <p>2 高エネルギー放射線治療 <u>イ 1回目</u></p> <p><u>(1) 1門照射又は対向2門照射を行った場合</u> 840点</p> <p><u>(2) 非対向2門照射又は3門照射を行った場合</u> 1,320点</p> <p><u>(3) 4門以上の照射、運動照射又は原体照射を行った場合</u> 1,800点</p> <p><u>ロ 2回目</u></p> <p><u>(1) 1門照射又は対向2門照射を行った場合</u> 420点</p> <p><u>(2) 非対向2門照射又は3門照射を行った場合</u> 660点</p> <p><u>(3) 4門以上の照射、運動照射又は原体照射を行った場合</u> 900点</p> <p>(新設)</p> <p>3 強度変調放射線治療 (IMRT) 3,000点</p> <p>注1 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関以外の保険医療機関において行われる場合は、所定点数の100分の70に相当する点数により算定する。</p> <p>2 3については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、放射線治療を実施した場合に算定する。</p> <p>3 疾病、部位又は部位数にかかわらず、1回に</p>
---	---

つき算定する。

- 4 術中照射療法を行った場合は、術中照射療法加算として、患者1人につき1日を限度として、5,000点を所定点数に加算する。
- 5 体外照射用固定器具を使用した場合は、体外照射用固定器具加算として、1,000点を所定点数に加算する。
- 6 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を専ら担当する常勤の歯科医師が画像誘導放射線治療（IGRT）による体外照射を行った場合（2のハ若しくは三又は3に係るものに限る。）には、画像誘導放射線治療加算として、患者1人1日につき1回に限り、いずれかを所定点数に加算する。

イ 骨構造の位置情報によるもの 300点  
ロ 腫瘍の位置情報によるもの 450点

L 0 0 1 - 2 直線加速器による放射線治療（一連につき）

- 1 定位放射線治療の場合 63,000点
- 2 1以外の場合 8,000点

L 0 0 1 - 3 ホウ素中性子捕捉療法（一連につき）

187,500点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して行われる場合に限り算定する。

2 ホウ素中性子捕捉療法の適応判定体制に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ホウ素中性子捕捉療法の

つき算定する。

- 4 術中照射療法を行った場合は、術中照射療法加算として、患者1人につき1日を限度として、5,000点を所定点数に加算する。
- 5 体外照射用固定器具を使用した場合は、体外照射用固定器具加算として、1,000点を所定点数に加算する。
- 6 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を専ら担当する常勤の歯科医師が画像誘導放射線治療（IGRT）による体外照射を行った場合（2のイの③若しくはロの③又は3に係るものに限る。）には、画像誘導放射線治療加算として、患者1人1日につき1回に限り、いずれかを所定点数に加算する。

イ 骨構造の位置情報によるもの 300点  
ロ 腫瘍の位置情報によるもの 450点

L 0 0 1 - 2 直線加速器による放射線治療（一連につき）

- 1 定位放射線治療の場合 63,000点
- 2 1以外の場合 8,000点

L 0 0 1 - 3 ホウ素中性子捕捉療法（一連につき）

187,500点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して行われる場合に限り算定する。

2 ホウ素中性子捕捉療法の適応判定体制に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ホウ素中性子捕捉療法の

	適応判定に係る検討が実施された場合には、ホウ素中性子捕捉療法適応判定加算として、40,000点を所定点数に加算する。
3	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ホウ素中性子捕捉療法に関する専門の知識を有する歯科医師又は医師が策定した照射計画に基づく医学的管理を行った場合には、ホウ素中性子捕捉療法医学管理加算として、10,000点を所定点数に加算する。
4	体外照射用固定器具を使用した場合は、体外照射用固定器具加算として、1,000点を所定点数に加算する。
L 0 0 2	電磁波温熱療法（一連につき）
1	深在性悪性腫瘍に対するもの 9,000点
2	浅在性悪性腫瘍に対するもの 6,000点
L 0 0 3	密封小線源治療（一連につき）
1	外部照射 80点
2	腔内照射 イ 高線量率イリジウム照射を行った場合又は新型コバルト小線源治療装置を用いた場合 12,000点 ロ その他の場合 5,000点
3	組織内照射 イ 高線量率イリジウム照射を行った場合又は新型コバルト小線源治療装置を用いた場合 23,000点 ロ その他の場合 19,000点
4	放射性粒子照射（本数に関係なく） 8,000点
注1	疾病、部位又は部位数にかかわらず、一連につき算定する。

	適応判定に係る検討が実施された場合には、ホウ素中性子捕捉療法適応判定加算として、40,000点を所定点数に加算する。
3	別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ホウ素中性子捕捉療法に関する専門の知識を有する歯科医師又は医師が策定した照射計画に基づく医学的管理を行った場合には、ホウ素中性子捕捉療法医学管理加算として、10,000点を所定点数に加算する。
4	体外照射用固定器具を使用した場合は、体外照射用固定器具加算として、1,000点を所定点数に加算する。
L 0 0 2	電磁波温熱療法（一連につき）
1	深在性悪性腫瘍に対するもの 9,000点
2	浅在性悪性腫瘍に対するもの 6,000点
L 0 0 3	密封小線源治療（一連につき）
1	外部照射 80点
2	腔内照射 イ 高線量率イリジウム照射を行った場合又は新型コバルト小線源治療装置を用いた場合 12,000点 ロ その他の場合 5,000点
3	組織内照射 イ 高線量率イリジウム照射を行った場合又は新型コバルト小線源治療装置を用いた場合 23,000点 ロ その他の場合 19,000点
4	放射性粒子照射（本数に関係なく） 8,000点
注1	疾病、部位又は部位数にかかわらず、一連につき算定する。

- 2 使用した高線量率イリジウムの費用として、購入価格を50円で除して得た点数を加算する。
- 3 使用した低線量率イリジウムの費用として、購入価格を10円で除して得た点数を加算する。
- 4 使用した放射性粒子の費用として、購入価格を10円で除して得た点数を加算する。
- 5 使用したコバルトの費用として、購入価格を1,000円で除して得た点数を加算する。
- 6 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を専ら担当する常勤の歯科医師が画像誘導密封小線源治療（IGBT）（2のイに係るものに限る。）を行った場合には、画像誘導密封小線源治療加算として、一連につき1,200点を所定点数に加算する。

L 004 血液照射 110点  
第2節 特定保険医療材料料

#### 区分

L 200 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第12部 歯冠修復及び欠損補綴

#### 通則

- 1 歯冠修復及び欠損補綴の費用は、特に規定する場合を除き、第1節の各区分の所定点数及び第3節に掲げる特定保険医療材料（別に厚生労働大臣が定める保険医療材料をいう。以下この部において同じ。）の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 歯冠修復の費用は、歯冠修復に付随して行った仮封、裏装及び隔壁の費用を含む。

- 2 使用した高線量率イリジウムの費用として、購入価格を50円で除して得た点数を加算する。
- 3 使用した低線量率イリジウムの費用として、購入価格を10円で除して得た点数を加算する。
- 4 使用した放射性粒子の費用として、購入価格を10円で除して得た点数を加算する。
- 5 使用したコバルトの費用として、購入価格を1,000円で除して得た点数を加算する。
- 6 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、放射線治療を専ら担当する常勤の歯科医師が画像誘導密封小線源治療（IGBT）（2のイに係るものに限る。）を行った場合には、画像誘導密封小線源治療加算として、一連につき1,200点を所定点数に加算する。

L 004 血液照射 110点  
第2節 特定保険医療材料料

#### 区分

L 200 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数  
注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

#### 第12部 歯冠修復及び欠損補綴

#### 通則

- 1 歯冠修復及び欠損補綴の費用は、特に規定する場合を除き、第1節の各区分の所定点数及び第3節に掲げる特定保険医療材料（別に厚生労働大臣が定める保険医療材料をいう。以下この部において同じ。）の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 歯冠修復の費用は、歯冠修復に付随して行った仮封、裏装及び隔壁の費用を含む。

- 3 第12部に掲げられていない歯冠修復及び欠損補綴であって特殊なものの費用は、第12部に掲げられている歯冠修復及び欠損補綴のうちで最も近似する歯冠修復及び欠損補綴の各区分の所定点数により算定する。
- 4 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して、第12部に掲げる歯冠修復及び欠損補綴を行った場合は、全身麻酔下で行った場合を除き、次に掲げる点数を、それぞれ当該歯冠修復及び欠損補綴の所定点数に加算する。ただし、通則第6号又は第7号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。  
イ 区分番号M003（2の口及びハに限る。）に掲げる印象採得、区分番号M003-3に掲げる咬合印象、区分番号M006（2の口に限る。）に掲げる咬合採得又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を行った場合  
所定点数の100分の70に相当する点数  
ロ 歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M000からM000-3まで、M003（2の口及びハに限る。）、M003-3、M006（2の口に限る。）、M010からM010-3まで、M010-4（1に限る。）、M011、M011-2、M015からM015-3まで、M017からM021-2まで、M021-3（2に限る。）、M022、M023、M025からM026まで及びM030を除く。）を行った場合  
所定点数の100分の50に相当する点数
- 5 歯冠修復及び欠損補綴料には、製作技工に要する費用及び製作管理に要する費用が含まれ、その割合は、製作技工に要する費用がおおむね100分の70、製作管理に要する費用がおおむね100分の30である。
- 6 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定する患者であって、同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定しな

- 3 第12部に掲げられていない歯冠修復及び欠損補綴であって特殊なものの費用は、第12部に掲げられている歯冠修復及び欠損補綴のうちで最も近似する歯冠修復及び欠損補綴の各区分の所定点数により算定する。
- 4 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して、第12部に掲げる歯冠修復及び欠損補綴を行った場合は、全身麻酔下で行った場合を除き、次に掲げる点数を、それぞれ当該歯冠修復及び欠損補綴の所定点数に加算する。ただし、通則第6号又は第7号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。  
イ 区分番号M003（2の口及びハに限る。）に掲げる印象採得、区分番号M003-3に掲げる咬合印象、区分番号M006（2の口に限る。）に掲げる咬合採得又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を行った場合  
所定点数の100分の70に相当する点数  
ロ 歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M000からM000-3まで、M003（2の口及びハに限る。）、M003-3、M006（2の口に限る。）、M010からM010-3まで、M010-4（1に限る。）、M011、M011-2、M015からM015-3まで、M017からM021-2まで、M021-3（2に限る。）、M022、M023、M025からM026まで及びM030を除く。）を行った場合  
所定点数の100分の50に相当する点数
- 5 歯冠修復及び欠損補綴料には、製作技工に要する費用及び製作管理に要する費用が含まれ、その割合は、製作技工に要する費用がおおむね100分の70、製作管理に要する費用がおおむね100分の30である。
- 6 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定する患者であって、同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定しな

いものに対して、歯科訪問診療時に第12部に掲げる歯冠修復及び欠損補綴を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該歯冠修復及び欠損補綴の所定点数に加算する。

イ 区分番号M003（2の口及びハに限る。）に掲げる印象採得、区分番号M003-3に掲げる咬合印象、区分番号M006（2の口に限る。）に掲げる咬合採得又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を行った場合

所定点数の100分の70に相当する点数

ロ 区分番号M021-3（1に限る。）及び区分番号M029に掲げる有床義歯修理を行った場合

所定点数の100分の50に相当する点数

7 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料及び同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者に対して、歯科訪問診療時に第12部に掲げる歯冠修復及び欠損補綴を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該歯冠修復及び欠損補綴の所定点数に加算する。

イ 区分番号M003（2の口及びハに限る。）に掲げる印象採得、区分番号M003-3に掲げる咬合印象、区分番号M006（2の口に限る。）に掲げる咬合採得又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を行った場合

所定点数の100分の70に相当する点数

ロ 区分番号M009に掲げる充填を行った場合

所定点数の100分の60に相当する点数

ハ 歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M000からM000-3まで、M003（2の口及びハに限る。）、M003-3、M003-4、M006（2の口に限る。）、M009からM010-3まで、M010-4（1に限る。）、M011、M011-2、M015からM015-3まで、M017からM021-2まで、M021-3（2に限る。）、M022、M023、M025からM026ま

いものに対して、歯科訪問診療時に第12部に掲げる歯冠修復及び欠損補綴を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該歯冠修復及び欠損補綴の所定点数に加算する。

イ 区分番号M003（2の口及びハに限る。）に掲げる印象採得、区分番号M003-3に掲げる咬合印象、区分番号M006（2の口に限る。）に掲げる咬合採得又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を行った場合

所定点数の100分の70に相当する点数

ロ 区分番号M021-3（1に限る。）及び区分番号M029に掲げる有床義歯修理を行った場合

所定点数の100分の50に相当する点数

7 区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料及び同注8に規定する歯科診療特別対応加算1、歯科診療特別対応加算2又は歯科診療特別対応加算3を算定する患者に対して、歯科訪問診療時に第12部に掲げる歯冠修復及び欠損補綴を行った場合は、次に掲げる点数を、それぞれ当該歯冠修復及び欠損補綴の所定点数に加算する。

イ 区分番号M003（2の口及びハに限る。）に掲げる印象採得、区分番号M003-3に掲げる咬合印象、区分番号M006（2の口に限る。）に掲げる咬合採得又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を行った場合

所定点数の100分の70に相当する点数

ロ 区分番号M009に掲げる充填を行った場合

所定点数の100分の60に相当する点数

ハ 歯冠修復及び欠損補綴（区分番号M000からM000-3まで、M003（2の口及びハに限る。）、M003-3、M003-4、M006（2の口に限る。）、M009からM010-3まで、M010-4（1に限る。）、M011、M011-2、M015からM015-3まで、M017からM021-2まで、M021-3（2に限る。）、M022、M023、M025からM026ま

で及びM030を除く。)を行った場合

所定点数の100分の50に相当する点数

- 8 区分番号M000-2に掲げるクラウン・ブリッジ維持管理料について地方厚生局長等へ届け出た保険医療機関以外の保険医療機関において、歯冠補綴物（区分番号M010の2に掲げる4分の3冠（前歯）、区分番号M010の3に掲げる5分の4冠（小臼歯）、区分番号M010の4に掲げる全部金属冠（小臼歯及び大臼歯）及び区分番号M011に掲げるレジン前装金属冠を除く。区分番号M000-2において同じ。）又はブリッジ（接着ブリッジを含む。以下同じ。）を製作し、当該補綴物を装着する場合の検査並びに歯冠修復及び欠損補綴の費用は、所定点数の100分の70に相当する点数により算定する。
- 9 歯冠修復及び欠損補綴物の製作に係る一連の診療行為における歯肉圧排、歯肉整形、研磨、特定薬剤等の費用は、それぞれの点数に含まれ、別に算定できない。
- 10 歯冠修復及び欠損補綴の所定点数は、当該歯冠修復及び欠損補綴に当たって、表面麻酔、浸潤麻酔又は簡単な伝達麻酔を行った場合の費用を含む。ただし、区分番号M001に掲げる歯冠形成（1に限る。）を行う場合の当該麻酔に当たって使用した薬剤の薬価は、別に厚生労働大臣の定めるところにより算定できる。
- 11 区分番号A000に掲げる初診料の注9又は区分番号A002に掲げる再診料の注7に規定する地域歯科医療加算を算定した患者に対して、巡回診療時に歯冠修復及び欠損補綴物を行った場合は、所定点数の100分の30に相当する点数を、当該歯冠修復及び欠損補綴物の所定点数に加算する。ただし、通則第4号に掲げる加算を算定する場合は、この限りでない。

区分

## 第1節 歯冠修復及び欠損補綴料

で及びM030を除く。)を行った場合

所定点数の100分の50に相当する点数

- 8 区分番号M000-2に掲げるクラウン・ブリッジ維持管理料について地方厚生局長等へ届け出た保険医療機関以外の保険医療機関において、歯冠補綴物（区分番号M010の2に掲げる4分の3冠（前歯）、区分番号M010の3に掲げる5分の4冠（小臼歯）、区分番号M010の4に掲げる全部金属冠（小臼歯及び大臼歯）及び区分番号M011に掲げるレジン前装金属冠を除く。区分番号M000-2において同じ。）又はブリッジ（接着ブリッジを含む。以下同じ。）を製作し、当該補綴物を装着する場合の検査並びに歯冠修復及び欠損補綴の費用は、所定点数の100分の70に相当する点数により算定する。
- 9 歯冠修復及び欠損補綴物の製作に係る一連の診療行為における歯肉圧排、歯肉整形、研磨、特定薬剤等の費用は、それぞれの点数に含まれ、別に算定できない。

(新設)

(新設)

## 第1節 歯冠修復及び欠損補綴料

区分

	(歯冠修復及び欠損補綴診療料)
M 0 0 0	補綴時診断料（1装置につき）
1	補綴時診断（新製の場合） 90点
2	補綴時診断（1以外の場合） 70点
注 1	当該診断料は、病名、症状、治療内容、製作を予定する部位、欠損補綴物の名称、欠損補綴物に使用する材料、設計、治療期間等について、患者に対し、説明を行った場合に算定する。
2	1については、欠損補綴物を新たに製作する場合に算定する。
3	<u>1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M 0 1 7 - 2に掲げる高強度硬質レジンブリッジ、区分番号M 0 1 7 - 3に掲げるチタンブリッジ又は区分番号M 0 1 8 - 2に掲げる3次元プリント有床義歯を製作することを目的として、歯科医師が歯科技工士に面で意見を求め、その内容を踏まえて、補綴時診断を行った場合は、歯科技工士連携加算1として、60点を所定期数に加算する。ただし、同時に2以上の新たな欠損補綴について説明を行った場合であっても、歯科技工士連携加算1は1回として算定する。</u>
4	<u>1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M 0 1 7 - 2に掲げる高強度硬質レジンブリッジ、区分番号M 0 1 7 - 3に掲げるチタンブリッジ又は区分番号M 0 1 8 - 2に掲げる3次元プリント有床義歯を製作することを目的として、</u>

	(歯冠修復及び欠損補綴診療料)
M 0 0 0	補綴時診断料（1装置につき）
1	補綴時診断（新製の場合） 90点
2	補綴時診断（1以外の場合） 70点
注 1	当該診断料は、病名、症状、治療内容、製作を予定する部位、欠損補綴物の名称、欠損補綴物に使用する材料、設計、治療期間等について、患者に対し、説明を行った場合に算定する。
2	1については、欠損補綴物を新たに製作する場合に算定する。
	(新設)
	(新設)

歯科医師が歯科技工士に情報通信機器を用いて意見を求め、その内容を踏まえて、補綴時診断を行った場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。ただし、同時に2以上の新たな欠損補綴について説明を行った場合であっても、歯科技工士連携加算2は1回として算定する。

- 5 注3及び注4に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2について、同一の補綴物の製作に当たって、区分番号M003に掲げる印象採得の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は、同日に行った場合を除き、別に算定する。
- 6 注3及び注4に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は、1装置につき、いずれか1つのみ算定する。

7 2については、区分番号M029に掲げる有床義歯修理又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を実施した場合に算定する。

8 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M000-2 クラウン・ブリッジ維持管理料（1装置につき）

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| 1 齒冠補綴物                   | 100点 |
| 2 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合 | 330点 |
| 3 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合 | 440点 |

注1 クラウン・ブリッジ維持管理料を保険医療機関単位で算定する旨を地方厚生局長等に届け出した保険医療機関において、歯冠補綴物又はブリッジを製作し、当該補綴物を装着した患者に対して、当該維持管理の内容に係る情報を文書に

(新設)

(新設)

3 2については、区分番号M029に掲げる有床義歯修理又は区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法を実施した場合に算定する。

4 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M000-2 クラウン・ブリッジ維持管理料（1装置につき）

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| 1 齒冠補綴物                   | 100点 |
| 2 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合 | 330点 |
| 3 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合 | 440点 |

注1 クラウン・ブリッジ維持管理料を保険医療機関単位で算定する旨を地方厚生局長等に届け出した保険医療機関において、歯冠補綴物又はブリッジを製作し、当該補綴物を装着した患者に対して、当該維持管理の内容に係る情報を文書に

より提供した場合に算定する。

- 2 当該所定点数には、注1の歯冠補綴物又はブリッジを保険医療機関において装着した日から起算して2年以内に、当該保険医療機関が当該補綴部位に係る新たな歯冠補綴物又はブリッジを作製し、当該補綴物を装着した場合の補綴関連検査並びに歯冠修復及び欠損補綴の費用が含まれる。
- 3 当該保険医療機関において歯冠補綴物又はブリッジを装着した日から起算して2年以内に行つた次に掲げる診療に係る費用は、別に算定できない。
  - イ 当該歯冠補綴物又はブリッジを装着した歯に対して行った充填
  - ロ 当該歯冠補綴物又はブリッジが離脱した場合の装着
- 4 通則第4号に掲げる加算を算定する場合又は区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定した場合は、算定できない。

M000-3 広範囲顎骨支持型補綴診断料（1口腔につき）

1,800点

注1 当該診断料は、区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術の施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該手術及び区分番号M025-2に掲げる広範囲顎骨支持型補綴を行うに当たって、病名、症状、治療内容、治療部位及び治療に使用する材料等について、患者に対し説明を行った場合に算定する。

- 2 同一患者につき、当該診断料を算定すべき診断を2回以上行った場合は、1回目の診断を行

より提供した場合に算定する。

- 2 当該所定点数には、注1の歯冠補綴物又はブリッジを保険医療機関において装着した日から起算して2年以内に、当該保険医療機関が当該補綴部位に係る新たな歯冠補綴物又はブリッジを作製し、当該補綴物を装着した場合の補綴関連検査並びに歯冠修復及び欠損補綴の費用が含まれる。
- 3 当該保険医療機関において歯冠補綴物又はブリッジを装着した日から起算して2年以内に行つた次に掲げる診療に係る費用は、別に算定できない。
  - イ 当該歯冠補綴物又はブリッジを装着した歯に対して行った充填
  - ロ 当該歯冠補綴物又はブリッジが離脱した場合の装着
- 4 通則第4号に掲げる加算を算定する場合又は区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定した場合は、算定できない。

M000-3 広範囲顎骨支持型補綴診断料（1口腔につき）

1,800点

注1 当該診断料は、区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術の施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該手術及び区分番号M025-2に掲げる広範囲顎骨支持型補綴を行うに当たって、病名、症状、治療内容、治療部位及び治療に使用する材料等について、患者に対し説明を行った場合に算定する。

- 2 同一患者につき、当該診断料を算定すべき診断を2回以上行った場合は、1回目の診断を行

ったときに限り算定する。

- 3 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- 4 当該補綴以外の欠損補綴の診断を同時に行つた場合は、区分番号M000に掲げる補綴時診断料は、所定点数に含まれ別に算定できない。

#### M001 歯冠形成（1歯につき）

##### 1 生活歯歯冠形成

イ 金属冠	306点
ロ 非金属冠	306点
ハ 既製冠	120点

##### 2 失活歯歯冠形成

イ 金属冠	166点
ロ 非金属冠	166点
ハ 既製冠	114点

##### 3 窩洞形成

イ 単純なもの	60点
ロ 複雑なもの	86点

注1 1のイ及びロ、2のイ及びロ並びに3のロについて、ブリッジの支台歯として歯冠形成を行つた場合は、ブリッジ支台歯形成加算として1歯につき20点を所定点数に加算する。

2 1のイについて、前歯の4分の3冠、前歯のレジン前装金属冠、レジン前装チタン冠及びチタンブリッジ（レジン前装を行う場合に限る。）のための支台歯の歯冠形成は、490点を所定点数に加算する。

3 1のイについて、臼歯のレジン前装金属冠及びチタンブリッジ（レジン前装を行う場合に限る。）のための支台歯の歯冠形成は、340点を所定点数に加算する。

4 1のイについて、接着冠のための支台歯の歯

ったときに限り算定する。

- 3 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。
- 4 当該補綴以外の欠損補綴の診断を同時に行つた場合は、区分番号M000に掲げる補綴時診断料は、所定点数に含まれ別に算定できない。

#### M001 歯冠形成（1歯につき）

##### 1 生活歯歯冠形成

イ 金属冠	306点
ロ 非金属冠	306点
ハ 既製冠	120点

##### 2 失活歯歯冠形成

イ 金属冠	166点
ロ 非金属冠	166点
ハ 既製冠	114点

##### 3 窩洞形成

イ 単純なもの	60点
ロ 複雑なもの	86点

注1 1のイ及びロ、2のイ及びロ並びに3のロについて、ブリッジの支台歯として歯冠形成を行つた場合は、ブリッジ支台歯形成加算として1歯につき20点を所定点数に加算する。

2 1のイについて、前歯の4分の3冠、前歯のレジン前装金属冠及びレジン前装チタン冠のための支台歯の歯冠形成は、490点を所定点数に加算する。

3 1のイについて、臼歯のレジン前装金属冠のための歯冠形成は、340点を所定点数に加算する。

4 1のイについて、接着冠のための支台歯の歯

冠形成は、接着冠形成加算として、490点を所定点数に加算する。

- 5 1の口について、CAD/CAM冠又は高強度硬質レジンブリッジのための支台歯の歯冠形成は、490点を所定点数に加算する。
- 6 2のイについて、前歯の4分の3冠、前歯のレジン前装金属冠、レジン前装チタン冠又はチタンブリッジ（レジン前装を行う場合に限る。）のための支台歯の歯冠形成は、470点を所定点数に加算する。
- 7 2のイについて、臼歯のレジン前装金属冠及びチタンブリッジ（レジン前装を行う場合に限る。）のための支台歯の歯冠形成は、300点を所定点数に加算する。
- 8 2の口について、CAD/CAM冠又は高強度硬質レジンブリッジのための支台歯の歯冠形成は、470点を所定点数に加算する。
- 9 3について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により無痛的に窩洞形成を行った場合は、うしょくか歯無痛的窩洞形成加算として、40点を所定点数に加算する。
- 10 3について、CAD/CAMインレーのための窩洞形成は、150点を所定点数に加算する。
- 11 麻酔（通則第10号のただし書に規定する場合を除く。）、薬剤等の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M001-2 即時充填形成（1歯につき） 128点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保

冠形成は、接着冠形成加算として、490点を所定点数に加算する。

- 5 1の口について、CAD/CAM冠又は高強度硬質レジンブリッジのための支台歯の歯冠形成は、490点を所定点数に加算する。
- 6 2のイについて、前歯の4分の3冠、前歯のレジン前装金属冠又はレジン前装チタン冠のための支台歯の歯冠形成は、470点を所定点数に加算する。
- 7 2のイについて、臼歯のレジン前装金属冠のための支台歯の歯冠形成は、300点を所定点数に加算する。
- 8 2の口について、CAD/CAM冠又は高強度硬質レジンブリッジのための支台歯の歯冠形成は、470点を所定点数に加算する。
- 9 3について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、レーザー照射により無痛的に窩洞形成を行った場合は、うしょくか歯無痛的窩洞形成加算として、40点を所定点数に加算する。
- 10 3について、CAD/CAMインレーのための窩洞形成は、150点を所定点数に加算する。
- 11 麻酔、薬剤等の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M001-2 うしょくか歯即時充填形成（1歯につき） 128点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保

	隙医療機関において、レーザー照射により無痛的に即時充填形成を行った場合は、う蝕歯無痛的窩洞形成加算として、40点を所定点数に加算する。
2	麻醉、歯髓保護処置、特定薬剤、窩洞形成等の費用は、所定点数に含まれる。
M 0 0 1 - 3	インレー修復形成（1歯につき） 120点
	注1 CAD/CAMインレーのための窩洞形成は、150点を所定点数に加算する。
2	麻醉、歯髓保護処置、特定薬剤、窩洞形成等の費用は、所定点数に含まれる。
M 0 0 1 - 4	補綴前処置（1装置につき） 40点
M 0 0 2	支台築造（1歯につき）
1	間接法
	イ メタルコアを用いた場合
(1)	大臼歯 181点
(2)	小臼歯及び前歯 155点
ロ	ファイバーポストを用いた場合
(1)	大臼歯 221点
(2)	小臼歯及び前歯 190点
2	直接法
	イ ファイバーポストを用いた場合
(1)	大臼歯 174点
(2)	小臼歯及び前歯 148点
ロ	その他の場合 126点
注1	窩洞形成、装着等の費用は、所定点数に含まれる。
2	保険医療材料（築造物の材料を除く。）、薬剤等の費用は、所定点数に含まれる。
M 0 0 2 - 2	支台築造印象（1歯につき） 50点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

	隙医療機関において、レーザー照射により無痛的にう蝕歯即時充填形成を行った場合は、う蝕歯無痛的窩洞形成加算として、40点を所定点数に加算する。
2	麻醉、歯髓保護処置、特定薬剤、窩洞形成等の費用は、所定点数に含まれる。
M 0 0 1 - 3	う蝕歯インレー修復形成（1歯につき） 120点
	注1 CAD/CAMインレーのための窩洞形成は、150点を所定点数に加算する。
2	麻醉、歯髓保護処置、特定薬剤、窩洞形成等の費用は、所定点数に含まれる。
	(新設)
M 0 0 2	支台築造（1歯につき）
1	間接法
	イ メタルコアを用いた場合
(1)	大臼歯 181点
(2)	小臼歯及び前歯 155点
ロ	ファイバーポストを用いた場合
(1)	大臼歯 211点
(2)	小臼歯及び前歯 180点
2	直接法
	イ ファイバーポストを用いた場合
(1)	大臼歯 174点
(2)	小臼歯及び前歯 148点
ロ	その他の場合 126点
注1	窩洞形成、装着等の費用は、所定点数に含まれる。
2	保険医療材料（築造物の材料を除く。）、薬剤等の費用は、所定点数に含まれる。
M 0 0 2 - 2	支台築造印象（1歯につき） 50点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

## M003 印象採得

1 歯冠修復（1個につき）	
イ 単純印象	32点
ロ 連合印象	64点
2 欠損補綴（1装置につき）	
イ 単純印象	
(1) 簡単なもの	42点
(2) 困難なもの	72点
ロ 連合印象	230点
ハ 特殊印象	272点
ニ ブリッジ	
(1) 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合	282点
(2) 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合	334点
ホ 口蓋補綴、顎補綴	
(1) 印象採得が困難なもの	222点
(2) 印象採得が著しく困難なもの	402点
3 口腔内装置等（1装置につき）	42点

注1 1及び2のニについて、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、前歯部の歯冠補綴物又はブリッジを製作することを目的として、前歯部の印象採得を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに対面で色調採得及び口腔内の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算1として、60点を所定点数に加算する。ただし、同時に2以上の補綴物の製作を目的とした印象採得を行った場合であっても、歯科技工士連携加算1は1回として算定する。

## M003 印象採得

1 歯冠修復（1個につき）	
イ 単純印象	32点
ロ 連合印象	64点
2 欠損補綴（1装置につき）	
イ 単純印象	
(1) 簡単なもの	42点
(2) 困難なもの	72点
ロ 連合印象	230点
ハ 特殊印象	272点
ニ ブリッジ	
(1) 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合	282点
(2) 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合	334点
ホ 口蓋補綴、顎補綴	
(1) 印象採得が困難なもの	222点
(2) 印象採得が著しく困難なもの	402点
3 口腔内装置等（1装置につき）	42点

注1 1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M011に掲げるレジン前装金属冠、区分番号M011-2に掲げるレジン前装チタン冠又は区分番号M015-2に掲げるCAD/CAM冠を製作することを目的として、前歯部の印象採得を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに対面で色調採得及び口腔内の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算1として、60点を所定点数に加算する。ただし、同時に2以上の補綴物の製作を目的とした印象採得を行った場合であっても、歯科技工士連携加算1は1回として算定する。

2 1及び2の二について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、前歯部の歯冠補綴物又はブリッジを製作することを目的として、前歯部の印象採得を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに情報通信機器を用いて色調採得及び口腔内の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。ただし、同時に2以上の補綴物の製作を目的とした印象採得を行った場合であっても、歯科技工士連携加算2は1回として算定する。

(削除)

3 注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2について、同一の補綴物の製作に当たって、区分番号M000に掲げる補綴時診断料の注3及び注4並びに区分番号M006に掲げる咬合採得の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は別に算定できない。

作を目的とした印象採得を行った場合であっても、歯科技工士連携加算1は1回として算定する。

2 1について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M011に掲げるレジン前装金属冠、区分番号M011-2に掲げるレジン前装チタン冠又は区分番号M015-2に掲げるCAD/CAM冠を製作することを目的として、前歯部の印象採得を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに情報通信機器を用いて色調採得及び口腔内の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。ただし、同時に2以上の補綴物の製作を目的とした印象採得を行った場合であっても、歯科技工士連携加算2は1回として算定する。

3 注1に規定する加算を算定した場合には、当該補綴物について、注2に規定する加算並びに区分番号M006に掲げる咬合採得の注1及び注2並びに区分番号M007に掲げる仮床試適の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は別に算定できない。

(新設)

土連携加算2は、同日に行った場合を除き、別に算定する。

(削る)

4 注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は、1装置につき、いずれか1つのみ算定する。

5 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

(削る)

M003-2 暫間歯冠補綴装置（1歯につき） 48点

注1 暫間歯冠補綴装置は、当該歯に係る処置等を開始した日から最終補綴装置を装着するまでの

4 注2に規定する加算を算定した場合には、当該補綴物について、注1に規定する加算並びに区分番号M006に掲げる咬合採得の注1及び注2並びに区分番号M007に掲げる仮床試適の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は別に算定できない。

(新設)

5 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M003-2 テンポラリークラウン（1歯につき） 34点

注1 テンポラリークラウンは、前歯部において、区分番号M001に掲げる歯冠形成のうち、レジン前装金属冠、レジン前装チタン冠、硬質レジンジャケット冠若しくはCAD/CAM冠に係る費用を算定した歯又はレジン前装金属冠、レジン前装チタン冠、硬質レジンジャケット冠若しくはCAD/CAM冠の歯冠形成を行うことを予定している歯について、当該歯に係る処置等を開始した日から当該補綴物を装着するまでの期間において、1歯につき1回に限り算定する。

2 テンポラリークラウンの製作及び装着に係る保険医療材料等一連の費用は、所定点数に含まれる。

(新設)

期間において、1歯につき1回に限り算定する

。

2 暫間歯冠補綴装置の製作及び装着に係る保険  
医療材料等一連の費用（別に厚生労働大臣が定  
める特定保険医療材料を除く。）は、所定点数  
に含まれる。

M003-3 咬合印象 140点

M003-4 光学印象（1歯につき） 150点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合し  
ているものとして地方厚生局長等に届け出た保  
険医療機関において、区分番号M015-2に  
掲げるCAD/CAM冠又は区分番号M015  
-3に掲げるCAD/CAMインレーを製作する  
場合であって、デジタル印象採得装置を用いて、  
印象採得及び咬合採得を行った場合に算定  
する。

2 区分番号M003に掲げる印象採得、M00  
3-3に掲げる咬合印象及びM006に掲げる  
咬合採得は別に算定できない。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合し  
ているものとして地方厚生局長等に届け出た保  
険医療機関において、区分番号M015-2に  
掲げるCAD/CAM冠又は区分番号M015  
-3に掲げるCAD/CAMインレーを製作する  
ことを目的として、光学印象を行うに当たって、  
歯科医師が歯科技工士とともに対面で口腔  
内の確認等を行い、当該修復物又は補綴物の製  
作に活用した場合には、歯科技工士連携加算1  
として、60点を所定点数に加算する。ただし、  
同時に2以上の修復物又は補綴物の製作を目的  
とした光学印象を行った場合であっても、歯科

M003-3 咬合印象 140点

M003-4 光学印象（1歯につき） 100点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合し  
ているものとして地方厚生局長等に届け出た保  
険医療機関において、区分番号M015-3に  
掲げるCAD/CAMインレーを製作する場合  
であって、デジタル印象採得装置を用いて、印  
象採得及び咬合採得を行った場合に算定する。

2 区分番号M003に掲げる印象採得、M00  
3-3に掲げる咬合印象及びM006に掲げる  
咬合採得は別に算定できない。

3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合し  
ているものとして地方厚生局長等に届け出た保  
険医療機関において、区分番号M015-3に  
掲げるCAD/CAMインレーを製作すること  
を目的として、光学印象を行うに当たって、歯  
科医師が歯科技工士とともに対面で口腔内の確  
認等を行い、当該修復物の製作に活用した場合  
には、光学印象歯科技工士連携加算として、50  
点を所定点数に加算する。ただし、同時に2以  
上の修復物の製作を目的とした光学印象を行  
った場合であっても、光学印象歯科技工士連携加  
算は1回として算定する。

技工士連携加算1は1回として算定する。

4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、区分番号M015-2に掲げるCAD/CAM冠又は区分番号M015-3に掲げるCAD/CAMインレーを製作することを目的として、光学印象を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに情報通信機器を用いて口腔内の確認等を行い、当該修復物又は補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。ただし、同時に2以上の修復物又は補綴物の製作を目的とした光学印象を行った場合であっても、歯科技工士連携加算2は1回として算定する。

5 注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は、1装置につき、いずれか1つのみ算定する。

#### M004 削除

#### M005 装着

- |                |     |
|----------------|-----|
| 1 歯冠修復（1個につき）  | 45点 |
| 2 欠損補綴（1装置につき） |     |

(新設)

(新設)

#### M004 リテナー

1 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合 100点

2 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合 300点

3 広範囲顎骨支持型補綴（ブリッジ形態のもの）の場合 300点

注 3については、保険医療材料料（別に厚生労働大臣が定める特定保険医療材料を除く。）は、所定点数に含まれる。

#### M005 装着

- |                |     |
|----------------|-----|
| 1 歯冠修復（1個につき）  | 45点 |
| 2 欠損補綴（1装置につき） |     |

イ ブリッジ

(1) 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合	150点
(2) 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合	300点
ロ 有床義歯	
(1) 少数歯欠損	60点
(2) 多数歯欠損	120点
(3) 総義歯	230点
ハ 有床義歯修理	
(1) 少数歯欠損	30点
(2) 多数歯欠損	60点
(3) 総義歯	115点
ニ 口蓋補綴、顎補綴	
(1) 印象採得が困難なもの	150点
(2) 印象採得が著しく困難なもの	300点
3 口腔内装置等の装着の場合（1装置につき）	30点

注1 区分番号M015-2に掲げるCAD/CA  
M冠、区分番号M015-3に掲げるCAD/  
CAMインレー又は区分番号M017-2に掲  
げる高強度硬質レジンブリッジを装着する際に  
、歯質に対する接着性を向上させることを目的  
に内面処理を行った場合は、内面処理加算1と  
して、それについて55点、55点又は110点  
を所定点数に加算する。

2 接着ブリッジを装着する際に、歯質に対する  
接着性を向上させることを目的に内面処理を行  
った場合は、内面処理加算2として、区分番号  
M010-3に掲げる接着冠ごとに45点を所定  
点数に加算する。

イ ブリッジ

(1) 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合	150点
(2) 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合	300点
ロ 有床義歯	
(1) 少数歯欠損	60点
(2) 多数歯欠損	120点
(3) 総義歯	230点
ハ 有床義歯修理	
(1) 少数歯欠損	30点
(2) 多数歯欠損	60点
(3) 総義歯	115点
ニ 口蓋補綴、顎補綴	
(1) 印象採得が困難なもの	150点
(2) 印象採得が著しく困難なもの	300点
3 口腔内装置等の装着の場合（1装置につき）	30点

注1 区分番号M015-2に掲げるCAD/CA  
M冠、区分番号M015-3に掲げるCAD/  
CAMインレー又は区分番号M017-2に掲  
げる高強度硬質レジンブリッジを装着する際に  
、歯質に対する接着性を向上させることを目的  
に内面処理を行った場合は、内面処理加算1と  
して、それについて45点、45点又は90点  
を所定点数に加算する。

2 接着ブリッジを装着する際に、歯質に対する  
接着性を向上させることを目的に内面処理を行  
った場合は、内面処理加算2として、区分番号  
M010-3に掲げる接着冠ごとに45点を所定  
点数に加算する。

	3 2のイについて、支台装置ごとの装着に係る費用は、所定点数に含まれる。
M 0 0 5-2	仮着（ブリッジ）（1装置につき）
1	支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合 40点
2	支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合 80点
M 0 0 6	咬合採得
1	歯冠修復（1個につき） 18点
2	欠損補綴（1装置につき）
イ ブリッジ	
(1)	支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合 76点
(2)	支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合 150点
ロ 有床義歯	
(1)	少数歯欠損 57点
(2)	多数歯欠損 187点
(3)	総義歯 283点
ハ 口蓋補綴、顎補綴	
(1)	咬合採得が困難なもの 260点
(2)	咬合採得が著しく困難なもの 360点
注1	2のイ(2)並びにロ(2)及び(3)並びにハについて、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ブリッジ又は有床義歯を製作することを目的として、咬合採得を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに対面で咬合状態の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算1として、60点を所定点数に加算する。

	3 2のイについて、支台装置ごとの装着に係る費用は、所定点数に含まれる。
M 0 0 5-2	仮着（ブリッジ）（1装置につき）
1	支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合 40点
2	支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合 80点
M 0 0 6	咬合採得
1	歯冠修復（1個につき） 18点
2	欠損補綴（1装置につき）
イ ブリッジ	
(1)	支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の場合 76点
(2)	支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の場合 150点
ロ 有床義歯	
(1)	少数歯欠損 57点
(2)	多数歯欠損 187点
(3)	総義歯 283点
(新設)	
注1	2のイ(2)並びにロ(2)及び(3)について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ブリッジ又は有床義歯を製作することを目的として、咬合採得を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに対面で咬合状態の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算1として、60点を所定点数に加算する。

2 2のイ②並びにロ②及び③並びにハについて、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ブリッジ又は有床義歯を製作することを目的として、咬合採取を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに情報通信機器を用いて咬合状態の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。

(削る)

3 注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2について、同一の補綴物の製作に当たって、区分番号M003に掲げる印象採得の注1及び注2並びに区分番号M007に掲げる仮床試適の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は、同日に行った場合を除き、別に算定する。

(削る)

2 2のイ②並びにロ②及び③について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、ブリッジ又は有床義歯を製作することを目的として、咬合採取を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに情報通信機器を用いて咬合状態の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。

3 注1に規定する加算を算定した場合には、当該補綴物について、注2に規定する加算並びに区分番号M003に掲げる印象採得の注1及び注2並びに区分番号M007に掲げる仮床試適の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は別に算定できない。

(新設)

4 注2に規定する加算を算定した場合には、当該補綴物について、注1に規定する加算並びに区分番号M003に掲げる印象採得の注1及び注2並びに区分番号M007に掲げる仮床試適の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は別に算定できない

4 注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は、1装置につき、いずれか1つのみ算定する。

5 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M007 仮床試適（1床につき）

- |          |      |
|----------|------|
| 1 少数歯欠損  | 40点  |
| 2 多数歯欠損  | 100点 |
| 3 総義歯    | 190点 |
| 4 その他の場合 | 272点 |

注1 2及び3について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、有床義歯等を製作することを目的として、仮床試適を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに対面で床の適合状況の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算1として、60点を所定点数に加算する。

2 2及び3について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、有床義歯等を製作することを目的として、仮床試適を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに情報通信機器を用いて床の適合状況の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。

(削る)

い。  
(新設)

5 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M007 仮床試適（1床につき）

- |          |      |
|----------|------|
| 1 少数歯欠損  | 40点  |
| 2 多数歯欠損  | 100点 |
| 3 総義歯    | 190点 |
| 4 その他の場合 | 272点 |

注1 2及び3について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、有床義歯等を製作することを目的として、仮床試適を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに対面で床の適合状況の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算1として、60点を所定点数に加算する。

2 2及び3について、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、有床義歯等を製作することを目的として、仮床試適を行うに当たって、歯科医師が歯科技工士とともに情報通信機器を用いて床の適合状況の確認等を行い、当該補綴物の製作に活用した場合には、歯科技工士連携加算2として、80点を所定点数に加算する。

3 注1に規定する加算を算定した場合には、当該補綴物について、注2に規定する加算並びに区分番号M003に掲げる印象採得の注1及び

3 注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算  
1及び歯科技工士連携加算2について、同一の  
補綴物の製作に当たって、区分番号M006に  
掲げる咬合採得の注1及び注2に規定する歯科  
技工士連携加算1及び歯科技工士連携加算2は  
、同日に行った場合を除き、別に算定する。  
(削る)

4 注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算  
1及び歯科技工士連携加算2は、1装置につき  
、いずれか1つのみ算定する。

5 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

#### M008 ブリッジの試適

- |                               |     |
|-------------------------------|-----|
| 1 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の<br>場合 | 40点 |
| 2 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の<br>場合 | 80点 |
- (歯冠修復)

#### M009 充填（1歯につき）

- |         |      |
|---------|------|
| 1 充填1   |      |
| イ 単純なもの | 106点 |
| ロ 複雑なもの | 158点 |

注2並びに区分番号M006に掲げる咬合採得  
の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算  
1及び歯科技工士連携加算2は別に算定できな  
い。  
(新設)

4 注2に規定する加算を算定した場合には、当  
該補綴物について、注1に規定する加算並びに  
区分番号M003に掲げる印象採得の注1及び  
注2並びに区分番号M006に掲げる咬合採得  
の注1及び注2に規定する歯科技工士連携加算  
1及び歯科技工士連携加算2は別に算定できな  
い。

(新設)

5 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

#### M008 ブリッジの試適

- |                               |     |
|-------------------------------|-----|
| 1 支台歯とポンティックの数の合計が5歯以下の<br>場合 | 40点 |
| 2 支台歯とポンティックの数の合計が6歯以上の<br>場合 | 80点 |
- (歯冠修復)

#### M009 充填（1歯につき）

- |         |      |
|---------|------|
| 1 充填1   |      |
| イ 単純なもの | 106点 |
| ロ 複雑なもの | 158点 |

2 充填 2		
イ 単純なもの	59点	
ロ 複雑なもの	107点	
注 1 歯質に対する接着性を付与又は向上させるために歯面処理を行う場合は1により、それ以外は2により算定する。		
2 1の歯面処理に係る費用は、所定点数に含まれる。		
<b>M 0 1 0 金属歯冠修復（1個につき）</b>		
1 インレー		
イ 単純なもの	192点	
ロ 複雑なもの	287点	
2 4分の3冠（前歯）	372点	
3 5分の4冠（小白歯）	312点	
4 全部金属冠（小白歯及び大臼歯）	459点	
注 3については、大臼歯の生活歯をブリッジの支台に用いる場合であっても算定できる。		
<b>M 0 1 0-2 チタン冠（1歯につき）</b>	1,200点	
<b>M 0 1 0-3 接着冠（1歯につき）</b>		
1 前歯	370点	
2 白歯	310点	
注 接着ブリッジのための接着冠に用いる場合に算定する。		
<b>M 0 1 0-4 根面被覆（1歯につき）</b>		
1 根面板によるもの	<u>225点</u>	
2 レジン充填によるもの	106点	
<b>M 0 1 1 レジン前装金属冠（1歯につき）</b>		
1 前歯		
イ ブリッジの支台歯の場合	1,174点	
ロ イ以外の場合	1,170点	
2 小臼歯	1,100点	

2 充填 2		
イ 単純なもの	59点	
ロ 複雑なもの	107点	
注 1 歯質に対する接着性を付与又は向上させるために歯面処理を行う場合は1により、それ以外は2により算定する。		
2 1の歯面処理に係る費用は、所定点数に含まれる。		
<b>M 0 1 0 金属歯冠修復（1個につき）</b>		
1 インレー		
イ 単純なもの	192点	
ロ 複雑なもの	287点	
2 4分の3冠（前歯）	372点	
3 5分の4冠（小白歯）	312点	
4 全部金属冠（小白歯及び大臼歯）	459点	
注 3については、大臼歯の生活歯をブリッジの支台に用いる場合であっても算定できる。		
<b>M 0 1 0-2 チタン冠（1歯につき）</b>	1,200点	
<b>M 0 1 0-3 接着冠（1歯につき）</b>		
1 前歯	370点	
2 白歯	310点	
注 接着ブリッジのための接着冠に用いる場合に算定する。		
<b>M 0 1 0-4 根面被覆（1歯につき）</b>		
1 根面板によるもの	<u>195点</u>	
2 レジン充填によるもの	106点	
<b>M 0 1 1 レジン前装金属冠（1歯につき）</b>		
1 前歯		
イ ブリッジの支台歯の場合	1,174点	
ロ イ以外の場合	1,170点	
2 小臼歯	1,100点	

M011-2 レジン前装チタン冠（1歯につき）	1,800点	M011-2 レジン前装チタン冠（1歯につき）	1,800点
M012からM014まで 削除		M012からM014まで 削除	
M015 非金属歯冠修復（1個につき）		M015 非金属歯冠修復（1個につき）	
1 レジンインレー		1 レジンインレー	
イ 単純なもの	<u>148点</u>	イ 単純なもの	<u>128点</u>
ロ 複雑なもの	<u>200点</u>	ロ 複雑なもの	<u>180点</u>
2 硬質レジンジャケット冠	768点	2 硬質レジンジャケット冠	768点
M015-2 CAD/CAM冠（1歯につき）		M015-2 CAD/CAM冠（1歯につき）	
1 2以外の場合	1,200点	1 2以外の場合	1,200点
2 エンドクラウンの場合	1,450点	2 エンドクラウンの場合	1,450点
注1 1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯冠補綴物の設計・製作に要するコンピュータ支援設計・製造ユニット（歯科用CAD/CAM装置）を用いて、歯冠補綴物（全部被覆冠に限り、エンドクラウンを除く。）を設計・製作し、装着した場合に限り算定する。		注1 1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯冠補綴物の設計・製作に要するコンピュータ支援設計・製造ユニット（歯科用CAD/CAM装置）を用いて、歯冠補綴物（全部被覆冠に限り、エンドクラウンを除く。）を設計・製作し、装着した場合に限り算定する。	
2 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯冠補綴物の設計・製作に要するコンピュータ支援設計・製造ユニット（歯科用CAD/CAM装置）を用いて、エンドクラウンを設計・製作し、装着した場合に限り算定する。		2 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯冠補綴物の設計・製作に要するコンピュータ支援設計・製造ユニット（歯科用CAD/CAM装置）を用いて、エンドクラウンを設計・製作し、装着した場合に限り算定する。	
3 2については、区分番号M002に掲げる支台築造及び区分番号M002-2に掲げる支台築造印象は、所定点数に含まれ別に算定できない。		3 2については、区分番号M002に掲げる支台築造及び区分番号M002-2に掲げる支台築造印象は、所定点数に含まれ別に算定できない。	
M015-3 CAD/CAMインレー（1歯につき）	<u>770点</u>	M015-3 CAD/CAMインレー（1歯につき）	<u>750点</u>
注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合して		注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合して	

いるものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯冠補綴物の設計・製作に要するコンピュータ支援設計・製造ユニット（歯科用CAD/CAM装置）を用いて、臼歯に対して歯冠修復物（全部被覆冠を除く。）を設計・製作し、装着した場合に限り算定する。

M016 乳歯冠（1歯につき）

- |            |      |
|------------|------|
| 1 乳歯金属冠の場合 | 200点 |
| 2 1以外の場合   | 390点 |

M016-2 小児保険装置

- |           |        |
|-----------|--------|
| 1 固定式保険装置 | 850点   |
| 2 可撤式保険装置 | 1,200点 |

注1 1については、クラウンループ又はバンドループを装着した場合に限り算定する。

2 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M016-3 既製金属冠（1歯につき）  
(欠損補綴)

M017 ポンティック（1歯につき）

注 レジン前装金属ポンティックを製作した場合は、その部位に応じて次に掲げる点数を所定点数に加算する。

- |           |      |
|-----------|------|
| イ 前歯部の場合  | 746点 |
| ロ 小臼歯部の場合 | 200点 |
| ハ 大臼歯部の場合 | 60点  |

M017-2 高強度硬質レジンブリッジ（1装置につき）

3,000点

注 高強度硬質レジン及びグラスファイバーを用いてブリッジを製作し、装着した場合に限り算定する。

M017-3 チタンブリッジ（1装置につき）

2,800点

注1 純チタンを用いてブリッジを製作し、装着し

いるものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、歯冠補綴物の設計・製作に要するコンピュータ支援設計・製造ユニット（歯科用CAD/CAM装置）を用いて、臼歯に対して歯冠修復物（全部被覆冠を除く。）を設計・製作し、装着した場合に限り算定する。

M016 乳歯冠（1歯につき）

- |            |      |
|------------|------|
| 1 乳歯金属冠の場合 | 200点 |
| 2 1以外の場合   | 390点 |

M016-2 小児保険装置

600点

（新設）

（新設）

注1 クラウンループ又はバンドループを装着した場合に限り算定する。

2 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

M016-3 既製金属冠（1歯につき）  
(欠損補綴)

M017 ポンティック（1歯につき）

注 レジン前装金属ポンティックを製作した場合は、その部位に応じて次に掲げる点数を所定点数に加算する。

- |           |      |
|-----------|------|
| イ 前歯部の場合  | 746点 |
| ロ 小臼歯部の場合 | 200点 |
| ハ 大臼歯部の場合 | 60点  |

M017-2 高強度硬質レジンブリッジ（1装置につき）

2,800点

注 高強度硬質レジン及びグラスファイバーを用いてブリッジを製作し、装着した場合に限り算定する。

（新設）

た場合に限り算定する。

2 硬質レジンによる前装を行った場合は、レジン前装加算として、1歯につき600点を所定点数に加算する。

#### M018 有床義歯

##### 1 局部義歯（1床につき）

イ 1歯から4歯まで	624点
ロ 5歯から8歯まで	767点
ハ 9歯から11歯まで	1,042点
ニ 12歯から14歯まで	1,502点

##### 2 総義歯（1顎につき） 2,500点

注 1のハ及びニ並びに2について、有床義歯に歯科用金属芯を埋入した場合は、有床義歯補強加算として150点を所定点数に加算する。ただし、保険医療材料料は所定点数に含まれる。

#### M018-2 3次元プリント有床義歯（1顎につき）

4,000点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、有床義歯の設計・製作に要する歯科技工室設置型コンピュータ支援設計・製造ユニット及び歯科技工用重合装置を用いて、有床義歯を設計・製作し、装着した場合に限り算定する。

#### M019 熱可塑性樹脂有床義歯

##### 1 局部義歯（1床につき）

イ 1歯から4歯まで	624点
ロ 5歯から8歯まで	767点
ハ 9歯から11歯まで	1,042点
ニ 12歯から14歯まで	1,502点

##### 2 総義歯（1顎につき） 2,500点

#### M018 有床義歯

##### 1 局部義歯（1床につき）

イ 1歯から4歯まで	624点
ロ 5歯から8歯まで	767点
ハ 9歯から11歯まで	1,042点
ニ 12歯から14歯まで	1,502点

##### 2 総義歯（1顎につき） 2,420点

(新設)

#### M019 熱可塑性樹脂有床義歯

##### 1 局部義歯（1床につき）

イ 1歯から4歯まで	624点
ロ 5歯から8歯まで	767点
ハ 9歯から11歯まで	1,042点
ニ 12歯から14歯まで	1,502点

##### 2 総義歯（1顎につき） 2,500点

M 0 2 0	铸造鉤 (1個につき)		M 0 2 0	铸造鉤 (1個につき)	
	1 双子鉤	260点		1 双子鉤	260点
	2 二腕鉤	240点		2 二腕鉤	240点
M 0 2 1	線鉤 (1個につき)		M 0 2 1	線鉤 (1個につき)	
	1 双子鉤	227点		1 双子鉤	227点
	2 二腕鉤 (レストつき)	159点		2 二腕鉤 (レストつき)	159点
	3 レストのないもの	134点		3 レストのないもの	134点
M 0 2 1-2	コンビネーション鉤 (1個につき)	246点	M 0 2 1-2	コンビネーション鉤 (1個につき)	246点
M 0 2 1-3	磁性アタッチメント (1個につき)		M 0 2 1-3	磁性アタッチメント (1個につき)	
	1 磁石構造体を用いる場合	460点		1 磁石構造体を用いる場合	460点
	2 キーパー付き根面板を用いる場合	580点		2 キーパー付き根面板を用いる場合	550点
	注 有床義歯 (区分番号M 0 1 8に掲げる有床義歯又は区分番号M 0 1 9に掲げる熱可塑性樹脂有床義歯に限り、区分番号M 0 3 0の2に掲げる軟質材料を用いる場合において義歯床用軟質裏装材を使用して床裏装を行った場合に係る有床義歯を除く。) に対して、磁性アタッチメントを装着した場合に限り算定する。			注 有床義歯 (区分番号M 0 1 8に掲げる有床義歯又は区分番号M 0 1 9に掲げる熱可塑性樹脂有床義歯に限り、区分番号M 0 3 0の2に掲げる軟質材料を用いる場合において義歯床用軟質裏装材を使用して床裏装を行った場合に係る有床義歯を除く。) に対して、磁性アタッチメントを装着した場合に限り算定する。	
M 0 2 2	間接支台装置 (1個につき)	111点	M 0 2 2	間接支台装置 (1個につき)	111点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。			注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
M 0 2 3	大連結子 (1個につき)		M 0 2 3	バー (1個につき)	
	1 鋳造バー	468点		1 鋳造バー	458点
	2 屈曲バー	268点		2 屈曲バー	268点
	注 鋳造バー又は屈曲バーに保持装置を装着した場合は、62点を所定点数に加算する。ただし、保険医療材料料は、所定点数に含まれる。			注 鋳造バー又は屈曲バーに保持装置を装着した場合は、62点を所定点数に加算する。ただし、保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
M 0 2 4	削除		M 0 2 4	削除	
M 0 2 5	口蓋補綴、顎補綴 (1顎につき)		M 0 2 5	口蓋補綴、顎補綴 (1顎につき)	
	1 印象採得が困難なもの	1,500点		1 印象採得が困難なもの	1,500点
	2 印象採得が著しく困難なもの	4,000点		2 印象採得が著しく困難なもの	4,000点
	注 1 義歯を装着した口蓋補綴又は顎補綴は、所定			注 1 義歯を装着した口蓋補綴又は顎補綴は、所定	

	<p>点数に区分番号M018に掲げる有床義歯から区分番号M023に掲げるバー及び区分番号M026に掲げる補綴隙の所定点数を加算した点数とする。</p> <p>2 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>		<p>点数に区分番号M018に掲げる有床義歯から区分番号M023に掲げるバー及び区分番号M026に掲げる補綴隙の所定点数を加算した点数とする。</p> <p>2 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>
M025-2	広範囲顎骨支持型補綴	M025-2	広範囲顎骨支持型補綴
1	ブリッジ形態のもの（3分の1顎につき）	1	ブリッジ形態のもの（3分の1顎につき）
	25,000点		25,000点
2	床義歯形態のもの（1顎につき）	2	床義歯形態のもの（1顎につき）
	20,000点		20,000点
注1	区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該補綴に係る補綴物の印象採得から装着までの一連の行為を行う場合に、補綴治療を着手した日において算定する。	注1	区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術に係る施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該補綴に係る補綴物の印象採得から装着までの一連の行為を行う場合に、補綴治療を着手した日において算定する。
2	区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術の実施範囲が3分の1顎未満である場合は、1の所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。	2	区分番号J109に掲げる広範囲顎骨支持型装置埋入手術の実施範囲が3分の1顎未満である場合は、1の所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。
3	保険医療材料料（別に厚生労働大臣が定める特定保険医療材料を除く。）は、所定点数に含まれる。	3	保険医療材料料（別に厚生労働大臣が定める特定保険医療材料を除く。）は、所定点数に含まれる。
	(その他の技術)		(その他の技術)
M026	補綴隙（1個につき）	M026	補綴隙（1個につき）
	65点		65点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれるものとする。		注 保険医療材料料は、所定点数に含まれるものとする。
M027及びM028	削除 (修理)	M027及びM028	削除 (修理)
M029	有床義歯修理（1床につき）	M029	有床義歯修理（1床につき）
	260点		260点
注1	新たに製作した有床義歯を装着した日から起算して6月以内に当該有床義歯の修理を行った	注1	新たに製作した有床義歯を装着した日から起算して6月以内に当該有床義歯の修理を行った

場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

- 2 保険医療材料料（人工歯料を除く。）は、所定点数に含まれる。
- 3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、破損した有床義歯を預かった当日に修理を行い、当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算1として、1床につき55点を所定点数に加算する。
- 4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、破損した有床義歯を預かって修理を行い、預かつた日の翌日に当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算2として、1床につき35点を所定点数に加算する。

#### M030 有床義歯内面適合法

##### 1 硬質材料を用いる場合

###### イ 局部義歯（1床につき）

- |                |      |
|----------------|------|
| (1) 1歯から4歯まで   | 216点 |
| (2) 5歯から8歯まで   | 268点 |
| (3) 9歯から11歯まで  | 370点 |
| (4) 12歯から14歯まで | 572点 |

###### ロ 総義歯（1頸につき）

790点

##### 2 軟質材料を用いる場合（1頸につき）

1,200点

注1 2については、下顎総義歯又は区分番号M0  
25に掲げる口蓋補綴、顎補綴に限る。

2 新たに製作した有床義歯を装着した日から起算して6月以内に当該有床義歯の有床義歯内面

場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

- 2 保険医療材料料（人工歯料を除く。）は、所定点数に含まれる。
- 3 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、破損した有床義歯を預かった当日に修理を行い、当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算1として、1床につき55点を所定点数に加算する。
- 4 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、破損した有床義歯を預かって修理を行い、預かつた日の翌日に当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算2として、1床につき35点を所定点数に加算する。

#### M030 有床義歯内面適合法

##### 1 硬質材料を用いる場合

###### イ 局部義歯（1床につき）

- |                |      |
|----------------|------|
| (1) 1歯から4歯まで   | 216点 |
| (2) 5歯から8歯まで   | 268点 |
| (3) 9歯から11歯まで  | 370点 |
| (4) 12歯から14歯まで | 572点 |

###### ロ 総義歯（1頸につき）

790点

##### 2 軟質材料を用いる場合（1頸につき）

1,200点

注1 2については、下顎総義歯又は区分番号M0  
25に掲げる口蓋補綴、顎補綴に限る。

2 新たに製作した有床義歯を装着した日から起算して6月以内に当該有床義歯の有床義歯内面

適合法を行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

- 3 1については、保険医療材料料（人工歯料を除く。）は、所定点数に含まれる。
- 4 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、有床義歯を預かった当日に間接法により有床義歯内面適合法を行い、当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算1として、1顆につき55点を所定点数に加算する。
- 5 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、有床義歯を預かって、間接法により有床義歯内面適合法を行い、預かった日の翌日に当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算2として、1顆につき35点を所定点数に加算する。

M031からM033まで 削除

M034 歯冠補綴物修理（1歯につき）

70点

注 保険医療材料料（人工歯料を除く。）は、所定点数に含まれる。

M035からM040まで 削除

M041 広範囲顎骨支持型補綴物修理（1装置につき）

1,200点

注 保険医療材料料（別に厚生労働大臣が定める特定保険医療材料を除く。）は、所定点数に含まれる。

第2節 削除

第3節 特定保険医療材料料

適合法を行った場合は、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

- 3 1については、保険医療材料料（人工歯料を除く。）は、所定点数に含まれる。
- 4 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、有床義歯を預かった当日に間接法により有床義歯内面適合法を行い、当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算1として、1顆につき55点を所定点数に加算する。
- 5 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、患者の求めに応じて、有床義歯を預かって、間接法により有床義歯内面適合法を行い、預かった日の翌日に当該義歯を装着した場合は、歯科技工加算2として、1顆につき35点を所定点数に加算する。

M031からM033まで 削除

M034 歯冠補綴物修理（1歯につき）

70点

注 保険医療材料料（人工歯料を除く。）は、所定点数に含まれる。

M035からM040まで 削除

M041 広範囲顎骨支持型補綴物修理（1装置につき）

1,200点

注 保険医療材料料（別に厚生労働大臣が定める特定保険医療材料を除く。）は、所定点数に含まれる。

第2節 削除

第3節 特定保険医療材料料

区分

M100 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数

注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

第13部 歯科矯正

通則

1 歯科矯正の費用は、特に規定する場合を除き、第1節の各区分の所定点数及び第2節に掲げる特定保険医療材料（別に厚生労働大臣が定める保険医療材料をいう。以下この部において同じ。）の所定点数を合算した点数により算定する。

2 第13部に掲げられていない歯科矯正であって特殊なものの費用は、第13部に掲げられている歯科矯正のうちで最も近似する歯科矯正の各区分の所定点数により算定する。

第1節 歯科矯正料

区分

N000 歯科矯正診断料 1,500点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、治療計画書を作成し、患者に対し文書により提供した場合に算定する。

2 歯科矯正診断料は、歯科矯正を開始するとき、動的処置を開始するとき、マルチブラケット法を開始するとき、保定を開始するとき及び顎切削等の手術を実施するときに、それぞれ1回に限り算定する。

3 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

N001 顎口腔機能診断料 2,300点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、顎変形症に係る顎口腔機能診断を行い、治療計画書を顎離断等の手術を

区分

M100 特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数

注 使用した特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。

第13部 歯科矯正

通則

1 歯科矯正の費用は、特に規定する場合を除き、第1節の各区分の所定点数及び第2節に掲げる特定保険医療材料（別に厚生労働大臣が定める保険医療材料をいう。以下この部において同じ。）の所定点数を合算した点数により算定する。

2 第13部に掲げられていない歯科矯正であって特殊なものの費用は、第13部に掲げられている歯科矯正のうちで最も近似する歯科矯正の各区分の所定点数により算定する。

第1節 歯科矯正料

区分

N000 歯科矯正診断料 1,500点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、治療計画書を作成し、患者に対し文書により提供した場合に算定する。

2 歯科矯正診断料は、歯科矯正を開始するとき、動的処置を開始するとき、マルチブラケット法を開始するとき、保定を開始するとき及び顎切削等の手術を実施するときに、それぞれ1回に限り算定する。

3 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

N001 顎口腔機能診断料 2,300点

注1 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、顎変形症に係る顎口腔機能診断を行い、治療計画書を顎離断等の手術を

担当する保険医療機関と連携して作成し、患者に対し文書により提供した場合に算定する。

2 頸口腔機能診断料は、歯科矯正を開始するとき、動的処置を開始するとき、マルチプラケット法を開始するとき、顎離断等の手術を開始するとき及び保定を開始するときに、それぞれ1回に限り算定する。

3 区分番号N 0 0 0に掲げる歯科矯正診断料の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

#### N 0 0 1 - 2 歯科矯正相談料

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1 歯科矯正相談料 1 | 420 点 |
| 2 歯科矯正相談料 2 | 420 点 |

注1 1については、区分番号N 0 0 0に掲げる歯科矯正診断料の注1又は区分番号N 0 0 1に掲げる頸口腔機能診断料の注1に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、第13部に掲げる歯科矯正の適応となる咬合異常又は顎変形症が疑われる患者に対し、歯・歯列の状態、咬合状態又は顎骨の形態等の分析及び診断を行い、当該患者に対し、診断結果等を文書により提供了の場合に、年度に1回に限り算定する。

2 2については、区分番号N 0 0 0に掲げる歯科矯正診断料の注1又は区分番号N 0 0 1に掲げる頸口腔機能診断料の注1に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関以外の保険医療機関において、第13部に掲げる歯科矯正の適応となる咬合異常又は顎変形症が疑われる患者に対し、歯・歯列の状態、咬合状態又は顎骨の形態等の分

担当する保険医療機関と連携して作成し、患者に対し文書により提供した場合に算定する。

2 頸口腔機能診断料は、歯科矯正を開始するとき、動的処置を開始するとき、マルチプラケット法を開始するとき、顎離断等の手術を開始するとき及び保定を開始するときに、それぞれ1回に限り算定する。

3 区分番号N 0 0 0に掲げる歯科矯正診断料の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

#### N 0 0 1 - 2 歯科矯正相談料

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1 歯科矯正相談料 1 | 420 点 |
| 2 歯科矯正相談料 2 | 420 点 |

注1 1については、区分番号N 0 0 0に掲げる歯科矯正診断料の注1又は区分番号N 0 0 1に掲げる頸口腔機能診断料の注1に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、第13部に掲げる歯科矯正の適応となる咬合異常又は顎変形症が疑われる患者に対し、歯・歯列の状態、咬合状態又は顎骨の形態等の分析及び診断を行い、当該患者に対し、診断結果等を文書により提供了の場合に、年度に1回に限り算定する。

2 2については、区分番号N 0 0 0に掲げる歯科矯正診断料の注1又は区分番号N 0 0 1に掲げる頸口腔機能診断料の注1に規定する施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関以外の保険医療機関において、第13部に掲げる歯科矯正の適応となる咬合異常又は顎変形症が疑われる患者に対し、歯・歯列の状態、咬合状態又は顎骨の形態等の分

析及び診断を行い、当該患者に対し、診断結果等を文書により提供した場合に、年度に1回に限り算定する。

3 区分番号E 0 0 0 の1に掲げる単純撮影若しくは2に掲げる特殊撮影又は区分番号E 1 0 0 の1に掲げる単純撮影若しくは2に掲げる特殊撮影は別に算定できる。

4 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

N 0 0 2 歯科矯正管理料 240点

注1 区分番号N 0 0 0 に掲げる歯科矯正診断料の注1又は区分番号N 0 0 1 に掲げる顎口腔機能診断料の注1に規定する治療計画書に基づき、計画的な歯科矯正管理を継続して行った場合であって、当該保険医療機関において動的治療が開始された患者に対し、療養上必要な指導を行うとともに模型又は写真による歯の移動等の管理を行った上で、具体的な指導管理の内容について文書により提供したときに、区分番号A 0 0 0 に掲げる初診料を算定した日の属する月の翌月以降月1回に限り算定する。

2 区分番号B 0 0 0 - 4 に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 2 に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 3 に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 6 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 7 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(2)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 8 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(3)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 9 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(4)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 1 1 に掲げる回復期等口腔機能管理料又は区分番号C 0 0 1 - 3 に掲げる歯科疾患在宅療養

析及び診断を行い、当該患者に対し、診断結果等を文書により提供した場合に、年度に1回に限り算定する。

3 区分番号E 0 0 0 の1に掲げる単純撮影若しくは2に掲げる特殊撮影又は区分番号E 1 0 0 の1に掲げる単純撮影若しくは2に掲げる特殊撮影は別に算定できる。

4 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

N 0 0 2 歯科矯正管理料 240点

注1 区分番号N 0 0 0 に掲げる歯科矯正診断料の注1又は区分番号N 0 0 1 に掲げる顎口腔機能診断料の注1に規定する治療計画書に基づき、計画的な歯科矯正管理を継続して行った場合であって、当該保険医療機関において動的治療が開始された患者に対し、療養上必要な指導を行うとともに経過模型による歯の移動等の管理を行った上で、具体的な指導管理の内容について文書により提供したときに、区分番号A 0 0 0 に掲げる初診料を算定した日の属する月の翌月以降月1回に限り算定する。

2 区分番号B 0 0 0 - 4 に掲げる歯科疾患管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 2 に掲げる小児口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 4 - 3 に掲げる口腔機能管理料、区分番号B 0 0 0 - 6 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(1)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 7 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(2)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 8 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(3)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 9 に掲げる周術期等口腔機能管理料<sup>(4)</sup>、区分番号B 0 0 0 - 1 1 に掲げる回復期等口腔機能管理料又は区分番号C 0 0 1 - 3 に掲げる歯科疾患在宅療養

	管理料を算定している患者に対して行った歯科矯正管理の費用は、別に算定できない。
3 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 0 3 歯科矯正セファログラム（一連につき）	300点
注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 0 4 模型調製（1組につき）	
1 平行模型	500点
2 予測模型	300点
注 1 については、歯科矯正を開始するとき、動的処置を開始するとき、マルチブラケット法を開始するとき、顎離断等の手術を開始するとき及び保定を開始するときに、それぞれ1回に限り算定する。	
2 1について、顎態模型を調製した場合は、200点を所定点数に加算する。	
3 2については、予測歯1歯につき60点を所定点数に加算する。	
4 <u>1及び2について、デジタル印象採得装置を用いて行った場合は、3次元デジタル加算として、150点を所定点数に加算する。</u>	
5 印象採得料、咬合採得料及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 0 5 動的処置（1口腔 <sup>1</sup> 回につき）	
1 動的処置の開始の日又はマルチブラケット法の開始の日から起算して2年以内に行った場合	
イ 同一月内の第1回目	250点
ロ 同一月内の第2回目以降	100点
2 動的処置の開始の日又はマルチブラケット法の開始の日から起算して2年を超えた後に行った場合	
イ 同一月内の第1回目	200点

	管理料を算定している患者に対して行った歯科矯正管理の費用は、別に算定できない。
3 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 0 3 歯科矯正セファログラム（一連につき）	300点
注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 0 4 模型調製（1組につき）	
1 平行模型	500点
2 予測模型	300点
注 1 については、歯科矯正を開始するとき、動的処置を開始するとき、マルチブラケット法を開始するとき、顎離断等の手術を開始するとき及び保定を開始するときに、それぞれ1回に限り算定する。	
2 1について、顎態模型を調製した場合は、200点を所定点数に加算する。	
3 2については、予測歯1歯につき60点を所定点数に加算する。	
(新設)	
4 <u>印象採得料、咬合採得料及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</u>	
N 0 0 5 動的処置（1口腔 <sup>1</sup> 回につき）	
1 動的処置の開始の日又はマルチブラケット法の開始の日から起算して2年以内に行った場合	
イ 同一月内の第1回目	250点
ロ 同一月内の第2回目以降	100点
2 動的処置の開始の日又はマルチブラケット法の開始の日から起算して2年を超えた後に行った場合	
イ 同一月内の第1回目	200点

	<p>□ 同一月内の第2回目以降 100点 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>	
N 006	印象採得（1装置につき）	
	<p>1 マルチブラケット装置 40点 2 その他の装置 イ 印象採得が簡単なもの 143点 ロ 印象採得が困難なもの 265点 ハ 印象採得が著しく困難なもの 400点 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>	
N 007	咬合採得（1装置につき）	
	<p>1 簡単なもの 70点 2 困難なもの 140点 3 構成咬合 400点 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>	
N 008	装着	
	<p>1 装置（1装置につき） イ 可撤式装置 300点 ロ 固定式装置 400点 2 帯環（1個につき） 80点 3 ダイレクトボンドブラケット（1個につき） 100点 注 1 のイについて、矯正装置に必要なフォースシステムを行い、力系に関するチャートを作成し、患者に対してその内容について説明した場合は、400点を所定点数に加算する。 2 1 のロについては、固定式装置の帶環及びダイレクトボンドブラケットの装着料を除く。 3 1 のロについて、矯正装置に必要なフォースシステムを行い、力系に関するチャートを作成し、患者に対してその内容について説明した場合は、400点を所定点数に加算する。</p>	
		<p>□ 同一月内の第2回目以降 100点 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>
N 006	印象採得（1装置につき）	
	<p>1 マルチブラケット装置 40点 2 その他の装置 イ 印象採得が簡単なもの 143点 ロ 印象採得が困難なもの 265点 ハ 印象採得が著しく困難なもの 400点 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>	
N 007	咬合採得（1装置につき）	
	<p>1 簡単なもの 70点 2 困難なもの 140点 3 構成咬合 400点 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。</p>	
N 008	装着	
	<p>1 装置（1装置につき） イ 可撤式装置 300点 ロ 固定式装置 400点 2 帯環（1個につき） 80点 3 ダイレクトボンドブラケット（1個につき） 100点 注 1 のイについて、矯正装置に必要なフォースシステムを行い、力系に関するチャートを作成し、患者に対してその内容について説明した場合は、400点を所定点数に加算する。 2 1 のロについては、固定式装置の帶環及びダイレクトボンドブラケットの装着料を除く。 3 1 のロについて、矯正装置に必要なフォースシステムを行い、力系に関するチャートを作成し、患者に対してその内容について説明した場合は、400点を所定点数に加算する。</p>	

	4 3について、エナメルエッチング及びプラケットボンドに係る費用は、所定点数に含まれる。	
N 0 0 8 - 2	植立（1本につき）	500点
N 0 0 9	撤去	
	1 帯環（1個につき）	30点
	2 ダイレクトボンドブラケット（1個につき）	60点
	3 歯科矯正用アンカースクリュー（1本につき）	100点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 1 0	セパレイティング（1箇所につき）	40点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
<u>N 0 1 0 - 2</u>	<u>ディスキング（1歯につき）</u>	<u>40点</u>
N 0 1 1	結紮（1顎1回につき）	50点
	注 結紮線の除去の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
	(矯正装置)	
N 0 1 2	床装置（1装置につき）	
	1 簡単なもの	1,500点
	2 複雑なもの	2,000点
N 0 1 2 - 2	スライディングプレート（1装置につき）	1,500点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 1 3	リトラクター（1装置につき）	2,000点
	注 スライディングプレートを製作した場合は、1,500点（保険医療材料料を含む。）を所定点数に加算する。ただし、この場合において、区分番号N 0 1 2 - 2に掲げるスライディングプレートは別に算定できない。	
N 0 1 4	プロトラクター（1装置につき）	2,000点
	4 3について、エナメルエッチング及びプラケットボンドに係る費用は、所定点数に含まれる。	
N 0 0 8 - 2	植立（1本につき）	500点
N 0 0 9	撤去	
	1 帯環（1個につき）	30点
	2 ダイレクトボンドブラケット（1個につき）	60点
	3 歯科矯正用アンカースクリュー（1本につき）	100点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 1 0	セパレイティング（1箇所につき）	40点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
(新設)		
N 0 1 1	結紮（1顎1回につき）	50点
	注 結紮線の除去の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
	(矯正装置)	
N 0 1 2	床装置（1装置につき）	
	1 簡単なもの	1,500点
	2 複雑なもの	2,000点
N 0 1 2 - 2	スライディングプレート（1装置につき）	1,500点
	注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 1 3	リトラクター（1装置につき）	2,000点
	注 スライディングプレートを製作した場合は、1,500点（保険医療材料料を含む。）を所定点数に加算する。ただし、この場合において、区分番号N 0 1 2 - 2に掲げるスライディングプレートは別に算定できない。	
N 0 1 4	プロトラクター（1装置につき）	2,000点

N 0 1 4 - 2	牽引装置（1歯につき）	500点
注1	区分番号J 0 4 4 - 2に掲げる埋伏歯開窓術を行った歯に対し牽引装置を装着した場合に算定する。	
2	区分番号N 0 2 2に掲げるダイレクトボンド ブラケットは所定点数に含まれ別に算定できない。	
3	保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 1 5	拡大装置（1装置につき）	2,500点
注	スケレトンタイプの場合は、500点を所定点数に加算する。	
N 0 1 6	アクチバトル（FKO）（1装置につき）	3,000点
N 0 1 7	リンガルアーチ（1装置につき）	
1	簡単なもの	1,500点
2	複雑なもの	2,500点
N 0 1 8	マルチブラケット装置（1装置につき）	
1	ステップI	
イ	3装置目までの場合	600点
ロ	4装置目以降の場合	250点
2	ステップII	
イ	2装置目までの場合	800点
ロ	3装置目以降の場合	250点
3	ステップIII	
イ	2装置目までの場合	1,000点
ロ	3装置目以降の場合	300点
4	ステップIV	
イ	2装置目までの場合	1,200点
ロ	3装置目以降の場合	300点
注	装着料は、ステップI、ステップII、ステップIII及びステップIVのそれぞれ最初の1装置に限り	

N 0 1 4 - 2	牽引装置（1歯につき）	500点
注1	区分番号J 0 4 4 - 2に掲げる埋伏歯開窓術を行った歯に対し牽引装置を装着した場合に算定する。	
2	区分番号N 0 2 2に掲げるダイレクトボンド ブラケットは所定点数に含まれ別に算定できない。	
3	保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	
N 0 1 5	拡大装置（1装置につき）	2,500点
注	スケレトンタイプの場合は、500点を所定点数に加算する。	
N 0 1 6	アクチバトル（FKO）（1装置につき）	3,000点
N 0 1 7	リンガルアーチ（1装置につき）	
1	簡単なもの	1,500点
2	複雑なもの	2,500点
N 0 1 8	マルチブラケット装置（1装置につき）	
1	ステップI	
イ	3装置目までの場合	600点
ロ	4装置目以降の場合	250点
2	ステップII	
イ	2装置目までの場合	800点
ロ	3装置目以降の場合	250点
3	ステップIII	
イ	2装置目までの場合	1,000点
ロ	3装置目以降の場合	300点
4	ステップIV	
イ	2装置目までの場合	1,200点
ロ	3装置目以降の場合	300点
注	装着料は、ステップI、ステップII、ステップIII及びステップIVのそれぞれ最初の1装置に限り	

算定する。

N 0 1 9 保定期装置（1装置につき）

1 プレートタイプリテナー	1,500点
2 メタルリテナー	6,000点
3 スプリングリテナー	1,500点
4 リンガルアーチ	1,500点
5 リンガルバー	2,500点
6 ツースポジショナー	3,000点
7 フィクスドリテナー	1,000点

注 1 について、人工歯を使用して製作した場合の費用は、所定点数に含まれる。

2 2について、鈎等の費用及び人工歯を使用して製作した場合の費用は、所定点数に含まれる。

。

N 0 2 0 鈎（1個につき）

1 簡単なもの	90点
2 複雑なもの	160点

注 メタルリテナーに使用した場合を除く。

N 0 2 1 帯環（1個につき） 200点

注 帯環製作のろう着の費用は、所定点数に含まれる。

N 0 2 2 ダイレクトボンドブラケット（1個につき） 200点

N 0 2 3 フック（1個につき） 70点

注 ろう着の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

N 0 2 4 弾線（1本につき） 160点

N 0 2 5 トルキングアーチ（1本につき） 350点

N 0 2 6 附加装置（1箇所につき）

1 パワーチェイン	20点
2 コイルスプリング	20点
3 ピグティール	20点

算定する。

N 0 1 9 保定期装置（1装置につき）

1 プレートタイプリテナー	1,500点
2 メタルリテナー	6,000点
3 スプリングリテナー	1,500点
4 リンガルアーチ	1,500点
5 リンガルバー	2,500点
6 ツースポジショナー	3,000点
7 フィクスドリテナー	1,000点

注 1 について、人工歯を使用して製作した場合の費用は、所定点数に含まれる。

2 2について、鈎等の費用及び人工歯を使用して製作した場合の費用は、所定点数に含まれる。

。

N 0 2 0 鈎（1個につき）

1 簡単なもの	90点
2 複雑なもの	160点

注 メタルリテナーに使用した場合を除く。

N 0 2 1 帯環（1個につき） 200点

注 帯環製作のろう着の費用は、所定点数に含まれる。

N 0 2 2 ダイレクトボンドブラケット（1個につき） 200点

N 0 2 3 フック（1個につき） 70点

注 ろう着の費用及び保険医療材料料は、所定点数に含まれる。

N 0 2 4 弾線（1本につき） 160点

N 0 2 5 トルキングアーチ（1本につき） 350点

N 0 2 6 附加装置（1箇所につき）

1 パワーチェイン	20点
2 コイルスプリング	20点
3 ピグティール	20点

	4 アップライトスプリング 5 エラスティクス 6 超弾性コイルスプリング 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	40点 20点 60点		4 アップライトスプリング 5 エラスティクス 6 超弾性コイルスプリング 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	40点 20点 60点
N 0 2 7	矯正用ろう着（1箇所につき） 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	60点	N 0 2 7	矯正用ろう着（1箇所につき） 注 保険医療材料料は、所定点数に含まれる。	60点
N 0 2 8	床装置修理（1装置につき） 注 保険医療材料料（人工歯科を除く。）は、所定点数に含まれる。	234点	N 0 2 8	床装置修理（1装置につき） 注 保険医療材料料（人工歯科を除く。）は、所定点数に含まれる。	234点
	第2節 特定保険医療材料料			第2節 特定保険医療材料料	
区分			区分		
N 1 0 0	特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数 注 特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。		N 1 0 0	特定保険医療材料 材料価格を10円で除して得た点数 注 特定保険医療材料の材料価格は、別に厚生労働大臣が定める。	
	第14部 病理診断			第14部 病理診断	
通則	1 病理診断の費用は、各区分の所定点数により算定する。 2 第14部に掲げる病理診断・判断料以外の病理診断の費用の算定は、医科点数表の例による。		通則	1 病理診断の費用は、各区分の所定点数により算定する。 2 第14部に掲げる病理診断・判断料以外の病理診断の費用の算定は、医科点数表の例による。	
区分			区分		
O 0 0 0	口腔病理診断料（歯科診療に係るものに限る。） 1 組織診断料 2 細胞診断料 注 1 については、病理診断を専ら担当する歯科医師又は医師が勤務する病院又は病理診断を専ら担当する常勤の歯科医師若しくは医師が勤務する診療所である保険医療機関において、医科点数表の区分番号N 0 0 0に掲げる病理組織標本作製、医科点数表の区分番号N 0 0 1に掲げる電子顕微鏡病理組織標本作製、医科点数表の区分番号N 0 0 2に掲げる免疫染色（免疫抗体		O 0 0 0	口腔病理診断料（歯科診療に係るものに限る。） 1 組織診断料 2 細胞診断料 注 1 については、病理診断を専ら担当する歯科医師又は医師が勤務する病院又は病理診断を専ら担当する常勤の歯科医師若しくは医師が勤務する診療所である保険医療機関において、医科点数表の区分番号N 0 0 0に掲げる病理組織標本作製、医科点数表の区分番号N 0 0 1に掲げる電子顕微鏡病理組織標本作製、医科点数表の区分番号N 0 0 2に掲げる免疫染色（免疫抗体	

法) 病理組織標本作製若しくは医科点数表の区分番号N003に掲げる術中迅速病理組織標本作製により作製された組織標本(医科点数表の区分番号N000に掲げる病理組織標本作製又は医科点数表の区分番号N002に掲げる免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製により作製された組織標本のデジタル病理画像を含む。)

)に基づく診断を行った場合又は当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された組織標本

(当該保険医療機関以外の保険医療機関で医科点数表の区分番号N000に掲げる病理組織標本作製又は医科点数表の区分番号N002に掲げる免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製により作製された組織標本のデジタル病理画像を含む。)に基づく診断を行った場合に、これらの診断の別又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

2 2については、病理診断を専ら担当する歯科医師又は医師が勤務する病院又は病理診断を専ら担当する常勤の歯科医師若しくは医師が勤務する診療所である保険医療機関において、医科点数表の区分番号N003-2に掲げる迅速細胞診、医科点数表の区分番号N004に掲げる細胞診の2により作製された標本に基づく診断を行った場合又は当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された標本に基づく診断を行った場合に、これらの診断の別又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

3 当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された標本に基づき診断を行った場合は、医科点数表の区分番号N000からN004までに

法) 病理組織標本作製若しくは医科点数表の区分番号N003に掲げる術中迅速病理組織標本作製により作製された組織標本(医科点数表の区分番号N000に掲げる病理組織標本作製又は医科点数表の区分番号N002に掲げる免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製により作製された組織標本のデジタル病理画像を含む。)

)に基づく診断を行った場合又は当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された組織標本

(当該保険医療機関以外の保険医療機関で医科点数表の区分番号N000に掲げる病理組織標本作製又は医科点数表の区分番号N002に掲げる免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製により作製された組織標本のデジタル病理画像を含む。)に基づく診断を行った場合に、これらの診断の別又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

2 2については、病理診断を専ら担当する歯科医師又は医師が勤務する病院又は病理診断を専ら担当する常勤の歯科医師若しくは医師が勤務する診療所である保険医療機関において、医科点数表の区分番号N003-2に掲げる迅速細胞診、医科点数表の区分番号N004に掲げる細胞診の2により作製された標本に基づく診断を行った場合又は当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された標本に基づく診断を行った場合に、これらの診断の別又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

3 当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された標本に基づき診断を行った場合は、医科点数表の区分番号N000からN004までに

掲げる病理標本作製料は別に算定できない。

4 口腔病理診断管理に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、口腔病理診断を専ら担当する常勤の歯科医師又は医師が病理診断を行い、その結果を文書により報告した場合は、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を所定点数に加算する。

イ 口腔病理診断管理加算 1

- |                |            |
|----------------|------------|
| (1) 組織診断を行った場合 | 138点       |
| (2) 細胞診断を行った場合 | <u>69点</u> |

ロ 口腔病理診断管理加算 2

- |                |             |
|----------------|-------------|
| (1) 組織診断を行った場合 | 368点        |
| (2) 細胞診断を行った場合 | <u>184点</u> |

5 1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、悪性腫瘍に係る手術の検体から医科点数表の区分番号N000に掲げる病理組織標本作製の1又は医科点数表の区分番号N002に掲げる免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製により作製された組織標本に基づく診断を行った場合は、悪性腫瘍病理組織標本加算として、150点を所定点数に加算する。

O O O 1 口腔病理判断料（歯科診療に係るものに限る。）

130点

- 注1 行われた病理標本作製の種類又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。  
2 区分番号O O O 0に掲げる口腔病理診断料を算定した場合は、算定できない。

第15部 その他

掲げる病理標本作製料は別に算定できない。

4 口腔病理診断管理に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、口腔病理診断を専ら担当する常勤の歯科医師又は医師が病理診断を行い、その結果を文書により報告した場合は、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を所定点数に加算する。

イ 口腔病理診断管理加算 1

- |                |            |
|----------------|------------|
| (1) 組織診断を行った場合 | 120点       |
| (2) 細胞診断を行った場合 | <u>60点</u> |

ロ 口腔病理診断管理加算 2

- |                |             |
|----------------|-------------|
| (1) 組織診断を行った場合 | 320点        |
| (2) 細胞診断を行った場合 | <u>160点</u> |

5 1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、悪性腫瘍に係る手術の検体から医科点数表の区分番号N000に掲げる病理組織標本作製の1又は医科点数表の区分番号N002に掲げる免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製により作製された組織標本に基づく診断を行った場合は、悪性腫瘍病理組織標本加算として、150点を所定点数に加算する。

O O O 1 口腔病理判断料（歯科診療に係るものに限る。）

130点

- 注1 行われた病理標本作製の種類又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。  
2 区分番号O O O 0に掲げる口腔病理診断料を算定した場合は、算定できない。

第15部 その他

## 通則

- 1 処遇の費用は、第1節の各区分の所定点数により算定する。  
。
- 2 処遇改善に当たって、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関にあっては、歯科診療及び歯科診療以外の診療につき、それぞれ別に第1節（看護職員処遇改善評価料及び入院ベースアップ評価料を除く。）及び医科点数表第14部第1節（看護職員処遇改善評価料及び入院ベースアップ評価料を除く。）の各区分に掲げるベースアップ評価料等を算定する。
- 3 物価対応の費用は、第2節の各区分の所定点数により算定する。
- 4 物価対応に係る費用について、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関にあっては、歯科診療及び歯科診療以外の診療につき、それぞれ別に第2節（歯科入院物価対応料を除く。）及び医科点数表第14部第2節（入院物価対応料を除く。）の各区分の所定点数により算定する。

### 第1節 ベースアップ評価料等

#### 区分

P 0 0 0 看護職員処遇改善評価料（1日につき）

注 医科点数表の区分番号〇〇〇〇に掲げる看護職員処遇改善評価料の注に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者であって、第1章第2部第1節の入院基本料（特別入院基本料等を含む。）、同部第3節の特定入院料又は同部第4節の短期滞在手術等基本料（短期滞在手術等基本料1を除く。）を算定しているものについて、医科点数表の区分番号〇

## 通則

- 1 処遇の費用は、第1節若しくは第2節の各区分の所定点数のみにより、又は第1節及び第2節の各区分の所定点数を合算した点数により算定する。
- 2 処遇改善に当たって、歯科診療及び歯科診療以外の診療を併せて行う保険医療機関にあっては、歯科診療及び歯科診療以外の診療につき、それぞれ別に第2節（入院ベースアップ評価料を除く。）の各区分に掲げるベースアップ評価料を算定する。

(新設)

(新設)

### 第1節 看護職員処遇改善評価料

#### 区分

P 0 0 0 看護職員処遇改善評価料（1日につき）

注 医科点数表の区分番号〇〇〇〇に掲げる看護職員処遇改善評価料の注に規定する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者であって、第1章第2部第1節の入院基本料（特別入院基本料等を含む。）、同部第3節の特定入院料又は同部第4節の短期滞在手術等基本料（短期滞在手術等基本料1を除く。）を算定しているものについて、医科点数表の区分番号〇

〇〇〇に掲げる看護職員処遇改善評価料の例により算定する。

(削る)

区分

P 0 0 1 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ

1 初診時	<u>21点</u>
2 再診時等	<u>4点</u>
3 歯科訪問診療時	
イ 同一建物居住者以外の場合	<u>66点</u>
ロ 同一建物居住者の場合	<u>11点</u>

注1 1については、当該保険医療機関において勤務する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して初診を行った場合に、所定点数を算定する。

2 2については、当該保険医療機関において勤務する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して再診又は短期滞在手術等基本料1を算定すべき手術又は検査を行った場合に、所定点数を算定する。

3 3のイについては、当該保険医療機関において勤務する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険

〇〇〇に掲げる看護職員処遇改善評価料の例により算定する。

第2節 ベースアップ評価料

区分

P 1 0 0 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ(1日につき)

1 初診時	<u>10点</u>
2 再診時等	<u>2点</u>
3 歯科訪問診療時	
イ 同一建物居住者以外の場合	<u>41点</u>
ロ 同一建物居住者の場合	<u>10点</u>

注1 1については、主として歯科医療に従事する職員(医師及び歯科医師を除く。以下この節において同じ。)の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して初診を行った場合に、所定点数を算定する。

2 2については、主として歯科医療に従事する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して再診又は短期滞在手術等基本料1を算定すべき手術又は検査を行った場合に、所定点数を算定する。

3 3のイについては、主として歯科医療に従事する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機

医療機関において、在宅等において療養を行っている患者（当該患者と同一の建物に居住する他の患者に対して当該保険医療機関が同日に歯科訪問診療を行う場合の当該患者（以下この区分番号において「同一建物居住者」という。）を除く。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を行った場合に算定する。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

4 3のロについては、当該保険医療機関において勤務する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を行った場合に算定する。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、継続して賃上げに係る取組を実施した保険医療機関については、1、2

関において、在宅等において療養を行っている患者（当該患者と同一の建物に居住する他の患者に対して当該保険医療機関が同日に歯科訪問診療を行う場合の当該患者（以下この区分番号において「同一建物居住者」という。）を除く。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を行った場合に算定する。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

4 3のロについては、主として歯科医療に従事する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、在宅等において療養を行っている患者（同一建物居住者に限る。）であって通院が困難なものに対して、当該患者が居住する建物の屋内において、次のいずれかに該当する歯科訪問診療を行った場合に算定する。

- イ 患者の求めに応じた歯科訪問診療
- ロ 歯科訪問診療に基づき継続的な歯科診療が必要と認められた患者に対する当該患者の同意を得た歯科訪問診療

(新設)

並びに3のイ及びロの所定点数に代えて、それ  
ぞれ31点、6点、107点及び21点を算定する。

6 1から3までに規定する点数について、令和  
9年6月以降においては、それぞれ所定点数の  
100分の200に相当する点数により算定する。

7 注5に規定する点数について、令和9年6月  
以降においては、1、2並びに3のイ及びロの  
所定点数に代えて、それぞれ52点、10点、173  
点及び32点を算定する。

#### P 002 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 1 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 8点  |
| ロ 再診時等                | 1点  |
| 2 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 2 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 16点 |
| ロ 再診時等                | 2点  |
| 3 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 3 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 24点 |
| ロ 再診時等                | 3点  |
| 4 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 4 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 32点 |
| ロ 再診時等                | 4点  |
| 5 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 5 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 40点 |
| ロ 再診時等                | 5点  |
| 6 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 6 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 48点 |
| ロ 再診時等                | 6点  |
| 7 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 7 |     |

(新設)

(新設)

#### P 101 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ(1日につき)

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 1 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 8点  |
| ロ 再診時等                | 1点  |
| 2 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 2 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 16点 |
| ロ 再診時等                | 2点  |
| 3 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 3 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 24点 |
| ロ 再診時等                | 3点  |
| 4 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 4 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 32点 |
| ロ 再診時等                | 4点  |
| 5 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 5 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 40点 |
| ロ 再診時等                | 5点  |
| 6 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 6 |     |
| イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合    | 48点 |
| ロ 再診時等                | 6点  |
| 7 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 7 |     |

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	56点	イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	56点
ロ 再診時等	7点	ロ 再診時等	7点
8 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 8		8 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 8	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	64点	イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	64点
ロ 再診時等	8点	ロ 再診時等	8点
<u>9 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 9</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	72点		
ロ 再診時等	9点		
<u>10 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 10</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	80点		
ロ 再診時等	10点		
<u>11 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 11</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	88点		
ロ 再診時等	11点		
<u>12 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 12</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	96点		
ロ 再診時等	12点		
<u>13 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 13</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	104点		
ロ 再診時等	13点		
<u>14 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 14</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	112点		
ロ 再診時等	14点		
<u>15 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 15</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	120点		
ロ 再診時等	15点		
<u>16 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 16</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	128点		
ロ 再診時等	16点		
<u>17 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 17</u>		(新設)	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	136点		

<u>口 再診時等</u>	<u>17点</u>	
<u>18 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 18</u>		(新設)
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>144点</u>	
<u>口 再診時等</u>	<u>18点</u>	
<u>19 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 19</u>		(新設)
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>152点</u>	
<u>口 再診時等</u>	<u>19点</u>	
<u>20 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 20</u>		(新設)
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>160点</u>	
<u>口 再診時等</u>	<u>20点</u>	
<u>21 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 21</u>		(新設)
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>168点</u>	
<u>口 再診時等</u>	<u>21点</u>	
<u>22 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 22</u>		(新設)
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>176点</u>	
<u>口 再診時等</u>	<u>22点</u>	
<u>23 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 23</u>		(新設)
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>184点</u>	
<u>口 再診時等</u>	<u>23点</u>	
<u>24 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 24</u>		(新設)
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>192点</u>	
<u>口 再診時等</u>	<u>24点</u>	
注 1 当該保険医療機関において勤務する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して診療を行った場合に、当該基準に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。		注 1 主として歯科医療に従事する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して診療を行った場合に、当該基準に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。
2 各区分のイについては、歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱの1又は3を算定する患者に		2 1のイ、2のイ、3のイ、4のイ、5のイ、6のイ、7のイ又は8のイについては、歯科外

対して診療を行った場合に算定する。

3 各区分の口については、歯科外来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup>の2を算定する患者に対して診療を行った場合に算定する。

4 13から24までに規定する点数については、令和9年6月以降に算定する。

5 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、継続して賃上げに係る取組を実施した保険医療機関については、所定点数に代えて、次に掲げる点数を算定する。

1 歯科外来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup> 1

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

16点

ロ 再診時等 2点

2 歯科外来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup> 2

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

24点

ロ 再診時等 3点

3 歯科外来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup> 3

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

40点

ロ 再診時等 5点

4 歯科外来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup> 4

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

56点

ロ 再診時等 7点

5 歯科外来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup> 5

来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup>の1又は3を算定する患者に対して診療を行った場合に算定する。

3 1の口、2の口、3の口、4の口、5の口、6の口、7の口又は8の口については、歯科外来・在宅ベースアップ評価料<sup>⑪</sup>の2を算定する患者に対して診療を行った場合に算定する。

(新設)

(新設)

<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>64点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>8点</u>
<u>6 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 6</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>80点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>10点</u>
<u>7 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 7</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>96点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>12点</u>
<u>8 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 8</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>104点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>13点</u>
<u>9 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 9</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>120点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>15点</u>
<u>10 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 10</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>136点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>17点</u>
<u>11 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 11</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>144点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>18点</u>
<u>12 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 12</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>160点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>20点</u>

6 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、継続して賃上げに係る取組を実施した保険医療機関については、令和9年6月以降は、注5に掲げる所定点数に代えて、次に掲げる点数を算定する。

1 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 1

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

16点

ロ 再診時等 2点

2 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ 2

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

24点

ロ 再診時等 3点

3 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅲ 3

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

32点

ロ 再診時等 4点

4 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅳ 4

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

48点

ロ 再診時等 6点

5 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅴ 5

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

56点

ロ 再診時等 7点

6 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅵ 6

イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合

64点

ロ 再診時等 8点

7 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅶ 7

(新設)

<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>80点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>10点</u>
<u>8 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 8</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>88点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>11点</u>
<u>9 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 9</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>96点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>12点</u>
<u>10 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 10</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>112点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>14点</u>
<u>11 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 11</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>120点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>15点</u>
<u>12 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 12</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>128点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>16点</u>
<u>13 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 13</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>144点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>18点</u>
<u>14 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ 14</u>	
<u>イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>152点</u>
<u>口 再診時等</u>	<u>19点</u>

<u>15 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ15</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>160点</u>
口 再診時等	<u>20点</u>
<u>16 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ16</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>176点</u>
口 再診時等	<u>22点</u>
<u>17 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ17</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>184点</u>
口 再診時等	<u>23点</u>
<u>18 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ18</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>192点</u>
口 再診時等	<u>24点</u>
<u>19 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ19</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>208点</u>
口 再診時等	<u>26点</u>
<u>20 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ20</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>216点</u>
口 再診時等	<u>27点</u>
<u>21 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ21</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>224点</u>
口 再診時等	<u>28点</u>
<u>22 歯科外来・在宅ベースアップ評価料Ⅱ22</u>	
イ 初診又は歯科訪問診療を行った場合	<u>240点</u>

<u>口</u>	<u>再診時等</u>	<u>30点</u>
<u>23</u>	<u>歯科外来・在宅ベースアップ評価料</u>	<u>23</u>
<u>イ</u>	<u>初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>248点</u>
<u>口</u>	<u>再診時等</u>	<u>31点</u>
<u>24</u>	<u>歯科外来・在宅ベースアップ評価料</u>	<u>24</u>
<u>イ</u>	<u>初診又は歯科訪問診療を行った場合</u>	<u>256点</u>
<u>口</u>	<u>再診時等</u>	<u>32点</u>

P 003 入院ベースアップ評価料（1日につき）

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1 入院ベースアップ評価料 1  | 1点  |
| 2 入院ベースアップ評価料 2  | 2点  |
| 3 入院ベースアップ評価料 3  | 3点  |
| 4 入院ベースアップ評価料 4  | 4点  |
| 5 入院ベースアップ評価料 5  | 5点  |
| 6 入院ベースアップ評価料 6  | 6点  |
| 7 入院ベースアップ評価料 7  | 7点  |
| 8 入院ベースアップ評価料 8  | 8点  |
| 9 入院ベースアップ評価料 9  | 9点  |
| 10 入院ベースアップ評価料10 | 10点 |
| 11 入院ベースアップ評価料11 | 11点 |
| 12 入院ベースアップ評価料12 | 12点 |
| 13 入院ベースアップ評価料13 | 13点 |
| 14 入院ベースアップ評価料14 | 14点 |
| 15 入院ベースアップ評価料15 | 15点 |
| 16 入院ベースアップ評価料16 | 16点 |
| 17 入院ベースアップ評価料17 | 17点 |
| 18 入院ベースアップ評価料18 | 18点 |
| 19 入院ベースアップ評価料19 | 19点 |

P 102 入院ベースアップ評価料（1日につき）

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1 入院ベースアップ評価料 1  | 1点  |
| 2 入院ベースアップ評価料 2  | 2点  |
| 3 入院ベースアップ評価料 3  | 3点  |
| 4 入院ベースアップ評価料 4  | 4点  |
| 5 入院ベースアップ評価料 5  | 5点  |
| 6 入院ベースアップ評価料 6  | 6点  |
| 7 入院ベースアップ評価料 7  | 7点  |
| 8 入院ベースアップ評価料 8  | 8点  |
| 9 入院ベースアップ評価料 9  | 9点  |
| 10 入院ベースアップ評価料10 | 10点 |
| 11 入院ベースアップ評価料11 | 11点 |
| 12 入院ベースアップ評価料12 | 12点 |
| 13 入院ベースアップ評価料13 | 13点 |
| 14 入院ベースアップ評価料14 | 14点 |
| 15 入院ベースアップ評価料15 | 15点 |
| 16 入院ベースアップ評価料16 | 16点 |
| 17 入院ベースアップ評価料17 | 17点 |
| 18 入院ベースアップ評価料18 | 18点 |
| 19 入院ベースアップ評価料19 | 19点 |











<u>165 入院ベースアップ評価料165</u>	<u>165点</u>	<u>165 入院ベースアップ評価料165</u>	<u>165点</u>
<u>166 入院ベースアップ評価料166</u>	<u>166点</u>	(新設)	
<u>167 入院ベースアップ評価料167</u>	<u>167点</u>	(新設)	
<u>168 入院ベースアップ評価料168</u>	<u>168点</u>	(新設)	
<u>169 入院ベースアップ評価料169</u>	<u>169点</u>	(新設)	
<u>170 入院ベースアップ評価料170</u>	<u>170点</u>	(新設)	
<u>171 入院ベースアップ評価料171</u>	<u>171点</u>	(新設)	
<u>172 入院ベースアップ評価料172</u>	<u>172点</u>	(新設)	
<u>173 入院ベースアップ評価料173</u>	<u>173点</u>	(新設)	
<u>174 入院ベースアップ評価料174</u>	<u>174点</u>	(新設)	
<u>175 入院ベースアップ評価料175</u>	<u>175点</u>	(新設)	
<u>176 入院ベースアップ評価料176</u>	<u>176点</u>	(新設)	
<u>177 入院ベースアップ評価料177</u>	<u>177点</u>	(新設)	
<u>178 入院ベースアップ評価料178</u>	<u>178点</u>	(新設)	
<u>179 入院ベースアップ評価料179</u>	<u>179点</u>	(新設)	
<u>180 入院ベースアップ評価料180</u>	<u>180点</u>	(新設)	
<u>181 入院ベースアップ評価料181</u>	<u>181点</u>	(新設)	
<u>182 入院ベースアップ評価料182</u>	<u>182点</u>	(新設)	
<u>183 入院ベースアップ評価料183</u>	<u>183点</u>	(新設)	
<u>184 入院ベースアップ評価料184</u>	<u>184点</u>	(新設)	
<u>185 入院ベースアップ評価料185</u>	<u>185点</u>	(新設)	
<u>186 入院ベースアップ評価料186</u>	<u>186点</u>	(新設)	
<u>187 入院ベースアップ評価料187</u>	<u>187点</u>	(新設)	
<u>188 入院ベースアップ評価料188</u>	<u>188点</u>	(新設)	
<u>189 入院ベースアップ評価料189</u>	<u>189点</u>	(新設)	
<u>190 入院ベースアップ評価料190</u>	<u>190点</u>	(新設)	
<u>191 入院ベースアップ評価料191</u>	<u>191点</u>	(新設)	
<u>192 入院ベースアップ評価料192</u>	<u>192点</u>	(新設)	
<u>193 入院ベースアップ評価料193</u>	<u>193点</u>	(新設)	
<u>194 入院ベースアップ評価料194</u>	<u>194点</u>	(新設)	
<u>195 入院ベースアップ評価料195</u>	<u>195点</u>	(新設)	

<u>196</u>	<u>入院ベースアップ評価料196</u>	<u>196点</u>	(新設)
<u>197</u>	<u>入院ベースアップ評価料197</u>	<u>197点</u>	(新設)
<u>198</u>	<u>入院ベースアップ評価料198</u>	<u>198点</u>	(新設)
<u>199</u>	<u>入院ベースアップ評価料199</u>	<u>199点</u>	(新設)
<u>200</u>	<u>入院ベースアップ評価料200</u>	<u>200点</u>	(新設)
<u>201</u>	<u>入院ベースアップ評価料201</u>	<u>201点</u>	(新設)
<u>202</u>	<u>入院ベースアップ評価料202</u>	<u>202点</u>	(新設)
<u>203</u>	<u>入院ベースアップ評価料203</u>	<u>203点</u>	(新設)
<u>204</u>	<u>入院ベースアップ評価料204</u>	<u>204点</u>	(新設)
<u>205</u>	<u>入院ベースアップ評価料205</u>	<u>205点</u>	(新設)
<u>206</u>	<u>入院ベースアップ評価料206</u>	<u>206点</u>	(新設)
<u>207</u>	<u>入院ベースアップ評価料207</u>	<u>207点</u>	(新設)
<u>208</u>	<u>入院ベースアップ評価料208</u>	<u>208点</u>	(新設)
<u>209</u>	<u>入院ベースアップ評価料209</u>	<u>209点</u>	(新設)
<u>210</u>	<u>入院ベースアップ評価料210</u>	<u>210点</u>	(新設)
<u>211</u>	<u>入院ベースアップ評価料211</u>	<u>211点</u>	(新設)
<u>212</u>	<u>入院ベースアップ評価料212</u>	<u>212点</u>	(新設)
<u>213</u>	<u>入院ベースアップ評価料213</u>	<u>213点</u>	(新設)
<u>214</u>	<u>入院ベースアップ評価料214</u>	<u>214点</u>	(新設)
<u>215</u>	<u>入院ベースアップ評価料215</u>	<u>215点</u>	(新設)
<u>216</u>	<u>入院ベースアップ評価料216</u>	<u>216点</u>	(新設)
<u>217</u>	<u>入院ベースアップ評価料217</u>	<u>217点</u>	(新設)
<u>218</u>	<u>入院ベースアップ評価料218</u>	<u>218点</u>	(新設)
<u>219</u>	<u>入院ベースアップ評価料219</u>	<u>219点</u>	(新設)
<u>220</u>	<u>入院ベースアップ評価料220</u>	<u>220点</u>	(新設)
<u>221</u>	<u>入院ベースアップ評価料221</u>	<u>221点</u>	(新設)
<u>222</u>	<u>入院ベースアップ評価料222</u>	<u>222点</u>	(新設)
<u>223</u>	<u>入院ベースアップ評価料223</u>	<u>223点</u>	(新設)
<u>224</u>	<u>入院ベースアップ評価料224</u>	<u>224点</u>	(新設)
<u>225</u>	<u>入院ベースアップ評価料225</u>	<u>225点</u>	(新設)
<u>226</u>	<u>入院ベースアップ評価料226</u>	<u>226点</u>	(新設)

<u>227</u>	<u>入院ベースアップ評価料227</u>	<u>227点</u>	(新設)
<u>228</u>	<u>入院ベースアップ評価料228</u>	<u>228点</u>	(新設)
<u>229</u>	<u>入院ベースアップ評価料229</u>	<u>229点</u>	(新設)
<u>230</u>	<u>入院ベースアップ評価料230</u>	<u>230点</u>	(新設)
<u>231</u>	<u>入院ベースアップ評価料231</u>	<u>231点</u>	(新設)
<u>232</u>	<u>入院ベースアップ評価料232</u>	<u>232点</u>	(新設)
<u>233</u>	<u>入院ベースアップ評価料233</u>	<u>233点</u>	(新設)
<u>234</u>	<u>入院ベースアップ評価料234</u>	<u>234点</u>	(新設)
<u>235</u>	<u>入院ベースアップ評価料235</u>	<u>235点</u>	(新設)
<u>236</u>	<u>入院ベースアップ評価料236</u>	<u>236点</u>	(新設)
<u>237</u>	<u>入院ベースアップ評価料237</u>	<u>237点</u>	(新設)
<u>238</u>	<u>入院ベースアップ評価料238</u>	<u>238点</u>	(新設)
<u>239</u>	<u>入院ベースアップ評価料239</u>	<u>239点</u>	(新設)
<u>240</u>	<u>入院ベースアップ評価料240</u>	<u>240点</u>	(新設)
<u>241</u>	<u>入院ベースアップ評価料241</u>	<u>241点</u>	(新設)
<u>242</u>	<u>入院ベースアップ評価料242</u>	<u>242点</u>	(新設)
<u>243</u>	<u>入院ベースアップ評価料243</u>	<u>243点</u>	(新設)
<u>244</u>	<u>入院ベースアップ評価料244</u>	<u>244点</u>	(新設)
<u>245</u>	<u>入院ベースアップ評価料245</u>	<u>245点</u>	(新設)
<u>246</u>	<u>入院ベースアップ評価料246</u>	<u>246点</u>	(新設)
<u>247</u>	<u>入院ベースアップ評価料247</u>	<u>247点</u>	(新設)
<u>248</u>	<u>入院ベースアップ評価料248</u>	<u>248点</u>	(新設)
<u>249</u>	<u>入院ベースアップ評価料249</u>	<u>249点</u>	(新設)
<u>250</u>	<u>入院ベースアップ評価料250</u>	<u>250点</u>	(新設)
<u>251</u>	<u>入院ベースアップ評価料251</u>	<u>251点</u>	(新設)
<u>252</u>	<u>入院ベースアップ評価料252</u>	<u>252点</u>	(新設)
<u>253</u>	<u>入院ベースアップ評価料253</u>	<u>253点</u>	(新設)
<u>254</u>	<u>入院ベースアップ評価料254</u>	<u>254点</u>	(新設)
<u>255</u>	<u>入院ベースアップ評価料255</u>	<u>255点</u>	(新設)
<u>256</u>	<u>入院ベースアップ評価料256</u>	<u>256点</u>	(新設)
<u>257</u>	<u>入院ベースアップ評価料257</u>	<u>257点</u>	(新設)

<u>258</u>	<u>入院ベースアップ評価料258</u>	<u>258点</u>	(新設)
<u>259</u>	<u>入院ベースアップ評価料259</u>	<u>259点</u>	(新設)
<u>260</u>	<u>入院ベースアップ評価料260</u>	<u>260点</u>	(新設)
<u>261</u>	<u>入院ベースアップ評価料261</u>	<u>261点</u>	(新設)
<u>262</u>	<u>入院ベースアップ評価料262</u>	<u>262点</u>	(新設)
<u>263</u>	<u>入院ベースアップ評価料263</u>	<u>263点</u>	(新設)
<u>264</u>	<u>入院ベースアップ評価料264</u>	<u>264点</u>	(新設)
<u>265</u>	<u>入院ベースアップ評価料265</u>	<u>265点</u>	(新設)
<u>266</u>	<u>入院ベースアップ評価料266</u>	<u>266点</u>	(新設)
<u>267</u>	<u>入院ベースアップ評価料267</u>	<u>267点</u>	(新設)
<u>268</u>	<u>入院ベースアップ評価料268</u>	<u>268点</u>	(新設)
<u>269</u>	<u>入院ベースアップ評価料269</u>	<u>269点</u>	(新設)
<u>270</u>	<u>入院ベースアップ評価料270</u>	<u>270点</u>	(新設)
<u>271</u>	<u>入院ベースアップ評価料271</u>	<u>271点</u>	(新設)
<u>272</u>	<u>入院ベースアップ評価料272</u>	<u>272点</u>	(新設)
<u>273</u>	<u>入院ベースアップ評価料273</u>	<u>273点</u>	(新設)
<u>274</u>	<u>入院ベースアップ評価料274</u>	<u>274点</u>	(新設)
<u>275</u>	<u>入院ベースアップ評価料275</u>	<u>275点</u>	(新設)
<u>276</u>	<u>入院ベースアップ評価料276</u>	<u>276点</u>	(新設)
<u>277</u>	<u>入院ベースアップ評価料277</u>	<u>277点</u>	(新設)
<u>278</u>	<u>入院ベースアップ評価料278</u>	<u>278点</u>	(新設)
<u>279</u>	<u>入院ベースアップ評価料279</u>	<u>279点</u>	(新設)
<u>280</u>	<u>入院ベースアップ評価料280</u>	<u>280点</u>	(新設)
<u>281</u>	<u>入院ベースアップ評価料281</u>	<u>281点</u>	(新設)
<u>282</u>	<u>入院ベースアップ評価料282</u>	<u>282点</u>	(新設)
<u>283</u>	<u>入院ベースアップ評価料283</u>	<u>283点</u>	(新設)
<u>284</u>	<u>入院ベースアップ評価料284</u>	<u>284点</u>	(新設)
<u>285</u>	<u>入院ベースアップ評価料285</u>	<u>285点</u>	(新設)
<u>286</u>	<u>入院ベースアップ評価料286</u>	<u>286点</u>	(新設)
<u>287</u>	<u>入院ベースアップ評価料287</u>	<u>287点</u>	(新設)
<u>288</u>	<u>入院ベースアップ評価料288</u>	<u>288点</u>	(新設)

<u>289</u>	<u>入院ベースアップ評価料289</u>	<u>289点</u>	(新設)
<u>290</u>	<u>入院ベースアップ評価料290</u>	<u>290点</u>	(新設)
<u>291</u>	<u>入院ベースアップ評価料291</u>	<u>291点</u>	(新設)
<u>292</u>	<u>入院ベースアップ評価料292</u>	<u>292点</u>	(新設)
<u>293</u>	<u>入院ベースアップ評価料293</u>	<u>293点</u>	(新設)
<u>294</u>	<u>入院ベースアップ評価料294</u>	<u>294点</u>	(新設)
<u>295</u>	<u>入院ベースアップ評価料295</u>	<u>295点</u>	(新設)
<u>296</u>	<u>入院ベースアップ評価料296</u>	<u>296点</u>	(新設)
<u>297</u>	<u>入院ベースアップ評価料297</u>	<u>297点</u>	(新設)
<u>298</u>	<u>入院ベースアップ評価料298</u>	<u>298点</u>	(新設)
<u>299</u>	<u>入院ベースアップ評価料299</u>	<u>299点</u>	(新設)
<u>300</u>	<u>入院ベースアップ評価料300</u>	<u>300点</u>	(新設)
<u>301</u>	<u>入院ベースアップ評価料301</u>	<u>301点</u>	(新設)
<u>302</u>	<u>入院ベースアップ評価料302</u>	<u>302点</u>	(新設)
<u>303</u>	<u>入院ベースアップ評価料303</u>	<u>303点</u>	(新設)
<u>304</u>	<u>入院ベースアップ評価料304</u>	<u>304点</u>	(新設)
<u>305</u>	<u>入院ベースアップ評価料305</u>	<u>305点</u>	(新設)
<u>306</u>	<u>入院ベースアップ評価料306</u>	<u>306点</u>	(新設)
<u>307</u>	<u>入院ベースアップ評価料307</u>	<u>307点</u>	(新設)
<u>308</u>	<u>入院ベースアップ評価料308</u>	<u>308点</u>	(新設)
<u>309</u>	<u>入院ベースアップ評価料309</u>	<u>309点</u>	(新設)
<u>310</u>	<u>入院ベースアップ評価料310</u>	<u>310点</u>	(新設)
<u>311</u>	<u>入院ベースアップ評価料311</u>	<u>311点</u>	(新設)
<u>312</u>	<u>入院ベースアップ評価料312</u>	<u>312点</u>	(新設)
<u>313</u>	<u>入院ベースアップ評価料313</u>	<u>313点</u>	(新設)
<u>314</u>	<u>入院ベースアップ評価料314</u>	<u>314点</u>	(新設)
<u>315</u>	<u>入院ベースアップ評価料315</u>	<u>315点</u>	(新設)
<u>316</u>	<u>入院ベースアップ評価料316</u>	<u>316点</u>	(新設)
<u>317</u>	<u>入院ベースアップ評価料317</u>	<u>317点</u>	(新設)
<u>318</u>	<u>入院ベースアップ評価料318</u>	<u>318点</u>	(新設)
<u>319</u>	<u>入院ベースアップ評価料319</u>	<u>319点</u>	(新設)

<u>320</u>	<u>入院ベースアップ評価料320</u>	<u>320点</u>	(新設)
<u>321</u>	<u>入院ベースアップ評価料321</u>	<u>321点</u>	(新設)
<u>322</u>	<u>入院ベースアップ評価料322</u>	<u>322点</u>	(新設)
<u>323</u>	<u>入院ベースアップ評価料323</u>	<u>323点</u>	(新設)
<u>324</u>	<u>入院ベースアップ評価料324</u>	<u>324点</u>	(新設)
<u>325</u>	<u>入院ベースアップ評価料325</u>	<u>325点</u>	(新設)
<u>326</u>	<u>入院ベースアップ評価料326</u>	<u>326点</u>	(新設)
<u>327</u>	<u>入院ベースアップ評価料327</u>	<u>327点</u>	(新設)
<u>328</u>	<u>入院ベースアップ評価料328</u>	<u>328点</u>	(新設)
<u>329</u>	<u>入院ベースアップ評価料329</u>	<u>329点</u>	(新設)
<u>330</u>	<u>入院ベースアップ評価料330</u>	<u>330点</u>	(新設)
<u>331</u>	<u>入院ベースアップ評価料331</u>	<u>331点</u>	(新設)
<u>332</u>	<u>入院ベースアップ評価料332</u>	<u>332点</u>	(新設)
<u>333</u>	<u>入院ベースアップ評価料333</u>	<u>333点</u>	(新設)
<u>334</u>	<u>入院ベースアップ評価料334</u>	<u>334点</u>	(新設)
<u>335</u>	<u>入院ベースアップ評価料335</u>	<u>335点</u>	(新設)
<u>336</u>	<u>入院ベースアップ評価料336</u>	<u>336点</u>	(新設)
<u>337</u>	<u>入院ベースアップ評価料337</u>	<u>337点</u>	(新設)
<u>338</u>	<u>入院ベースアップ評価料338</u>	<u>338点</u>	(新設)
<u>339</u>	<u>入院ベースアップ評価料339</u>	<u>339点</u>	(新設)
<u>340</u>	<u>入院ベースアップ評価料340</u>	<u>340点</u>	(新設)
<u>341</u>	<u>入院ベースアップ評価料341</u>	<u>341点</u>	(新設)
<u>342</u>	<u>入院ベースアップ評価料342</u>	<u>342点</u>	(新設)
<u>343</u>	<u>入院ベースアップ評価料343</u>	<u>343点</u>	(新設)
<u>344</u>	<u>入院ベースアップ評価料344</u>	<u>344点</u>	(新設)
<u>345</u>	<u>入院ベースアップ評価料345</u>	<u>345点</u>	(新設)
<u>346</u>	<u>入院ベースアップ評価料346</u>	<u>346点</u>	(新設)
<u>347</u>	<u>入院ベースアップ評価料347</u>	<u>347点</u>	(新設)
<u>348</u>	<u>入院ベースアップ評価料348</u>	<u>348点</u>	(新設)
<u>349</u>	<u>入院ベースアップ評価料349</u>	<u>349点</u>	(新設)
<u>350</u>	<u>入院ベースアップ評価料350</u>	<u>350点</u>	(新設)

<u>351</u>	<u>入院ベースアップ評価料351</u>	<u>351点</u>	(新設)
<u>352</u>	<u>入院ベースアップ評価料352</u>	<u>352点</u>	(新設)
<u>353</u>	<u>入院ベースアップ評価料353</u>	<u>353点</u>	(新設)
<u>354</u>	<u>入院ベースアップ評価料354</u>	<u>354点</u>	(新設)
<u>355</u>	<u>入院ベースアップ評価料355</u>	<u>355点</u>	(新設)
<u>356</u>	<u>入院ベースアップ評価料356</u>	<u>356点</u>	(新設)
<u>357</u>	<u>入院ベースアップ評価料357</u>	<u>357点</u>	(新設)
<u>358</u>	<u>入院ベースアップ評価料358</u>	<u>358点</u>	(新設)
<u>359</u>	<u>入院ベースアップ評価料359</u>	<u>359点</u>	(新設)
<u>360</u>	<u>入院ベースアップ評価料360</u>	<u>360点</u>	(新設)
<u>361</u>	<u>入院ベースアップ評価料361</u>	<u>361点</u>	(新設)
<u>362</u>	<u>入院ベースアップ評価料362</u>	<u>362点</u>	(新設)
<u>363</u>	<u>入院ベースアップ評価料363</u>	<u>363点</u>	(新設)
<u>364</u>	<u>入院ベースアップ評価料364</u>	<u>364点</u>	(新設)
<u>365</u>	<u>入院ベースアップ評価料365</u>	<u>365点</u>	(新設)
<u>366</u>	<u>入院ベースアップ評価料366</u>	<u>366点</u>	(新設)
<u>367</u>	<u>入院ベースアップ評価料367</u>	<u>367点</u>	(新設)
<u>368</u>	<u>入院ベースアップ評価料368</u>	<u>368点</u>	(新設)
<u>369</u>	<u>入院ベースアップ評価料369</u>	<u>369点</u>	(新設)
<u>370</u>	<u>入院ベースアップ評価料370</u>	<u>370点</u>	(新設)
<u>371</u>	<u>入院ベースアップ評価料371</u>	<u>371点</u>	(新設)
<u>372</u>	<u>入院ベースアップ評価料372</u>	<u>372点</u>	(新設)
<u>373</u>	<u>入院ベースアップ評価料373</u>	<u>373点</u>	(新設)
<u>374</u>	<u>入院ベースアップ評価料374</u>	<u>374点</u>	(新設)
<u>375</u>	<u>入院ベースアップ評価料375</u>	<u>375点</u>	(新設)
<u>376</u>	<u>入院ベースアップ評価料376</u>	<u>376点</u>	(新設)
<u>377</u>	<u>入院ベースアップ評価料377</u>	<u>377点</u>	(新設)
<u>378</u>	<u>入院ベースアップ評価料378</u>	<u>378点</u>	(新設)
<u>379</u>	<u>入院ベースアップ評価料379</u>	<u>379点</u>	(新設)
<u>380</u>	<u>入院ベースアップ評価料380</u>	<u>380点</u>	(新設)
<u>381</u>	<u>入院ベースアップ評価料381</u>	<u>381点</u>	(新設)

<u>382</u>	<u>入院ベースアップ評価料382</u>	<u>382点</u>	(新設)
<u>383</u>	<u>入院ベースアップ評価料383</u>	<u>383点</u>	(新設)
<u>384</u>	<u>入院ベースアップ評価料384</u>	<u>384点</u>	(新設)
<u>385</u>	<u>入院ベースアップ評価料385</u>	<u>385点</u>	(新設)
<u>386</u>	<u>入院ベースアップ評価料386</u>	<u>386点</u>	(新設)
<u>387</u>	<u>入院ベースアップ評価料387</u>	<u>387点</u>	(新設)
<u>388</u>	<u>入院ベースアップ評価料388</u>	<u>388点</u>	(新設)
<u>389</u>	<u>入院ベースアップ評価料389</u>	<u>389点</u>	(新設)
<u>390</u>	<u>入院ベースアップ評価料390</u>	<u>390点</u>	(新設)
<u>391</u>	<u>入院ベースアップ評価料391</u>	<u>391点</u>	(新設)
<u>392</u>	<u>入院ベースアップ評価料392</u>	<u>392点</u>	(新設)
<u>393</u>	<u>入院ベースアップ評価料393</u>	<u>393点</u>	(新設)
<u>394</u>	<u>入院ベースアップ評価料394</u>	<u>394点</u>	(新設)
<u>395</u>	<u>入院ベースアップ評価料395</u>	<u>395点</u>	(新設)
<u>396</u>	<u>入院ベースアップ評価料396</u>	<u>396点</u>	(新設)
<u>397</u>	<u>入院ベースアップ評価料397</u>	<u>397点</u>	(新設)
<u>398</u>	<u>入院ベースアップ評価料398</u>	<u>398点</u>	(新設)
<u>399</u>	<u>入院ベースアップ評価料399</u>	<u>399点</u>	(新設)
<u>400</u>	<u>入院ベースアップ評価料400</u>	<u>400点</u>	(新設)
<u>401</u>	<u>入院ベースアップ評価料401</u>	<u>401点</u>	(新設)
<u>402</u>	<u>入院ベースアップ評価料402</u>	<u>402点</u>	(新設)
<u>403</u>	<u>入院ベースアップ評価料403</u>	<u>403点</u>	(新設)
<u>404</u>	<u>入院ベースアップ評価料404</u>	<u>404点</u>	(新設)
<u>405</u>	<u>入院ベースアップ評価料405</u>	<u>405点</u>	(新設)
<u>406</u>	<u>入院ベースアップ評価料406</u>	<u>406点</u>	(新設)
<u>407</u>	<u>入院ベースアップ評価料407</u>	<u>407点</u>	(新設)
<u>408</u>	<u>入院ベースアップ評価料408</u>	<u>408点</u>	(新設)
<u>409</u>	<u>入院ベースアップ評価料409</u>	<u>409点</u>	(新設)
<u>410</u>	<u>入院ベースアップ評価料410</u>	<u>410点</u>	(新設)
<u>411</u>	<u>入院ベースアップ評価料411</u>	<u>411点</u>	(新設)
<u>412</u>	<u>入院ベースアップ評価料412</u>	<u>412点</u>	(新設)

<u>413 入院ベースアップ評価料</u>	<u>413点</u>	(新設)
<u>414 入院ベースアップ評価料</u>	<u>414点</u>	(新設)
<u>415 入院ベースアップ評価料</u>	<u>415点</u>	(新設)
<u>416 入院ベースアップ評価料</u>	<u>416点</u>	(新設)
<u>417 入院ベースアップ評価料</u>	<u>417点</u>	(新設)
<u>418 入院ベースアップ評価料</u>	<u>418点</u>	(新設)
<u>419 入院ベースアップ評価料</u>	<u>419点</u>	(新設)
<u>420 入院ベースアップ評価料</u>	<u>420点</u>	(新設)
<u>421 入院ベースアップ評価料</u>	<u>421点</u>	(新設)
<u>422 入院ベースアップ評価料</u>	<u>422点</u>	(新設)
<u>423 入院ベースアップ評価料</u>	<u>423点</u>	(新設)
<u>424 入院ベースアップ評価料</u>	<u>424点</u>	(新設)
<u>425 入院ベースアップ評価料</u>	<u>425点</u>	(新設)
<u>426 入院ベースアップ評価料</u>	<u>426点</u>	(新設)
<u>427 入院ベースアップ評価料</u>	<u>427点</u>	(新設)
<u>428 入院ベースアップ評価料</u>	<u>428点</u>	(新設)
<u>429 入院ベースアップ評価料</u>	<u>429点</u>	(新設)
<u>430 入院ベースアップ評価料</u>	<u>430点</u>	(新設)
<u>431 入院ベースアップ評価料</u>	<u>431点</u>	(新設)
<u>432 入院ベースアップ評価料</u>	<u>432点</u>	(新設)
<u>433 入院ベースアップ評価料</u>	<u>433点</u>	(新設)
<u>434 入院ベースアップ評価料</u>	<u>434点</u>	(新設)
<u>435 入院ベースアップ評価料</u>	<u>435点</u>	(新設)
<u>436 入院ベースアップ評価料</u>	<u>436点</u>	(新設)
<u>437 入院ベースアップ評価料</u>	<u>437点</u>	(新設)
<u>438 入院ベースアップ評価料</u>	<u>438点</u>	(新設)
<u>439 入院ベースアップ評価料</u>	<u>439点</u>	(新設)
<u>440 入院ベースアップ評価料</u>	<u>440点</u>	(新設)
<u>441 入院ベースアップ評価料</u>	<u>441点</u>	(新設)
<u>442 入院ベースアップ評価料</u>	<u>442点</u>	(新設)
<u>443 入院ベースアップ評価料</u>	<u>443点</u>	(新設)

<u>444</u>	<u>入院ベースアップ評価料444</u>	<u>444点</u>	(新設)
<u>445</u>	<u>入院ベースアップ評価料445</u>	<u>445点</u>	(新設)
<u>446</u>	<u>入院ベースアップ評価料446</u>	<u>446点</u>	(新設)
<u>447</u>	<u>入院ベースアップ評価料447</u>	<u>447点</u>	(新設)
<u>448</u>	<u>入院ベースアップ評価料448</u>	<u>448点</u>	(新設)
<u>449</u>	<u>入院ベースアップ評価料449</u>	<u>449点</u>	(新設)
<u>450</u>	<u>入院ベースアップ評価料450</u>	<u>450点</u>	(新設)
<u>451</u>	<u>入院ベースアップ評価料451</u>	<u>451点</u>	(新設)
<u>452</u>	<u>入院ベースアップ評価料452</u>	<u>452点</u>	(新設)
<u>453</u>	<u>入院ベースアップ評価料453</u>	<u>453点</u>	(新設)
<u>454</u>	<u>入院ベースアップ評価料454</u>	<u>454点</u>	(新設)
<u>455</u>	<u>入院ベースアップ評価料455</u>	<u>455点</u>	(新設)
<u>456</u>	<u>入院ベースアップ評価料456</u>	<u>456点</u>	(新設)
<u>457</u>	<u>入院ベースアップ評価料457</u>	<u>457点</u>	(新設)
<u>458</u>	<u>入院ベースアップ評価料458</u>	<u>458点</u>	(新設)
<u>459</u>	<u>入院ベースアップ評価料459</u>	<u>459点</u>	(新設)
<u>460</u>	<u>入院ベースアップ評価料460</u>	<u>460点</u>	(新設)
<u>461</u>	<u>入院ベースアップ評価料461</u>	<u>461点</u>	(新設)
<u>462</u>	<u>入院ベースアップ評価料462</u>	<u>462点</u>	(新設)
<u>463</u>	<u>入院ベースアップ評価料463</u>	<u>463点</u>	(新設)
<u>464</u>	<u>入院ベースアップ評価料464</u>	<u>464点</u>	(新設)
<u>465</u>	<u>入院ベースアップ評価料465</u>	<u>465点</u>	(新設)
<u>466</u>	<u>入院ベースアップ評価料466</u>	<u>466点</u>	(新設)
<u>467</u>	<u>入院ベースアップ評価料467</u>	<u>467点</u>	(新設)
<u>468</u>	<u>入院ベースアップ評価料468</u>	<u>468点</u>	(新設)
<u>469</u>	<u>入院ベースアップ評価料469</u>	<u>469点</u>	(新設)
<u>470</u>	<u>入院ベースアップ評価料470</u>	<u>470点</u>	(新設)
<u>471</u>	<u>入院ベースアップ評価料471</u>	<u>471点</u>	(新設)
<u>472</u>	<u>入院ベースアップ評価料472</u>	<u>472点</u>	(新設)
<u>473</u>	<u>入院ベースアップ評価料473</u>	<u>473点</u>	(新設)
<u>474</u>	<u>入院ベースアップ評価料474</u>	<u>474点</u>	(新設)

<u>475</u>	<u>入院ベースアップ評価料475</u>	<u>475点</u>	(新設)
<u>476</u>	<u>入院ベースアップ評価料476</u>	<u>476点</u>	(新設)
<u>477</u>	<u>入院ベースアップ評価料477</u>	<u>477点</u>	(新設)
<u>478</u>	<u>入院ベースアップ評価料478</u>	<u>478点</u>	(新設)
<u>479</u>	<u>入院ベースアップ評価料479</u>	<u>479点</u>	(新設)
<u>480</u>	<u>入院ベースアップ評価料480</u>	<u>480点</u>	(新設)
<u>481</u>	<u>入院ベースアップ評価料481</u>	<u>481点</u>	(新設)
<u>482</u>	<u>入院ベースアップ評価料482</u>	<u>482点</u>	(新設)
<u>483</u>	<u>入院ベースアップ評価料483</u>	<u>483点</u>	(新設)
<u>484</u>	<u>入院ベースアップ評価料484</u>	<u>484点</u>	(新設)
<u>485</u>	<u>入院ベースアップ評価料485</u>	<u>485点</u>	(新設)
<u>486</u>	<u>入院ベースアップ評価料486</u>	<u>486点</u>	(新設)
<u>487</u>	<u>入院ベースアップ評価料487</u>	<u>487点</u>	(新設)
<u>488</u>	<u>入院ベースアップ評価料488</u>	<u>488点</u>	(新設)
<u>489</u>	<u>入院ベースアップ評価料489</u>	<u>489点</u>	(新設)
<u>490</u>	<u>入院ベースアップ評価料490</u>	<u>490点</u>	(新設)
<u>491</u>	<u>入院ベースアップ評価料491</u>	<u>491点</u>	(新設)
<u>492</u>	<u>入院ベースアップ評価料492</u>	<u>492点</u>	(新設)
<u>493</u>	<u>入院ベースアップ評価料493</u>	<u>493点</u>	(新設)
<u>494</u>	<u>入院ベースアップ評価料494</u>	<u>494点</u>	(新設)
<u>495</u>	<u>入院ベースアップ評価料495</u>	<u>495点</u>	(新設)
<u>496</u>	<u>入院ベースアップ評価料496</u>	<u>496点</u>	(新設)
<u>497</u>	<u>入院ベースアップ評価料497</u>	<u>497点</u>	(新設)
<u>498</u>	<u>入院ベースアップ評価料498</u>	<u>498点</u>	(新設)
<u>499</u>	<u>入院ベースアップ評価料499</u>	<u>499点</u>	(新設)
<u>500</u>	<u>入院ベースアップ評価料500</u>	<u>500点</u>	(新設)

注1 当該保険医療機関において勤務する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者であって、第1章第2部第1節の入院

注 主として歯科医療に従事する職員の賃金の改善を図る体制につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者であって、第1章第2部第1節の入院基本料（特別入院

基本料（特別入院基本料等を含む。）、同部第3節の特定入院料又は同部第4節の短期滞在手術等基本料（短期滞在手術等基本料1を除く。）を算定しているものについて、当該基準に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

2 251から500までに規定する点数については、令和9年6月以降において算定する。

## 第2節 物価対応料

### 区分

#### P 1 0 0 歯科物価対応料

##### 1 歯科外来物価対応料

- |        |    |
|--------|----|
| イ 初診時  | 3点 |
| ロ 再診時等 | 1点 |

##### 2 歯科入院物価対応料（1日につき）

###### イ 急性期病院A一般入院料を算定する場合

66点

###### ロ 急性期病院B一般入院料を算定する場合（ハの場合を除く。）

58点

###### ハ 急性期病院B一般入院料及び看護・多職種協働加算を算定する場合

58点

###### ミ 急性期一般入院料1を算定する場合

58点

###### モ 急性期一般入院料2を算定する場合

45点

###### ホ 急性期一般入院料3を算定する場合

45点

###### ト 急性期一般入院料4を算定する場合（チの場合を除く。）

45点

###### チ 急性期一般入院料4及び看護・多職種協働加算を算定する場合

58点

###### リ 急性期一般入院料5を算定する場合

36点

###### ヌ 急性期一般入院料6を算定する場合

34点

###### ル 地域一般入院料1を算定する場合

32点

###### ヲ 地域一般入院料2を算定する場合

32点

基本料等を含む。）、同部第3節の特定入院料又は同部第4節の短期滞在手術等基本料（短期滞在手術等基本料1を除く。）を算定しているものについて、当該基準に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

（新設）

（新設）

ワ	<u>地域一般入院料3を算定する場合</u>	23点
カ	<u>特別入院基本料(一般病棟)を算定する場合</u>	17点
ミ	<u>療養病棟入院料1の入院料1を算定する場合</u>	18点
タ	<u>療養病棟入院料1の入院料2を算定する場合</u>	18点
レ	<u>療養病棟入院料1の入院料3を算定する場合</u>	15点
ソ	<u>療養病棟入院料1の入院料4を算定する場合</u>	16点
ツ	<u>療養病棟入院料1の入院料5を算定する場合</u>	15点
ネ	<u>療養病棟入院料1の入院料6を算定する場合</u>	12点
ナ	<u>療養病棟入院料1の入院料7を算定する場合</u>	15点
ラ	<u>療養病棟入院料1の入院料8を算定する場合</u>	15点
ム	<u>療養病棟入院料1の入院料9を算定する場合</u>	12点
ウ	<u>療養病棟入院料1の入院料10を算定する場合</u>	17点
ヰ	<u>療養病棟入院料1の入院料11を算定する場合</u>	16点
ノ	<u>療養病棟入院料1の入院料12を算定する場合</u>	14点
オ	<u>療養病棟入院料1の入院料13を算定する場合</u>	13点
ク	<u>療養病棟入院料1の入院料14を算定する場合</u>	13点

- |   |                                |     |
|---|--------------------------------|-----|
| ヤ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料15を算定する場合</u> | 12点 |
| マ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料16を算定する場合</u> | 13点 |
| ケ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料17を算定する場合</u> | 12点 |
| フ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料18を算定する場合</u> | 11点 |
| ミ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料19を算定する場合</u> | 17点 |
| エ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料20を算定する場合</u> | 16点 |
| テ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料21を算定する場合</u> | 14点 |
| ア | <u>療養病棟入院料 1 の入院料22を算定する場合</u> | 13点 |
| サ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料23を算定する場合</u> | 13点 |
| キ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料24を算定する場合</u> | 12点 |
| ニ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料25を算定する場合</u> | 9点  |
| メ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料26を算定する場合</u> | 8点  |
| ミ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料27を算定する場合</u> | 8点  |
| シ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料28を算定する場合</u> | 17点 |
| エ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料29を算定する場合</u> | 16点 |
| ヒ | <u>療養病棟入院料 1 の入院料30を算定する場合</u> |     |

<u>モ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料1を算定する場合</u>	<u>14点</u>
<u>セ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料2を算定する場合</u>	<u>16点</u>
<u>ス</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料3を算定する場合</u>	<u>16点</u>
<u>シ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料4を算定する場合</u>	<u>13点</u>
<u>イイ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料5を算定する場合</u>	<u>14点</u>
<u>合</u>		<u>13点</u>
<u>イロ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料6を算定する場合</u>	<u>11点</u>
<u>合</u>		<u>11点</u>
<u>イハ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料7を算定する場合</u>	<u>14点</u>
<u>合</u>		<u>14点</u>
<u>イニ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料8を算定する場合</u>	<u>13点</u>
<u>合</u>		<u>13点</u>
<u>イホ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料9を算定する場合</u>	<u>11点</u>
<u>合</u>		<u>11点</u>
<u>イヘ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料10を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>合</u>		<u>15点</u>
<u>イト</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料11を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>合</u>		<u>15点</u>
<u>イチ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料12を算定する場合</u>	<u>12点</u>
<u>合</u>		<u>12点</u>
<u>イリ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料13を算定する場合</u>	<u>12点</u>
<u>合</u>		<u>12点</u>
<u>イヌ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料14を算定する場合</u>	<u>12点</u>
<u>合</u>		<u>12点</u>
<u>イル</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料15を算定する場合</u>	<u>10点</u>
<u>合</u>		<u>10点</u>

<u>イヲ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料16を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>11点</u>	
<u>イワ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料17を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>11点</u>	
<u>イカ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料18を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>10点</u>	
<u>イヨ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料19を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>15点</u>	
<u>イタ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料20を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>15点</u>	
<u>イレ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料21を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>12点</u>	
<u>イソ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料22を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>12点</u>	
<u>イツ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料23を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>12点</u>	
<u>イネ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料24を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>10点</u>	
<u>イナ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料25を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>8点</u>	
<u>イラ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料26を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>7点</u>	
<u>イム</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料27を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>6点</u>	
<u>イウ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料28を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>15点</u>	
<u>イヰ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料29を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>15点</u>	
<u>イノ</u>	<u>療養病棟入院料2の入院料30を算定する場</u>	
<u>合</u>	<u>12点</u>	
<u>イオ</u>	<u>特別入院基本料（療養病棟）を算定する場</u>	

<u>合</u>	<u>6点</u>
<u>イク 結核病棟入院基本料の7対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>33点</u>
<u>イヤ 結核病棟入院基本料の10対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>28点</u>
<u>イマ 結核病棟入院基本料の13対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>23点</u>
<u>イケ 結核病棟入院基本料の15対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>20点</u>
<u>イフ 結核病棟入院基本料の18対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>17点</u>
<u>イコ 結核病棟入院基本料の20対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>16点</u>
<u>イエ 特別入院基本料（結核病棟）を算定する場合</u>	
<u>合</u>	<u>12点</u>
<u>イテ 急性期病院A精神病棟入院料の10対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>18点</u>
<u>イア 急性期病院A精神病棟入院料の13対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>13点</u>
<u>イサ 急性期病院A精神病棟入院料の15対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>9点</u>
<u>イキ 急性期病院B精神病棟入院料の10対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>イユ 急性期病院B精神病棟入院料の13対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>13点</u>
<u>イメ 急性期病院B精神病棟入院料の15対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>8点</u>
<u>イミ 精神病棟入院基本料の10対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>13点</u>
<u>イシ 精神病棟入院基本料の13対1入院基本料を算定する場合</u>	<u>10点</u>

- イエ 精神病棟入院基本料の15対1入院基本料を  
算定する場合 8点
- イヒ 精神病棟入院基本料の18対1入院基本料を  
算定する場合 6点
- イモ 精神病棟入院基本料の20対1入院基本料を  
算定する場合 6点
- イセ 特別入院基本料（精神病棟）を算定する場  
合 4点
- イス 特定機能病院入院基本料（一般病棟の場  
合）の7対1入院基本料を算定する場合 84点
- イン 特定機能病院入院基本料（一般病棟の場  
合）の10対1入院基本料を算定する場合 67点
- ロイ 特定機能病院入院基本料（結核病棟の場  
合）の7対1入院基本料を算定する場合 50点
- ロロ 特定機能病院入院基本料（結核病棟の場  
合）の10対1入院基本料を算定する場合 40点
- ロハ 特定機能病院入院基本料（結核病棟の場  
合）の13対1入院基本料を算定する場合 34点
- ロニ 特定機能病院入院基本料（結核病棟の場  
合）の15対1入院基本料を算定する場合 29点
- ロホ 特定機能病院入院基本料（精神病棟の場  
合）の7対1入院基本料を算定する場合 39点
- ロヘ 特定機能病院入院基本料（精神病棟の場  
合）の10対1入院基本料を算定する場合 34点
- ロト 特定機能病院入院基本料（精神病棟の場  
合）の13対1入院基本料を算定する場合 31点
- ロチ 特定機能病院入院基本料（精神病棟の場  
合）の15対1入院基本料を算定する場合 28点
- ロリ 専門病院入院基本料の7対1入院基本料を  
算定する場合 63点
- ロヌ 専門病院入院基本料の10対1入院基本料を

<u>算定する場合</u>	<u>38点</u>
<u>ロル 専門病院入院基本料の13対 1 入院基本料を 算定する場合</u>	<u>32点</u>
<u>ロヲ 障害者施設等入院基本料の 7 対 1 入院基本 料を算定する場合</u>	<u>22点</u>
<u>ロワ 障害者施設等入院基本料の10対 1 入院基本 料を算定する場合</u>	<u>19点</u>
<u>ロカ 障害者施設等入院基本料の13対 1 入院基本 料を算定する場合</u>	<u>16点</u>
<u>ロヨ 障害者施設等入院基本料の15対 1 入院基本 料を算定する場合</u>	<u>14点</u>
<u>ロタ 特定入院基本料（障害者施設等）を算定す る場合</u>	<u>13点</u>
<u>ロレ 障害者施設等入院基本料（注6のイの(1)） を算定する場合</u>	<u>21点</u>
<u>ロソ 障害者施設等入院基本料（注6のイの(2)） を算定する場合</u>	<u>19点</u>
<u>ロツ 障害者施設等入院基本料（注6のロの(1)） を算定する場合</u>	<u>18点</u>
<u>ロネ 障害者施設等入院基本料（注6のロの(2)） を算定する場合</u>	<u>17点</u>
<u>ロナ 障害者施設等入院基本料（注6のハの(1)） を算定する場合</u>	<u>17点</u>
<u>ロラ 障害者施設等入院基本料（注6のハの(2)） を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ロム 障害者施設等入院基本料（注13のイの(1)） を算定する場合</u>	<u>18点</u>
<u>ロウ 障害者施設等入院基本料（注13のイの(2)） を算定する場合</u>	<u>17点</u>
<u>ロヰ 障害者施設等入院基本料（注13のロの(1)） を算定する場合</u>	<u>17点</u>

<u>ロノ</u>	<u>障害者施設等入院基本料（注13のロの②）</u>	
	<u>を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ロオ</u>	<u>障害者施設等入院基本料（注13のハの①）</u>	
	<u>を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ロク</u>	<u>障害者施設等入院基本料（注13のハの②）</u>	
	<u>を算定する場合</u>	<u>14点</u>
<u>ロヤ</u>	<u>障害者施設等入院基本料（注14のイ）を算定する場合</u>	<u>21点</u>
<u>ロマ</u>	<u>障害者施設等入院基本料（注14のロ）を算定する場合</u>	<u>19点</u>
<u>ロケ</u>	<u>障害者施設等入院基本料（注14のハ）を算定する場合</u>	<u>18点</u>
<u>ロフ</u>	<u>有床診療所入院基本料1（14日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>72点</u>
<u>ロコ</u>	<u>有床診療所入院基本料1（15日以上30日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>56点</u>
<u>ロエ</u>	<u>有床診療所入院基本料1（31日以上の期間）を算定する場合</u>	<u>48点</u>
<u>ロテ</u>	<u>有床診療所入院基本料2（14日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>65点</u>
<u>ロア</u>	<u>有床診療所入院基本料2（15日以上30日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>49点</u>
<u>ロサ</u>	<u>有床診療所入院基本料2（31日以上の期間）を算定する場合</u>	<u>44点</u>
<u>ロキ</u>	<u>有床診療所入院基本料3（14日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>48点</u>
<u>ロユ</u>	<u>有床診療所入院基本料3（15日以上30日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>45点</u>
<u>ロメ</u>	<u>有床診療所入院基本料3（31日以上の期間）を算定する場合</u>	<u>42点</u>
<u>ロミ</u>	<u>有床診療所入院基本料4（14日以内の期間</u>	

<u> ) を算定する場合</u>	<u>65点</u>
<u>ロシ 有床診療所入院基本料4（15日以上30日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>51点</u>
<u>ロエ 有床診療所入院基本料4（31日以上の期間）を算定する場合</u>	<u>43点</u>
<u>ロヒ 有床診療所入院基本料5（14日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>58点</u>
<u>ロモ 有床診療所入院基本料5（15日以上30日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>44点</u>
<u>ロセ 有床診療所入院基本料5（31日以上の期間）を算定する場合</u>	<u>40点</u>
<u>ロス 有床診療所入院基本料6（14日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>43点</u>
<u>ロン 有床診療所入院基本料6（15日以上30日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>40点</u>
<u>ハイ 有床診療所入院基本料6（31日以上の期間）を算定する場合</u>	<u>38点</u>
<u>ハロ 有床診療所療養病床入院基本料Aを算定する場合</u>	<u>28点</u>
<u>ハハ 有床診療所療養病床入院基本料Bを算定する場合</u>	<u>25点</u>
<u>ハニ 有床診療所療養病床入院基本料Cを算定する場合</u>	<u>22点</u>
<u>ハホ 有床診療所療養病床入院基本料Dを算定する場合</u>	<u>17点</u>
<u>ハヘ 有床診療所療養病床入院基本料Eを算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ハト 特別入院基本料（有床診療所療養病床）を算定する場合</u>	<u>13点</u>
<u>ハチ 救命救急入院料1（3日以内の期間）を算定する場合</u>	<u>223点</u>

<u>ハリ 救命救急入院料 1 (4日以上7日以内の期間) を算定する場合</u>	<u>202点</u>
<u>ハヌ 救命救急入院料 1 (8日以上の期間) を算定する場合</u>	<u>177点</u>
<u>ハル 救命救急入院料 2 (3日以内の期間) を算定する場合</u>	<u>167点</u>
<u>ハヲ 救命救急入院料 2 (4日以上7日以内の期間) を算定する場合</u>	<u>151点</u>
<u>ハワ 救命救急入院料 2 (8日以上の期間) を算定する場合</u>	<u>129点</u>
<u>ハカ 特定集中治療室管理料 1 (7日以内の期間) を算定する場合</u>	<u>262点</u>
<u>ハヨ 特定集中治療室管理料 1 (8日以上の期間) を算定する場合</u>	<u>233点</u>
<u>ハタ 特定集中治療室管理料 2 (7日以内の期間) を算定する場合</u>	<u>206点</u>
<u>ハレ 特定集中治療室管理料 2 (8日以上の期間) を算定する場合</u>	<u>173点</u>
<u>ハゾ 特定集中治療室管理料 3 (7日以内の期間) を算定する場合</u>	<u>186点</u>
<u>ハツ 特定集中治療室管理料 3 (8日以上の期間) を算定する場合</u>	<u>153点</u>
<u>ハネ ハイケアユニット入院医療管理料 1 を算定する場合</u>	<u>129点</u>
<u>ハナ ハイケアユニット入院医療管理料 2 又はハイケアユニット入院医療管理料(注5)を算定する場合</u>	<u>93点</u>
<u>ハラ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料を算定する場合</u>	<u>100点</u>
<u>ハム 小児特定集中治療室管理料 (7日以内の期間) を算定する場合</u>	<u>252点</u>

<u>ハウ</u>	<u>小児特定集中治療室管理料（8日以上の期間）を算定する場合</u>	220点
<u>ハ半</u>	<u>新生児特定集中治療室管理料1を算定する場合</u>	124点
<u>ハノ</u>	<u>新生児特定集中治療室管理料2を算定する場合</u>	98点
<u>ハ才</u>	<u>新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料を算定する場合</u>	257点
<u>ハク</u>	<u>総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児集中治療室管理料）を算定する場合</u>	87点
<u>ハヤ</u>	<u>総合周産期特定集中治療室管理料（新生児集中治療室管理料）を算定する場合</u>	124点
<u>ハマ</u>	<u>新生児治療回復室入院医療管理料を算定する場合</u>	64点
<u>ハケ</u>	<u>地域包括医療病棟入院料1を算定する場合</u>	49点
<u>ハフ</u>	<u>地域包括医療病棟入院料2を算定する場合</u>	48点
<u>ハコ</u>	<u>一類感染症患者入院医療管理料を算定する場合</u>	50点
<u>ハエ</u>	<u>特殊疾患入院医療管理料を算定する場合</u>	15点
<u>ハテ</u>	<u>特殊疾患入院医療管理料（注4のイ）を算定する場合</u>	14点
<u>ハア</u>	<u>特殊疾患入院医療管理料（注4のロ）を算定する場合</u>	13点
<u>ハサ</u>	<u>特殊疾患入院医療管理料（注6のイ）を算定する場合</u>	12点
<u>ハキ</u>	<u>特殊疾患入院医療管理料（注6のロ）を算定する場合</u>	11点
<u>ハユ</u>	<u>特殊疾患入院医療管理料（注7）を算定す</u>	

<u>る場合</u>	<u>14点</u>
<u>ハメ 小児入院医療管理料 1 を算定する場合</u>	<u>79点</u>
<u>ハミ 小児入院医療管理料 2 を算定する場合</u>	<u>70点</u>
<u>ハシ 小児入院医療管理料 3 を算定する場合</u>	<u>56点</u>
<u>ハエ 小児入院医療管理料 4 を算定する場合</u>	<u>48点</u>
<u>ハヒ 小児入院医療管理料 5 を算定する場合</u>	<u>33点</u>
<u>ハモ 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を 算定する場合</u>	<u>19点</u>
<u>ハセ 回復期リハビリテーション病棟入院料 2 を 算定する場合</u>	<u>18点</u>
<u>ハス 回復期リハビリテーション病棟入院料 3 を 算定する場合</u>	<u>16点</u>
<u>ハン 回復期リハビリテーション病棟入院料 4 を 算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ニイ 回復期リハビリテーション病棟入院料 5 を 算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ニロ 回復期リハビリテーション入院医療管理料 を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ニハ 地域包括ケア病棟入院料 1 (40日以内の期 間) 又は地域包括ケア入院医療管理料 1 (40日 以内の期間) を算定する場合</u>	<u>27点</u>
<u>ニニ 地域包括ケア病棟入院料 1 (41日以上の期 間) 又は地域包括ケア入院医療管理料 1 (41日 以上の期間) を算定する場合</u>	<u>26点</u>
<u>ニホ 地域包括ケア病棟入院料 2 (40日以内の期 間) 又は地域包括ケア入院医療管理料 2 (40日</u>	

<u>以内の期間) を算定する場合</u>	26点
<u>ニヘ 地域包括ケア病棟入院料2 (41日以上の期間) 又は地域包括ケア入院医療管理料2 (41日以上の期間) を算定する場合</u>	25点
<u>ニト 地域包括ケア病棟入院料3 (40日以内の期間) 又は地域包括ケア入院医療管理料3 (40日以内の期間) を算定する場合</u>	22点
<u>ニチ 地域包括ケア病棟入院料3 (41日以上の期間) 又は地域包括ケア入院医療管理料3 (41日以上の期間) を算定する場合</u>	21点
<u>ニリ 地域包括ケア病棟入院料4 (40日以内の期間) 又は地域包括ケア入院医療管理料4 (40日以内の期間) を算定する場合</u>	19点
<u>ニヌ 地域包括ケア病棟入院料4 (41日以上の期間) 又は地域包括ケア入院医療管理料4 (41日以上の期間) を算定する場合</u>	18点
<u>ニル 地域包括ケア病棟入院料1 (40日以内の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料1 (40日以内の期間) (特定地域) を算定する場合</u>	23点
<u>ニヲ 地域包括ケア病棟入院料1 (41日以上の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料1 (41日以上の期間) (特定地域) を算定する場合</u>	22点
<u>ニワ 地域包括ケア病棟入院料2 (40日以内の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料2 (40日以内の期間) (特定地域) を算定する場合</u>	22点
<u>ニカ 地域包括ケア病棟入院料2 (41日以上の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料2 (41日以上の期間) (特定地域) を算定</u>	

<u>する場合</u>	<u>21点</u>
<u>ニヨ 地域包括ケア病棟入院料3 (40日以内の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料3 (40日以内の期間) (特定地域) を算定する場合</u>	<u>19点</u>
<u>ニタ 地域包括ケア病棟入院料3 (41日以上の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料3 (41日以上の期間) (特定地域) を算定する場合</u>	<u>18点</u>
<u>ニレ 地域包括ケア病棟入院料4 (40日以内の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料4 (40日以内の期間) (特定地域) を算定する場合</u>	<u>16点</u>
<u>ニゾ 地域包括ケア病棟入院料4 (41日以上の期間) (特定地域) 又は地域包括ケア入院医療管理料4 (41日以上の期間) (特定地域) を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ニツ 特殊疾患病棟入院料1を算定する場合</u>	<u>15点</u>
<u>ニネ 特殊疾患病棟入院料2を算定する場合</u>	<u>12点</u>
<u>ニナ 特殊疾患病棟入院料1 (注4のイの(1)) を算定する場合</u>	<u>14点</u>
<u>ニラ 特殊疾患病棟入院料1 (注4のイの(2)) を算定する場合</u>	<u>13点</u>
<u>ニム 特殊疾患病棟入院料2 (注4のロの(1)) を算定する場合</u>	<u>12点</u>
<u>ニウ 特殊疾患病棟入院料2 (注4のロの(2)) を算定する場合</u>	<u>11点</u>
<u>ニヰ 特殊疾患病棟入院料1 (注6のイの(1)) を算定する場合</u>	<u>12点</u>

<u>ニノ 特殊疾患病棟入院料1（注6のイの②）を算定する場合</u>	11点
<u>ニオ 特殊疾患病棟入院料2（注6のロの①）を算定する場合</u>	11点
<u>ニク 特殊疾患病棟入院料2（注6のロの②）を算定する場合</u>	10点
<u>ニヤ 特殊疾患病棟入院料1（注7のイ）を算定する場合</u>	14点
<u>ニマ 特殊疾患病棟入院料2（注7のロ）を算定する場合</u>	11点
<u>ニケ 緩和ケア病棟入院料1（30日以内の期間）を算定する場合</u>	38点
<u>ニフ 緩和ケア病棟入院料1（31日以上60日以内の期間）を算定する場合</u>	34点
<u>ニコ 緩和ケア病棟入院料1（61日以上の期間）を算定する場合</u>	25点
<u>ニエ 緩和ケア病棟入院料2（30日以内の期間）を算定する場合</u>	36点
<u>ニテ 緩和ケア病棟入院料2（31日以上60日以内の期間）を算定する場合</u>	33点
<u>ニア 緩和ケア病棟入院料2（61日以上の期間）を算定する場合</u>	24点
<u>ニサ 精神科救急急性期医療入院料（30日以内の期間）を算定する場合</u>	22点
<u>ニキ 精神科救急急性期医療入院料（31日以上60日以内の期間）を算定する場合</u>	19点
<u>ニユ 精神科救急急性期医療入院料（61日以上90日以内の期間）を算定する場合</u>	17点
<u>ニメ 精神科急性期治療病棟入院料1（30日以内の期間）を算定する場合</u>	14点
<u>ニミ 精神科急性期治療病棟入院料1（31日以上</u>	

<u>60日以内の期間) を算定する場合</u>	12点
<u>ニシ 精神科急性期治療病棟入院料1 (61日以上90日以内の期間) を算定する場合</u>	11点
<u>ニエ 精神科急性期治療病棟入院料2 (30日以内の期間) を算定する場合</u>	11点
<u>ニヒ 精神科急性期治療病棟入院料2 (31日以上60日以内の期間) を算定する場合</u>	9点
<u>ニモ 精神科急性期治療病棟入院料2 (61日以上90日以内の期間) を算定する場合</u>	9点
<u>ニセ 精神科救急・合併症入院料 (30日以内の期間) を算定する場合</u>	24点
<u>ニス 精神科救急・合併症入院料 (31日以上60日以内の期間) を算定する場合</u>	22点
<u>ニン 精神科救急・合併症入院料 (61日以上90日以内の期間) を算定する場合</u>	21点
<u>ホイ 児童・思春期精神科入院医療管理料を算定する場合</u>	17点
<u>ホロ 精神療養病棟入院料を算定する場合</u>	7点
<u>ホハ 認知症治療病棟入院料1 (30日以内の期間) を算定する場合</u>	11点
<u>ホニ 認知症治療病棟入院料1 (31日以上60日以内の期間) を算定する場合</u>	10点
<u>ホホ 認知症治療病棟入院料1 (61日以上の期間) を算定する場合</u>	8点
<u>ホヘ 認知症治療病棟入院料2 (30日以内の期間) を算定する場合</u>	8点
<u>ホト 認知症治療病棟入院料2 (31日以上60日以内の期間) を算定する場合</u>	7点
<u>ホチ 認知症治療病棟入院料2 (61日以上の期間) を算定する場合</u>	6点
<u>ホリ 特定一般病棟入院料1 を算定する場合</u>	

	<u>27点</u>
<u>ホヌ 特定一般病棟入院料2を算定する場合</u>	23点
<u>ホル 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料1に該当）（40日以内の期間）を算定する場合</u>	23点
<u>ホヲ 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料1に該当）（41日以上60日以内の期間）を算定する場合</u>	22点
<u>ホワ 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料2に該当）（40日以内の期間）を算定する場合</u>	22点
<u>ホカ 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料2に該当）（41日以上60日以内の期間）を算定する場合</u>	21点
<u>ホヨ 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料3に該当）（40日以内の期間）を算定する場合</u>	19点
<u>ホタ 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料3に該当）（41日以上60日以内の期間）を算定する場合</u>	18点
<u>ホレ 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料4に該当）（40日以内の期間）を算定する場合</u>	16点
<u>ホソ 特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料4に該当）（41日以上60日以内の期間）を算定する場合</u>	15点
<u>ホツ 地域移行機能強化病棟入院料を算定する場合</u>	10点
<u>ホネ 特定機能病院リハビリテーション病棟入院料を算定する場合</u>	<u>44点</u>

<u>ホナ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (D 2 3 7 終夜 睡眠ポリグラフィー 3 1及び2以外の場合 イ 安全精度管理下で行うもの) を算定する場</u>	
合		68点
<u>ホラ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (D 2 3 7 終夜 睡眠ポリグラフィー 3 1及び2以外の場合 ロ 保険医療機関内で又は訪問して実施するも の) を算定する場合</u>	68点
<u>ホム</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (D 2 3 7-2 反復睡眠潜時試験 (M S L T)) を算定する場</u>	
合		71点
<u>ホウ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (D 2 8 7 内分 泌負荷試験 1 下垂体前葉負荷試験 イ 成 長ホルモン (G H) (一連として) ) を算定する 場合</u>	82点
<u>ホヰ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (D 2 9 1-2 小児食物アレルギー負荷検査) を算定する場</u>	
合		36点
<u>ホノ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (D 4 1 3 前立 腺針生検法 2 その他のもの) を算定する場</u>	
合		80点
<u>ホオ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (K 0 0 7-2 経皮的放射線治療用金属マーカー留置術) を算 定する場合</u>	98点
<u>ホク</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (K 0 3 0 四肢 ・軀幹軟部腫瘍摘出術 7 手軟部腫瘍摘出術 ) を算定する場合</u>	98点
<u>ホヤ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (K 0 4 6 骨折 観血的手術 6 手舟状骨骨折観血的手術) を 算定する場合</u>	156点
<u>ホマ</u>	<u>短期滞在手術等基本料3 (K 0 4 8 骨内</u>	

<u>異物（挿入物を含む。）除去術</u>	<u>6</u>	<u>前腕骨骨内異物除去術）を算定する場合</u>	<u>115点</u>
<u>ホケ 短期滞在手術等基本料3（K048 骨内異物（挿入物を含む。）除去術</u>	<u>8</u>	<u>鎖骨骨内異物除去術）を算定する場合</u>	<u>122点</u>
<u>ホフ 短期滞在手術等基本料3（K048 骨内異物（挿入物を含む。）除去術</u>	<u>10</u>	<u>手根骨骨内異物除去術）を算定する場合</u>	<u>95点</u>
<u>ホニ 短期滞在手術等基本料3（K048 骨内異物（挿入物を含む。）除去術</u>	<u>11</u>	<u>中手骨骨内異物除去術）を算定する場合</u>	<u>95点</u>
<u>ホエ 短期滞在手術等基本料3（K070 ガングリオン摘出術</u>	<u>1</u>	<u>手部ガングリオン摘出術）を算定する場合</u>	<u>105点</u>
<u>ホテ 短期滞在手術等基本料3（K093-2 手根管開放手術（内視鏡下））を算定する場合</u>			<u>118点</u>
<u>ホア 短期滞在手術等基本料3（K196-2 胸腔鏡下交感神経節切除術（両側））を算定する場合</u>			<u>69点</u>
<u>ホサ 短期滞在手術等基本料3（K202 涙管チューブ挿入術</u>	<u>1</u>	<u>涙道内視鏡を用いるもの（片側））を算定する場合</u>	<u>70点</u>
<u>ホキ 短期滞在手術等基本料3（K202 涙管チューブ挿入術</u>	<u>1</u>	<u>涙道内視鏡を用いるもの（両側））を算定する場合</u>	<u>71点</u>
<u>ホユ 短期滞在手術等基本料3（K217 眼瞼内反症手術</u>	<u>2</u>	<u>皮膚切開法（片側））を算定する場合</u>	<u>61点</u>
<u>ホメ 短期滞在手術等基本料3（K217 眼瞼内反症手術</u>	<u>2</u>	<u>皮膚切開法（両側））を算定</u>	

<u>する場合</u>	<u>78点</u>
<u>ホミ 短期滞在手術等基本料3 (K219) 眼瞼下垂症手術 1 眼瞼挙筋前転法(片側) を算定する場合</u>	<u>73点</u>
<u>ホシ 短期滞在手術等基本料3 (K219) 眼瞼下垂症手術 1 眼瞼挙筋前転法(両側) を算定する場合</u>	<u>82点</u>
<u>ホエ 短期滞在手術等基本料3 (K219) 眼瞼下垂症手術 3 その他のもの(片側) を算定する場合</u>	<u>63点</u>
<u>ホヒ 短期滞在手術等基本料3 (K219) 眼瞼下垂症手術 3 その他のもの(両側) を算定する場合</u>	<u>85点</u>
<u>ホモ 短期滞在手術等基本料3 (K224) 翼状片手術(弁の移植を要するもの)(片側) を算定する場合</u>	<u>86点</u>
<u>ホセ 短期滞在手術等基本料3 (K224) 翼状片手術(弁の移植を要するもの)(両側) を算定する場合</u>	<u>101点</u>
<u>ホス 短期滞在手術等基本料3 (K242) 斜視手術 2 後転法(片側) を算定する場合</u>	<u>90点</u>
<u>ホン 短期滞在手術等基本料3 (K242) 斜視手術 2 後転法(両側) を算定する場合</u>	<u>99点</u>
<u>ヘイ 短期滞在手術等基本料3 (K242) 斜視手術 3 前転法及び後転法の併施(片側) を算定する場合</u>	<u>90点</u>
<u>ヘロ 短期滞在手術等基本料3 (K242) 斜視手術 3 前転法及び後転法の併施(両側) を算定する場合</u>	<u>119点</u>

へハ 短期滞在手術等基本料3 (K254 治療的角膜切除術 1 エキシマレーザーによるもの（角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。) (片側)) を算定する場合

107点

へニ 短期滞在手術等基本料3 (K254 治療的角膜切除術 1 エキシマレーザーによるもの（角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。) (両側)) を算定する場合

126点

へホ 短期滞在手術等基本料3 (K268 緑内障手術 6 水晶体再建術併用眼内ドレン挿入術 (片側)) を算定する場合 76点

へヘ 短期滞在手術等基本料3 (K268 緑内障手術 6 水晶体再建術併用眼内ドレン挿入術 (両側)) を算定する場合 133点

へト 短期滞在手術等基本料3 (K282 水晶体再建術 1 眼内レンズを挿入する場合 口その他のもの (片側)) を算定する場合 80点

へチ 短期滞在手術等基本料3 (K282 水晶体再建術 1 眼内レンズを挿入する場合 口その他のもの (両側)) を算定する場合 155点

へリ 短期滞在手術等基本料3 (K282 水晶体再建術 2 眼内レンズを挿入しない場合 (片側)) を算定する場合 84点

へヌ 短期滞在手術等基本料3 (K282 水晶体再建術 2 眼内レンズを挿入しない場合 (両側)) を算定する場合 84点

ヘル 短期滞在手術等基本料3 (K318 鼓膜形成手術) を算定する場合 110点

へヲ 短期滞在手術等基本料3 (K333 鼻骨

<u>骨折整復固定術) を算定する場合</u>	<u>102点</u>
<u>ヘワ 短期滞在手術等基本料3 (K389 喉頭 ・声帯ポリープ切除術 2 直達喉頭鏡又はフ アイバースコープによるもの) を算定する場合</u>	<u>204点</u>
<u>ヘカ 短期滞在手術等基本料3 (K474 乳腺 腫瘍摘出術 1 長径5センチメートル未満) を算定する場合</u>	<u>115点</u>
<u>ヘヨ 短期滞在手術等基本料3 (K474 乳腺 腫瘍摘出術 2 長径5センチメートル以上) を算定する場合</u>	<u>144点</u>
<u>ヘタ 短期滞在手術等基本料3 (K616-4 経皮的シャント拡張術・血栓除去術 1 初回 (透析シャント閉塞又は高度狭窄の場合)) を 算定する場合</u>	<u>87点</u>
<u>ヘレ 短期滞在手術等基本料3 (K616-4 経皮的シャント拡張術・血栓除去術 1 初回 (その他の場合)) を算定する場合</u>	<u>87点</u>
<u>ヘゾ 短期滞在手術等基本料3 (K616-4 経皮的シャント拡張術・血栓除去術 2 1の 実施後3月以内に実施する場合) を算定する場 合</u>	<u>97点</u>
<u>ヘツ 短期滞在手術等基本料3 (K617 下肢 静脈瘤手術 1 拔去切除術) を算定する場 合</u>	<u>83点</u>
<u>ヘネ 短期滞在手術等基本料3 (K617 下肢 静脈瘤手術 2 硬化療法(一連として)) を 算定する場合</u>	<u>43点</u>
<u>ヘナ 短期滞在手術等基本料3 (K617 下肢 静脈瘤手術 3 高位結紮術) を算定する場 合</u>	<u>63点</u>

- ヘラ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 1 7 - 2  
大伏在静脈抜去術) を算定する場合 65点
- ヘム 短期滞在手術等基本料3 (K 6 1 7 - 4  
下肢静脈瘤 血管内焼灼術) を算定する場合 67点
- ヘウ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 1 7 - 6  
下肢静脈瘤 血管内塞栓術) を算定する場合 50点
- ヘヰ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 3 ヘル  
ニア手術 5 鼠径ヘルニア (3歳未満に限る  
.)) を算定する場合 78点
- ヘノ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 3 ヘル  
ニア手術 5 鼠径ヘルニア (3歳以上6歳未  
満に限る。) ) を算定する場合 75点
- ヘオ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 3 ヘル  
ニア手術 5 鼠径ヘルニア (6歳以上15歳未  
満に限る。) ) を算定する場合 84点
- ヘク 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 3 ヘル  
ニア手術 5 鼠径ヘルニア (15歳以上に限る  
.)) を算定する場合 184点
- ヘヤ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 4 腹腔  
鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側) (3歳未満に限  
る。) ) を算定する場合 105点
- ヘマ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 4 腹腔  
鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側) (3歳以上6歳  
未満に限る。) ) を算定する場合 108点
- ヘケ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 4 腹腔  
鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側) (6歳以上15歳  
未満に限る。) ) を算定する場合 107点
- ヘフ 短期滞在手術等基本料3 (K 6 3 4 腹腔  
鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側) (15歳以上に限

<u>る。) を算定する場合</u>	<u>156点</u>
<u>ヘコ 短期滞在手術等基本料3 (K721 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 1 長径2センチメートル未満) を算定する場合</u>	<u>79点</u>
<u>ヘエ 短期滞在手術等基本料3 (K721 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 2 長径2センチメートル以上) を算定する場合</u>	<u>106点</u>
<u>ヘテ 短期滞在手術等基本料3 (K743 痘核手術(脱肛を含む。) 2 硬化療法(四段階注射法によるもの)) を算定する場合</u>	<u>73点</u>
<u>ヘア 短期滞在手術等基本料3 (K747 肛門良性腫瘍、肛門ポリープ、肛門尖圭コンジローム切除術(肛門ポリープ切除術に限る。)) を算定する場合</u>	<u>104点</u>
<u>ヘサ 短期滞在手術等基本料3 (K747 肛門良性腫瘍、肛門ポリープ、肛門尖圭コンジローム切除術(肛門尖圭コンジローム切除術に限る。)) を算定する場合</u>	<u>75点</u>
<u>ヘキ 短期滞在手術等基本料3 (K768 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)) を算定する場合</u>	<u>70点</u>
<u>ヘユ 短期滞在手術等基本料3 (K823-6 尿失禁手術(ボツリヌス毒素によるもの)) を算定する場合</u>	<u>80点</u>
<u>ヘメ 短期滞在手術等基本料3 (K834-3 顕微鏡下精索静脈瘤手術) を算定する場合</u>	<u>41点</u>
<u>ヘミ 短期滞在手術等基本料3 (K867 子宮頸部(腫部)切除術) を算定する場合</u>	<u>93点</u>
<u>ヘシ 短期滞在手術等基本料3 (K872-3 子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリ</u>	

一  
ープ切除術 1 電解質溶液利用のもの) を算定する場合 76点

ヘエ 短期滞在手術等基本料 3 (K 8 7 2 - 3)

子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリ  
ー  
ープ切除術 2 組織切除回収システム利用によるもの) を算定する場合 67点

ヘヒ 短期滞在手術等基本料 3 (K 8 7 2 - 3)

子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリ  
ー  
ープ切除術 3 その他のもの) を算定する場合 72点

ヘモ 短期滞在手術等基本料 3 (K 8 7 3 子宮

鏡下子宮筋腫摘出術 1 電解質溶液利用のもの) を算定する場合 88点

ヘセ 短期滞在手術等基本料 3 (K 8 7 3 子宮

鏡下子宮筋腫摘出術 2 その他のもの) を算定する場合 87点

ヘス 短期滞在手術等基本料 3 (K 8 9 0 - 3

腹腔鏡下卵管形成術) を算定する場合 140点

ヘン 短期滞在手術等基本料 3 (M 0 0 1 - 2

ガンマナイフによる定位放射線治療) を算定する場合 118点

注 1 1のイについては、保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して初診を行った場合に、所定点数を算定する。

2 1のロについては、保険医療機関において、入院中の患者以外の患者に対して再診又は短期滞在手術等基本料 1 を算定すべき手術若しくは検査を行った場合に、所定点数を算定する。

3 2については、第 1 章第 2 部第 1 節の入院基本料（特別入院基本料等を含む。）、同部第 3 節の特定入院料又は同部第 4 節の短期滞在手術

等基本料（短期滞在手術等基本料1を除く。）  
を算定している患者について、当該基準に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

4 1及び2の点数について、令和9年6月以降は、所定点数の100分の200に相当する点数を算定する。

### 第3節 支援料

#### 区分

##### P 2 0 0 歯科技工所ベースアップ支援料（1装置につき）

15点

注1 歯科技工所に従事する歯科技工士の賃金の改善を図る体制につき、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、補綴物等の製作等の委託を行った場合に、所定点数を算定する。

2 令和9年6月以降においては、所定点数の100分の200に相当する点数により算定する。

(新設)